

井坂孝 PDG のサービス理念

2680 地区 PDG 田中 毅

日本で最初のガバナー月信が発行されたのは、1930 年 5 月、米山梅吉ガバナーが手書き謄写版刷りで発行した「コンフェレンスまで」、次いで 1931 年 4 月に発行された「コンフェレンスのあと」です。



正式にガバナー月信として発行されたのは 1933 年、井坂孝ガバナーであり、邦文タイプ打ちの本格的な出版物です。

直木太一郎ガバナーの文献には、井坂ガバナー月信の第一号に、ロータリーの活動はその 6 つの綱領の達成に限るべきであり、業務遂行上の賄賂の厳禁、安易な慈善に走ったり、寄付集めに浮身をやつすことを禁止している書かれています。この何十年来、日本中はもちろん RI の資料室にも赴

いて、あらゆる手段を講じて、井坂ガバナー月信の 1 号と 2 号を探しましたが、未だに原本もコピーも発見されていませんので、本当に、賄賂禁止や安易な寄付禁止が記載されているか否かは謎のままです。

井坂ガバナー月信の 3 号以降は、現存されており、ロータリー源流のアーカイブスに収録されています。

初期のガバナー月信は、殆んど RI からの連絡事項を伝達するために書かれています。井坂孝ガバナーの昭和 8 年 2 月 23 日発行のガバナー月信第 8 号には、ロータリーのサービスに関する理念が、詳しく記載されていますので、ご紹介します。特に職業奉仕に関しては、シェルドンの経営学には、基づくサービス理念がそのまま述べられています。85 年前の日本に、シェルドンのサービス理念が正しく伝えられていたことに、驚きを禁じ得ません。

なお原文は極めて難解な文語体ですので、口語体に翻訳いたしました。

人間は孤独の生活ができない群居の動物です。群居しているが故、人と人との関係が起きます。人と人との関係が起これば自分の都合のみ考えるわけにはいきません。従って群居の状態を良くするためには、各自が人のために役立つことを考えなければなりません。人のために役立つことを英語では、「サービス」と言います。ロータリーはサービスを以って、人間活動の根本観念する運動です。この運動を達成する目的をもって実業人が集って、自己の業務を通じてサービスを行う組織がロータリークラブです。

サービスは実業人だけではなく、政治家も宗教家も教育家も学者も皆、必要です。しかし、ロータリー運動は実業人の運動なので、ロータリークラブは実業に従事している人々の中より、一業に付き一人に限って、会員を選考して、協力して各自の業務を通じて社会人類に貢献する、即ちサービスを行う団体です。

十七条の憲法

604年、聖徳太子は十七条の憲法を制定しました。

これは政府と国民の関係を規律する法律ではなく、君主に対する、家臣や役人の道徳的な規範が示されており、行政法としての性格が強く、神道と仏教の思想が融合したものです。

原文はかなり難解なので、現代風に訳した十七条の憲法をご紹介します。

一条 話し合いを大切に、いさかいを起こさないこと。人は群れを作りたがるが、立派な指導者は少ない。目上の人に従わない人もいるし、隣の人といさかいを起こす人もいる。しかし、目上の人とも下の人とも、協調と親睦の気持ちを忘れずに議論を重ねれば、自ずから理解し合い、どんなことでも解決できるのだ。

二条 仏・法理・僧侶を敬わなければならない。それは生きとし生けるものの最後のよりどころであり、すべての生き物の究極の規範になるからである。生来の悪人は数少ない。正道に従うことは、仏の教えに従うことである。どんな世の中でも、いかなる人でも、この法理を尊び、仏の教えに依拠した正道を歩まなければならない。

三条 君主の命令を受けたら、謹んでそれに従いなさい。君主は天であり、家臣は地に当たる。天が地を覆い、地は天によって守られている。このようにして四季が巡り、万物の気が通う。もしもそれが逆になれば、世の中の秩序は破壊されてしまう。君主が言うことに家臣は従い、君主が行うことに、家臣は倣わなければならない。君主の命令を受けたら、人民はそれに従う。そうしなければ、国家社会の和は自滅してゆくことだろう。

四条 家臣は礼を重んじる精神を根本に持たなければならない。人民をおさめる基本は、礼にあり、上が礼を重んじなければ、下の秩序は乱れ、下の者が礼にかなわなければ、必ず罪を犯す者が出てくる。家臣たちに礼が保たれているときは、社会の秩序も乱れず、人民たちに礼があれば、国全体は安寧を保つことができる。

五条 役人は饗応や財物への欲望を捨てて、訴訟を厳正に審査しなさい。人民の訟は一日に千件を超す。一年には莫大な件数に達する。昨今の役人は賄賂を取ることが常識となり、賄賂の額によって申し立てを聞いているように思われる。これは役人の道に背くものである。

六条 勸善懲悪は、古くからの良いしきたりである。人の善行を見たらそれを称え、悪行を見たらそれを正しなさい。人にへつらい、欺く者は、国家を覆す武器となり、人民を滅ぼす剣となる。媚びへつらう家臣や役人は、上の者には下の者の過失を告げ、下の者には上の者の過失を誹謗するものだ。このような人は君主に忠義心がなく、人民に対する徳も持たず、国家の大きな乱れの原因になる。

七条 人にはそれぞれの任務がある。任務遂行に当たって、職務内容を忠実に履行し、権限を乱用してはならない。賢明な人が任務遂行すれば称賛の声が起り、邪念を持つ人が任につけば、災いや戦乱が起こる。生まれながら、すべてを知り尽くしている人は少なく、努力を重ねて一人前になる。事柄の大小にかかわらず、最適な人が得られれば、物事は収まる。時代の動きには関係なく、賢者が出れば豊かな世の中になる。これによって国家は長く繁栄と安泰を保つ。

八条 役人は、朝早くから出勤し、夜遅くまで仕事をしなさい。公務は多岐にわたるので、終日働いても終わることは難しい。遅刻すれば緊急の用に間に合わないし、早退すれば仕事を残すことになる。

九条 真心こそが物事の本質である。真心が全てのことに勝る。物事の善悪や成否は全て真心の有無にかかっている。家臣や役人たちに真心があれば何事も達成できる。真心がなければ全て失敗に帰すであろう。

十条 心の中の憤りを抑えて、それを表情に出してはならない。他人が自分と違うことをしても怒ってはならない。人はそれぞれに考えがあるし、そのその考えに従った行動をとる。自分が良いと思っても、相手は悪いと思うこともあるし、その逆もある。自分が正しくて、相手が間違っているとは限らない。お互いに賢くもあり、愚かでもある。従って、相手が憤っているときは、自分に非があるのではないかと考えるべきだ。自己中心にならず皆の意見を聞いて行動することも大切である。

十一条 役人たちは功績と過ちをよく調べて、それにみあう賞罰を行うこと。近頃の賞罰は必ずしも適切とは言い難い。指導的な立場にあり役人は、賞罰を適正かつ明確に行うべきである。

十二条 役人は勝手に人民から税をとってはならない。国に二人の君主はなく、人民にとって二人の主人などいない。国内のすべての人民にとって、君主だけが主人である。役人は任命されて政務に当たっているのであって、みな君主の臣下であるから、人民から私的な徴税をしてはならない。

十三条 全ての役人は、前任者と同じように職掌を熟知しなければならない。病気や出張などで職務の内容を詳しく知らない場合でも、それは言い訳にはならない。引継ぎがないから知らないと言って、公務を停滞させてはならない。

十四条 役人は嫉妬の気持ちを持ってはならない。自分が相手を嫉妬すれば、相手もまた自分を嫉妬する。嫉妬の輪廻は果てしなく続く。自分より英知が優れ、才能が勝っていると思えば嫉妬する。しかし、聖人、賢者といわれる優れた人材がければ、国を治めることはできない。

十五条 私心をすてて公務に励むのは役人の責務である。私心があるとき、恨みの心が起きる。恨みがあれば、必ず不和が生じる。不和になれば私心で公務を執ることとなり、結果としては公務の妨げになる。恨みの心が起これば、制度や法律を破る人も出てくる。上の者も下の者も協調、親睦の気持ちを持って論議しなければならない。

十六条 人を使う時にはその時期をよく考えなければならない。従って暇がある冬に人を使えばよい。春から秋までは、農耕・養蚕などに力を尽くすべきときである。人が農耕をしなければ何を食べていけばよいのか。養蚕がなされなければ、何を着たらよいのかを考えなければならない。

十七条 物事は一人で判断してはいけない。必ずみんなで論議して判断しなさい。特に重大な事柄を論議するときは、判断を誤ることもあるかもしれないので、みんなで検討すれば、道理にかなう結論が得られよう。ただし、些細なことは、必ずしもみんなで論議しなくてもよい。

戦後生まれの殆どの日本人は、アメリカによって、日本に民主主義がもたらされたと思い込んでいるのではないでしょうか。

日本は世界でも稀な多神教の国であり、全てのものに神が宿っており、神話の時代から八百万の神が全ての事柄を話し合いによって決めてきたという経緯があります。一神教では自分の信じる神以外は悪であり邪であり、これを滅ぼさなければなりません。一神教の世界では古来から現在に至るまで、何れが善であり、悪であるかを巡って、絶えず宗教戦争が起こっています。

多神教ではそれぞれの神が融和を保ちながら、役割を分担しているのです。日本では神道のみならず、他の宗教に関しても寛大です、誕生に神社を参り、朝夕神棚と仏壇に手を合わせ、教会で結婚式を挙げ、クリスマスを祝い、お寺で葬式を営みます。現在の日本では宗教間や宗派間における争いは全くありません。多神教こそが日本に平和を齎した元凶とも言えます。

古事記には、伊邪那岐尊、伊邪那美尊がこれらの八百万の神を創り、この二方の直系に当たる神武天皇が君主として日本を治めたと記されています。

建国から 1264 年後に当たる 604 年に、聖徳太子が制定したのが十七条の憲法です。第一条では、いさかいを起こさないためには、話し合いによって全てを解決することの重要性を説き、第五条では、汚職や贈収賄を禁じ、第十七条では、重要な事柄は独断専行せずに、話し合いによって解決すべきであるという、日本独特の民主主義、即ち「和の心」が説かれています。

民主主義は建国 400 年の新興国アメリカから与えられたものではなく。日本には 1500 年も前から、このような素晴らしい民主主義が定着していたのです。

修正資本主義への復古

2680 地区 PDG 田中 毅

アメリカ建国の歴史は、17 世紀、イギリスで起こった宗教戦争を契機として、大量の WASP (White Anglo-Saxon Puritan) が新天地を求めてアメリカ東部に入植したことから始まります。アメリカの建国者たちは、北アメリカの大自然を、神が自分たちに与えたものと考えました。原住民のインディアンは人間ではなく、単に人の形をした動植物の一部としか考えませんでした。先住民族であるアジア系モンゴロイドのアメリカ・インディアンはできるかぎり早く、駆除すべき害虫と変わらない存在であり、清教徒が東海岸に到着した時に、北アメリカ大陸にいた 300 万人のインディアンは、19 世紀には 30 万人にまで減りました。人間の形をした動物であるとして殺戮を繰り返して、西へ西へと領地を拡大していきました。

アメリカ人は砂糖、コーヒー、綿花、タバコなどの農作物を農園で作り出しましたが、労働者の不足に悩まされたので、アフリカ大陸の大西洋沿岸にも進出し、現地のアフリカ諸部族の黒人有力者から黒人を買取り、奴隷貿易によってアメリカ大陸に輸入しました。ただ初期の奴隷需要はカリブ海地域および中南米が圧倒的であり、北米への奴隷輸出は、18 世紀以降、もっぱらサウスカロライナ州を中心に、黒人奴隷の売買が盛んになりました。奴隷制度によって維持されるアメリカ南部の広大なプランテーション農業が盛んになったのは、19 世紀に入ってからです。アメリカでは入植した当初から、黒人奴隷を使役していましたが、奴隷解放宣言が発せられるまで、700 万人以上の黒人奴隷がアフリカから拉致されて酷使されました。インディアンは従順でなかったのが奴隷として適しませんでした。黒人は牛馬より寿命が長かったし、従順で安価に売買可能でした。1960 年代の半ばまでは、奴隷は私的な所有物であり、婚姻することは許されませんでした。殺しても、強姦しても罪に問われることはありませんでした。アメリカにおける奴隷制度が完全に終結したのは、僅か 20 年前の、1995 年ミシシッピ州憲法によってです。

1789 年、初代大統領ジョージ・ワシントンによって独立を果たしますが、その後米英戦争や奴隷問題を契機に国内を二分する南北戦争を経て、アメリカの政治は安定することになります。

大陸横断鉄道が開通したことによって、西部開拓が急速に進み、生活圏を脅かされたアメリカ・インディアンの一斉蜂起によって起こった、1890 年のウンデッドニへの虐殺によってインディアンの 95% が虐殺されたと言われています。

1860 年代の大陸横断鉄道建設が始まると、多くの支那人が労働者として酷使されました。現在でも、シアトル近郊にはノーザン・パシフィック鉄道で働いた、またサンフランシスコには、サザン・パシフィック鉄道やサンタ・フェ鉄道で働いた、大勢の支那人移民の子孫が生活しています。

鉄道建設が終わって、経済不況が訪れると、低賃金で働く支那人労働者の存在は、白人労働者の反発を招くようになり、支那人移民排斥運動に発展しました。

白人の支那人に対する人種的な差別、攻撃はたびたび暴力的になり、多くの犠牲者が出ました。労働組合も支那人労働者の排斥を強く訴え、組織的な支那人排除の動きは、しばしば残虐な殺人にも発展しました。これらの運動の結果、アメリカは、1882 年に支那人労働者移民排斥法を議決しました。

これと入れ替わりに、日本人の移民が始まりました。最初の移民は、1869 年カリフォルニア州に入植した旧会津藩士たちだったと言われています。その後、一般の移民も始まり、鉱山・鉄道敷設・道路建設・農場などの労働者として働きました。

日本人移民は勤勉で長時間労働を厭わなかったのが、支那人以上に白人労働者の地位を脅かした上、日本人はアメリカ人社会に溶け込めず、日米摩擦の原因となりました。

カリフォルニア州の日本人移民排斥運動は、1890 年代から始まりましたが、日露戦争の頃になると、

アメリカ全体に広がり、1906年にはサンフランシスコで、日本人の学童が公立学校への通学を一時禁止される事件が起こり、その後、日本人の土地所有が禁止されるなど排日気運が高まって、1924年には新移民法が成立して、日本人移民のアメリカ全土への入国は禁止されました。

急激に国力と存在感を高めてきた黄色人種国である日本への、人種差別感情が強くなっていきました。

初期のアメリカの政権は、民主共和党、民主党、ホイッグ党が順番に行っていましたが、1861年に共和党のアブラハム・リンカーンが政権をとってからは、共和党の政権が続きました。

当時の経済はいわゆる古典的資本主義であり、産業革命後の極端な資本主義の下で、少数の資本家が資本を独占して、労働者の対立していた時代でもありました。19世紀から20世紀初頭は、醜い資本家の欲望が労働力を搾取した時代でもありました。いかに安い賃金で労働者を雇うかが利潤を増やす鍵となり、そこが労働者の貧困、失業などの問題や、無秩序な自由競争による経済恐慌などの大きな社会矛盾を生む原因になりました。

1929年、共和党のフーバー大統領の時に世界大恐慌後が起こりました。

1933年に誕生した民主党フランクリン・ルーズベルト大統領によるニューディール政策によって、アメリカは修正資本主義を採択して、景気回復を図りました。

この理論はジョン・ケインズが提唱したもので、古典的資本主義の無計画性に基づくさまざまな弊害を国家が政策的に是正し、福祉国家を目指そうとする政策であり、資本主義における所得分配の不平等は、労使の協調と国家の所得再分配政策によって、また失業の増大は完全雇用政策によって、恐慌の発生は経済計画によって是正し、克服することができます。需要の縮小に基づく失業は、減税・公共投資などの政策によって投資を増大させることで、回復可能であることを示して、大恐慌に苦しむルーズベルト大統領によるニューディール政策の強力な後ろ盾となりました。

実はこの修正資本主義の考え方は、1902年にアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した経営学に基づくサービス理念と、全く同じ考え方なのです。

ここで当時の共和党と民主党の政策の違いを説明しておきましょう。

共和党は Conservatives 保守主義 典型的な保守主義

支持母体は福音派のキリスト教徒(WASP)、ティーパーティー・全米ライフル協会、アメリカブルーカラー層

対外政策では力によって秩序を保ちあくまで米国の国益を優先する姿勢が色濃く出ています。

自己責任主義

人工妊娠中絶禁止

不法移民の受け入れに断固反対

自分の命は自分で守る・銃規制反対

これに対して民主党は liberal 社会主義 かなり左寄りの思想

支持母体はアメリカ労働総同盟・マスコミ・芸能界・移民・有色人種

その名の通りリベラリズム色が強い政策が売りで、経済・財政政策的にも医療保険の強化や累進課税の強化を訴えたり、さらに国際協調主義を全面に打ち出しています。

工妊娠中絶の容認

不法移民の受け入れを容認

労組重視

同性愛容認

さて、1970-80年代、長く続いた民主党の修正資本主義の下で、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型の修正資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブス（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしてきました。

20世紀後半から21世紀初頭にかけて、フリードマンやハイエクが提唱した新資本主義、即ちアングロサクソン型資本主義が全世界に拡散しました。

自己責任を基本にした競争社会を推進して、福祉・公共サービスなどの縮小、公営事業の民営化などによって財政均衡を図って、グローバル化を前提として政府機能を縮小して、規制緩和による競争促進、労働者保護廃止などの経済政策の体系的転換によって、競争志向を正統化するための市場原理主義への回帰です。

企業は金融市場から直接資金を調達し、株主の利益の最大化を目指します。業績が悪化した場合、株主の利益を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。

自己責任を重視するために、賃金制度では成果主義をとります。

自由な市場は、価格機能によって資源の最適配分ができるようになるので、経済活動を可能な限り自由にすべきであるという考え方です。

それを実現するためには、政府機能を縮小して「小さい政府」にして、富裕層に減税し、社会保障制度を否定すれば、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

何ごととも利益追求のチャンスとして、ゼロから無限の富を目指すサクセスストーリーで、人々の競争意識を駆り立てる魅力がありますが、全ての商品を投機化した結果、バブルに陥るリスクがあります。

この政策を積極的に進めたのが、共和党の大統領ロナルド・レーガン、ブッシュ(親子)です。イギリスではマーガレット・サッチャーがこの政策を取りました。

世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、リーマン・ブラザーズのような破綻例も起こります。

これらのグループはグローバリズムと称して、国家を無視して、英領バージンアイランドやケイマン諸島などのタックス・ヘブンの国に資金を移して、脱税という国家に対する大きな背信行為を犯しました。この詳細が記録されているのがパナマ文書です。

グローバリズムというと格好良く聞こえますが、国際的な上部組織ですから、しばしば国を管理したり、国益に制限を加える権限を持っています。

グローバリズムと言って国内産業が人件費の安い国で生産活動をし、タックス・ヘブンの国に本社を移転したらその国は大きな損害を受けるはずですが、それが今アメリカの民主党政権下で起こっていたのです。大企業からの税金は入ってこない、アメリカ中の商品は安いけど粗悪な made in China であふれています。民主党政権による貿易緩和によって、アメリカの代表的二次産業である鉄鋼関連の事業は、安い中国製品が独占して、ビッツバーグやデトロイトは死の町となってしまいました。入札で日本を抑えて大量に輸出した、太陽光パネルですが、不良品続出で稼働率は40%とのことでした。

従来、共和党が行っていたグローバリズムの政策を、本来、修正資本主義を取るべき立場にある民主党にも広がってオバマやクリントンが手を染めたことに、アメリカの国民が疑念を抱いたのが、2016年の大統領選挙です。

アメリカの製造業は軒並み倒産し、労働力の中心である高校卒のブメーカーを雇う企業は激減しました。その惨状を憂いて、アメリカ国内の富の流失に大きく関わっている、新資本主義者による金融のグローバリズムと一線を画して、ナショナリズムを標榜して、国内産業の復活を目指して、大統領に就任したのがトランプです。

彼はケインズの修正資本主義を支持していることを明言しています。2001年から2009年まで民主党に所属していた関係で、新資本主義ではなく修正資本主義を取り入れることを決意したのかもしれませんが。

シェルドンの経営学理念が100年後に復活することは、ロータリアンにとって、喜ばしい限りです。

トランプはいろいろな政党を渡り歩いた経緯から、共和党のすべてが彼を支持しているわけではありません。父親がドイツからの移民であるトランプは、従来の新資本主義に基づく、共和党の政策と一線を画して、修正資本主義に回帰して、パナマ文書の情報公開などによって、共和党、民主党双方の新資本主義者に大きなダメージを与えると共に、国内製造業の育成、特にブルーカラーの保護、不法移民の禁止などによって、国家財政の健全化に取り組んでいます。

トランプ大統領のナショナリズムは、国家をコントロールする可能性のある、国際的な政治経済組織、即ち、国連、EU、TPP、COP(温暖化防止)などに縛られずに、国家の利益を優先させる政策です。政治的には共和党の小さな政府を目指し、経済的にはパトリオティズム(愛国心)を標榜して、雇用問題や不法移民の禁止、共和党内のネオコン・グループの排除などに取り組んで、一般国民から大きな支持を受けています。

サッチャー離脱後のイギリスがEUを離脱するのも、同じ理由です。日本でも小泉首相がアメリカかぶれした竹中平蔵氏の影響を大きく受けて、新資本主義政策を進めて、市場万能主義による規制の自由化を推進すると共に、デフレ政策を取りましたが、見事に失敗しました。

安倍首相はトランプ首相と親しい間柄ですから、その政策に倣ってパトリオティズム、即ち日本の国民を大切にす政策に転換することを願うのみです

第2次世界大戦 起承転結

2680 地区 PDG 田中 毅

1939年、ヨーロッパで第2次世界大戦が始まり、1940年には、日独伊三国同盟が締結されましたが、日本は隠忍自重して、参戦しませんでした。

イギリスのチャーチル首相とアメリカのルーズベルト大統領は、オランダと支那に働きかけて、ABCD包囲陣によって日本を経済封鎖し、鉄鉱石や石油の輸入を完全に遮断しました。

政府も軍部も、アメリカと戦うことを、まったく望んでいませんでした。戦争を回避しようとして、開戦の直前まで、何回も日米首脳会談を提案しましたが、ルーズベルトはそれに応じませんでした。

ルーズベルトは、祖父が清朝末期に阿片貿易によって巨万の富を築いて、香港に豪邸を持っており、支那の高価な美術品に囲まれて育った関係から、支那に愛着を持っていました。大統領になってからも、巨大な支那市場を夢みて、支那に好意を寄せていました。彼の眼には、日本は伝統文化を守って、キリスト教文明に同化することを拒み、アメリカに媚びることがない異質な国に見えたのでしょう。

1941年1月には、すでに暗号傍受によって、日本側に真珠湾攻撃の計画があることを知って、駐日大使グルーからハル長官に報告がっていました。

ルーズベルト政権は、国際法を犯しながら、支那に対して惜しみなく、援助資金と兵器、軍需物資を注ぎ込みました。蒋介石総統とその宋美齡夫人がキリスト教徒だったために、キリスト教国である支那が、異教の日本によって侵略を被っているとみなしたとされています。

1941年4月に、アメリカ陸軍航空隊のクレア・シュノルトを中華民国空軍航空参に任命したルーズベルト大統領は、フライング・タイガー戦闘機部隊を結成して、1941年7月23日、蒋介石政権に新型のボーイング B17 大型爆撃機を供与して、支那機に偽装したうえで、アメリカの退役軍人や民間人のボランティアを搭乗させて支那の航空基地から発進し、日本を爆撃する「JB No.355」計画に署名しました。



フライング・タイガー

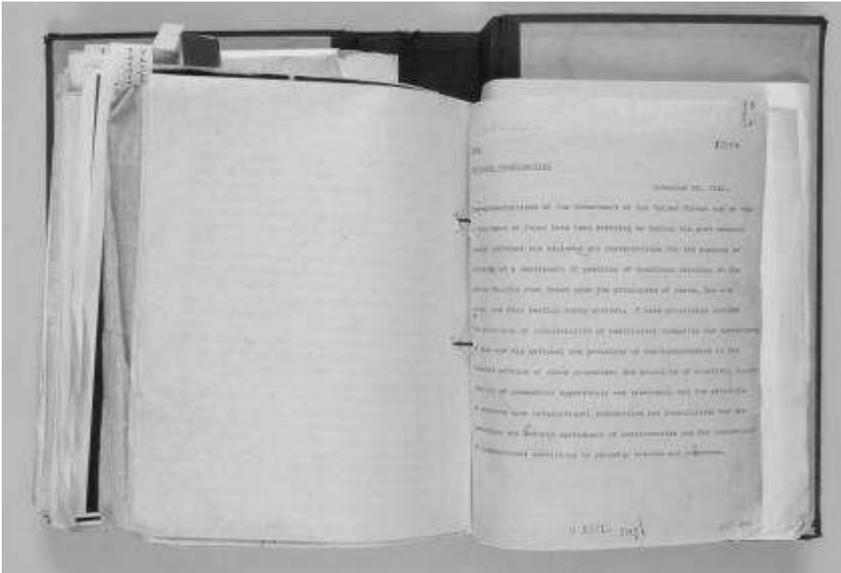
1970年にABCテレビ20/20で公開された「JB No.355」によると、1941年10月1日に、蒋介石政権に150機のB17爆撃機と、350機の戦闘機を供与して、ビルマのラングーン飛行場まで運び、そこから、東京、横浜の産業地域と、神戸、京都、大阪に奇襲爆撃を加えることになっていました。ところが、この日本本土奇襲爆撃作戦は、フランスがドイツに降伏して、イギリスが孤立したために、大型爆撃機をイギリスに急いで回さなければならなくなったために、支那での活動が不可能になって、結局実施されませんでした。

ちなみにこの部隊はカーチス P-40 とボーイング B-17 による航空隊で、現在の貨物航空会社フェデックスの前身です。

ルーズベルト大統領は日本と戦うことを決めていたので、日米交渉が妥結することを望んでいませんでした。日本政府はアメリカも日本と同じように平和を望んでいるものと思い込んでいたのが誤算でした。



JB No.355



ハル・ノート

日本政府と日本大使館でやり取りされる全ての情報は、同時にアメリカ側に傍受解読されていましたから、日本から小出しに出される提案は全て拒否されました。

アメリカは11月26日に、それまで日米の交渉によって積み上げてきた、合意の一際を否定する、「ハル・ノート」を日本に突き付けました。

ハル・ノートには、支那大陸や仏印からの即時撤退、日独伊三国同盟の破棄、支那の反日蒋介石政権

権の承認等々、日本が受諾できない要求ばかりが書き込まれた最後通牒でした。

「合衆国政府及日本国政府の採るべき措置」

- イギリス・中国・日本・オランダ・ソ連・タイ・アメリカ間の多边的不可侵条約の提案
- 仏印（フランス領インドシナ）の領土主権尊重、仏印との貿易及び通商における平等待遇の確保
- 日本の支那（中国）及び仏印からの全面撤兵
- 日米がアメリカの支援する蒋介石政権（中国国民党重慶政府）以外のいかなる政府も認めない（日本が支援していた汪兆銘政権の否認）
- 英国または諸国の中国大陸における海外租界と関連権益を含む1901年北京議定書に関する治外法権の放棄について諸国の合意を得るための両国の努力
- 最恵国待遇を基礎とする通商条約再締結のための交渉の開始
- アメリカによる日本資産の凍結を解除、日本によるアメリカ資産の凍結を解除
- 円ドル為替レート安定に関する協定締結と通貨基金の設立
- 日米が第三国との間に締結した如何なる協定も、太平洋地域における平和維持に反するものと解釈しない(日独伊三国軍事同盟の実質廃棄)
- 本協定内容の両国による推進

大きな犠牲を払って、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦で克ち得た全ての利権を放棄して、明治維新直後の日本に戻れという、長年続いた排日運動の総仕上げとも思われる屈辱的な内容でした。

何とかして日米交渉を円満理に進めたいと考えていた日本も、交渉継続を断念せざるを得ない最後通牒でした。

日本政府は12月1日の午前会議で、今まで和平交渉を唱えられていた昭和天皇も口を閉ざされ、連合国との開戦が決定しました。資源という生命線を絶たれた上に、大和民族としての尊厳を傷つけられた日本は、太平洋戦争に突入せざるを得ませんでした。

1941年12月8日、日本の連合艦隊はアメリカ海軍の基地、ハワイの真珠湾を攻撃して、アメリカ太



空母 赤城より出撃

平洋艦隊に大打撃を与えましたが、たまたま、米空母が湾内にいなかったことが、後半戦におけるアメリカを優位にさせる原因になりました。

開戦の30分前に米務省に国交断絶の通告を渡すことになっていましたが、ワシントンの日本大使館の怠慢によって、それが55分遅れてしまいました。

ルーズベルト大統領はこのミスを最大限利用して、日本は宣戦布告なしの奇襲攻撃をした卑劣で悪辣な国であると国内向けにプロパガンダす

ることによって、排日感情を煽りました。

タイはこの戦争において日本側に付いて、米英に対して宣戦布告をしています。緒戦における日本軍の進撃は、連戦連勝と目覚ましいものでした。日本軍は開戦と共に、イギリスが「東洋の真珠」と誇った香港をたちまち攻略し、イギリスの支配下にあつたマレー半島、シンガポール、インドネシア、アメリカが統治していたフィリピン、オランダの植民地だったビルマを開放しました。

色が違うために辱められてきた人々が、日本の働きによって、重鎖から解放されて、前途に眩い光を見ることができました。抑圧された有色人種が覚醒するなかで、アメリカ、イギリス、オーストラリア当局が狼狽えて、有色の活動家たちの取り締まりを強化したり、有色の



真珠湾攻撃

人々を
懐柔す

るために、慌てて人種差別政策を緩和することを強いられました。日本軍の進攻によって、数世紀にわたった白人の優位が打破されたことは、まさに驚天動地の出来事でした。

日本は、アジア人を兄弟としてみなしたので、日本の占領地域では、日本の将兵が、同じアジア人に対して思い遣りをもって、対等に接しました。支那人が打算的で、白人に媚びていたのに対して、日本が毅然として、白人と対決してきたことは、高く評価されました。

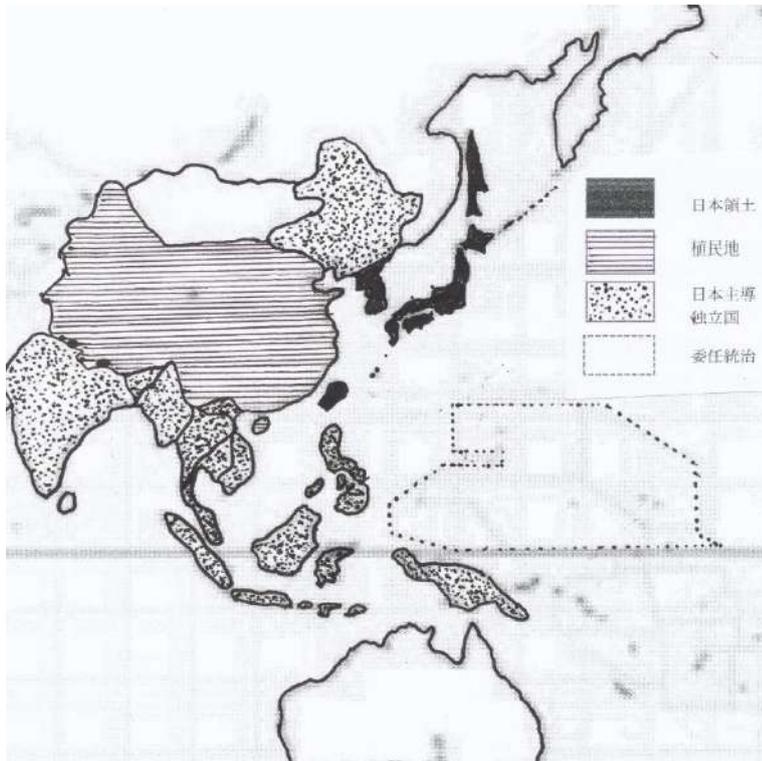


シンガポール陥落

歴史には、「もしも」という仮定を持ち込むことはできません。しかし、シンガポール陥落直後に持ち込まれた、停戦案に日本が同意していたら、どうなっていたかを、想像することも自由です。

台湾と朝鮮と千島列島と南カラフトと当時日本が委任統治していた南洋諸島に加えて、アリューシャン列島とハワイは日本の領土になっていたはずで

さらに満州国というバッファーを置いて、支那は日本の植民地に、そしてインド、ベトナム、マレー



シア、ボルネオ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、タイ、パプアニューギニアなどの東南アジアの諸国は日本の支援を受けて独立国になっていたはずですが。当時の日本の国策であった大東和共栄圏が完成して、世界最大の排他的領海を有する海洋国家になっていたのです。

1943年11月5日に、帝国議会議事堂において、日本の戦争目的を世界と後世へ向けて宣明するめに、大東亜会議が開催されました。

日本の東條英機首相、中華民国国民政府行政院長の江兆銘、タイのワンワイタヤコン首相代理、満州国の張景恵

國務総理、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モウ首相、自由インド仮政府のチャンドラ・ボース主席が一堂に集り、アジア諸国の独立について話し合いました。

日本はこの年8月にビルマと、10月にフィリピンを独立させていました。更に、オランダ領東インド諸島として知られていたインドネシアは、日本の指導下で独立へ向けて、教育、行政制度の整備や、将来の国軍の訓練などの準備が着々と進められていました。

第二次世界大戦時の、東南アジアにおけるイギリス、アメリカ、オランダの植民地において、日本が連戦連勝したのは、日本軍がアジアを支配するために、原住民を侵略したのではなく、アジア諸民族を、欧米の帝国主義から解放して独立に導くためだったので、現地の人々の協力を得られたからです。

日本は植民地となっていた人々に教育を施し、軍事訓練を行い、独立の手助けを行いました。日本軍に支援されて、インド国民軍総司令官となったチャンドラ・ボースは、「日本はアジアの希望の星」と語り、日本に深く感謝しました。

マレーシアもシンガポールも同様でした。日本軍がマレー半島を南下して、シンガポールへ向かう途上、日本の諜報部隊が、イギリス軍のインド兵に脱走するように呼びかけたところ、インド兵が次々と投降し、日本軍に協力したいと申し出て、その数は45000人を超えました。

彼らを中心にインド国民軍が結成され、日本軍と協同して、ビルマからインド東北部のインパールを目指して進撃しました。日本が戦争に敗れると、イギリスはインパール作戦を戦ったインド国民軍反乱軍として、裁判にかけましたが、インド全土の民衆が憤って、数百万人がインドの街頭を埋め尽くしました。イギリスはスピットファイアー戦闘機を飛ばして、上空から群衆に機銃掃射を加えて、鎮圧を試みましたが、混乱は収まらず、止む無くイギリスはインドの独立を認めざるを得ませんでした。インパール作戦は、日本にとって作戦上は惨憺たる失敗に終わりましたが、インドは独立するという目的を達成しました。

インドネシアは、日本が降伏した二日後に独立を宣言しました。日本が敗れると、オランダ軍がインドネシアを再び植民地にしようとして、イギリス軍の援助を受けて攻撃してきました。インドネシア独立軍は30000人にのぼるペタ出身者が中核となって応戦しました。当時インドネシアに残留していた

2000人近くの日本兵が、祖国に復員せずに、インドネシア人と共に独立戦争に加わりました。

日本の敗戦後、東南アジアからインドに至るまで、大戦中に日本に協力した人々が裁判にかけられたり、処刑を受けたことは一度もありませんでした。もし日本が東南アジアの諸国を侵略するための戦争をしていたなら、このようなことはありえません。インドネシアでも、インドでも、ミャンマーでも、戦後、対日協力者は民族の功労者となりました。フィリピンでも、初代のラウレル大統領、アキノ大統領の一家も、対日協力者でした。

日本はアジアを解放することによって、アジアに恒久的な平和を確立することを願っていました。日本の多くの青年たちが、人種差別撤廃の大義を信じて、戦野に果てていきました。

日本が大きな犠牲を払うことによって、アジアだけではなく、更にアフリカの諸民族も解放されました。戦後、この高波がアフリカ大陸に押し寄せて、アフリカ諸民族が次々と、独立を獲得していきました。

昭和天皇を元首とする日本が、白人と戦った結果として、アジア・アフリカの諸民族が解放されて、数多くの独立国が誕生したことに感謝して、昭和天皇の崩御に当たっては、164ヶ国の元首や、代表が、全世界から弔問に訪れました。この数字は、如何に多くの国が、日本によって独立を勝ち得たかを示すものです。

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦で統治する権益を得た国や地域を、宗主国による一方的な搾取による植民地統治ではなく、国民を差別することなく、教育や、民生の向上に努めた統治を行いました。西太平洋のサイパン、テニアン、ペリリューなどのマリアナ諸島とマーシャル諸島とパラオ諸島の島民たちは、今日でも日本を慕って、日本語を使っています。

前近代的な水準にあった台湾と朝鮮においても、民生と、教育の向上を図り、大学、学校、病院、鉄道を普及させ、治水、灌漑を整備して、農工業を振興して、短期間のうちに近代国家に引き上げました。

アジアのほとんどの国が、日本に関して好意的なのに反して、朝鮮と中国だけが異なった反発をしています。

朝鮮は歴史の歯車の中で、常に何れかの国の植民地であったことのひがみが強いのかも知れません。

支那は世界有数の歴史の中で、長期間続いた政権がなかったため、国としての概念に乏しく、広大な国土があるのに、世界中にコロニーを作って、個人的な利益を追求する傾向が見られます。

日本の長い歴史の中で、万世一系の天皇制度を維持し、例え戦国時代であっても、戦うのは武士であり、奴隷制度を採ったり、市民の大虐殺をした記録はありません。

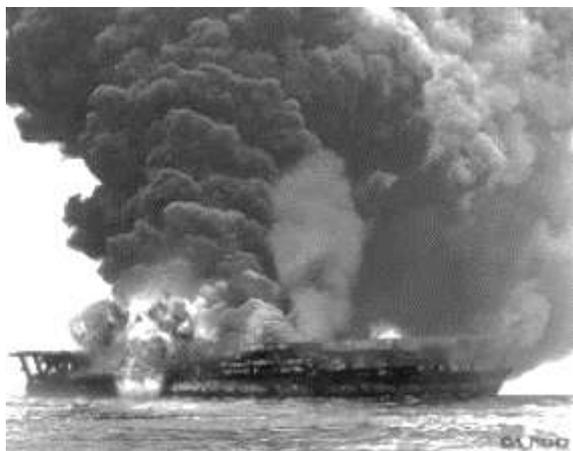
朝鮮における慰安婦の問題にしても、若い女性を強引に拉致して性奴隷にしたわけではなく、本人が自らの意思によってその職業を選んだのです。戦場に慰安婦はつきものです。

支那は南京に於いて、30万人の大虐殺があったと主張しています。しかし激戦によって双方の兵士に多数の死傷者がでたことは想像できますし、支那は正式に降伏しないまま、蔣介石は重慶に、唐生智司令官も南京陥落前夜に逃げてしまいました。支那軍は総崩れになり私服で敗走したため、これを追撃したことが民間人を虐殺したと誤解されました。当時の南京市民の数は20万人(当時の警察庁長官の公式発表)、南京陥落1ヶ月後の人口は25万人であることから、30万人殺害されという数字は、きわめて誇張されたプロガパンダに過ぎないことがよく分かります。

嘘も何回も重ねると、真実のように見えてくるものです。イエスかノーかの二者択一で迫ってくる外国人に対して、何も知らない政治家が、安易に頭を下げるのが、後々、大きな禍根を残すこととなります。

終戦後も例年続けていた靖国神社の参拝を、中国の胡耀邦国家主席に懇願されて取りやめた中曽根首

相のせいで、歴代主首相は靖国神社の参拝という伝統的行事が不可能になってしまいました。日本が侵略戦争を戦ったと語った、極左の村山富市首相、朝日新聞の捏造記事を鵜呑みにして、無垢の娘たちを拉致して、慰安婦に仕立てたと語った河野洋平氏の責任は重大です。



ミッドウエー海戦 加賀撃沈

話を第二次世界大戦に戻しましょう。ミッドウエー海戦に敗れたことが、戦局を大きく変えました。この作戦に参加していた日本の空母は、「赤城」「加賀」「飛龍」「蒼龍」の4隻とその後方には戦艦大和も控えておりました。

しかし、この作戦の情報や日本の空母群の所在位置はアメリカ側の暗号解読によって事前に知られており、がぜん有利な体制にあったにも関わらず、突然現れたアメリカ太平洋艦隊の空母は3隻による奇襲攻撃に対処全てのができませんでした。敵空母の接近を知って、あわてて陸上攻撃用の爆弾を空母攻撃用の魚雷に交換している最中に、高空から米軍攻撃機の急降下爆撃を受

けました。艦内の格納庫にミッドウエー島を攻撃するために爆弾を積んだ大量の攻撃機を収容していたことも災いして、自爆の連鎖を起こして、全ての空母を失ってしまいました。ミッドウエー島を攻撃して弾薬と爆弾を空にして帰還したゼロ戦は、撃墜されるか、不時着水するしか方法は残されていませんでした。圧倒的に優位な戦力を持ちながら、情報収集の差によって惨敗する結果になりました。

これ以降戦局はアメリカに大きく傾き、局地的に勝つことがあっても、撤退の連続となります。なおこの海戦でアメリカの主力となった空母は、真珠湾でみすみす取り逃がした空母でした。

もしも日本がミッドウエー海戦で勝利を収めていれば、アメリカ陸軍はヨーロッパの兵力を、アメリカ西海岸に回して本土防衛をする必要があり、ドイツがイギリスを破ってヨーロッパの覇者になっていた可能性も否定できません。

1943年4月、連合艦隊司令長官・山本五十六がブーゲンビル島上空で、撃墜されて戦死しました。これもまた、情報が把握されていた結果でした。

世界一強いと自他ともに認めていた日本軍が、なぜ負けたのでしょうか。戦争の後半は物量の差であることは明白ですが、敗戦の引き金になったミッドウエー海戦は、優れた電波探知機を備え、暗号探知機能と解読に優れたアメリカのIT技術に負けたのです。日本の機密情報はアメリカに筒抜けでした。情報の取り扱いに弱いという日本の情報音痴は現在も続いています。

1944年、サイパン島の日本軍が玉砕して、日本全土がB25とB29爆撃機の行動範囲に入りました。

同年フィリピンのレイテ湾の戦闘で、初めての神風特攻隊が、沖縄線では大量の特攻隊が出撃しました。陸軍の特攻隊は隼で知覧と万世から、海軍の特攻隊は零戦で鹿屋と指宿から飛び立ちまし



神風特攻隊

た。飛行機が不足したので、指宿からも出撃したのは、零式水上偵察機でした。

日本が失った特攻機は 2800 機、アメリカ軍の損害は戦艦 10 隻、空母 9 隻、巡洋艦 5 隻、駆逐艦 118



戦艦大和

隻、その他艦船 40 隻と言われています。なお、著名な野球選手、故青田昇氏の奥様の話では、同氏が知覧基地から出撃する前日に終戦になったそうです。

1945 年 4 月、戦艦大和と連合艦隊の残存艦 9 隻は、航空機の援護もなく、帰りの燃料も積まずに、沖縄に向かいました。沖縄の浅瀬で座礁して、艦砲射撃をする海上基地にする予定だった

たと言われています。

しかし、途中、鹿児島県坊ノ岬沖で米軍機 386 機の猛攻を受けて大爆発を起こして沈没しました。

アメリカ軍は B29 を用いて、日本各地の大都市を無差別爆撃しました。軍事目標ではなく、意図的に市民を大量虐殺したのです。1945 年 3 月の東京大空襲では、10 万人の市民が殺されました。木造住宅が燃えやすいことに目をつけて、大量の焼夷弾を上空から、無差別にばらまいて、大量の非戦闘員を火あぶりにして虐殺しました。

なお、東京には 106 回、名古屋には 63 回大阪には 8 回の空襲が行われました。

日本が降伏寸前であることを知りながら、広島にはウラニウム爆弾、北九州が視界が悪かったため変更した長崎にはプルトニウム爆弾を落としました。広島では 11 万人、長崎では 7 万人以上の人が犠牲になりました。健康な男子は出征して、町に残っていたのは老人と女・子供ばかりでした。

日本が和平の意志を示していたにもかかわらず、広島と長崎に原爆投下したのは、日本人を有色人種として蔑視する、強い意識が働いたからです。無駄な死者を出さずに、戦争を早く終わらせるために、原爆を使ったというのは勝者の詭弁であって、原爆の威力を人体実験したいという欲望の結果であり、虐殺のための虐殺であることは間違いありません。

なおこの原爆投下については、まもなく参戦してくるソ連との日本分割統治を避けるために、アメリカ主導型で早く戦争を終わらせたかった意図もあると言われています。

1944 年に実施されたアメリカの世論調査では、「日本人を全員殺害すべきか」という設問に対して、「賛成」意見が 13% ありました。ドイツ人に対する同様な設問は設けられていませんでした。



原爆による大殺戮

激戦地に於いて、投降してくる日本兵の多くは銃殺され、捕虜としての扱いを受けたのはごく僅かだと言われています。沖縄戦においては、多くの日本の女性が、米軍兵士によって凌辱されました。

本土では焼夷弾による無差別攻撃、原子爆弾によって 70 万人もの一般市民が焼き殺されました。どの国がフェアな戦いをしたのか、よく考えてみる必要があります。日本人は有史以来、人種平等を旨としましたが、戦後、人種平等の世界が到来するまでのアメリカでは、有色人種に対する身の毛がよだつような蔑視が支配していたのです。

ユダヤ人の大虐殺がヒトラーの犯罪ならば、日本における民間人の大虐殺はアメリカ人が犯した大罪なのです。極東軍事裁判で裁かれるべきことは、日本の戦争責任者と共にアメリカ軍による日本の民間人大虐殺です。



昭和天皇

「勝った国のいうことがすべて正しい」このルールは現在も引き継がれています。

日本国に無条件降伏を強ければ、徹底抗戦となって、アメリカ側も大きな損害を被ることが予測されたので、日本陸海軍だけに無条件降伏を求めるポツダム宣言が作られました。

軍部の徹底抗戦を退けた、昭和天皇の決断によって、ポツダム宣言が受諾され、第 2 次世界大戦は終了しました。

日本側の犠牲者数は軍人 240 万人、民間人 70 万人に上りました。

日本陸海軍が無条件降伏しましたが、日本の国は、天皇家を残すという条件の下で、ポツダム宣言を受諾したのです。憲法上、沈黙を守らざるを得なかった天皇陛下が、日本の将来と世界の平和に深い思いを馳せて、述べられたのが、終戦の詔勅です。

終戦の詔勅

朕深く世界の形勢と帝國の現状とに鑑み非常の措置を以て時局を收拾せむと欲し茲に忠良なる爾臣民に告ぐ

朕は帝國政府をして米英支蘇四國に對し其の共同宣言を受諾する旨通告せしめたり

抑々帝國臣民の康寧を圖り萬邦共榮の樂を偕にするは皇祖皇宗の遺範にして朕の拳々措かざる所曩に米英二國に宣戰せる所以も亦實に帝國の自存と東亞の安定とを庶幾するに出て他國の主權を排し領土を侵すか如きは固より朕か志にあらず

然るに交戰已に四歳を閱し朕か陸海將兵の勇戰朕か百僚有司の勵精朕か一億衆庶の奉公各々最善を盡せるに拘らず戰局必ずしも好轉せず

世界の形勢亦我に利あらず

加之敵は新に殘虐なる爆彈を使用して頻に無辜を殺傷し慘害の及ぶ所眞に測るへからざるに至る而も尚交戰を繼續せむか終に我か民族の滅亡を招來するのみならず延て人類の文明をも破却すへし斯の如くむは朕何を以てか億兆の赤子を保し皇祖皇宗の神靈に謝せむや

是れ朕か帝國政府をして共同宣言に應せしむるに至れる所以なり

朕は帝國と共に終始東亞の解放に協力せる諸盟邦に對し遺憾の意を表せざるを得ず

帝國臣民にして戰陣に死し職域に殉し非命に斃れたる者及其の遺族に想を致せば五内爲に裂く

且戰傷を負ひ災禍を蒙り家業を失ひたる者の厚生に至りては朕の深く軫念する所なり

惟ふに今後帝國の受くへき苦難は固より尋常にあらず

爾臣民の衷情も朕善く之を知る然れとも朕は時運の趨く所堪へ難きを堪へ忍ひ難きを忍ひ以て萬世の爲に太平を開かむと欲す

朕は茲に國體を護持し得て忠良なる爾臣民の赤誠に信倚し常に爾臣民と共に在り

若し夫れ情の激する所濫に事端を滋くし或は同胞排擠互に時局を亂り爲に大道を誤り信義を世界に失ふか如きは朕最も之を戒む

宜しく擧國一家子孫相傳へ確く神州の不滅を信じ任重くして道遠きを念ひ總力を將來の建設に傾け道義を篤くし志操を鞏くし誓て國體の精華を發揚し世界の進運に後れさらむことを期すへし

爾臣民其れ克く朕か意を體せよ

御名御璽

昭和二十年八月十四日

内閣総理大臣鈴木貫太郎

ポツダム宣言

1. 我々合衆国大統領、中華民国政府主席、及び英国総理大臣は、我々の数億の国民を代表し協議の上、日本国に対し戦争を終結する機会を与えることで一致した。
2. 3ヶ国の軍隊は増強を受け、日本に最後の打撃を加える用意を既に整えた。この軍事力は、日本国の抵抗が止まるまで、同国に対する戦争を遂行する一切の連合国の決意により支持され且つ鼓舞される。
3. 世界の自由な人民に支持されたこの軍事力行使は、ナチス・ドイツに対して適用された場合にドイツとドイツ軍に完全に破壊をもたらしたことが示すように、日本と日本軍が完全に壊滅することを意味する。
4. 日本が、無分別な打算により自国を滅亡の淵に追い詰めた軍国主義者の指導を引き続き受けるか、それとも理性の道を歩むかを選ぶべき時が到来したのだ。
5. 我々の条件は以下の条文で示すとおりであり、これについては譲歩せず、我々がここから外れることも又ない。執行の遅れは認めない。
6. 日本国民を欺いて世界征服に乗り出す過ちを犯させた勢力を永久に除去する。無責任な軍国主義が世界から駆逐されるまでは、平和と安全と正義の新秩序も現れ得ないからである。
7. 第6条の新秩序が確立され、戦争能力が失われたことが確認される時までは、我々の指示する基本的目的の達成を確保するため、日本国領域内の諸地点は占領されるべきものとする。
8. カイロ宣言の条項は履行されるべきであり、又日本国の主権は本州、北海道、九州及び四国ならびに我々の決定する諸小島に限られなければならない。
9. 日本軍は武装解除された後、各自の家庭に帰り平和・生産的に生活出来る機会を与えられる。
10. 我々の意志は日本人を民族として奴隷化しまた日本国民を滅亡させようとするものではないが、日本における捕虜虐待を含む一切の戦争犯罪人は処罰されるべきである。日本政府は日本国国民における民主主義的傾向の復活を強化し、これを妨げるあらゆる障碍は排除するべきであり、言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。
11. 日本は経済復興し、課された賠償の義務を履行するための生産手段、戦争と再軍備に関わらないも

のが保有出来る。また将来的には国際貿易に復帰が許可される。

12. 日本国国民が自由に表明した意志による平和的傾向の責任ある政府の樹立を求める。この項目並びにすでに記載した条件が達成された場合に占領軍は撤退するべきである。
13. 我々は日本政府が全日本軍の即時無条件降伏を宣言し、またその行動について日本政府が十分に保障することを求める。これ以外の選択肢は迅速且つ完全なる壊滅があるのみである。

13条からも分かるように、ポツダム宣言によって無条件降伏したのは日本陸海軍であり、日本国ではないにも関わらず、マッカーサー元帥はまるで日本国が無条件降伏したかのように、占領政策を行いました。日本民族から独立心を奪い、贖罪意識を植えつけることが、占領政策の最も大きな目的でした。

このマッカーサーによる、日本人総洗脳の効果は絶大で、現在もまだ続いており、日本国全体がアメリカの言うがままに統治され続けているような気がします。

占領と同時に、報道を厳しく制限するプレスコードを定めて、新聞や出版社や国民の私信に至るまで徹底的な検閲と**言論統制**を行いました。NHKや全国の新聞に、アメリカに都合の良い「太平洋戦争史」を連載させて、日本民族から歴史の記憶を奪うことによって、占領後も、アメリカの属国であり続けるように情報操作をしました。これは「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。」と記載されたポツダム宣言 10 条に違反する政策でした。

天然資源のない日本が、近代戦を互角に戦えた根源は、日本精神であると考えて、日本人の心のよりどころである**国家神道**を廃止しました。これもポツダム宣言 10 条に違反する政策です。さらに国を称え国に忠義を尽くす行為を禁止し、**日の丸**と**君が代**を禁止しました。

戦争協力者を 20 万人以上**公職追放**したため、戦争中は言論を封じられていた左翼の人々が、教育界や学会やマスコミで勢力を持つようになりました。それにシベリア抑留で共産主義に洗脳された人たちが加わって、大きく左傾化しました。

財閥が解体され、農地改革によって、多数の自作農が生まれました。財閥はまもなく復活しましたが、農地改革は極めて不平等だったために、没落した旧地主層と土地成金を生みました。

戦争責任者が逮捕されて、**極東裁判**にかけられましたが、この裁判は民主的に行われたものでなく、国際法にも合致していません。

学校教育も大きく変えられました。戦後、教育勅語はアメリカの指示によって全面的に否定され、それを受けて 1948 年 6 月に「教育勅語等排除に関する決議」が衆参両院に提案されて、廃止されました。

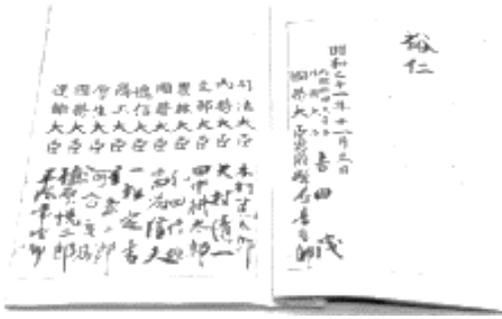
教育勅語を廃止した影響は極めて大きく、これによって日本人の教育に関する拠り所が否定されて、日本の風紀が乱れてしまったのです。速やかに復活すべきだと思います。

しかし、この作業は、天皇の勅語の改訂ですから、誰にでもできるものではありません。平成の時代が終わって、皇太子殿下が皇位継承をされる際、誰にでも理解できる口語体で原案を作成して、国会で議決して頂きたい作業です。

日本独自の年号である**皇紀**が廃止され、日本人の和の心を教える**修身**も廃止されました。御真影と教育勅語が収められていた**奉安殿**や二宮金次郎の銅像が撤去され、**学制**も教科書も一新されました。特に日本の近代史は、アメリカの都合の良いように大幅に書き換えられました。

1945 年、選挙法が改正されて、20 歳以上の男女に選挙権が与えられるようになりました。

日本国憲法は 1946 年に公布され、1947 年 5 月に施行されました。当初は日本側に原文作成がある程度任せられていたのですが、日本側の出す案が余にも姑息的であったため、**GHQ** が苛立って、自らが英文で改正案を作成して政府に提示したと言われています。



法的無効の日本国憲法

当時の日本は占領下であり、日本には主権がありませんでした。

主権のない日本に、主権の発動である憲法が存在するはずもなく、日本国憲法は進駐軍が植民地・日本の統治を都合よく行うために制定した占領政策に過ぎないのです。

現在の憲法は、占領政策としてアメリカから押し付けられたものであり、国民の総意に基づいて作られたものではありませんから無効です。従って姑息的な憲法改正ではなく、現行憲法をいったん失効して、明治憲法に戻った後に、新しい憲法を制定するのが筋です。戦後 70 年もその作業が続けら

れなかったことも、マッカーサーの日本人総洗脳の効果かもしれません。

第 9 条は、占領下の日本をアメリカの従わせるための条文です。典型的な資本主義国家であるアメリカが作った憲法なのに、独立国日本の中に、これを順守しようという動きが存在すること自体が問題であり、それが左派集団であることは二重の驚きです。戦後の長い平和は、憲法第 9 条があるおかげだという人がいますが、これは大きな間違いであって、日米安全保障条約があって、アメリカの庇護を受けていたからです。

戦後、アメリカの占領政策によって、日本に民主主義がもたらされたという人がいますが、それは大きな間違いで、日本は神話の時代から、八百万の神々の話し合いによって物ごとを決めてきたという歴史があります。日本の原点に、話し合いを通じて物事を決めるという民主主義があるのです。1500 年前に作られた聖徳太子の 17 条の憲法の中には、日本型民主主義が詳細に記されています。

1950 年に起こった朝鮮戦争で、アメリカは戦争に必要な品々を日本に生産させて、大量に購入したために、日本は奇跡的な復興への足がかりをつみました。その後、ソ連、中国を筆頭に、北朝鮮、モンゴルなど東アジアのほとんどの国が共産主義国になってしまいました。危機感を感じたアメリカは、日本を西側陣営に加えるために、日本の占領政策の方針を 180 度転換して、アメリカの同盟国として、共産主義に対する防波堤として利用しようと考えました。その足掛かりとして、戦争賠償金を免除して、サンフランシスコ講和条約を締結しました。

シェルドンと神 2

2680 地区 PDG 田中毅

7月の炉辺談話「シェルドンと神」に誤解を招きやすい表現がありましたので訂正させていただきます。
シェルドン・スクールの教科書には「God」という単語は全く見つかりませんでした。 という表現は誇張であり、シェルドン・スクールで経営学の理念を説くに際して、教科書の中で、神の加護を願ったり、神の意志に従う単語として God が使われていないと訂正させていただきます。シェルドンは宗教ではなく、敢えて純粋な経営学上の理論としてサービス理念を解いていること理解してください。普通の人なら God 使うのに provider を多用し、laws of God を laws of nature と表現しています。彼の絶筆となった私的な出版物「奉仕の原則と保全の法則」にはやたらと God が出てまいります。いかなる心境の変化か、私も疑問に思っています。

九州・西日本豪雨災害に対するロータリーの取り組み

2680 地区 PDG 田中 毅

九州の豪雨災害が起こってから1年、西日本の災害からは1ヶ月が経ちました。

地域社会の職業人で構成されているロータリークラブとして、自らの地域で起こった災害に対して、積極的に対応する義務があることは当然です。

しかし、自らの身に降りかかった想像を超える被害に茫然として、ロータリーが実践すべき地域社会における社会奉仕活動の実践に取り組むまでには、少し時間が掛かると思います。しかし、地域社会における奉仕活動をしてこそ、ロータリーの存在価値があることを忘れてはなりません。

私は、阪神大震災の翌年に被災地のガバナーを務めて、ロータリーの災害復興事業の難しさを身をもって体験しました。10億円を超える募金が集まり、緊急を要する事業、復興を援助する事業、将来も継続する事業に分けて募金を使わせていただきました。主な事業は、被災留学生の学生寮の建設。被災孤児のケア施設の建設と維持。住宅建設に携わる職人の短期養成施設の運営など、50を超えるプロジェクトを行い、10年後に終了しました。

ロータリーの災害復興活動にはルールがあります。募金を集めて、被災地区に送り付けても、受け取る側に体制ができていないと困惑することになります。また、募金を地方自治体や、日赤に送ったのでは、ロータリーの存在価値が疑われます。

被災地区が最初にすべきことは、地区に災害復興基金の銀行口座を開設することです。クラブが独自に口座を開設しても結構ですが、地区でまとめて口座を開設して、クラブの要望に従って資金を分配する方が、結果としてうまくいきます。口座を開設しないと、折角の募金が行き場を探して、宙に浮くことになります。

地区は、ガバナー会を通じて、または個別に、募金をこの口座に振り込むように依頼します。

これと並行して、被災地区のクラブは、地域社会のニーズに従った復興プロジェクトを計画して、その資金を地区に申請します。大きなプロジェクトなら地区が関与する必要もありますが、実施するのはあくまで個々のクラブです。被災地にまたがる幾つかのクラブが合同でプロジェクトを実践するのが効果な場合もあります。

東日本大震災の時に、ガバナー会が、震災復興募金を被災地の学生の奨学金にすると決定しました。私は、募金の使途はあくまで、被災地のニーズに従うべきであり、ガバナー会が口出しする権限はないとして反論しました。幸いにも、次年度のガバナー会議長がこの決定を撤回していただいたので何とか解決しました。

ロータリーが行う災害復興事業は、行政の手が届かない、更に地本のニーズに叶った事業に取り組むべきだと思います。棚田やみかん畑の復興とか、ハウスが壊れて再建が困難な人とか、その気になって探せば、数多くのプロジェクトが見つかると思います。

地域に密着した社会奉仕活動を実践する絶好の機会が与えられたと考えて、被災地区はプロジェクトの実践に、その他の地区はその原資の提供に頑張ってください。もちろん、個人やクラブの意思で、直接災害復興事業に参加することも大きな意義があります。

シェルドンと神 修正版

2680 地区 PDG 田中 毅

私は、1970 年、芦屋ロータリークラブ入会し、1972 年度幹事に指名されました。

1971 年副幹事の時、当該年度ガバナー安福氏より、関西ロータリー研究会への参加を勧められて、入会しました。第一回のセミナーが、神戸市御影で開催され、その時の講師が××氏で、議題は、「ロータリー発生史」でした。

その後、関西ロータリー研究会が分裂して、その分派が千種会となりました。

千種会のセミナーには、初期の頃には、ほとんど毎回参加し、その後、××、××、××氏が入会しました。初期の 2~3 年間は、「ロータリー発生史」が小分けにして毎回語られました。誰かが、講義の内容をまとめて出版しましたが、すぐ取りやめになりました、2670 地区の会員が、録音をして配布しましたが、それも禁止になりました。その理由は後日分かりました。

1996 年、ガバナーに就任。シェルドンのことを詳しく知りたくて、RI 本部で尋ねたところ、Golden Strand の存在を教えられ、全文のコピーを入手しました。1997 年から 1 年掛かって翻訳を完了したところ、不可解なことが分かりました。Golden Strand の内容が千種会に於ける××氏の講演内容と全く同じことが判明したのです。即ち、××氏は Golden Strand を参考文献として引用したとは断らずに、そっくりそのまま何年間も、その内容を講義していたことが判明したのです。特にロータリー発生史は、一字一句、Golden Strand の記述がそのまま、語られています。従ってその出典が解ることを極めて警戒して、録音や出版を禁止したものだと思われまます。

Golden Strand を書いた Oren Arnold(1900~1980)はシェルドンより 38 歳若く、シェルドンが実質的にロータリーから離脱した 1921 年には、会員ではなかったこと、シカゴクラブの有志による Golden Strand を書くための資料収集が始まったのが 1959 年からであること、資料収集に携わった 5 名の会員の最古参の John B. Hayford 委員長がシカゴクラブに入会したのが 1922 年であることから、この執筆者の中には、直接シェルドンと接触した人は全くいないことが分かります。Golden Strand の内容は、1934 年に、シカゴ大学社会科学調査委員会が発行した「ROTARY?」の内容をそのまま借用し、それに 1959 年以降、伝聞によって集めたエピソードを加えて創作したものであることが想像されます。

Golden Strand は 1966 年に出版された、あるシカゴクラブの会員を主人公にした、小説風の文献であり、事実とは異なるフィクションが面白おかしく描かれています。そのために多くのくの間違ひがありますが、千種会の講義では、その間違ひをそのまま教えられていたわけです。一例を挙げると、フランク・コリンズが弁護士であると書かれていますが、実際は果実卸売業です。Service above self を発案したのはシェルドンと書かれていますが、これも間違ひです。

私が、それとなく、××氏にその件に触れると、非常に高圧的な態度で、「私の講義内容は、すべてシェルドンの原文を翻訳したものだ。」と言い切りましたが、それが嘘であることは、後日、私がシェルドンの文献のすべてを収集した過程で、判明しました。

1998 年 4 月に、私が Golden Strand の翻訳を出版しようとした際には、××、××両氏より、強く反対されました。その理由は著作権侵害になるというものでしたが、本当のところは、××氏の講演のネタ本が解ることであることは明白でした。

間違ひだらけの二次文献である Golden Strand を語るだけで、シェルドンのすべてを研究したかのよう語り、Sheldon Society を名乗って、そのエンブレムまで作る不遜な態度に、強い憤りすら感じました。

私はそれを機会に、千種会を退会して、敢えて、Golden Strand の翻訳の出版を強行しました。

ちょうどその頃、神崎 PDG が 1921 年の年次大会でシェルドンが講演した「Rotary Philosophy」を発見して、これを XX 氏が翻訳して、それを機会に千種会の講義の内容はこの文献の内容に一変しました。これが XX 氏がシェルドンの文献に出会ってそれを翻訳した、最初で最後の機会でした。

この Rotary Philosophy は、後日ロータリーに大きな問題を提起したスピーチでした。

今までに、かなりの数のロータリアンの文献を翻訳しましたが、ほとんどの人は神について触れており、私生活を含めたあらゆる場面で神の加護を願ったり、神の意志に従ったり、神を祝福する文章が出てまいります。ポール・ハリス然り、チェス・ペリー然り、ウイル・メーニヤ Jr 然り、更に歴代のアメリカ大統領然りです。

これに比べてシェルドンのスピーチの中からは、ほとんど、神という言葉は見当たりません。1910 年、1911 年のスピーチ中からは、「神」は一切見当たりませんが、1918 のスピーチの中で「もし科学を超えたものならば、それを自然の法則と呼んでください。もし宗教ならば、神の摂理と呼んで、判りやすく述べる方が良いかもしれません。」と、用語として「神」が出てまいります。

1921 年の The Rotarian の原稿とエジンバラのスピーチでは、「世界の様々な宗教によって、ほとんど普遍的に述べられている、神である全知 Omniscience、全能 Omnipotence、普遍的存在 Omnipresence の三位一体を示すものです。」という表現と「もしもあなたが神ということばを好まないのなら、創造主・provider という言葉を使ってください。という記述で「God」という単語が出てきます。

シェルドン・スクールの膨大な教科書も、コンピューターの検索機能を使って、くまなく検索しましたが、「God」という単語は全く見つかりませんでした。シェルドンは徹底的に神を排除して、純粋な経営学上の理論でサービス理念を解いているのです。

初期のロータリーは WASP (White Anglo-Saxon Protestant を中心に作られましたから、大部分は敬虔なプロテスタント教徒で構成されていたと思われます。

更にイギリスのロータリー群は、アメリカの運動とは別に独自に作られ、独自の自治権を持ったまま、後日、RI に合流したという経緯があります。当時のイギリスでは職業は世襲が原則であり、高度の倫理性を持った天職という職業観でしたから、シェルドンの経営学に基づいた学問的な職業観とは全く相容れず、終始 He profits most who serves best の廃止を要求し続けた経緯があります。

シェルドンの思考はまさに修正資本主義を先行したものであり、シェルドンが輝いた 1913 年から 1921 年は、後日修正資本主義を採用する民主党政権 (ウッドロウ・ウイルソン大統領) でしたから、思い切り活動できる環境にあったと思われます。Sheldon も George Pigham も Jhon Knatson もドイツ系ですから。Protestant とは一線を画した数少ない民主党よりのロータリアンだったのかも知れません。

さて、1921 年政権交代で大統領が共和党のウォーレン・ハーディングに代わりました。ロータリアンの大部分は、伝統的に共和党の応援者であり、民主党的なシェルドンの経営学理念に同調するロータリアンは少数派になりました。そんな四面楚歌の中で、職業を天職だと信じ、シェルドンの経営学理念を真っ向から否定するイギリスでスピーチをすることになったのです。

シェルドンを失脚させようという、社会奉仕派の陰謀だったのかも知れませんが、シェルドンはスピーチを断るべきだったのかも知れません。

私の考えでは、シェルドンはこの際、思いのたけを語って、これを最後にロータリー運動から決別して、シェルドン・スクールの運営に全力を傾注する覚悟ではなかったのかと思います。

案の定、45 分の予定を 1 時間以上に延長して、彼の理論のすべてを語り尽くしました。場所がイギリスなので、「神」という言葉も少し入れました。

最後に、「結論」を述べて、それで終わるべきところ、さらに、「ナイアガラ」という皮肉たっぷりな

おまけをつけています。その出だしは、「人間の意識の中で、物理的な分野において最強のナイアガラより強い「光」と「力」を持った、最も優れた発電機にならなければなりません。全世界のロータリークラブに対して、法則に関するささやかな教訓と人生との関連に関する内容の、私の好きな無韻文の作品を捧げる名誉を与えてください。」という文章で始まっています。

これは、ナイアガラを当時のロータリーに例えて、その力よりも、彼が主張する経営学に基づくサービス理念の方が正しいことを示唆する文章です。

そして、この文中で、今までも、これからも使わない、「神」という単語を 12 回も乱発しているので、これだけ「神」を使ったら、「神」が大好きなイギリス人もさぞ満足したことでしょう・・・私は、シェルドンの精いっぱい皮肉だと、受け止めています。そして、シェルドンはこれを最後にロータリーとは、完全に手を切って、その後 1930 年までは、籍だけはおいていますが、ロータリーとの関りは持っていません

ウェブ上で発見した、シカゴクラブの膨大なアーカイブスをくまなく調べましたが、1921 年以降は、シェルドンの名前は一切出てきません。委員会構成表からも外されています。シカゴクラブや RI としても、シェルドンの名前抹消という、はっきりとした対抗措置を取ったものと考えられます。

日頃とは異なる God の連発のスピーチに対して、イギリスのデビッド・ニコルはその真意を悟ってか、1984 年に出版された「Golden Wheel」の中で、わざと「セールスマンの死」というタイトルをもち、シェルドンを強く非難しています。更に、「セールスマンは二度死ぬ」というサブ・タイトルをつけて、「シェルドンというセールスマンは 1935 年に死んだが、それ以前のエンジンバラの大会で既にこの世を去っている。」と書いています。なお、シェルドンのスピーチが終わった際に送られた盛大な拍手は、感銘を受けたからではなく、くだらない長い演説がやっと終わったという安どの拍手であったとも書かれています。

シェルドンはこのエンジンバラでの逆襲以外には、経営学に基づくサービス理念を説くにあたって「神」という言葉を一切使わなかったというのが、ライフワークとして、長年シェルドンを研究してきた私の分析結果です。

なお私的な著作として、1929 年に書かれた、「奉仕の原則と保全の法則」の中では「私は現生でどれくらい上手に義務を果たしてでしょうか。創造主、神、すべてをもたらす宇宙の源流、私の仲間たちへの義務です。上手にそれを果たしてでしょうか。そうだとすれば、私は地獄に落ちる心配をする必要はないと思います。私はこの世とあの世の双方における、地獄と天国を信じます。私たちは天国を作りますし、地獄も作ります。それらはすべての人間に共通な精神と心の状態に過ぎません。」と死後の世界のことを書かれて、創造主、神という言葉が並行して使われています。

善行を積めば死後は極楽へ、悪行を重ねれば地獄に堕ちるとするのは、仏教の思想です。シェルドンも自らインドのバカバンドスの影響を受けたと述べていますから、東洋的思考を強く受けていたのかも知れません。

この年に 30 歳という若さでこの世を去った息子を悼む心からか、彼自身の体調についてかなり不安があったからか、何れの理由かは分かりませんが、厭世感の漂う文章であることには間違いありません。この本を執筆した翌年、彼は正式にロータリーを去り、その 5 年後、67 歳の若さでこの世を去っています。

××氏がシェルドンの文献を翻訳したのは、Rotary Philosophy 一冊のみであり、1910 年、1911 年、1918 年のスピーチの内容も全く知らず、ましてや、シェルドン・スクールの数多くの教科書については、その存在すら知らないことが、同氏と直接議論した過程で解りました。

少しでも千種会の講演内容が正しくなるようにと思って、始めの頃は、シェルドンの新しい文献を発

見する毎に、そのコピーを送ってあげましたが、何の反応もないので、馬鹿らしくなって止めました。

ロータリーを学ぼうという機会を与えてくれたのが千種会のあることは間違いなく、非常に感謝しています。しかし、シェルドンの文献は、多くの問題をはらんだ Rotary Philosophy を一冊翻訳しただけで、後は、Golden Strand という小説がいの文献からの引用で、シェルドンを語り、Sheldon Society を名乗り、かつ、そのエンブレムまで作るという不遜な態度に反発して、フランク・デブリン会長、ドクターマン会長の後援を頂いて、シェルドンの一次文献を集めて、シェルドンを真面目に理解する組織として「源流の会」を創立したのが真相です。世界親睦委員会 RRVF に「源流の会」として、RI に正式に申請したのですが、類似組織「歴史と伝統の会」があるという理由で却下されました。

現在の図書購入は、「源流の会」が行っていますが。開設当時は、RI が書庫の重複文献を整理していることを聞き、The Rotarian 100 年分 1200 冊、国際大会年次報告書 100 年分を、更に、アメリカの古本屋のウェブサイトを通じて、シェルドン・スクールの教科書 100 冊を、全て私費で購入して、「源流の会」に寄贈したものです。

現在は 35000 件のアイテムを集め、今や日本最大のデジタル図書館にまで発展しました。

なお「源流の会」の設立に関わった初期の会員は、私と同じ思いで、千種会を退会した会員が多かったことから、千種会の名前を口にする人はおらず、シェルドンの理念は、宗教色を排した、純粋な経営学に基づいたサービス理念だというのが、「源流の会」の統一見解です。

眞実を伝える
日本史

国際ロータリー2680 地区

PDG 田中 毅

最初に

最近次々と新しい遺跡が発掘されて、弥生時代に優れた文化を持った日本固有の大和民族が、国内に広く定住していたことが分かり、日本の古代史は大きく書き換えられようとしています。

神代の時代は、アメリカの占領政策によって、今は忘れられつつある、古事記や日本書紀などの日本神話を中心に記述しました。初代から9代までの天皇の内の数名があまりにも長寿であるために、その存在を疑問視する人もいますが、在位年数の誇張は別にして、各種の資料から、世界で最も古い王朝である、万世一系の天皇家が存在していたことは確かなことです。日本には神武天皇の即位から始まる皇紀という暦が使われていましたが、占領政策によって廃止されてしまいました。世界中で広く使われている西暦も、キリスト誕生という神話の世界から始まり、処女マリアの懐胎という非科学のおまけまでついていますから、日本に於いて皇紀を使うことは歴史学上、何の問題もないと思います。なお、本書における歴代天皇のご尊顔は、新潟弥彦神社宝物殿に展示されている肖像画から転載させていただきました。

飛鳥時代から大政奉還までの歴史は、大勢の歴史の専門家が調べ尽くしていますので、特記すべき新しい発見はありません。

明治維新から現在までの歴史は大きく書き換える必要があります。第2次世界大戦後、皇室は残ったものの、それに繋がる日本の歴史は、進駐軍のプレス・コードによって葬り去られ、さらにこの大戦の誘因となった日本の現代史も、アメリカの意のまま書き換えられてしまいました。満州国の存在は知っていても、ハワイ王国が日本に助けを求めてきたり、千島列島や南太平洋の多くの島々が、日本の領土であり、日本は世界最大の海洋国家であったことを知る人は、僅かになってしまいました。

日本人の性格も、大きな誤解を受けています。はっきりと意見を言わず、曖昧で、腹のなかで何を考えているか分からないと言われるますが、はっきり意見を言わないのは、自己主張を抑えることで争いを避け、他人との調和を第一に

考える日本人の知恵です。曖昧な態度を取るのも、はっきり言わなくても、五感を働かせて、相手に察してもらえる文化があるからです。宗教的に厳格な規範がなくても、日本では万物に神様が宿る多神教が定着しているために、宗教戦争を回避して、数千年来の確固とした道徳律があって、それが国民の暮らしを律しているのです。

戦後生まれの人が 80.2%の今日、日本の歴史の真実を知らない人が殆どであることは、世界有数の長い歴史を持つ日本人としては、非常に残念なことです。何の疑念も抱かずに、アメリカの意のまま自虐的に受け入れてきた日本の歴史に、改めてメスを入れて、この機会に真実を掘り起こしてみたいと思います。

私なりに数多くの歴史書を参考にして、なるべく忠実に、皇紀 2678 年の長きにわたって、日本が歩んできた道を綴ってみるつもりです。

古代史

地球上に人類の先祖であるネアンデルタール人が現れたのは、今から約 40 万年前だと言われています。ネアンデルタール人は、ヨーロッパを中心に西アジアから中央アジアにまで分布しており、旧石器時代の石器の作製技術を有し、火を積極的に使用していました。ネアンデルタール人は現生人類と類人猿との中間の特徴を持っており、曲がった下肢と前かがみの姿勢で歩く、白い肌と茶色の髪を持った原始的な人類でした。大規模な火山噴火によって約 3 万年前に絶滅したと言われています。

現生人類のホモ・サピエンスは 20 万年前にアフリカに現れ、ヨーロッパや東アジアを経て、4 万年後には日本に達したと言われています。その過程で、ネアンデルタール人とホモ・サピエンスの交配が行われて、最終的にはホモ・サピエンスに吸収されますが、ヨーロッパ人に比べるとアジアの方が僅かにネアンデルタール人の DNA を多く有しているとのこと。

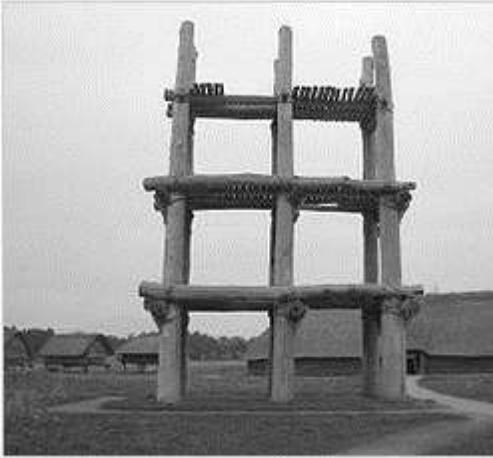
日本列島に最初に人類が定着した記録は、日本最古の遺跡として斜軸尖頭器が出土した柳沢館遺跡（奥州市）や金取遺跡（遠野市）であり、約 4 万年前の旧石器時代です。さらに群馬県の岩宿遺跡からは、約 3 万 5 千年前にできた関東ローム層より黒曜石の打製石器が発見されています。これらの事実は、当時日本列島に人類が住んでいたことを証明しています。

青森県の大平山遺跡からは約 1 万 6 千年前の大量の土器が出土しています。

約 6 千年前には温暖化現象によって海面が上昇して、海が内陸に入って現在の日本列島の姿が形成されました。

約 5 千 5 百年前の縄文時代における最も有名な遺跡は、青森県の三内丸山遺跡であり、約千軒以上の集落があり、復元作業によって、高さ約 15 メートルの木製の櫓が立っていたと推測されます。

直径 2 メートル、深さ 2 メートルの柱の穴が、4.2 メートル間隔で六つ発見されました。その柱の穴から推定すると、5 階建てのマンションの高さに相当



六本柱建物（復元）

します。古代の日本文明が建てた、バベルの塔ならぬ、丸山の塔なのです。

2千点の土偶、1万点以上の土器、その他にも高度な技術で作られたさまざまな木製品、貝の装飾品、動物の骨や角でつくった釣り針、ヒスイの加工品などが出土しています。

極東の島国に、エジプト文明やメソポタミア文明、インダス文明

や、黄河文明に匹敵する、固有の古い文明があったのです。

約3千年前には、佐賀県において稲作や野菜の栽培や家畜の飼育が行われていた痕跡が残っていますし、この頃に作られたと思われる鉄器や青銅器が数多く出土しています。当時の遺跡の中には武器が存在しないこと、発掘された頭蓋骨に傷がないのは、争いごとがなかったことを示しています。当時の人たちは農耕や狩猟をしながら、ひたすら平和な共同生活を営んでいたのです。

文字は朝鮮を経由して支那から渡来しました。当初は漢字が使われていましたが、万葉仮名を経て、ひらがな・カタカナに変化しました。言語については、日本語との関連が証明された言語は、世界中どこを探しても存在しません。更に独特な文法を持っていることから、日本固有の言語が生まれ、それが発達したものと思われます。

日本人の先祖については、アジア大陸南部の南方系古モンゴロイド系の縄文人と、西日本に渡来した大陸北部の新モンゴロイド系の弥生人の血が混ざりあって日本人ができたという説もありますが、前述の古い遺跡が残っていることから、この日本の地で固有の文化を持った大和民族が、長い日本の歴史を作ったとも考えられます。

アメリカの高名な政治学者で、コロンビア大学のサミュエル・ハンチントン

教授は、日本文明は、2世紀から5世紀にかけて、中華文明から派生して、成立した文明圏であるという、従来の定説を否定して、日本文明を世界の「八大文明の一つ」と位置づけて、日本文明が「日本一国のみで成立する、孤立した文明」であると定義しています。

現在は使われていませんが日本には神武天皇即位を元年とする皇紀という年号があって、これは西暦660年に相当します。皇紀は神話と言われる古事記、日本書紀の記述が証拠になりますが、支那の文献、宋史の日本国伝にも神武天皇即位を紀元前681年にするという記述があります。第2次世界大戦後この皇紀が使われなくなった事は残念なことです。なお、今年皇紀2678年に当たります。

西暦200年、卑弥呼が邪馬台国の女王となり、その後邪馬台国が大和朝廷となったという説もありますが、ギネス世界記録では、神武天皇を世界最古の王朝と認定しています。

西暦300年代の古墳時代を経て、607年には法隆寺が建てられ、645年には大化の改新、667年には近江大津宮、694年には藤原京に遷都されます。その後平安時代、鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代を経て現在に至ったことは、歴史的事実として、証明されています。

神話の世界

古事記

日本の歴史は、古事記による神話によって始まります。

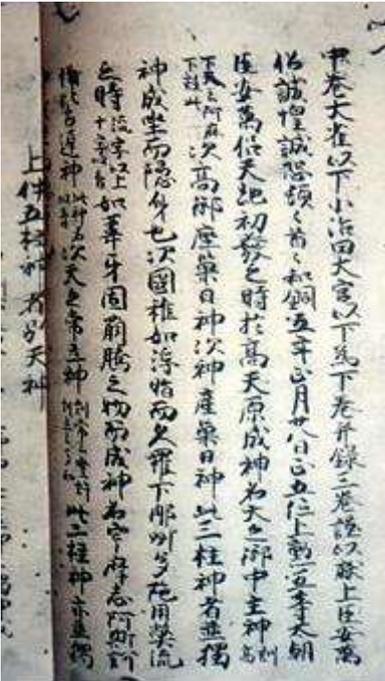
古事記は日本最古の歴史書で、語り部である稗田阿礼に焼失してしまった国記などを思い起こさせて、712年に太安万侶が編纂し、元明天皇に献上されたものであり、天皇家による支配を正当化するために国内向けに書かれたものです。

内容は、神代における天地創造から推古天皇の時代に至るまでの様々な出来事や、数多くの詩が、日本人に読みやすいように漢文体を組み替えた日本漢文体で記載されています。序文によると、天武天皇の勅撰とも考えられますが、史料的价值としては、序文に書かれた成立過程や皇室の関与に不明な点や矛盾点が多いという意見もあります。

なお、古事記や日本書紀には、天皇の悪口もそのまま記載されており、自由に書かれた歴史書でもあることが分かります。

古事記は、歴史書であると共に、文学的な価値も非常に高く評価されており、神道を中心にした日本の宗教文化や精神文化に大きな影響を与えています。古事記に現れる八百万の神々は、現在でも、日本国中の神社に祭られています。

古事記は壮大なスケールで国づくりと天皇家の歴史が描かれています。日本の神様は、西洋の神様と違って好色であり、随所に奔放な性描写の場面が出てくるのが特徴です。



古事記

一神教のユダヤ・キリスト・イスラム教は、神が人間を自然の支配者として、創造したために、人格神を戴く一神教が、世界に間断のない戦争や殺戮を繰り返して、血みどろの世界史を作ってきましたが、日本の神道は、自然を拜む多神教なので、神々も話し合いで物事を決めるという高度な文明の技術を持っていました。

古事記を読むと、日本は男尊女卑の国であるどころか、これほど女性が自由で、生き生きと活躍していた国はないことに、驚きます。古代の日本は世界でも類を見ない、豊かで洗練された文化を育んできた国であり、これほど素晴らしい歴史と文化を持った国は、他にはないと思います。

古事記に出てくる**天地開明**は、ビッグ・バンによって、混沌とした宇宙の中に、神々や人間が生まれてくるという、近代科学がもっとも有力な学説として、宇宙創成の姿に似ています。

ユダヤ・キリスト・イスラムの一神教の絶対的な人格神による「創造神話」と比べると、日本の神話のほうが、科学的な宇宙創成の姿に似ているのです。どうして、古代の日本人が、このような宇宙創成の物語を思い描くことができたのでしょうか。想像力によるものでしょうか、それとも靈感によるものでしょうか。

太古の地球には空と海しかありませんでした。天界には沢山の神様がおり、その中に伊弉那岐命(イザナギノミコト)と伊弉那美命(イザナミノミコト)がいました。二人は地上で国を作れという命令を受けて、地上に降りたち、矛で海をついたら島ができました。二人が性行動に励んだ結果、日本列島の多くの島と八百万(ヤホヨロス)の神が生まれました。なお最初の雫の一滴が淡路島、次が四国と言われています。壱岐、對馬も記載されていますが、東北と北海道の地名



は見当たりません。

天照大神(アマテラスオオミカミ)は日本神話に登場する太陽を神格化した皇



天照大神

室の先祖であり、伊邪那岐命(イザナギノミコト)、伊邪那美命(イザナミノミコト)を両親とする女神です。

高天原を君臨していましたが、弟の須佐之男命(スサノオノミコト)が乱暴を働いたので、天照大神は天の岩戸に隠れたため世の中は闇に包まれて数々の災いが起こりました。八百万(ヤホヨロズ)の神々が岩戸から出して、須佐之男命(スサノオノミコト)を高天原から追放したと言う記述があります。

天照大神から5代目の子孫に当たる神武天皇は、長髓彦との長い戦いの後、八咫鳥(ヤタノカラス)の道案内で勝利を収め、51歳の時に、橿原宮で即位をしました。享年127歳と言われており、奈良県橿原市畝傍山に御陵があります。

神武天皇の存在を認めつつも、次の第2代目天皇の綏靖天皇から第九代の開化天皇までの実在性に疑義を唱える説もありますが、第10代の崇神天皇からは、数々の文献や建造物が残されているので、実在の人物であることは、疑いの余地はありません。ただし、初期における天皇の寿命については、かなりの誇張があるように思われます。

神武天皇の記述は、弥生時代末期から古墳時代にかけての種々の出来事を基に、実在した複数の人物の功績や人物像を重ねあわせて古事記、日本書紀を書く際に創作されたものとする意見もあります。さらに、神武天皇像は、実在の可能性が認められる崇神天皇、応神天皇、継体天皇、さらに古事記、日本書紀が書かれた時期である天武天皇であるという説もあります。

なお、神武天皇が実在したという説も多く、神武東征物語は、邪馬台国政権が九州から畿内へ移動したという説や、神武天皇が開いた大和朝廷を九州王朝である邪馬台国の分家だという説もあります。

古事記は、上巻、中巻、下巻に分かれ、天地の創生から推古天皇までの歴史が書かれています。

上巻には、天地明開から天孫降臨を経て、神武天皇の誕生までが書かれています。

中巻には、初代神武天皇から15代応神天皇までが書かれていますが、2代から9代までの天皇は、欠史8

代と呼ばれており、系譜などの記述のみで、その詳細な記録は記載されておりません。在位年数も極めて長く、百歳を超える天皇が8名いることが、極めて不自然です。

下巻には、16代仁徳天皇から、33代推古天皇までの出来事が詳しく書かれています。その主な内容は次の通りです。



古事記

黄泉の国 伊邪那岐命(イザナギノミコト)は幸せに暮らしていましたが、伊邪那美命(イザナミノミコト)が火の神を産んだため、火傷を負い死んでしまつて黄泉の国に行きました。悲しんだ伊邪那岐命(イザナギノミコト)が黄泉の国を訪れると、そこには焼けただれて変わり果てた伊邪那美命(イザナミノミコト)の姿がありました。伊邪那岐命(イザナギノミコト)はその場から逃げだしたので、伊邪那美命(イザナミノミコト)は醜い姿を見られたことを恨んで、呪いをかけて1日1000人の人間を殺すことにしました。その代わりに伊邪那岐命(イザナギノミコト)は1日1500人の人間を産ませることにしました。こうして人間に寿命ができました。

天の岩戸 伊邪那岐命(イザナギノミコト)が黄泉の国から地上に帰る途中に、禊をするために川で水浴びしたところ、飛び散った雫から沢山の神が生まれました。その中に天照大神と須佐之男命がいました。天照大神は天界を、須佐之男命は海を治めることになりました。須佐之男命は乱暴な性格の持ち主で、

何事にも反抗しました。叱ると泣き叫び、その度に悪霊が増えたり、災いが起こったので、遂に、須佐之男命を出雲の国に追放して、自らは、天岩屋戸に引きこもりました。太陽神がいなくなったので、世界は暗黒になりました。八百万の神々が集まって相談の上、天岩屋戸の前で雄鶏を集めてきて鳴かせたり、肉体美溢れる女神が滑稽な裸踊りを演じて宴会を始めました。天照大神は外の騒がしさが気になって、少し戸を開きました。天手力雄神(タジカラオノミコト)が力一杯、戸を明けると、眩しく光っている天照大神の姿が現れ、八百万の神々は喜びました。ちなみに天照大神は女性です。

八岐大蛇 天界から追い出された須佐之男命が歩いていると、八岐大蛇が可愛い娘(クシナダ姫)を飲み込もうとしていました。そこで、上手に誘って八岐大蛇に酒を飲ませると、酔って寝てしまったので退治しました。須佐之男命はクシナダ姫を娶り、八岐大蛇から奪い取った草薙の剣を天照大神に献上しました。

因幡の白兔

須佐之男命の子孫に大国主命がいました。大国主命にはたくさんの兄弟がいて、いつもいじめられていました。ある日、兄弟で美人を娶るために因幡の国に行きました。大国主命は荷物持ちで後に続きました。道中、皮が剥がされた兔を見つけた兄弟は、追い打ちをかけるように更にいじめました。大国主命が蒲の穂をかぶせて兔を助けると、兔は、「あなたが美人と結婚できる」と予言しました。大国主命は因幡の美人を娶ることができました。



根の堅洲国 大国主命が因幡の美人と結婚したので、兄たちは恨んで大国主命を殺しましたが、大国主命は生き返って、須佐之男命の下に逃げ帰りました。須佐之男命も試練という名目で、更にいじめたので、出雲の根の堅洲国に逃げ帰りました。後日、大国主命は出雲の国を治めることになりました。

大国主命の国譲り 大国主命は日本全国を治めるためには、天照大神よりも自分の息子の方が良いと考えて、再三使者を送って交渉をした結果、国を譲ってもらうことになりました。

天孫降臨 天照大神の孫、瓊瓊杵尊(ニギノミコト)は、三種の神器を持って地上に降り、日向の高千穂に宮殿を作って日本を治めました。ある日、美しい山の女神と出会って求婚しました。山の女神は、父親の同意を得ると言っ、一旦実家に帰りましたが、翌日、醜い顔をした姉と一緒に嫁ぐと言っ戻ってきました。瓊瓊杵尊(ニギノミコト)は醜女はいらないと言っ、姉を追い返しました。この醜女の正体は不老不死の神でした。その後、



天皇も寿命が尽きるようになりました。一夫多妻制であったことが伺われます。

海幸彦と山幸彦 瓊瓊杵尊(ニギノミコト)の孫に海幸彦と山幸彦がいました。海幸彦は釣りが得意で、山幸彦は狩りが得意でした。ある日、海幸彦と山幸彦は道具を交換しました。釣りにいった山幸彦は、針を失くしてしまいました。海幸彦が怒ったので、針を探しに海に潜って竜宮城を見つけ、美しい海の女神と出会って結婚しました。長い間竜宮城で暮らしていましたが、ふと、



神武天皇

針のことを思い出して、針を探し出し、地上に戻って海幸彦に渡しました。海の女神は陸の生活には耐えられず、子供を残したまま、竜宮城に逃げ帰りました。この話が浦島太郎の原点になったと思われます。

神武天皇 山幸彦の孫は、日向国は日本の西端に過ぎないので、数々の試練を経ながら東に進みました。そして大和を征服し、橿原宮で即位して、神武天皇と名乗りました。

欠史8代 初代の神武天皇から、10代目の崇神天皇の間に、8人位の天皇がいたと言われていますが、詳しいことはわかりません。

崇神天皇 10代目の崇神天皇は、全国に蔓延していた疫病を治めました。

垂仁天皇 出雲大社を造営し、相撲を振興しました。不老不死の薬を探しましたが見つかりませんでした。



日本武尊 日本武尊(ヤマトタケルノミコト)は12代景行天皇の皇子であり、女装をして襲った熊襲征討・東国征討など日本古代史上の伝説的英雄です。東国征討の途中、伊勢神宮に寄って草薙の剣をもらい、北上川付近まで進みました。古事記によると、東征の途上各地で、嫁を娶っており、当時は一夫多妻制であったことを示しています。東征の帰途、日本武尊はイノシシの神に呪い殺され、白鳥になって天空に行きました。

神功皇后 日本武尊の皇子が神功皇后と結婚しました。「新羅を治めなさい」という神様のお告げがありましたが、皇子は断りました。その結果、呪い殺されました。皇子の代わりに神功皇后が新羅に行って、国を治めました。

仁徳天皇 神功皇后の孫、仁徳天皇が即位しました。ある日山に登って里を見ると、どの家も食べる物がなくて 釜戸の煙が昇っていないことに気付きました。そこで、3年間、税金を免除しました。民は豊かになったので「聖帝」と呼ばれています。ただし、女好きで数々の問題を起こして、「性帝」と呼ぶ人もいたそうです。

雄略天皇 皇位後継者を皆殺しにして即位しました。多くの悪い伝説が伝わっています。伊勢神宮に外宮を作りました。

古事記はまだまだ延々と続きますが、冒頭のみで紹介に終わります。

日本書紀

日本書紀は、奈良時代に書かれた日本に伝わる最古の本格的な歴史書です。

舎人親王らの編纂で、古事記から8年後の720年に完成したと言われ、神代から持統天皇の時代までの歴史が書かれています。日本書紀の編纂は当時の天皇によって命じられた国家の大事業であり、外人が読むことを想定し、皇室や各氏族の歴史上における位置づけを含めた極めて政治的な色彩の濃厚な書物で



日本書紀

す。文体は、大部分は漢文体ですが、処々に倭文や万葉仮名が使われています。日本全国における各地の伝承が、豊富に収められており、世界で最初の歴史書と言われています。ちなみに、朝鮮の歴史書は11世紀になってやっと書かれています。

巻第一から巻第三十まで分かれ、巻第一は天地開明から天照大神(女帝)、須佐之男命が出雲に降臨するまで、巻第二は海幸彦と山幸彦についての記述があります。巻第三は神武天皇の記述で、東征、八咫鳥、長髓彦、金鷄、橿原即位があります。

巻第四には欠史8代、即ち、在位が疑問視されている、綏靖天皇、安寧天皇、懿徳天皇、孝昭天皇、孝安天皇、孝霊天皇、孝元天皇、開化天皇に関する記述が纏められています。

巻第五・巻第六・崇神天皇には、任那、新羅抗争、相撲の開祖、埴輪。



天照大神



神武天皇



崇神天皇



垂仁天皇



景行天皇



成務天皇



仲哀天皇



応神天皇



仁徳天皇



履中天皇



反正天皇



充恭天皇



安康天皇



雄略天皇



清寧天皇



顕宗天皇

卷第七・景行天皇には、熊襲征伐、日本武尊。

卷第八・仲哀天皇には、神功皇后の熊襲征伐。

卷第九・神功皇后(女帝)には、熊襲征伐、新羅出兵、百済、新羅の朝貢。

卷第十一・仁徳天皇には、民の籠の煙、新羅、蝦夷征伐。

卷第十三・允恭天皇には、最古の地震記録。

卷第十四・雄略天皇には、新羅討伐、高麗、百済の降伏。

卷第十七・継体天皇には、任那四県の割譲

卷第二十・敏達天皇には、蘇我馬子の崇仏、物部守屋の排仏。

卷第二十一・崇峻天皇には、法興寺の創建。

卷第二十二・推古天皇(女帝)には、聖徳太子の摂政、新羅征伐、冠位十二階の制定、憲法十七条、遣隋使の派遣。

卷第二十三・舒明天皇には、遣唐使の派遣。

卷第二十四・皇極天皇(女帝)には、百済と高句麗の政変、蘇我入鹿、斑鳩急襲、中大兄皇子と中臣鎌子、蘇我蝦夷、入鹿の滅亡。



継体天皇



欽明天皇



推古天皇



皇極天皇



孝徳天皇



天智天皇



天武天皇



持統天皇

卷第二十五・孝徳天皇には、大化の改新の詔。

卷第二十七・天智天皇には、白村江の戦い、近江遷都。

卷第二十八・天武天皇には、大海人皇子吉野入り、東国への出発、大津京陥落、大和の戦場、筑紫大地震、律令編纂と帝紀の記録、銀の停止と銅銭使用の令、服装改定、八色の姓と新冠位制。

卷第三十・持統天皇(女帝)には、大津皇子の変、浄御原令の施行、金光明経、藤原宮遷都に至る歴代天皇に関する詳しい史実が書かれています。

日本の言語・文字文化

漢字が伝来する以前の日本には固有の文字はありませんでした。そのため人々は神話や伝承などを暗記して口頭で語り継いでいました。

日本に漢字が伝来したのは3世紀頃で、日本で出土した3世紀頃のものだと考えられる土器には漢字が書かれています。出土した木簡から、漢字は仏教の伝来と共に朝鮮半島を経由して伝わったと考えられています。漢字は5世紀の稲荷山古墳出土の鉄剣や、江田船山古墳出土の太刀などに見られ、漢文で書かれています。

日本に伝来した漢字は、次第に日本独自の変化を遂げました。

- ① 本来の漢字の使い方 (例：山＝サン)
 - ② 日本独自に訓読して使う (例：山＝ヤマ)
 - ③ 表音文字 (例：也麻＝ヤマ、波奈＝ハナ)
- ①の用法は現代の音読み、②の用法は現代の訓読みに通じます。③のように漢字が持つ意味を無視して音だけを使用して表記した文字を万葉仮名といいます。

万葉仮名は人名や地名といった日本独自の名詞を漢字で表記するときに使われていました。稲荷山古墳出土の鉄剣も、名前の部分に万葉仮名が使われています。出土資料から、万葉仮名は7世紀ごろには完成したと考えられています。

表音文字は最初、固有名詞だけに使われていましたが、「万葉集」に見られ

るように次第に和歌にも使われるようになっていきました。

万葉仮名で書かれた日本語は全て漢字表記です。したがって、現代のような漢字と仮名を交えたものではありません。

古事記・日本書紀・万葉集に用いられている万葉仮名の漢字は合計 973 個あります。「き」の音を表すと考えられる漢字には、岐・支・伎・妓・吉・棄・枳・弃・企・祇・紀・記・己・忌・帰・幾・機・基・奇・綺・騎・寄・貴・癸などがあります。

平安時代には万葉仮名から平仮名・片仮名へと変化していきました。平仮名は万葉仮名の草書体化が進化して、独立した字体と化したもの、片仮名は万葉仮名の一部ないし全部を用いて、音を表す訓や記号として生まれたものです。

和歌を詠む時など私的な時や、女性に限って用いるものとされていた平仮名のことを「女仮名」と呼び、公的文章に用いる仮名として使われる万葉仮名を「男仮名」と呼んでいます。

古墳時代

神話に登場する神功皇后は、三韓征伐後、任那を植民地にして、更に支那の吉林に到達したものと思われ、現地にはそれを示す碑が残されています。日本書紀によると、崇神天皇の時代に、任那や新羅を支配下においた模様です。

日本最古の神社は大国主命が作った出雲大社であり、諏訪大社と共に神話の時代に建立されました。天照大神を祭った伊勢神宮は紀元4年に、熱田神宮は113年に作られた神社です。

当時の日本の状況は支那の歴史書からもうかがわれます。

「漢書」地理志によると、紀元1世紀前後の日本は倭と呼ばれ、100ほどの国に分かれており、朝鮮半島北部に置かれた漢の楽浪郡に定期的に使いを送っていたと書かれています。また「後漢書」東夷伝には、倭の奴の国王が紀元57年に後漢の光武帝のもとに使いを送って印綬を与えられたという記録があります。

卑弥呼を女王とする邪馬台国は、30カ国ほどを勢力下におく連合国家で、239年に魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号と印綬などを与えられました。

邪馬台国の位置については、古くから九州説と大和説があります。もし邪馬台国が九州にあったとすれば、銅鐻・銅文分布圏を中心とする地域的な連合国家であり、大和にあったとすれば、銅鐻分布圏の勢力がすでに西日本を支配していたこととなります。

やがて、北部九州を中心とする政治勢力と奈良盆地東南部を中心とする政治勢力が統一されて、畿内を本拠地とする大和朝廷が国内をほぼ統一しました。欽明天皇の時代には、戸籍が作られて国家機構が整備されました。

4世紀以降、鉄鉾石を得るために、朝鮮で高句麗を攻め、任那を日本の植民地にしました。





仁徳天皇陵

日本全国に古墳が作られ、5世紀に作られた仁徳天皇陵は、日本最大の前方後円墳です。最近の研究によると、古墳の築造には一定の方式があり、後円部の直径と前方部の長さをほぼ等しくするなど、高度な設計がおこなわれています。

古墳の中からは、刀剣

類、勾玉、埴輪などが収められ、集落跡からは須恵器や鎌や鋤などの農機具が出土しています。

九州には墳長が120メートルを超える前方後円墳が全部で12基あります。律令制に基づく国別でみると、現在の宮崎県と鹿児島県の大隅半島地域を含む日向国が8基と圧倒的に多く、これは畿内王権と深いつながりがあったことの証しだと受け止められています。

なぜ畿内王権が日向と深い関係を持ったのでしょうか。謎を解く鍵の一つが「后」です。古事記と日本書紀には12代の景行天皇、15代の応神天皇、16代の仁徳天皇がそれぞれ日向出身の后を迎え、皇子や皇女をもうけたと記されて



九州古墳群

います。古事記では3人の、日本書紀では4人の日向出身の后が登場します。

支那の「宋書」倭国伝によると、5世紀には倭の五王が支那南朝の宋に次々に使いを送ったと言われています。その目的は、倭の国内における支配権と、朝鮮半島南部に対する軍事権を支那の皇帝に認めさせることによって、倭の東アジアにおける国際的地位を確保しようとしたものと考えられます。5人の内、最後の倭王武は雄略天皇であると考えられています。

仏教が百済を経由して、日本に伝来したのは、538年と言われていますが、5世紀前半頃には、高句麗との戦乱から逃れて、多くの百済人が日本へ来ており、それに伴って、大乘仏教が広がったものと思われます。人間の苦悩を救う仏教の教えは、まず天皇や豪族に受け入れられて、やがて一般民衆にも普及して行きました。仏教は精神面だけでなく、造寺、造佛などに関連して、土木、建築、彫刻などの数多くの新しい技術をもたらしました。このようにして5～6世紀に形成された文化は、その後の日本文化の基本となったのです。

仏教は、当初は外国の神なので、拝むと災いが起こるとして敬遠されていたのですが、欽明天皇が積極的に仏像や経典を伝えたと言われています。元来神道であった天皇が仏教を信じるようになったのは、仏教を宗教ではなく文化として取り入れたため、神道を妨げるものではないと判断したからです。神道が多神教であることが、日本に神仏混交を可能にしたのかも知れません。

飛鳥時代



飛鳥時代とは、聖徳太子が摂政になった推古天皇から藤原京への遷都が完了した持統天皇にかけての102年間を指します。

538年に、百済の聖王が、釈迦仏像や経論などを朝廷に贈り、仏教が公伝されると、物部守屋と蘇我馬子が対立します。聖徳太子は蘇我氏側に付いて、物部氏を滅ぼしました。蘇我氏は娘2人を后として天皇に献上して、大臣として、約半世紀の間、権力を握りました。588年には、蘇我馬子が飛鳥に法興

寺（飛鳥寺）の建立を始めました。

592年、蘇我馬子は崇峻天皇を暗殺して、日本初の女帝となる推古天皇を立て、聖徳太子は摂政となりました。603年には、冠位十二階が制定されました。これは徳・仁・礼・信・義・智の六つをそれぞれ大小に分けて十二階とし、冠の色と飾りによって等級を示したものです。

604年、聖徳太子は十七条の憲法を制定しました。

これは政府と国民の関係を規律する法律ではなく、皇族や貴族に対する道徳的な規範が示されており、行政法としての性格が強く、神道と仏教の思想が融合したものです。

十七条の憲法

一に曰(い)わく、和を以(も)って貴(とうと)しとなし、忤(さから)うこと無きを宗(むね)とせよ。人みな党あり、また達(さと)れるもの少なし。ここをもって、あるいは君父(くんぷ)に順(したが)わず、また隣里(りんり)に違(たが)う。しかれども、上(かみ)和(やわら)ぎ下(しも)睦(むつ)びて、事を論(あげつら)うに諧(かな)うときは、すなわち事理おのずから通ず。何事か成らざらん。

二に曰わく、篤(あつ)く三宝(さんぼう)を敬え。三宝とは仏と法と僧となり、則(すなわ)ち四生(ししょう)の終歸、万国の極宗(ごくしゅう)なり。何(い)ずれの世、何れの人かこの法を貴ばざる。人尤(はなは)だ悪(あ)しきもの鮮(すく)なし、能(よ)く教うれば従う。それ三宝に帰せずんば、何をもってか枉(まが)れるを直(ただ)さん。

三に曰わく、詔(みこと)のり)を承(う)けては必ず謹(つつ)しめ。君をば則(すなわ)ち天とし、臣(しん)をば則(すなわ)ち地とす。天覆(おお)い地載せて四時(しじ)順行し、万氣(ばんき)通うことを得(う)。地、天を覆わんと欲するときは、則(すなわ)ち壞(やぶ)るることを致さむのみ。ここをもって、君言(のたま)えば臣承(うけたまわ)り、上行なえば下靡(なび)く。ゆえに、詔を承けては必ず慎め。謹まずんばおのずから敗れん。

四に曰わく、群卿百寮(ぐんけいひやくりょう)、礼をもって本(もと)とせよ。それ民(たみ)を治むるの本は、かならず礼にあり。上礼なきときは、下(しも)齊(ととの)わず、下礼なきときはもって必ず罪あり。ここをもって、群臣礼あるときは位次(いじ)乱れず、百姓(ひやくせい)礼あるときは国家自(おのず)から治(おさ)まる。

五に曰わく、饗(あじわい)のむさぼりを絶ち、欲(たからのほしみ)を棄(す)てて、明らかに訴訟(うったえ)を弃(わ)きま)えよ。それ百姓の訟(うったえ)、一日に千事あり。一日すらなお爾(しかり)、況(いわ)んや歳(とし)を累(かさ)ぬるをや。頃(このごろ)、訟を治むる者、利を得るを常となし、賄(まい)ない)を見て(ことわり)を聴く。すなわち、財あるものの訟は、石を水に投ぐるがごとく、乏しき者の訴は、水を石に投ぐるに似たり。ここをもって、貧しき民は則(すなわ)ち由(よ)る所を知らず。臣の道またここに闕(か)く。

六に曰わく、悪を懲(こ)らし善を勸(すす)むるは、古(いにし)えの良き典(のり)なり。ここをもって人の善を匿(かく)すことなく、悪を見ては必ず匡(ただ)せ。それ諂(へつら)い詐(あざむ)く者は、則(すなわ)ち国家を覆(くつ)がえ)す利器(りき)たり、人民を絶つ鋒劍(ほうけん)たり。また佞(かたま)しく媚(こ)ぶる者は、上(かみ)に対しては則(すなわ)ち好んで下(しも)の過(あやまち)を説き、下に逢(あ)いては則(すなわ)ち上

の失(あやまち)を誹謗(そしる)。それかくの如(ごと)きの人は、みな君に忠なく、民(たみ)に仁(じん)なし。これ大乱の本(もと)なり。

七に曰わく、人各(おのおの)任(にん)有り。掌(つかさど)ること宜(よろ)しく濫(みだ)れざるべし。それ賢哲(けんてつ)官(くわん)に任(にん)ずるときは、頌音(ほむるこえ)すなわち起(おこ)り、?者(かんじゃ)官(くわん)を有(たも)つときは、禍乱(からん)すなわち繁(しげ)し。世(よ)に生(な)れながら知(し)るもの少(すく)なし。剋(よく)念(ねん)いて聖(せい)と作(な)る。事(こと)大(おほ)少(すく)となく、人(ひと)を得(え)て必(かなら)ず治(ち)まり、時(とき)に急(いそ)緩(ゆる)となく、賢(けん)に遇(あ)いておのずから寛(ゆたか)なり。これに因(よ)って、国家(こくわ)永(とこ)久(ひさ)にして、社稷(しゃしやく)危(あや)うきことなし。故(ゆえ)に古(いにしへ)の聖王(せいおう)は、官(くわん)のために人(ひと)を求(もと)め、人(ひと)のために官(くわん)を求(もと)めず。

八に曰わく、群卿(ぐんせい)百寮(ひやくりやく)、早(はや)く朝(あ)ま(まい)りて晏(おそ)く退(ひ)け。公事(こうじ)?(もろ)きことなし、終日(しゅうじつ)にも尽(つ)しがたし。ここをもって、遅(おそ)く朝(あ)まれば急(いそ)なるに速(おほ)くばず。早(はや)く退(ひ)けば事(こと)尽(つ)さず。

九に曰わく、信(しん)はこれ義(ぎ)の本(もと)なり。事(こと)毎(ごと)に信(しん)あれ。それ善(ぜん)悪(あく)成(せい)敗(ぱい)はかならず信(しん)にあり。群臣(ぐんしん)とも信(しん)あるときは、何(なに)事(こと)か成(せい)らざらん、群臣(ぐんしん)信(しん)なきときは、万(ま)事(こと)ごとく敗(ぱい)れん。

十に曰わく、忿(いかり)を絶(た)ち瞋(おもて)のいかりを棄(す)て、人(ひと)の違(たが)うを怒(おこ)らざれ。人(ひと)みな心(こころ)あり、心(こころ)おのおの執(と)るところあり。彼(か)是(ぜ)とすれば則(すなは)ちわれは非(ひ)とす。われ是(ぜ)とすれば則(すなは)ち彼(か)は非(ひ)とす。われ必(かなら)ず聖(せい)なるにあらざらん。彼(か)必(かなら)ず愚(おろ)なるにあらざらん。共にこれ凡(ぼん)夫(ぷ)のみ。是(ぜ)非(ひ)の理(こと)わりなんぞよく定(さだ)むべき。相(あ)共に賢(けん)愚(おろ)なること鑑(かた)み(み)がねの端(はし)なきがごとし。ここをもって、かの人(ひと)瞋(おもて)のいかりと雖(いえど)も、かえってわが失(あやまち)を恐(おそ)れよ。われ独(ひと)り得(え)たりと雖(いえど)も、衆(しゆ)に従(したが)いて同じく挙(おこな)え。

十一に曰わく、功(こう)過(か)を明(あ)らかに察(さ)して、賞(しょう)罰(ばつ)必(かなら)ず当(あた)てよ。このごろ、賞(しょう)は功(こう)においてせず、罰(ばつ)は罪(つみ)においてせず、事(こと)を執(と)る群卿(ぐんせい)、よろしく賞(しょう)罰(ばつ)を明(あ)らかにすべし。

十二に曰わく、国司(こくし)国造(こくぞう)、百姓(ひやくせい)に斂(おさ)め

とることなかれ。国に二君なく、民(たみ)に両主なし。率土(そつど)の兆民(ちようみん)は、王をもって主(あるじ)となす。任ずる所の官司(かんじ)はみなこれ王の臣なり。何ぞ公(おおやけ)とともに百姓に賦斂(ふれん)せんや。

十三に曰わく、もろもろの官に任ずる者同じく職掌(しょくしょう)を知れ。あるいは病(やまい)し、あるいは使(つかい)して、事を闕(か)くことあらん。しかれども、知ること得(う)るの日には、和(わ)すること曾(かつ)てより識(し)れるが如くせよ。それあずかり聞くことなしというをもって、公務を防ぐることなかれ。

十四に曰わく、群臣百寮、嫉妬(しつと)あることなかれ。われすでに人を嫉(ねた)めば、人またわれを嫉(む)。嫉妬(しつと)の患(わざらい)その極(きまわり)を知らず。ゆえに、智(ち)おのれに勝(まさ)るときは則ち悦(よろこ)ばず、才(さい)おのれに優(まさ)るときは則ち嫉妬(ねた)む。ここをもって、五百(いおとせ)にしていまし賢(けん)に遇(あ)うとも、千載(せんざい)にしていもってひとりの聖(ひじり)を待つこと難(かた)し。それ賢(けん)聖(せい)を得(え)ざれば、何(なに)をもってか国(くに)を治(し)めん。

十五に曰わく、私(わが)に背(そむ)きて公(おおやけ)に向(む)うは、これ臣(しん)の道(みち)なり。およそ人(ひと)、私(わが)あれば必ず恨(うらみ)あり、憾(うらみ)あれば必ず同(どう)とのおらず。同(どう)らざれば則ち私(わが)をもって公(おおやけ)を妨(さ)ぐ。憾(うらみ)起(お)こるときは則ち制(せい)に違(たが)い法(ほう)を害(がい)す(そこな)う。故(ゆえ)に、初(はつ)めの章(しょう)に云(い)わく、上下(じやうげ)和(わ)諧(わ)いせよ。それまたこの情(こころ)なるか。

十六に曰わく、民(たみ)を使うに時(とき)をもってするは、古(いにしえ)の良(よ)き典(のり)なり。故(ゆえ)に、冬(ふゆ)の月(つき)には間(いとま)あり、もって民(たみ)を使うべし。春(はる)より秋(あき)に至(いた)るまでは、農(のう)桑(そう)の節(とき)なり。民(たみ)を使うべからず。それ農(のう)桑(そう)らざれば何(なに)をか食(くら)わん。桑(くわ)とらざれば何(なに)をか服(き)ん。

十七に曰わく、それ事(こと)は独(ひとり)り断(さだ)むべからず。必ず衆(しゆ)とともによろしく論(あげつら)うべし。少(せう)事はこれ軽(かる)し。必ずしも衆(しゆ)とすべからず。ただ大事(だいじ)を論(あ)うに速(おそ)びては、もしは失(あやまち)あらんことを疑(うた)ぐ。故(ゆえ)に、衆(しゆ)とともに相(あ)い(わ)き(ま)うるときは、辞(ことば)すなわち理(ことわり)を得(え)ん。

現代語訳

一。和をなによりも大切なものとし、いさかいをおこさぬことを根本としない。人はグループをつくりたがり、悟りきった人格者は少ない。それだから、君主や父親のいうことに従わなかったり、近隣の人たちともうまくいかない。しかし上の者も下の者も協調・親睦の気持ちをもって論議するなら、おのずからものごとの道理にかなう、どんなことも成就するものだ。

二。あつく三宝(仏教)を信奉しなさい。3つの宝とは仏・法理・僧侶のことである。それは生命ある者の最後のよりどころであり、すべての国の究極の規範である。どんな世の中でも、いかなる人でも、この法理をとるとばないことがあるか。人ではなほだしくわるい者は少ない。よく教えるならば正道にしたがうものだ。ただ、それには仏の教えに依拠しなければ、何によってまがった心をただせるだろうか。

三。王(天皇)の命令をうけたならば、かならず謹んでそれにしたがいなさい。君主はいわば天であり、臣下は地にあたる。天が地をおおい、地が天をのせている。かくして四季がただしくめぐりゆき、万物の気がかよう。それが逆に地が天をおおうとすれば、こうしたとのった秩序は破壊されてしまう。そういうわけで、君主がいうことに臣下はしたがえ。上の者がおこなうところ、下の者はそれにならうものだ。ゆえに王(天皇)の命令をうけたならば、かならず謹んでそれにしたがえ。謹んでしたがわなければ、やがて国家社会の和は自滅してゆくことだろう。

四。政府高官や一般官吏たちは、礼の精神を根本にもちなさい。人民をおさめる基本は、かならず礼にある。上が礼法にかなっていないときは下の秩序はみだれ、下の者が礼法にかなわなければ、かならず罪をおかす者が出てくる。それだから、群臣たちに礼法がたもたれているときは社会の秩序もみだれず、庶民たちに礼があれば国全体として自然におさまるものだ。

五。官吏たちは饗応や財物への欲望をすて、訴訟を厳正に審査しなさい。庶民の訴えは、1日に1000件もある。1日でもそうなら、年を重ねたらどうなるか。このごろの訴訟にたずさわる者たちは、賄賂(わいろ)をえることが常識となり、賄賂をみてからその申し立てを聞いている。すなわち裕福な者の訴えは石を水中になげこむようにたやすくうけいられるのに、貧乏な者の訴えは水を石になげこむようなもので容易に聞きいれてもらえない。このため貧乏な者たちはどうしたらよいかわからずにいる。そうしたことは官吏としての道にそむくことである。

六。悪をこらしめて善をすすめるのは、古くからのよいしきたりである。そこで人の善行はかくすことなく、悪行をみたらかならずただしなさい。へつらいあざむく者は、国家をくつがえす効果ある武器であり、人民をほろぼすするどい剣である。またこびへつらう者は、上にはこのんで下の者の過失をいいつけ、下にむかうと上の者の過失を誹謗するものだ。これらの人たちは君主に忠義心がなく、人民に対する仁徳ももっていない。これは国家の大きな乱れのもととなる。

七。人にはそれぞれの任務がある。それにあたっては職務内容を忠実に履行し、権限を乱用してはならない。賢明な人物が任にあるときはほめる声がおこる。よこしまな者がその任につけば、災いや戦乱が充満する。世の中には、生まれながらにすべてを知りつくしている人はまれで、よくよく心がけて聖人になっていくものだ。事柄の大小にかかわらず、適任の人を得られればかならずおさまる。時代の動きの緩急に関係なく、賢者が出れば豊かにのびやかな世の中になる。これによって国家は長く命脈をたもち、あやうくならない。だから、いにしへの聖王は官職に適した人をもとめるが、人のために官職をもうけたりはしなかった。

八。官吏たちは、早くから出仕し、夕方おそくなってから退出しなさい。公務はうかうかできないものだ。一日じゅうかけてもすべて終えてしまうことがむずかしい。したがって、おそく出仕したのでは緊急の用に間にあわないし、はやく退出したのではかならず仕事をしのこしてしまう。

九。真心は人の道の根本である。何事にも真心がなければいけない。事の善し悪しや成否は、すべて真心のあるなしにかかっている。官吏たちに真心があるならば、何事も達成できるだろう。群臣に真心がないなら、どんなこともみな失敗するだろう。

十。心の中の憤りをなくし、憤りを表情にださぬようにし、ほかの人が自分とことなつたことをしても怒ってはならない。人それぞれに考えがあり、それぞれに自分がこれだと思ふことがある。相手がこれこそといつても自分はよくないと思ふし、自分がこれこそと思つても相手はよくないとする。自分はかならず聖人で、相手がかならず愚かだというわけではない。皆ともに凡人なのだ。そもそもこれがよいとかよくないとか、だれがさだめうるのだろうか。おたがいだれも賢くもあり愚かでもある。それは耳輪には端がないようなものだ。こういうわけで、相手がいきどおつていたら、むしろ自分に間違いがあるのではないかとおそれなさい。自分ではこれだと思つても、みんなの意見にしたがつて行動しなさい。

十一。官吏たちの功績・過失をよくみて、それにみあう賞罰をかならずおこないなさい。近頃の褒賞はかならずしも功績によらず、懲罰は罪によらない。指導的な立場で政務にあたっている官吏たちは、賞罰を適正かつ明確におこなうべきである。

十二。国司・国造は勝手に人民から税をとつてはならない。国に2人の君主はなく、人民にとって2人の主人などいない。国内のすべての人民にとって、王(天皇)だけが主人である。役所の官吏は任命されて政務にあたっているであつて、みな王の臣下である。どうして公的な徴税といつしよに、人民から私的な徴税をしてよいものか。

十三。いろいろな官職に任じられた者たちは、前任者と同じように職掌を熟知するようにしなさい。病気や出張などで職務にいない場合もあろう。しかし政務をとれるときにはなじんで、前々より熟知していたかのようにしなさい。前のことなどは自分は知らないといつて、公務を停滞させてはならない。

十四。官吏たちは、嫉妬の気持ちをもってはならない。自分がまず相手を嫉妬すれば、相手もまた自分を嫉妬する。嫉妬の憂いははてしない。それゆえに、自分より英知がすぐれている人がいるとよこばず、才能がまさっていると思えば嫉妬する。それでは500年たっても賢者にあうことはできず、1000年の間に1人の聖人の出現を期待することすら困難である。聖人・賢者といわれるすぐれた人材がなくては国をおさめることはできない。

十五。私心をすてて公務にむかうのは、臣たるものの道である。およそ人に私心があるとき、恨みの心がおきる。恨みがあれば、かならず不和が生じる。不和になれば私心で公務をとることとなり、結果としては公務の妨げをなす。恨みの心がおこってくれば、制度や法律をやぶる人も出てくる。第一条で「上の者も下の者も協調・親睦の気持ちをもって論議しなさい」といっているのは、こういう心情からである。

十六。人民を使役するにはその時期をよく考えてする、とは昔の人のよい教えである。だから冬に暇があるときに、人民を動員すればよい。春から秋までは、農耕・養蚕などに力をつくすべきときである。人民を使役してはいけない。人民が農耕をしなければ何を食べていけばよいのか。養蚕がなされなければ、何を着たらよいというのか。

十七。ものごとはひとりで判断してはいけない。かならずみんなで論議して判断しなさい。ささいなことは、かならずしもみんなで論議しなくてもよい。ただ重大な事柄を論議するときは、判断をあやまることもあるかもしれない。そのときみんなで検討すれば、道理にかなう結論がえられよう。

出典・・・金治勇 「聖徳太子の心」

第一条では、いさかいを起こさないためには、神話の時代から、話し合いによって全てを解決したことを説き、第五条では、汚職や贈収賄を禁じ、第十七条では、重要な事柄は独断専行せず、話し合いによって解決すべきであるという、日本独特の民主主義、即ち「和の心」が説かれています。

民主主義という西欧文化を連想しがちですが、日本では1500年も前から、このような素晴らしい民主主義が定着していたのです。

同年、渡来人の子孫である小野妹子を遣隋使として隋に派遣して、煬帝に従来の貢ぎ物外交から対等な立場の外交を求める国書を届けました。

聖徳太子が没した後は、蘇我蝦夷と蘇我入鹿の専横ぶりが目立ちました。推古天皇没後、蝦夷は推古天皇の遺言を元に舒明天皇を擁立しました。舒明天皇の没後は、大后である宝皇女が皇極天皇として即位しました。蝦夷・入鹿の専横は激しくなって、蘇我蝦夷が自ら国政を執り、紫の冠を私用したことで、645年の乙巳の変で、中大兄皇子・中臣鎌子らが宮中で蘇我入鹿を暗殺し、蘇我蝦夷を自殺に追いやり、半世紀も続いた蘇我氏の体制を崩しました。

新たに即位した孝徳天皇は、次々と改革を進めて、645年には、都を難波長柄豊碕に移して中央集権国家の建設を目指して、**大化の改新**が行われました。

翌646年には、改新の詔を宣して、政治体制の改革を始め、今までは一人だけだった大臣を、左大臣・右大臣・内大臣の3人に改めました。更に東国等の国司に戸籍調査や田畑の調査を命じました。661年には、朝鮮半島に新羅征討軍を送りますが、白村江の戦いで敗れます。

694年に藤原京に遷都し、701年には大宝律令が施行されて、天皇を頂点とした、貴族・官僚による中央集権支配体制が完成しました。

中央行政組織は太政官と神祇官による二官八省制が採られ、地方行政組織は、国・郡・里制が採られるようになりました。新たに租・庸・調の税制が整備され、国家財政が支えられるようになりました。

文武天皇の死後、母の元明天皇が即位。710年に、平城京へ遷都しました。

飛鳥文化は、推古朝を頂点として大和を中心に華開いた仏教文化です。百済や高句麗を通じて伝えられた支那大陸の南北朝の文化や、ギリシャやペルシアなどの遠くの影響を受け、国際性豊かな文化でもあり、多くの大寺院や仏像が建立されました、

天王寺 聖徳太子の発願により 593 年に着工しました。飛鳥寺とともに、日本最古の本格的仏教寺院の 1 つです。



飛鳥寺 崇峻天皇の 588 年に着工され、596 年に完成しました。蘇我馬子が造営の中心になった、日本で最初の本格的な寺院です。



法隆寺 聖徳太子と推古天皇により 607 年に建立されました。現存する世界最古の木造建築物で世界遺産に登録されています。創建伽藍は 670 年に焼失し、現存する西院伽藍はその後の再建です。金堂の柱は中央部分が軽く膨れていて、これはエンタシスと呼ばれて、ギリシャのパルテノン神殿の影響を受けたものではないかと言われています。



広隆寺 帰化人系の氏族である秦氏の氏寺であり、平安京遷都以前から存在している京都最古の寺院です。国宝の弥勒菩薩半跏像を蔵することで知られ、聖徳太子信仰の寺でもあります。



善光寺 皇極天皇の命により、聖徳太子妃が出家し、尊光上人を名乗り、善光寺の開山上人となりました。それ以降、皇室を出家した尼公上人によって代々継承されています。

百済大寺 舒明天皇により 639 年に建立された、最初の天皇家発願の仏教寺院です。九重の塔がそびえ立ち、高さは法隆寺の五重塔の二倍もあり、現代の 25 階ビルに相当する、当時の東アジアでも超一級の寺院でした。

飛鳥時代の代表的仏像

彫刻では、法隆寺に納められている釈迦三尊像や百済観音像が有名で、何れも国宝に指定されています。また、広隆寺の弥勒菩薩、百済観音像も、残っています。工芸品として、箱の周囲に玉虫の羽を一面に貼った玉虫厨子が有名で、これも国宝に指定されています



飛鳥寺釈迦如来像（飛鳥大仏）



釈迦三尊像



百済観音像



広隆寺弥の勒菩薩

百済から多くの王族や貴族が日本に渡ってきた影響もあって、宮廷で漢詩文が盛んとなり、大友皇子、藤原不比等らの漢詩や、天智天皇、額田王、柿本人麻呂らの和歌が作られました。

奈良時代

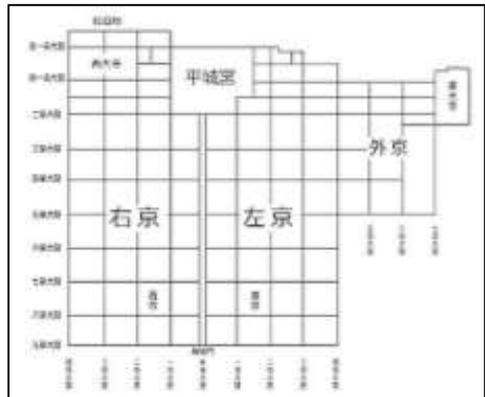
710年に、橿原の藤原京から奈良の平城京に都を移しました。

大宝律令によって、戸籍と計帳で人民を把握すると、租・庸・調と軍役を課し、皇族や貴族は、遣唐使を度々送って、遣唐使によってもたらされた周や唐の文化を積極的に取り入れました。

各地に国分寺が建てられて、仏教的な天平文化が花開きました。大宰府や国分寺などの官人や僧侶などによって、地方にも新しい文化が伝えられました。

シルクロードによって西アジアから唐へもたらされた文化が、遣唐使を通じて日本に渡来し、さらに支那風、仏教風の文化の影響が日本列島のあらゆる地域社会へ浸透していきました。日本人はその文化を消化して、日本独特の優れた文化にしたのです。

平城京の都市計画は、唐の都、長安を模したものと言われ、南北に長い長方形で、中央の朱雀大路をはさんで右京と、左京に分かれ、さらに左京の傾斜地に外京が設けられています。東西は一条から九条まで、南北軸には朱雀大路と左京一坊から四坊、右京一坊から四坊の大通りが設置された条坊制の都市計画です。



平城京街路図

平城京の造営工事はきわめて短期間のうちに遂行されました。工事着工後の1年4か月後には平城遷都が決行されましたが、このように急ピッチでの遷都が可能であったのは、寺院も含めて建物の多くが藤原京からの移築だったことによるものです。

万葉集には「あおによし 奈良の都は咲く花の 匂うがごとく 今 さかりなり」と、平城京の賑わいを詠んでいます。



和同開珎

貨幣の鑄造も早く進められました。708年2月に催鑄銭司がおかれ、同年8月には銅銭が発行されています。

和同開珎は唐の銭貨にならったものであって、新都の造宮に雇われた人びとへの支給銭など宮都造宮費用の支払いに利用されました。

政府はさらにその流通をめざして711年に一定量の銭を蓄えた者に位階を与えるとする蓄銭叙位令を発しましたが、地方では、稲や布などを物々交換する交易が広くおこなわれていま

た。

政府は、こののちも銅銭の鑄造をつづけ、10世紀の乾元大宝まで12回にわたり国家的に銭貨の鑄造がおこなわれました。

一方で、私鑄銭禁止令が出されており、役人が位階獲得を目的に私鑄銭を製造しないよう、違反者には官位剥奪や斬首の罰が加えられました。

皇位は、天武天皇と持統天皇の直系子孫によって継承され、天皇の神聖さを



天武天皇



持統天皇

保つ観点から、近親婚が繰り返されました。その結果、天武天皇と持統天皇の直系の皇子の多くは、病弱であり、相次いで早死にしました。そのような皇位継承の不安定さが、8世

紀におけるさまざまな政争を呼び起こしました。

百人一首には、「春過ぎて 夏来にけらし 白妙の衣ほすてふ 天の香具山」という、持統天皇の歌が納められています。

奈良時代の初めころは、中臣鎌足の息子藤原不比等が政権をにぎり、律令制度の確立に力を尽くすと共に、皇室に接近して藤原氏発展の基礎を固めました。

その後、政権を担当したのは天武天皇の孫にあたる長屋王でした。彼は右大臣に昇って権勢を誇りましたが、不況になって財政がひっ迫したため、723年に、三世一身法を施行して、土地の開墾を奨励しました。不比等の子、藤原四兄弟は長屋王を自殺に追いこんで、政権を手にし、不比等の娘光明子を光明皇后に立てることに成功しました。

藤原四兄弟が天然痘の流行で相次いで死亡すると、橘諸兄が吉備真備や僧玄昉を参画させて政権を担いました。これを不満とした藤原広嗣が、真備らを除くことを名目に、九州で挙兵しましたが、敗れました。

この反乱による中央の動揺ははなはだしく、聖武天皇は、山背、摂津、近江と転々と都を移しました。相次ぐ遷都による造営工事のせいもあって人心はさらに動揺し、そのうえ疫病や天災も続いたので、社会不安は一層高まりました。そこで、聖武天皇は社会の動揺を鎮めるために、東大寺大仏を建立し、752年に完成、女帝孝謙天皇・聖武太上天皇臨席のもと、盛大な開眼供養がおこなわれました。大仏は青銅製で完成当時は金箔が貼られて、まばゆいばかりに輝いていましたが、その後源平合戦と戦国時代に焼失して、現在の大仏は江戸時代に再建されたものです。



聖武天皇

光明皇后の信任を得た藤原仲麻呂が台頭、755年には橘諸兄から実権を奪い、757年には諸兄の子橘奈良麻呂も排除しました。仲麻呂は独裁的な権力を手中にして、傀儡淳仁天皇を擁立し、儒教を基本とした支那風の政治を推進しまし

たが、孝謙上皇の寵愛を得た僧道鏡が頭角を現して、これを倒しました。これにより、淳仁天皇は廃され、淡路に流されました。

道鏡は、765年には太政大臣、翌年には法王となって、一族や腹心の僧を高官に登用して権勢をふるい、西大寺の造立や百万塔の造立など、仏教による政権安定を図りました。称徳天皇と道鏡は、宇佐八幡宮に神託がくだったとして、道鏡を皇位継承者に擁立しようとしたのですが、藤原百川や和気清麻呂に阻まれ、



光仁天皇

称徳天皇の没後に失脚しました。光仁天皇を擁立した藤原永手や藤原良継らが活躍しました。光仁天皇はこれまでの天武天皇の血統ではなく、天智天皇の子孫でした。光仁天皇は、官人の人員を削減するなど財政緊縮につとめ、国司や郡司の監督を厳しくして、地方政治の粛正を図りました。

794年、強まってきた寺社勢力から脱却するため、桓武天皇が長岡の地に新たな都・長岡京を造成して山城国と改め、新京を平安京と名づけて遷都しました。この遷都をもって、奈良時代は完全に終焉を遂げ、平安時代が始まりました。

712年に完成した「古事記」は、天武天皇のとき古くから伝わる「帝紀」「旧辞」を稗田阿礼に命じて詠み習わせたものを、元明天皇が大安麻呂に筆録させたものです。720年にできた「日本書紀」は、舍人親王らが支那の史書の体裁にならない国家の正史として完成させたものです。

713年に編纂された風土記は、郷土の産物や山や川などの自然、あるいはその由来、古老の言い伝えなどを収めた地誌です。出雲国風土記がほぼ完全に伝存されているほか、常陸国、播磨国、豊後国、肥前国の風土記のそれぞれ一部が伝えられています。これは、古代の地方の様相を示す貴重な文献資料になっています。

教育機関として、中央には大学、諸国には国学がおかれ、貴族や豪族の子弟を対象に儒教の經典を中心とする教育が行われ、詩文では浜羅豊籍や石上宅嗣が知られ、「懷風藻」には7世紀以降の漢詩文が集められています。



万葉集

万葉集は759年までの歌約4500首を収録した歌集で、雄略天皇の歌が巻頭を飾っています。

舒明天皇・推古天皇以降の飛鳥時代、奈良時代の和歌が収められ、山上憶良・山部赤人・大伴家持らの著名な歌人や宮廷人の作品ばかりではなく、遊女や地方の農民の素朴な感情を表した作品も多く収められており、まさに国民的歌集と呼ぶべきものです。

その中には、女帝の持統天皇や、額田王、大伴坂上郎女を始めとして、多くの女性たちによる、胸を打つ、煌びやかな和歌が、多く集録されています。女性たちがヨーロッパにおいても、中東においても、アジアにおいても、男性にひたすら仕えて隷属していた時代に、日本では、女性たちが自立した精神をもって、いきいきと生きていたのです。

日本には言霊信仰があって、言葉に霊力があると信じられており、それを上手に使える人、即ち、和歌ができる人は平等に扱われたものと思われます。しかし、後年になると、身分の低い人は、「読み人知らず」として取り扱われるようになりました。漢字の音と訓をたくみに組み合わせて日本語を記す万葉仮名が用いられていることも大きな特徴です。和歌には外国語と思われる単語は入っておらず、「やまとことば」しか使っていません。

万葉集の巻頭を飾る雄略天皇の御製歌は次の通りです。



雄略天皇歌碑

「籠もよ み籠持ち 掘串もよ み掘串持ち この丘に 菜摘ます兒 家聞かな 名告らさね そらみつ 大和の国は おしなべて われこそ居れしきなべて われこそ座せ われこそは 告らめ 家をも名をも」

現代風に訳すと、「美しいかごを持ち、美しいへらを手に持ち、この丘で菜を摘む乙女よ。貴女はどこの家の娘ですか。何という名前ですか。この大和の

国はすべて私が治めています 私は名乗ります、家柄も名前も。」ということになります。

なおこの歌碑は、奈良県桜井市の白山神社の境内にあります。

日本の天皇には、神々に奉仕する神事を行うことと、和歌を詠むことが絶対的な条件として課されていました。歴代の天皇は多くの和歌を詠まれましたが、一つとして例外なく日本と世界の安寧と平和を祈ってきた歌ばかりです。

ここにも、日本文化の基本となっている、争いや対立を何よりも嫌い、和を重んじる心が現われています。このように歴代の皇帝や王が詩人であるのは、外国ではほとんどありえないことです。

奈良の文化財



東大寺 聖武天皇が752年に建立した東大寺は、世界最大の神式の仏閣で、高さ100メートルの二基の七重の塔の間の金堂には、これまた世界最大の奈良の大仏が鎮座しています。



大仏 この大仏は大日如来であり、太陽神を示す天照大神であり、神仏混交そのものであって、大仏信仰は神道に繋がるものです。この大仏を建立する資金は、一般の人々の寄付によるものであり、天皇の神というよりも庶民の神という発想でした。



薬師寺



興福寺

平安時代



桓武天皇

桓武天皇は新王朝の創始を強く意識し、自らの主導による諸改革を進めていきました。桓武天皇の改革は律令制の再編成を企図したものであり、その一環として平城京から長岡京を経て、974年に平安京に遷都しました。平安遷都は、前時代の旧弊を一掃し、天皇の権威を高める目的があったと考えられています。

王威の発揚のため、当時、天皇の支配外にあった東北地方の蝦夷征服に坂上田村麻呂を征夷大將軍として遠征させました。

嵯峨天皇治世初期は、太政官筆頭だった藤原園人の主導のもと、貧民救済のために有力貴族や寺社に対する抑制の政策がとられましたが、園人の後に政權を握った藤原冬嗣は、墾田開発の促進に変更しました。律令制の根幹は人別課税でしたが、これを土地課税に変更しました。冬嗣の子、藤原良房も冬嗣の路線を継承し、開墾奨励政策を取りました。当時、課税の対象だった百姓らの逃亡が頻発したので、墾田開発を促進して、土地課税に転換することで対処しようとした。

宇多天皇は小農民保護策を進めていきました。宇多天皇のもとには藤原時平と菅原道真の両者が太政官筆頭になり、協力しながら宇多天皇を補佐していましたが、醍醐天皇に譲位すると、時平と道真の対立が深まって、国風文化を推進していた道真が失脚する事態になりました。

道真は、京都を離れる時に、「東風吹かば にほひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ」と詠んでいます。

実権を握った時平は宇多路線を引継ぎ、権門抑制と小農民保護を遂行していきました。時平の死後、弟の藤原忠平が太政官首班となり、土地課税路線を推進していきました。忠平は百姓の富豪層へ土地経営と納税を請け負わせる体制

を開始し、この時期が律令国家体制から新たな国家体制、すなわち王朝国家体制へ移行する転換期だったと考えられます。

忠平以降は朝政の中心としての摂関が官職として確立し、忠平の子孫のみが摂関に就任するという摂関政治の枠組みが確定しました。平安時代150年を通



藤原道長

じて、藤原一族の娘たちは次々と天皇家に嫁いで、皇室と深い血縁関係を作りました。

1016年、藤原道長は摂政となり、「此の世をば 我が世とぞ思う 望月の 欠けたることも無しと思へば」と詠んでいます。

藤原氏は絶対的な権威を持ちながらも、自分が皇位に付こうと言う野望は持ちませんでした。それは藤原一族が神話時代から皇室に仕えるものであるという自負があったからです。道長以外の当主も、娘を天皇に差し出して、孫を天皇にすることで満足しました。この慎みと節度があったため、藤原氏は栄華を極めながら、末代ま

で続いたと考えられます。

荘園が拡大し始めたのもこの時期です。従来の租税収取体系が変質したことに伴って、有力貴族や寺社は各地に私領を作って、荘園が次第に発達していったのです。荘園を守るために、武装した農民が雇われるようになり、それが武士へと変化していきました。

武士団は離合集散を繰り返しながら、大きな集団を形成し、特に大きな武士団は、桓武天皇の血をひく平氏と清和天皇の血をひく源氏でした。

平安後期になると郡司・郷司・負名層が自ら墾田して領主となる開発領主が登場し、私領を有力貴族や寺社へ寄進することで権利を確保していきました。

天皇家と藤原家の姻戚関係に基づく摂関政治にも変化が生じてきました。外戚に藤原氏を持たない後三条天皇、白河天皇、鳥羽上皇も積極的に政治に取り

組み、退位して上皇となった後は皇室の長という立場で独自の政策を展開していきました。これが院政の開始となりました。

12世紀中期に鳥羽上皇が崩御すると、治天の君の座を巡って皇室・摂関家を巻き込む政争が起こり、保元の乱と平治の乱によって武士の政治的地位が上昇していきました。

平安文化



金剛峰寺 真言宗



比叡山延暦寺 天台宗

神道の影響を受けた、新しい文化として最澄の比叡山延暦寺に続いて、空海の金剛峰寺が創建されました。日本古来の信仰に仏教の影響を受けて、神仏混交が進んでいきました。

仏像は修行者の手になる木彫りのものが増え、ことに一木造で翻波式の衣文と、豊満で神秘的な表現形式に特色があり、神護寺薬師如来像や法華寺十一面観音像などはその代表です。また密教の教理は、図像的な表現をかりて明らかにされると考えられ、諸仏の世界を一定の方式に基づいて図化した曼荼羅が作られました。神護寺や東寺の両界曼荼羅などが有名です。



神護寺薬師如来像



法華寺十一面観音像

平仮名・片仮名の発明で日本語の表記が容易になったことによって、和歌・日記・物語文学が盛んになりました。

最初の勅撰漢詩集「凌雲集」や勅撰和歌集「古今和歌集」ができ、「竹取物語」「伊勢物語」に続いて「土佐日記」や清少納言の「枕草子」や紫式部の「源氏物語」、更に、「和泉式部日記」「紫式部日

記」、君が代の原点といわれる「和漢朗詠集」ができました。

官衣束帯や寝殿造等の和様建築が登場します。また、平安中期は、仏教の末法思想が人々に広く浸透し、浄土思想・浄土教が盛んになりました。

平安末期になると歴史物語・軍記物語などの文学が芽生えました。天台仏教・山岳仏教が日本各地へ広がりました。民衆の間に今様という歌謡が流行し、後白河上皇により今様を集成した梁塵秘抄や、鳥羽僧正の筆と言われる鳥獣人物戯画が発行されました。

宮中文化が花開き、それに関連した文学や詩歌が続々と誕生しました。イギリスで最初の女流作家、ジョン・オースチンよりも 800 年も前に、日本における女性文学が花開きました。

摂関政治の時代に、外威の地位を臨んだ貴族は自分の娘を後宮にいれて皇子を産ませようとしていました。その際、多くの有能な女房をつけたので、宮廷で華

やかなサロンが形成され、そこに多くの文学作品が生まれることになりました。一条天皇には、藤原道隆の娘の皇后定子と、道長の娘の中宮彰子がおり、後宮においても、この両者は対立関係にありました。清少納言は定子に、紫式部は彰子につかえた女房で、共に下級貴族の家に生まれましたが、豊かな学識と文才に恵まれていました。清少納言は15歳前後で結婚し、離婚した後に再婚をしました。枕草子は女性が書いた世界最初のエッセイですが、男性をやり込める場面がしばしば出てきます。日本は女性が強い国なのです。

清少納言は日本や支那の古典の知識をもとに才気あふれるやりとりを積極的にくりひろげ、才女の評判が高く、その際の自慢話なども織り込んだ随筆「枕草子」には、女性らしい鋭い観察力が見受けられます。定子の死によって宮廷を去り、その後の終息は明らかではありません。

紫式部は、26歳の時に19歳年上の藤原宣孝と結婚して、娘一人をもうけましたが、2年後に宣孝は亡くなってしまいます。紫式部はその文才を藤原道長に認められたますが、むしろひかえめな人柄で、漢文の素養のあることを他人から気づかれないようにしたほどであったと言われます。人類史上、初めて女性が書いた小説となった「源氏物語」を書きました。平安時代の貴族生活にお



紫式部



清少納言

ける、男女の細やかな心の働きを描いていますが、男たちが女性の心をとらえようと、努めています。女性が男性の上に立っている、世界最古の恋愛小説で



源氏物語

あり、主人公「光源氏」称えるかたわら、叩くところは叩いており、人間性がリアルに表現されています。宮中における洗練された華やかな生活や、自由奔放に生きる男女の姿が生き生きと描かれています。その高度に洗練された点からいっても、文学史上の金字塔と言えます。

彰子の宮廷サロンが勢力をえるにつれて、この二人の女性の間にもはげしい感情の対立が生まれたように思われます。

平安朝で最大の歌人は、「和泉式部日記」を書いたのは和泉式部です。日本文学史上最高の詩人であり、恋心や、孤独や、哀愁を歌って、右に出る者はいません。20歳で結婚しましたが、多情で、同時に多くの恋人を持っていたために、浮かれ女といって、非難されていました。

「源氏物語」に触発された菅原孝標女は、日記文学の白眉である「更級日記」を著しました。「更級日記」には、13歳から40歳までの日記が認められており、当時の日記文学は日本特有のものであり、ヨーロッパで、女性が小説を書くのは、18世紀まで待たなければなりません。

「土佐日記」は、男性の紀貫之が書きました。「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり」という文章で始まっており、女性を装って、平仮名で綴ったものです。

紫式部、清少納言、和泉式部以外にも、数多くの女性作家が登場して、筆を競い合っていました、女性が男に隷属しているのであれば、文筆を振るうなど、想像すらできないことです。

「源氏物語」を読むと、さまざまな色の和紙が登場します。紫系統が最も多く、「紫のにばめる紙」「自の薄様の紙」「青鈍」「浅緑」「胡桃色の紙」「空色の曇はしき」「赤き色紙」「紅の紙」「紅き薄様」を始めとして、数多くの色の紙の名が出てきます。鈍色は濃い鼠色のことです。

原料に染料を加えて漉いたのですから、「源氏物語」の全巻を通じて、登場してくる色の名を挙げていったら、きりはありません。平安時代には男女が、美しい紙を使って、文を遣り取りしていました。文には香を選んで焚き始めて、花を「折り枝」として添えて、相手に贈りました。「自の薄様」「紅き薄様」を挙げましたが、「薄様」は一枚の紙ではなく、重ねて使われました。それにしても、日本の先人たちの色彩感覚が豊かだったことには、心を揺さぶられずにはおられません。

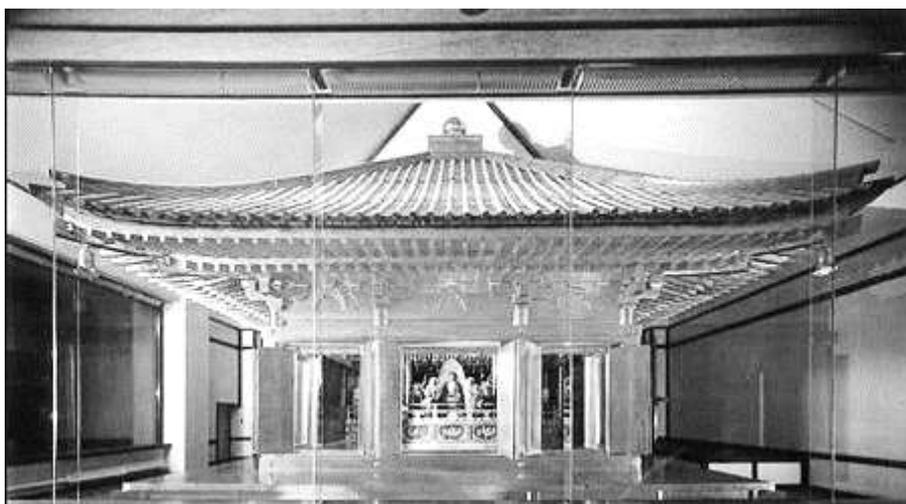
親日的な学者、ドナルド・キーンは、平安時代を世界史上最高の文明と絶賛しています。

仏教と在来の神祇信仰との調和をめざす神仏習合の動きは、すでに奈良時代にはじまりますが、平安時代には、神々を特定の仏と結びつけて、神の本来の姿は仏であるとする本地垂迹説が生まれました。一方、南都仏教や天台宗・真言宗などの有力寺院の荘園が増えていくと、荘園領主の鎮守神を祭って荘民の



宇治平等院鳳凰堂

心のよりどころとするものが多くなってきました。また、今までの山岳信仰が仏教や道教と結びついて、修験道という特異な信仰が生まれました。相次ぐ戦乱や災害に律令政府が無力であるという現実、仏法の衰えを感じさせ、末法思想を生み出しました。これとあいまって、この世でなく死後の世界に浄土を求め、弥陀仏にすがって極楽浄土に往生することを理想とする浄土教が広まりました。浄土教のひろまりは、美術のうえにも強い影響をおよぼし、宇治平等



中尊寺金色堂

院鳳凰堂は、極楽の蓮池をかたどった池に面して左右に回廊をのびた優美な御堂です。

奥州藤原氏の中尊寺金色堂も、この時代の建造物です。

鎌倉時代

源平盛衰

清和天皇の末裔に当たる八幡太郎義家が、朝廷の名を受けて、陸奥国の豪族安倍氏を攻め滅ぼしたのが前九年の役で、河内源氏の名を高めて、源氏の基盤を固めました。

それからおよそ10年後に、後三年の役と呼ばれる戦いが起こりました。最終的に源義家と清原清衡の連合軍が、清原家衡を滅ぼして、清衡は父方の姓である藤原姓を名乗り、藤原清衡として奥州藤原氏の祖となりました。

天皇家の皇位継承を巡る争いが、保元、平治の乱です。崇徳上皇と後白河天皇との間で起こったのが保元の乱であり、崇徳上皇と後白河上皇・二条天皇を中心にした争いが平治の乱です。

この争いは、源義朝と平清盛との戦いに発展して、義朝は敗れて、平家隆盛の時代となりました。頼朝は伊豆に流されましたが、そこで北条政子を娶り、その実家である北条氏の庇護を受けることになりました。

平治の乱に勝利を収めた平清盛は大政大臣になり、自分の娘徳子を高倉天皇



平清盛

の后にして、この二人の間に安徳天皇が生まれました。清盛は武家として政治の実権を握りながら、天皇家と縁戚関係を結んで平氏は公家化していきました。清盛の継室である時子の弟、平時忠は「平家に非ざれば人に非ず」と語ったと言われるほどの栄華を謳歌しました。

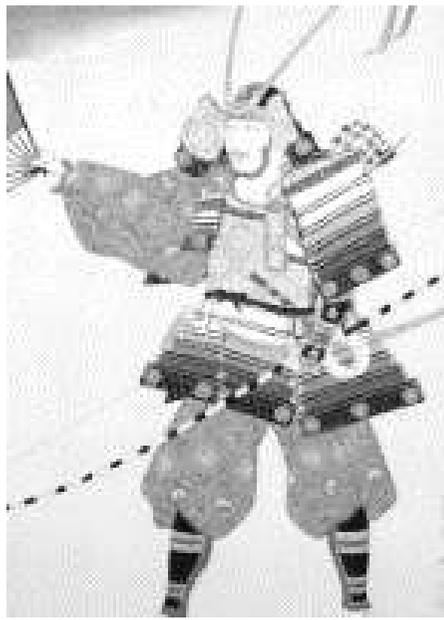
1180年、清盛は孫の安徳天皇を奉じて、突然、福原京への遷都を強行しました。

神戸には、奈良時代に行基が作った大輪田泊という停泊地がありました。

ここを整備して宋との貿易を始めたのですが、公家はもちろん平氏一門にも歓迎されなかったため、半年足らずで再び都を 京都に戻した直後、清盛は熱病



源頼朝



源義経

で急死し、やがて平家は滅亡への道を歩みます。

源頼朝は源氏の棟梁としての資質によって関東の豪族たちに挙兵を呼びかけて、20万とも言われる大軍を率いて鎌倉を出発し、駿河の黄瀬川で弟の義経と合流しました。清盛は、福原を出発して、進軍の途中で兵を募り、駿河国に着いたときにはおよそ5万の軍勢となっていました。そこで、かの有名な富士川の合戦になるわけですが、夜中に聞いた水鳥の羽音を、源氏の軍の大軍の総攻撃だと思い込んだ清盛の軍勢は、あわてふためいて武器も食料も放り出したまま、われ先に逃げてしまいました。源氏は戦わずして平家に勝ったのです。

俱利伽羅峠の戦いに勝利を収めた木曾義仲は京都に入りましたが、乱暴狼藉を働いたため、源義経によって成敗されます。



ひよどり越えの戦い

から従五位、判官を与えられました。

自分を脅かす存在と考えた頼朝は、鎌倉入り許さなかったため、義経は藤原秀衡をたよって奥州に逃げました。ちなみに歌舞伎などで有名な勧進帳は、この逃亡中の出来事です。

秀衡の死後、泰衡は

秀衡の命に背いて義経の首を頼朝に差し出しますが、結局、藤原一族は頼朝によって攻め滅ぼされます。全身に矢を受けながら立ち向かう、武蔵坊弁慶の立ち往生は、この戦いのエピソードです。

義経は、都落ちした平家を追討して、一の谷の合戦に挑みます。海に迫った急峻を馬で駆け下る戦法に平家の軍は総崩れになります。屋島における扇の的のエピソードを挟んで、壇ノ浦の戦いで、幼い安徳天皇の入水によって、平家は滅亡します。この時に、三種の神器のひとつ、草薙剣が紛失したとされています。

数々の武勲を立てた義経は、後白河法皇



壇ノ浦の戦い

鎌倉幕府

頼朝は、朝廷から、全国の行政・警察・軍事を司る総追捕使の位をもらって

1192年に征夷大將軍となって鎌倉幕府を開きました。

2代將軍・頼家は母・政子の実家北條氏に殺害され、3代將軍・実朝を始め実家、傍系の男子は全員殺害されて、鎌倉幕府の源氏政権は、北條政権に奪われてしまいました。

1221年、北條政権に対して不信感を抱いた後鳥羽上皇が、倒幕に失敗した承久の乱によって、その後の皇位継承は、執権・北條氏の意のままに管理されるようになりました。

1232年、北條泰時は武士の規範となる51ヶ条からなる御成敗式目を制定しました。皇室の律令と共に、この式目は武士に適用される法律として明治維新まで使われました。

元寇・文永の役・弘安の役

ジンギスカンの孫・フビライは、高麗を通じて、日本に国書を送ってきました。内容が脅迫的であったため、北条時宗は、使者を追い返しました。

1274年、フビライは日本を攻撃するために、壱岐・対馬を陥した後、4万人の兵を博多湾から上陸させ、5000人の日本軍はこれに対峙しました。集団で襲い掛かる元軍の攻撃に耐えかねて、退却し始めた時、たまたま射た矢が、敵の司令官に当たりました。司令官を失った元軍は、統制を失って船に引き返しま



した。そして、その夜、たまたま台風が襲来して多くの船が沈み、元軍は撤退しました。

時宗は元軍の再襲来に備えて、全国の武士を総動員して、博多に石垣のよる防塁を作りました。

1281年、フビライは10

万人の大軍を率いて、博多を攻撃しました。堅固な防塁と敵船に切り込む日本の武士の反撃を受けて、戦いは2ヶ月に及びました。元軍が優位になり始めた夜、再び台風が襲来して、海上の元軍の船は全滅しました。生きて帰国できたのは二割にも満たなかったと言われています。これが神風の真相です。

夏から秋にかけて2ヶ月以上も博多湾にいれば、1回位は台風襲われるのは今も同じですが、当時では、全国の社寺に国難打開の祈祷をしたおかげで、神風が吹いたと信じたのでしょう。

たまたま吹いた台風によって、日本が難を免れたと考える人も多いようですが、文永の役は敵の司令官を射殺したことによる勝利であり、弘安の役は強力な防塁を構築し、毎晩のように切り込み隊による攻撃をかけて、戦局を長引かせたことが勝因に繋がったのです。

建武の中興

皇位継承を巡って、天皇家内に争いが起こったので、北條幕府は持明院統と
大覚寺統を10年交代で交互に皇位につけることにしました。大覚寺統の尊治親王は朱子学を学び、日本の正統である天皇の皇位継承を幕府が決めるのは不遜であると考えました。

1318年、尊治親王は後醍醐天皇として即位しました。自分の子供を皇太子にしようとしたところ、北條高時は持明院統の量仁親王を皇太子にしました。

後醍醐天皇は、正統を守って皇位継承をするために、これに介入する幕府を倒す計画を立てて、これが発覚しますが、何とかとがめを受けることは避けました。しかし、再び立てた討幕の計画が幕府側に洩れたので、天皇は三種の神器を持って、山城の笠置山で兵を挙げました。

河内の武将、楠木正成が後醍醐天皇に味方して、赤坂城で挙兵しました。後醍醐天皇は笠置で籠城して戦いますが、楠木正成が立てこもる赤坂城に向かう途中で幕府軍に捕まって、隠岐に流されました。一方、赤坂城では楠木正成が

さまざまな戦略で幕府軍と戦い、城に火を放って、死んだと見せかけて、突然、赤坂城に舞い戻って、これを占領してしまいました。

一方、赤坂城では楠木正成がさまざまな戦略で幕府軍と戦い、城に火を放って、死んだと見せかけて、突然、赤坂城に舞い戻って、これを占領してしまいました。



千早城址

さらに正成は勢力を拡大して、金剛山に千早城を築いて本拠とし、徹底抗戦を始めました。

驚いた幕府は動員令を下して大軍を送り込み、赤坂城も吉野城も陥落して、護良親王は高野山に逃れました。

しかし、幕府軍が総力をあげて攻めかかっているのに、最後の拠点である千早

城だけはどうしても落ちません。

そのうちに、幕府に不満を持っていた武士が蜂起し、幕府軍にいた新田義貞も足利尊氏も北条幕府を見限って討幕軍に加わりました。さらに播磨の赤松円心も挙兵して、討幕軍として京都に攻め入りました。隠岐島を抜け出した後醍醐天皇は、伯耆国の名和長年に迎えられ、船上山で兵を挙げました。楠木正成一人の抵抗をきっかけに天下の大勢は一変して、あっという間に形勢は大逆転したのです。

足利高氏が京都の六波羅を落とし、新田義貞が鎌倉を落とし、九州の鎮西探題が落ち、僅か20日足らずの間に関東から九州まで幕府の拠点が全て陥落して、鎌倉幕府はあっという間に滅亡してしまったのです。

源頼朝が幕府を開いてから140年ぶりに政権は朝廷にもどり、後醍醐天皇による親政、すなわち建武の中興がなされたのです。後醍醐天皇は、武士に任せるとはならず、あくまで天子自らが武を握るという姿勢を示しました。

建武の中興の理念そのものが、源平の争乱以来、武家の手に渡っていた政權を朝廷が取り返し、平安時代のような王朝に戻すことでした。朱子学では武家などは、見下すべき存在だったので、恩賞が恣意的な配分となり、この建武の中興で活躍した武士たちは必ずしも報われませんでした。

赤松円心は、すぐに天皇親政をやめ、武家政治に戻すべしと主張しました。

足利尊氏は、征夷大將軍として実権を握り、北条時行を討つため鎌倉へ兵を出しました。在京の武士の半数以上が尊氏に従ったのは、武家政治の復活を願う武士が天下に満ちていることを示すものです。朝廷は尊氏に従二位を授けて労をねぎらい、京に兵を戻すよう促しましたが、尊氏はそれに従わず、鎌倉で勝手に論功行賞を始めました。この機会に新田義貞の基盤を奪うつもりで、新田の領地をことごとく部下たちに与えました。義貞と尊氏の対立は決定的なものになり全面戦争となりました。しばし一進一退の戦でしたが、結果的に義貞が勝って、左近衛中将に任ぜられました。

一計を考えた尊氏は、赤松円心の助言に従って、不遇をかこっていた光厳上皇から、自分が官軍であることを示す院宣をもらって、大軍を率いて京都に入りました。

後醍醐天皇は楠木正成に義貞の援軍を依頼しましたが、正成が考えた作戦は採用されません

でした。勝ち目のない戦である湊川の戦場に行く前に、桜井の宿場で、嫡子正行に天皇から賜った菊水の紋の入った短刀を渡した、「菊水の別れ」は、「大楠公



大楠公 菊水の別れ

の歌」と共に、日本人の心に染み付いた史実です。

「七生報国」は神風特攻隊の合言葉になったことから、大楠公の史実そのものが、占領政策によって消し去られました。正成と共に自害した弟・正季の「七度生まれ変わって、朝敵を打たん」という「七生報国」という言葉は、日本人の根底に今も流れる心情です。

後醍醐天皇は花山院に幽閉されますが、吉野に逃れてそこに南朝を開き、南北朝という形で正統の明快さを曇らせることとなります。北朝と南朝の間を多くの武士が出入りしましたが、千早城陥落によって南朝は弱体化し、頼みは楠木一族のみになりました。

義満が出した南北朝統一の条件は、南朝の持っている三種の神器を北朝に返還すること、皇位には北朝と南朝が交互につくこと、領地もほぼ北条時代にもどすことなどでした。しかしその約束は果たされず、南朝系は絶えて、南北朝時代は終わりました。

鎌倉の文化



西行法師

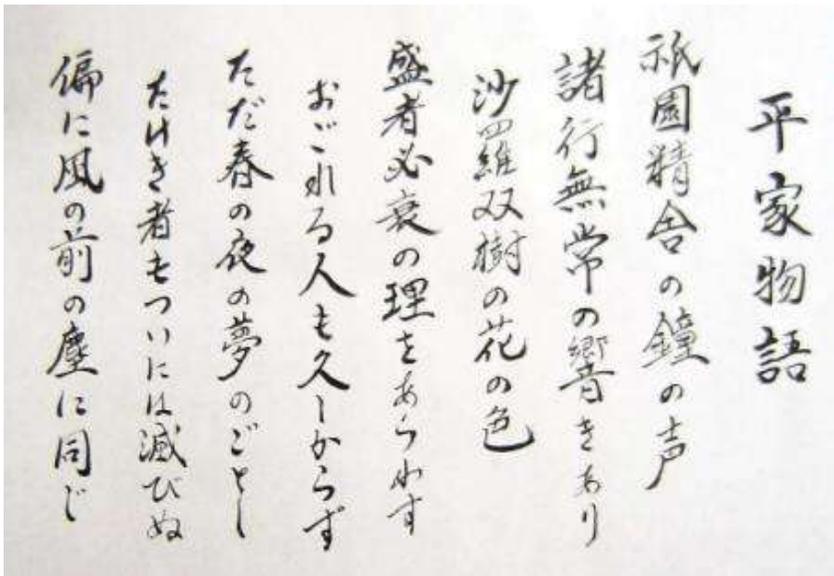
西国では源平のソ乱後、荘園や都市の復興の兆しがみられ、伝統的な公家文化にも新たな息吹が生まれました。その代表は後鳥羽上皇が苦心して編集した**新古今和歌集**です。この歌集には、西行・鴨長明・藤原定家らの歌が収められています。西行は**山家集**、鴨長明は**方丈記**を書きました。

「行く川のながれは絶えずして しかも本の水にあらず よどみに浮ぶうたかたは かつ消えかつ結びて久しくとゞまりたるためしなし 世の中にある人とすみかと またかくの如し」

吉田兼好の徒然草も有名な作品です。

「つれづれなるままに 日ぐらしすずりに むかひて ころにうつりゆく
よしなしごとを そこはかたなく書きつくれば あやしうこそものぐるほしけれ」

將軍皆源実朝は**金櫃和歌集**を残しています。**平家物語**、**源平盛衰記**などの武士を主人公とした軍記物語の傑作が生み出され、これらの物語は琵琶法師によって日本国中に語り広められました。幕府の成立と発展の歴史を書いた**吾妻鏡**が現わされ、北条氏一族の金沢氏が和漢の書物を集めた金沢文庫が建てられま



した。藤原定家による百人一首が書かれ、北畠親房が**神皇正統記**を記し、**軍記物語・太平記**が書かれました。

日蓮によって法華宗が開祖しました。

源平の争乱により 焼失した奈良の諸寺院は、勸進上人重源のなみなみならぬ努力で復興しました。

東大寺の大仏の修理、大仏殿、南大門の再建は容易なことではありませんでしたが、南都仏師の運慶・湛慶父子や快慶らの協力も得て、この事業をなしと



金剛力士像

げました。東大寺南大門の運慶・快慶合作の金剛力士像にはこの復興の力がみなぎっています。

絵画の面でも 写実的な要素は強くなり、絵巻物では一遍の生きた社会をみごとに再現した「一遍上人絵伝」、武士の生活や合戦を豊かにえがいた「男余三郎絵巻」や「蒙古襲来絵巻」などが作られました。

工芸では、武具の政策が活発となり、刀剣の長船長光、栗田口吉光、岡崎政



長船長光の名刀

宗などの名刀が生まれました。陶器では尾張の瀬戸焼を始め、各地でその生産が活発になりました。

室町時代



足利義満

1379年、3代将軍足利義満は南北朝を統一して、京都北小路室町に花の御所・鹿苑寺金閣を造営したことから、室町幕府と呼ばれるようになりました。

室町幕府においては公家と幕府の差は曖昧になりました。義満自身が征夷大将軍という武家の位に甘んじることなく、宮廷での出世を望んだからです。武家の棟梁であると同時に公家の支配者にもなろうと考えました。

後小松天皇の生母が重い病気にかかり、命があやぶまれた時に、自分の妻を天皇の母、つまり国母に任命しました。義満自身は天皇の母の夫、即ち太上天皇になるという計画でした。後小松天皇の後に息子の義嗣を天皇に即位させようとして元服させた当日、義満は病で倒れ、まもなく帰らぬ人になりました。武士が皇室を乗っ取る計画は実現しませんでした。



金閣寺

王位を狙った平清盛が熱病で死に、自分の子供を皇位につけようとした義満が急死したことから、後世の人は「天佑神助」と語っています。

南北朝が統一されてようやく幕府に権力が集中し、6代将軍足利義教の時には完全に諸大名を制し、足利幕府は絶対的な権威を持つようになりましたが、義教が重臣赤松満祐によって暗殺された後は、幕府の基盤がゆらぎはじめま



足利義政

した。8代将軍義政には家督相続をめぐる内紛が起こり、更に山名家と細川家の争いは大名にも広がって、ついに全国の武士が細川の東軍と山名の西軍に別れて争う、「応仁の乱」に発展していきました。

8代将軍足利義政は、1458年、祖父義満が造営した室町第の花の御所の復旧工事をはじめ、美しい盆山を築き、立派な大庭園を造り上げて、翌年ここに移り住みました。当時、諸国に飢饉が起こり、悪疫の流行も加わって賀茂川を死体が埋め尽くすほどでしたが、義政は造園に夢中でした。当時は插花といった華道も好み、造園、盆景、插花など、日本人の自然趣味の原型が、義政のもとで全国に広まっていきました。義政の贅沢の極みが、1465年に行われた華頂山の花見であり、公家や武家を引き連れ、黄金の箸を配るなど、華美を極めた衣服調度の下で、花見をしながら連歌会を催しました。

この豪華な花見の2年後に、応仁の乱が起こりましたが、政治に関心を持たず、また武力もない義政は、外の戦争を横眼で見ながら、詩歌の会と宴会に興じていました。



応仁の乱

義尚に將軍職を譲った義政は、東山の月待山山麓に隠居所の造営を始めました。幕府の勢力が衰えていたため費用の捻出に苦労しながら、ようやく東山山荘・慈照寺銀閣を完成させました。東山殿に11の楼閣を建てたましが、現在残っているのは銀閣だけです。



銀閣寺

義政は美的感覚が抜群で、高く評価される唐や宋の名画や水墨画を集めました。彼が集めた茶碗は、大名物と呼ばれ、信長や秀古の時代には特別重要な茶器として尊ばれました。自ら茶をたて、四畳半の茶



茶の湯

室の始まりとされる書院「同仁齋」を東山殿東求堂の中に作りました。日本の「茶の湯」は鎌倉時代の禅宗の僧侶たちによって精神修養的な意味で広まりましたが、この文化の発祥は義政の時代に遡るのです。

義満が建てた金閣寺のきらびやかさと美しさは、万人に理解できますが、私たち日本人にとっては、

渋さ、趣味のよさ、高尚な美から、むしろ銀閣寺の方が好ましいと感じられるようです。



観阿弥

日本人は義政によって、新しい感受性を発掘され、幽玄の美というものを理解できるようになったのではないのでしょうか。

上杉憲実が足利学校を設立し、最後の勅撰和歌集・新続古今和歌集が出版されました。

観阿弥、世阿弥によって能が盛んになり、狂言や連歌が生まれました。能は神秘的で真面目な内容であるの

に対して、狂言は滑稽で笑いを取るような親しみやすい庶民的なものです。

更に、浦島太郎や一寸法師のような御伽草子が流行りましたし、雪舟に代表される禅の影響を受けた水墨画が盛んになりました。



世阿弥

室町時代になると、農村の発達や生産物の多様化によって市日の回数が増え、月 6 回の六斎市となりました。市場相互のつながりもできて、巡回の行商人も増えました。都市では店棚をかまえた常設の小売店が増加し、京都・奈良の近郊には特定商品だけをあつかう、座と呼ばれる専門の市場も生まれました。座の間では、特定の商品を独占販売する、いわゆる談合が行われました。

小売店に商品を供給する問屋もあられ、商品運送のために馬借や車借などの運送業者が増え、港湾を結ぶ廻船の往来も盛んとなりました。

農業では、栽培技術や灌漑技術の発達によって、先進地域では稲の収穫が大幅に増えました。水稻の品種改良も進んで早稲・中稲・晩稲の作付も普及して、

二毛作は関東地方にも普及し、桑・こうぞ・漆など手工業原料の栽培も盛んになりました。

食生活も2食から3食へと変わり、禅宗寺院で作られていたうどんや豆腐が一般に広まって、野菜料理も発達して、普及するようになりました。

茶の栽培も広がり、茶商人が路上で売る茶を買って飲む習慣も付きました。こうした食生活の変化と多様化に伴って市は賑わい、野菜づくりや茶の栽培が京都・奈良の近郊で発達し、海辺や湖辺の村々では、漁業や製塩業が栄えました。

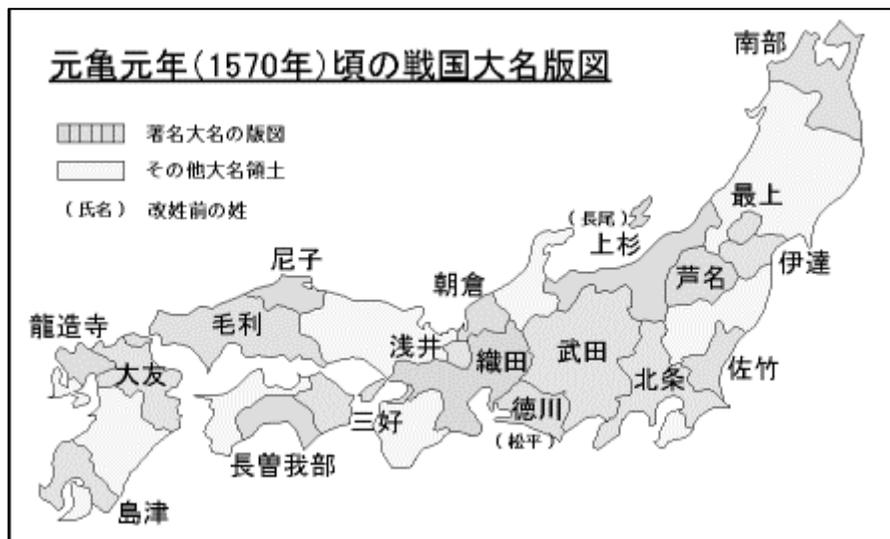
手工業者は独立して注文生産や市場目当ての商品生産を行うようになり、鍬・鎌・鋤などの農具や、鍋・釜などの日用品のほか、刀剣が多く生産されて販売されるようになりました。

戦国時代・安土桃山時代

戦国大名

応仁の乱によって、勢力を失った幕府に代わって、それぞれの地方で大名たちが勢力を競う、戦国時代が到来しました。將軍の権威が衰えただけでなく、「下剋上」と呼ばれる現象が起きて、身分の低い者が実力で上の者を倒す風潮が生まれ、守護大名の実権を家臣が奪ったり、小田原の北条早雲、美濃の斎藤道三に代表される新しい戦国大名が日本中に生まれました。各地で家督相続をめぐる争いは収まらず、將軍の後継者問題を巻き込んで混乱が続きました。

これは、明治維新までの長きにわたる、地方分権の始まりでもあり、武田信玄や上杉謙信らの時代を経て、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の天下統一までの相次ぐ戦いに至りました。



戦国時代における諸大名の動向は次の通りです。

奥羽地方は関東の騒乱にほとんど巻き込まれることなく、当然中央の政争の影響もほとんど見られません。15世紀前半から南部氏が仙北・鹿角に出兵、伊

達氏の河北地方へ侵攻して、領地争いが続きました。1542年には伊達植宗父子が家督の位置付けを巡って争いを起こして、天文の乱へ発展しましたが、その結果、伊達晴宗は他の奥羽諸大名に先駆けて戦国大名としての体制を確立することに成功しました。

関東では享徳の乱・長享の乱・永正の乱が立て続けに起こって、古河公方と関東管領山内上杉家・扇谷上杉家が覇権を争いました。

北条早雲は、足利政知の死去に伴う内乱に乗じて、伊豆を平定しました。北条氏と上杉氏が関東の覇権を巡って戦いました。この上杉氏・北条氏の争いは全関東の諸豪族を二分して、各地で戦いを引き起こしました。1579年、上杉謙信が死ぬと、北条氏の勢力拡大を抑える者はいなくなりました。

1582年の甲州征伐で織田氏、徳川氏、北条氏が武田氏の領地に侵攻しましたが、本能寺の変の後に北条氏は、織田氏との同盟を破棄して甲斐・信濃へ侵攻、さらに旧武田領を巡って天正壬午の乱が発生し、甲斐・南信濃を徳川氏、北信濃を上杉氏、上野を北条氏、沼田を真田氏が治めることで和睦しました。

1590年、北条氏の家臣による真田領への侵攻を巡って、豊臣氏を中心とする21万人の連合軍によって小田原城が陥落して、北条氏は滅亡して、豊臣秀吉による全国統一が完成しました。

北関東でも享徳の乱・長享の乱・永正の乱の影響を受けて、下野宇都宮氏、佐竹氏、結城氏が覇権を争いました。

1506年に永正の乱に誘発され古河公方家の内紛が勃発しました。足利政氏と嫡子高基の対立であり、政氏には小山成長、佐竹義舜、那須資房などが支持し、高基には宇都宮成綱、結城政朝、那須資親、小田成治・政治父子といった宇都宮成綱の勢力が中心となって支持しました。内紛は関東南部や奥州にも影響を与えて、岩城由隆、白河顕頼が政氏を支持し、伊達植宗、北条早雲・氏綱父子、下総の千葉勝胤・昌胤父子は高基を支持して、北関東は混沌としており各地で戦闘が勃発しました。戦国時代後期には北条氏が北関東へ進出。佐竹氏、宇都宮氏、小山氏らは上杉謙信を盟主とし敵対し、結城氏、那須氏、小田氏、壬生氏などが北条氏側に付き、各地で戦闘が起きました。

1579年、上杉謙信が没すると、関東諸将は頭角を現した佐竹義重を盟主にして北条氏直の侵攻に抵抗しましたが、結果的に北條氏の軍門に下ることになりました。豊臣秀吉による小田原征伐が行われると佐竹義重、結城晴朝、宇都宮国綱などはそれに従いましたが、小山氏、小田氏、壬生氏、大掾氏などといった勢力は姿を消しました。その一方で大関高増、大田原晴清、岡本正親、水谷政村、那須資晴などは豊臣大名として残ることができました



上杉謙信

甲斐国では武田氏が上杉禅秀の乱に荷担して没落していたため、戦国時代に至るまで国内では抗争状態に陥っていました。

一方、信濃国では、小笠原氏、村上氏、高梨氏、海野氏、仁科氏、諏訪氏、木曾氏などの群雄が割拠していました。やが



武田信玄

て、武田信虎が甲斐一国を統一し、甲府を本拠地と定めて信濃侵攻を開始しますが、嫡男の信玄や重臣らによる謀反で駿河国へ追放されます。

武田信玄は信濃侵攻を本格化し、小笠原氏、村上氏らは駆逐されて、信濃は武田領国化されました。信玄は越後の上杉氏と10年余に亘って、川中島の戦いを繰り広げました。

その後、武田氏は桶狭間の戦い後に弱体化した今川氏領国へ侵攻し、更に、尾張の織田氏・三河の徳川氏とも対峙します。信玄は三河に侵攻しましたが、野田城攻略中に急死しました。

1575年、武田勝頼軍と織田信長・徳川家康連合軍の間で起こった長篠の戦いで大敗を喫した武田氏は、木曾義昌への征伐軍を送ったものの敗退、徳川家康、北条氏政からも攻撃を受けて、十分な迎撃も出来ずに敗退し、武田勝頼・武田

信勝父子は天目山で自害し武田氏は滅亡しました。**越後**では、上杉氏から実権を奪った長尾氏が台頭。その長尾氏から誕生した上杉謙信は、1576年までに北陸地方をほぼ制圧しました。

越中では越後の上杉氏、畠山氏の連合軍によって支配されました。

能登は畠山氏が支配していましたが、1576年に、越後の上杉氏の軍門に降り滅亡しました。

越前では朝倉氏が一乗谷に京の貴族を迎えるなど栄華を極めていました。しかし、1573年に織田信長の侵攻を受け、浅井長政の援軍を受けて戦いましたが敗れて、朝倉義景は自害して滅亡しました。

加賀では加賀一向一揆が本願寺王国を作って、100年間守り抜きましたが、織田信長の家臣の柴田勝家に敗れました。

美濃国では斎藤道三が主君を追放して手中に収めました。その後、織田信秀や土岐頼芸、朝倉孝景が美濃へ侵攻しましたが、籠城戦から急襲に切り替えて、織田軍に大打撃を与えるなどして持ち堪えました。後に斎藤道三は織田信秀の嫡男織田信長へ娘を嫁がせ織田氏と和睦しました。1556年に長良川の戦いで道三は義龍に討たれました。信長は5年の歳月をかけて美濃を攻略し、稲葉山城を上洛に向けた新たな拠点にしました。

尾張国は朝倉氏の離反で越前を失った斯波氏の本拠となっていました。斯波氏は京都での政争にも敗れ、織田氏の権力抗争に巻き込まれて切腹して断絶し、それ以後織田氏が尾張を治めました。織田信長は桶狭間の戦いに勝利した後、今川氏から独立して松平氏の旧領の三河を回復した徳川家康と結ぶことで美濃攻略に専念しました。5年の歳月をかけて美濃国を斎藤龍興から奪うと、稲葉山城を岐阜城と改名し新たな本拠として天下の運営に乗り出しました。

駿河国では今川氏親が斯波氏から遠江の支配権を奪い、その子の今川義元の代には松平氏の三河も支配下に治め、1554年には甲斐国の武田氏や関東の北条氏と三国同盟を結んで、尾張の一部へも勢力を伸ばしていました。しかし1560年、桶狭間の戦いにおいて義元が戦死して、氏真が跡を継いだものの弱体化し、後に徳川氏、武田氏の駿河侵攻を受けて滅亡しました。

三河国では、松平清康が、1535年の守山崩れによって家臣に殺されると、駿河の今川氏からの後援無しに家命を保てないほど弱体化してしまいました。松平氏の人質として幼少期に今川氏へ渡った松平元康は、元服後は今川氏の先鋒武将として桶狭間の戦いに参加しましたが、その後、今川領国の動揺に乗じて三河を平定して、徳川家康と改名して、織田氏と同盟を結びました、甲斐の武田氏と密約を結んで、今川氏を滅ぼしました。その後、三方ヶ原の戦いでは徳川・織田両軍は大敗を喫しましたが、信玄の死で命拾いをしました。

1575年には、長篠の戦いで織田・徳川連合軍が鉄砲の力を利用して武田軍を破ると、1582年の甲州征伐への参戦協力の功により、徳川氏は信長から武田領の遠江、駿河を得ました。しかも同年、本能寺の変で織田信長が死ぬと織田領である甲信に侵攻し、勢力下に治めました。

1590年、豊臣秀吉により天下が定まると、秀吉より関東への移封を命ぜられたため徳川家康は武蔵国の江戸を本拠としました。やがて家康は秀吉の死後に起こった関ヶ原の戦いの勝者となって江戸幕府を開くことになりました。

畿内においては足利将軍家と管領の細川氏との抗争が繰り広げられました。ただし、この抗争は大内氏などを主体とする地方勢力が足利氏を利用して中央介入を試みた側面が強く、細川氏が内部の権力闘争によって弱体化すると、足利氏を補佐するという名目で、近江国の六角氏による介入が強まりました。近江では、京極氏と六角氏が覇を競いましたが、京極氏が浅井氏に実権を奪われたのちは、浅井氏と六角氏の争いが続きました。

基本的には各国とも室町幕府の定めた守護大名が、そのまま戦国大名化したケースが多く、河内国の畠山氏、但馬国の山名氏、丹後国の一色氏、若狭国の武田氏などは周辺の諸勢力におびえながら、しぶとく戦国時代を生き抜きました。

伊賀国は忍者に代表される豪族が力を持ち、合議制で支配されており、北部を六角氏、南部を北畠氏が支配していました。

紀伊国では高野山・根来寺・熊野三山などの寺社勢力の力が強く、根来衆・雑賀衆などの集団を形成し、宗教を盾に地域自治を行いました。

伊勢国・志摩国では北畠氏が勢力を誇り、戦国大名化しました。足利氏や細川氏の内紛は六角氏や赤松氏・浦上氏・畠山氏・筒井氏など周辺の豪族を巻き込んで行われました。しかし、本格的な騒乱は、三好氏が政権を掌握した以降に起こりました。阿波国、讃岐国、淡路国、摂津国、和泉国、河内国、山城国、丹波国、大和国などを実力で支配しました。しかしいずれの国も完全な統治はできず、三好長慶の死後は、織田信長によって平定されました。

山陽・山陰は大内義興と尼子経久が対立していました。大内義興は勘合貿易を掌握して勢力を伸張、一時は中国九州7ヶ国を支配しました。尼子経久は月山富田城を奪って出雲に基盤を作る一方、大内氏と何度か交戦しましたが決着が着きませんでした。

両勢力の接点にあった安芸国で、毛利元就が統率者となって戦国大名化しました。毛利元就は大内氏に付き、吉田郡山城の戦いで尼子晴久を破ります。その後、大寧寺の変によって大内義隆が死亡し、厳島の戦いで勝った毛利元就の



毛利元就

天下になります。更には出雲国においても難攻不落と讃えられていた月山富田城を落として中国の覇者となります。

織田信長の配下にある羽柴秀吉に攻められて、三木城、鳥取城、高松城が次々と落とされましたが、本能寺の変によって、毛利氏と和睦して軍を返したため、命拾いました。その後、毛利氏は豊臣氏の配下となり四国攻め、九州征伐、小田原征伐などで活躍し、毛利輝元が五大老に就任します。

1589年に毛利輝元は海運の利を活かせる広島城の築城を開始し、江戸時代を通じて城下は安芸広島藩 42万6000石の拠点として発展しました。関ヶ原の戦いで毛利輝元は西軍の総大将を務め、戦後に周防、長門の2か国の36万9000石に封じられました。

阿波は細川氏が支配していました。後に三好氏に実権を奪われますが、細川氏自体は江戸時代まで存続しました。

東讃岐は安富氏が統括していましたが、三好氏一族の支配下に入りました西讃岐は香川氏が毛利氏などと結んで、三好氏と対立していましたが、善通寺合戦後、三好氏の支配下に入りました。しかし三好氏の勢力が衰えると、織田氏へなびくようになりました。

伊予は河野氏が中予、宇都宮氏が大洲、西園寺氏が南予を割拠したといわれます。地理的に細長く山岳地帯が多い上に、中国・九州と近いために常に毛利氏・大友氏の干渉に晒されたため、国を統一するような勢力を持てずに終わりましたが、長宗我部の侵略に際しては頑強に抵抗しました。

土佐は一条氏の援助によって再興成った長宗我部が統一し、更に10年かけて1585年に四国全土を統一しました。淡路は細川氏が統治していました。秀吉の全国統一後、阿波は蜂須賀家政、讃岐は仙石秀久、伊予は小早川隆景に託しています。

九州の武家は関東では無名に近い少弐氏が筑前・肥前・豊前を、大友氏が筑後・肥後・豊後を、島津氏が薩摩・大隅・日向を分割統治していました。

しかし、少弐氏の勢力は徐々に衰え、毛利氏と大友氏の干渉を受けるようになります。

大友氏は豊後を拠点に筑後、肥後、豊前、筑前に勢力を伸ばしました。また大友宗麟はキリスト教を保護し南蛮貿易を盛んにしましたが、島津氏との戦いで大敗して急速に力を失っていきました。それを機会に肥前では龍造寺氏が勢力を拡大して、一時期は、大友・島津と肩を並べるまでに伸張しましたが、沖田畷の戦いで隆信が戦死すると急速に衰え、やがて重臣の鍋島直茂の時代になりました。

島津氏は島津貴久が本家を継いだ後、島津義久の指揮の下、薩摩・大隅を統一、木崎原の戦いで伊東氏を平らげ、大友宗麟との耳川の戦いで大勝利を収めて、薩摩・大隅・日向と九州を統一しました。残すは筑前・豊前のみというところで豊臣秀吉の中央軍の介入が始まり、降伏しました。

足利幕府は九代将軍義尚以降になると、もう名ばかりの存在であり、地方の豪族たちは、当てにならない将軍よりも、その奥に潜む天皇に対する敬愛の念に気づきだしました。そして戦国も末期になると、上杉謙信、織田信秀、毛利元就など、天皇家に寄進する武士が出てきました。

日本を再統一するためには京都に出て、天皇を立てて命令するのが賢明な方法であるという明確な意識を持つ武将も生まれてきました。それを最初に実行したのが今川義元でした。義元は、将軍家に繋がる血統からも、実力からも、この乱世を建て直すことができる唯一の武将だと自認していました。そこに立ち上がったのが、皇室尊重派の織田信長でした。

織田信長

織田家は信長の父信秀の時代から今川義元と国境を巡る戦いを重ねていました。1560年、満を持して上洛を目指す今川義元が20000の大軍を動員して尾張に侵攻して、最後の決戦となったのが、桶狭間の戦いです。これを迎え撃つ織田信長の軍勢は、今川軍の十分の一にも満たない2000前後でした。信長は、



義元を輿に乗せて進軍中の隊列の真ん中に、奇襲攻撃をかけて、敵が右往左往している間に、難なく義元の首を取りました。実際に義元の首を討ち取ったのは、毛利新助と服部小平太でしたが、今川勢の情報を伝えた野武士上がりの築田政綱にも論功行賞を与えました。

信長は、明智光秀の仲介によって接近してきた義昭を第十五代将軍に奉じて上洛し、僅か十数日で畿内平定しました。その後、義昭と信長の仲が悪化して、信長が義昭を

織田信長

京都から追放したため、実質的に足利幕府は滅亡しました。

信長は公家や朝廷に働きかけて元号を「天正」と変えました。

四国の阿波にいた三好の残党が、石山本願寺と連合して反信長勢力となり、さらに北の反信長勢力である近江の浅井長政、越前の朝倉義景の連合軍が京都に入り、比叡山延暦寺に立てこもりました。信長は比叡山に対して、浅井・朝倉の引き渡しを要求しましたが、比叡山はこれを拒絶しました。更に六角義賢が甲智で兵を挙げ、本願寺門徒衆は近江の通路を塞いで、信長の本拠地尾張との交通を断ちました。伊勢長島で起こった一向一揆で、信長の弟信興が自害するという不幸が重なりました。

2年間の隠忍自重の後、信長は浅井長政の居城である小谷城を攻め、次いで比叡山焼き討ちを行って、比叡山の建物すべてを焼き払うと共に、全ての関係者を大殺戮しました。日本の天皇に対抗する中世の象徴的な存在である比叡山を焼き払ったことによって、日本では、信長によって近世が始まったと評価する人もいます。

織田信長が最も恐れていた武田信玄が攻撃したのは信長と同盟関係にあった徳川家康でした。この三方ヶ原の戦いには敗れましたが、翌年、進軍の途中に信玄は病死しました。

信玄の遺志を継いだ勝頼は、1575年、再び京都をめざして進攻を開始し、三河国長篠城を包囲した武田勝頼軍と織田・徳川連合軍は、長篠で対峙しました。

長篠の戦いで信長が編み出した最も画期的な作戦は、馬防柵を築いて、その後ろに数千の鉄砲隊を置いたことでした。

前列の武士が発砲している間に、後列の武士が弾を込めることを繰り返すことによって、連続して発砲する技術であり、西洋では、そ



織田信長の鉄砲隊

れから100年後のハプスブルクの軍隊がオスマントルコ軍を破ったときに使われた技法です。これは信長の戦術の優秀性を示すものであると共に、種子島に鉄砲が伝来して、30年足らずの間に、大量の鉄砲を製造する技術を得たことを意味するのです。

この攻撃を受けて武田の主だった武将は全員戦死しました。武田軍は総崩れとなり、勝頼は甲斐に逃げ戻りました。その後、武田勝頼は度々、兵を出しましたが、決定的な勝利がなく、意味のない消耗戦を繰り返していました。そのうち、武田四天王の最後の一人、高坂昌信が死に、残りの諸将も次々と織田・徳川方に降参し、最後は重臣・小山田信茂に裏切られて勝頼は天目山に逃げて、そこで自害して、武田家は滅亡しました。

本能寺の変

信長は甲斐へ侵攻し、長年の宿敵だった武田氏を滅ぼしました。

1576年、都に近い琵琶湖のほとりに安土城を築きました。この城は大型の天守閣を持った豪華な城でした。

譲天下統一の手応えをつかんで、意気揚々と安土に帰還した信長でしたが、まもなく部下の豊臣秀吉に任せていた中国攻めで毛利氏の大規模な反攻が始まり、応援を要請されます。

信長はすぐさま部下の明智光秀に出陣を命じて、自身もその準備にとりかかって京都へ向かいました。このとき、信長が連れていたのは僅かな手勢のみで、

配下の諸将は皆、各地で奮戦中でした。

この間隙を突いて、中国へ向かったはずの明智光秀が突如、反旗を翻したのです。

光秀は早朝、信長の宿所だった本能寺を襲撃し、信長は焼け



本能寺

落ちる寺の中で自刃しました。

豊臣秀吉は本能寺の変を知って、急遽、毛利と和睦して、引き返して、山崎の戦いで光秀を討ちました。

光秀が謀反を起こした理由は、諸説があって定かではありません。

秀吉の天下統一

1585年、秀吉は朝廷から、関白の位を授かり太政大臣に任命されました。

勢いに乗った秀吉は高野山を制圧し、四国の長曾我部元親、越中の佐々成正を討ち、最大の難点である徳川家康とは姻戚関係を結んで、臣下にしました。

1587年には本格的な九州征伐に乗り出して、島津を降参させました。

1588年には、栄華を極めた聚楽第が完成し、後陽成天皇をお迎えして、北野



豊臣秀吉

の大茶会を催して、公家や諸大名はもちろん民衆とともに華やかな茶の湯を楽しみました。

秀吉は26万人の軍勢を引き連れて、小田原の北条氏を攻めました。北条氏は100日も籠城して、応戦しましたが結局降伏しました。このようにして北条早雲以来、名君を輩出した北条家は滅亡して、ここに秀吉の天下統一がなされました。

秀吉は征服地の拡大とともに新領土を家臣に分け与えましたが、蔵入

地とよばれる秀吉の直轄領は約200万石余に及びました。さらに京都・大坂・堺・伏見・長崎などの重要都市を直轄にするなどして財政的基盤を固めました。主要な街道を整備したり、天正大判などの貨幣を铸造しました。秀吉の事業の中で、後世に最も影響を及ぼしたのは、検地と刀狩です。秀吉の検地は中央か

ら役人を派遣して、全国に亘ってほぼ同一の基準で耕地や宅地の面積・等級を調べて耕作者とともに検地帳に登録するもので、これを太閤検地と言います。検地帳に登録された耕作者は、年貢や労役の負担者とされ、荘園制のもとでの一つの土地に、何人もの権利が重な



聚楽第

りあう状態が解決されました。これによって秀吉は全国の土地を確実に把握し、大名の配置換えも簡単になり、近世封建制の基礎が定まりました。

刀狩とは農民から武器を取り上げることです。秀吉は農民が刀や弓などの武器を持つと、一揆を起こす原因にもなると考えて、

1588年に刀狩令を出して、すべての武器を没収しました。これによって兵農分離が進み、更に1591年には、身分統制令を出して、武士・農民・町人などの身分や職業固定する方策を進めました。

朝鮮出兵

秀吉はかなり前から大陸の明に関心を持っていました。明を討つために朝鮮を通るので便宜を図るようという趣旨の書状を託しましたが、朝鮮も明もそれを無視したので、1591年に、朝鮮出兵命令を出しました。

朝鮮に上陸した日本軍は快進撃を続け、釜山、慶州、京城、平壤を占領しました。日本軍唯一の弱点は水軍であって、船も指揮系統も悪く、輸送船の集まりに過ぎませんでした。平壤で突然明軍の夜襲を受けましたが、日本軍は鉄砲で立ち向かったので、明軍は総崩れになって逃げ帰りました。大将格2人が撃

ち殺されて逃げ帰ったことを聞いた明の宮廷は愕然として、小西行長と交渉することを申し出ました。

戦争には勝ったものの、釜山から遠く離れた平壤まで来て、しかも、食糧を補給する船が朝鮮の水軍に阻まれて、食料が不足し、おまけに冬を迎える用意もろくにしていない上に、疫病が流行って、日本軍の士気が落ちてきました。

日本軍はだんだん追いつめられてきました。小西行長と宗義智は秀吉に無断で朝鮮と和平交渉を始めましたが、そこに明の勅使が現れたので、この男を信用して、ひとまず休戦状態にしたところ、明軍が総攻撃をしかけてきました。

平壤城に立てこもる小西行長軍は約 15000 人、明軍はおよそ 45000 人。ついに城の食糧庫に火が入ったので、小西軍は敗走しました。この平壤の戦いが陸上における日本唯一の敗戦になりました。日本の武將たちは行長を信じて、講和が近いと油断していたのです。

京城に再集結した日本軍は、敵を待ち受け、明軍を引きつけておいてから銃撃し、斬り込んでいきました。日本の強みはなんといっても鉄砲であり、一斉射撃という戦術を知らなかった明軍は総崩れとなって命からがら逃走しました。

しかし、兵糧もなく、手負いも増えた日本軍には厭戦気分が漂ったので大名全員の署名入りで、「日本軍も京城で餓死する寸前である。行長は明の使いを連れて帰国する予定で、明も講和を望んでいる。」という手紙を秀吉に送り、やっと撤退命令が出ました。破竹の勢いで京城に入ってから、1 年足らずで撤退することになりました。

秀吉は朝鮮との戦いで負けたとは思っていませんから、明との和平交渉に際して 7 カ条の講和条件を考えました。即ち、明の皇女を日本の天皇に差し出すこと、足利時代のような通商を行うこと、京城附近の南部四道を日本に譲ることでした。

明では、秀吉を日本の王に任命すればいいのだろう位にしか考えていませんでした。

仲介する人物が皇帝の怒りを怖れて秀吉の条件を明に伝えませんでしたし、明の考えも秀吉には伝わりませんでした。明の下心は、和平が成立したら、日

本は明の属国になるというものでした。明や朝鮮からの使節は秀吉が出した講和条件7カ条の内容を知っているのに、明に報告しませんでした。明は秀吉に降伏状を出せというのに、秀吉には言い出せませんでした。

小西如安という大名が、使者として北京に赴いて交渉に当たりました。交渉の文書に「日本、封を求む」という言葉があることから、「日本は朝鮮や琉球と同格の属国だ」という認識を明に植えつけたものと思われます。明としては秀吉を日本国王に封するつもりでした。

如安が明に伝えたことは、秀吉を日本国王に封じること。日本は釜山、対馬から撤退すること。貿易を求めないこと。日本は朝鮮と共に明の属国になることであり、秀吉の言っていることと全く違うことを伝えたのです。

即ち、今日の日本の官僚と全く同じような、文書書き換えを行ったのです。

明はその内容を了承して、正式な講和の使者を日本に送りました。秀吉は大坂城で明の使者を迎えました。使者は天子の下す任命書(封冊)と金印、位の高い人の礼装用の冠と衣服(見服)を献上しました。秀吉は見服を身につけて使者を引見して、封冊を読ませました。

「ここに特に爾を封じて日本国王と為す」それを聞いた秀吉は烈火のごとく怒り、明が献上した冠と衣服を脱ぎ捨てると、「国王になど明の小せがれに任じてもらわなくともいい。そもそも日本には天皇がおわすことを知らないのか」と一喝しました。

明の使いを追い返して、秀吉は直ちに、朝鮮征伐を命じました。文禄の役は明侵攻が目的でしたが、第2次朝鮮出兵の目的は、礼を欠いた朝鮮を成敗することでした。

動員した兵士は前回の約半分、14000人ほどでした。

築城中だった蔚山城に、明軍の本隊40000人、朝鮮軍2500人が攻めてきて、警戒をおろそかにしていた日本軍はたちまち外郭を取られました。浅野長政と加藤清正が駆けつけました。まだ建設中で、兵糧を運びこんでいなかったため、飢えのため玉砕寸前まで追い詰められましたが、和平交渉で時間を稼いで

いるうちに毛利秀元らの援軍が現れて、背後から攻撃したので、明・朝鮮軍は、兵糧も武器も大砲も全部捨てて退却しました。

島津義弘は四川城に明軍を引きつけて、徹底的に打ち破りました。

当時の記録によれば、38077人の首を取ったと言われています。明・朝鮮軍は島津軍を「石曼子」と呼んで恐れ、日清戦争でも「石曼子」といえば支那人は怖がったといえます。

秀吉軍がそのまま明を倒し、朝鮮を占領する可能性もありましたが、1598年、秀吉は伏見城で病死します。毛利輝元、宇喜多秀家、前田利家、徳川家康の4大老は朝鮮からの引き揚げ命令書を出しました。

講和は諸将の判断にまかせ、本国の指令を仰ぐ必要はないというので、それぞれの武将が出先で講和を結びました。秀吉が死んだことは朝鮮も明も知りませんでした。どの武将も勝者として円滑に講和を進め、諸将は釜山に集まり、帰国することになりました。

ところが朝鮮の水軍が明の水軍とともに、引き揚げてくる日本軍を待ち受けていました。この水軍は日本軍撤退を知って、海上を封鎖したのです。そこへ引き揚げるつもりで合戦の準備を解いた島津軍が現れ、海上で待ち受けていた敵の大軍と遭遇したわけです。

島津軍は大苦戦の末、命からがら逃げた、という明の文書が残されていますが、島津側の武将は全員無事だったのに対し、明水軍は大量の戦死者を出して退却しました。島津の兵隊たちは得意の銃で応戦し、明の船に斬り込んだのです。

従ってこの海上戦では日本が勝利を収めたと言えます。明・朝鮮の報告書は、とにかく皇帝に褒められるために出すものですから、都合のいい嘘を書き連ね、10倍、20倍の誇大な戦果を報告していました。現に、明の兵隊は朝鮮人の首を切って日本人の首だと言っていますし、朝鮮人も同胞の首を取って日本人の首だと言って差し出しています。この戦いで、明の財政は悪化し、やがて滅亡しました

秀吉は日本史の中で一番の英雄と言っても過言ではありません。何しろ、足輕から身を起こし 関白太政大臣として日本全土を統治したのです。信長のように敵を潰すのではなく、相手を降伏させることを重んじました。秀吉にはある種の明るさがありました。

北野に大茶会を催し、衆楽第に 後陽成天皇の行幸を仰ぎ、醍醐に花見し、金銀を気前よく分け与えました。秀吉は比叡山延暦寺も高野山金剛峯寺も再興し、本願寺を優遇しました。大仏を建てたことも昇平の気分を世の中に作り出したことも、刀狩りを行って農民の武器を取り上げて、その鉄を大仏殿に使ったことも秀吉の気質を表す象徴的な事例です。

秀吉が晩年になって淀君に男の子を産ませたことが、彼の知力を曇らせることとなります。

秀吉の死には実に英雄らしからぬ死に方でした。「秀頼を頼みます、頼みます」と前田利家や徳川家康たちに泣いて頼みながら死んでいきました。最晩年の秀吉は惨めで情けない老人でした。そして、我慢に我慢を重ねていた家康によりやく出番がまわってきたのです。

関ヶ原の戦い

秀吉の死後、大名のなかで突出した実力を持っていた徳川家康の独走が目立つようになってきました。家康を抑えるだけの力があるのは加賀の前田利家のみでしたが、その利家が秀吉の死の翌年、後を追うように亡くなると、家康の権勢はいよいよ大きくなっていきました。

秀吉に可愛がられ、予てから家康と対立していた石田三成は、家康が会津の上杉景勝を討つために大軍を卒いて東上した機会を捉えて、毛利輝元を総大将にして家康打倒の兵を挙げました。

この報を聞いた家康はすぐさまとって返し、三成の西軍と美濃国関ヶ原で所謂「天下分け目の戦い」が行われることとなります。この「関ヶ原の戦い」に

家康はかろうじて勝ったとも言えますが、それまで秀吉に手堅く仕え、他の大名の面倒を見ていたのが勝因の一つでもありました。

西軍を卒いた石田三成は、秀吉の朝鮮征伐の時に、船奉行として朝鮮に送る任に当たり、追撃してくる明の大軍との戦いには、小早川隆景の大勝利に貢献もしています。

慶長の役では、秀吉死後の引き揚げ業務を遂行しましたが、内地にいたことが多かった三成は、難戦を経験した武将たちからは楽をしていたように思われ、両者の間には感情の対立が生まれていました。誰が見ても、西軍の有利に見えた関ヶ原の戦いも、小早川秀秋が裏切り、大坂城に入っていた西軍の総大将、毛利輝元が出陣しませんでした。もし、輝元が戦場に出れば石田方が勝っていたことは間違いありません。従って天下分け目の戦いは、勝つべくして勝ったというよりも、運が味方して勝ったというべきかもしれません。

この戦いで勝利が決まると考えた人は殆どいませんでした。しかし、現実には、殆どの大名が家康についてしまったのです。こうして徳川の世が始まりました。

安土桃山文化



関ヶ原布陣図

下級の武士や農民から身をおこした新しい大名が多く生まれると共に、商工業の活発な活動によって富を得た豪商も現れました。そうした新興勢力が支配的になると、文化の上にも大きな変化が現れて、清新で、しかも華やかな文化



小田原城

が栄えました。仏教色が薄れて、現実の生活を楽しむ雰囲気が強まったことや、南蛮文化が盛んに取り入れられたことも見落とせません。

建築は壮麗な石垣と天守閣を持つ城で代表され、城主の居館は豪華な彫刻や絵画で飾られました。大広間には障壁画が発達

し、狩野永徳や狩野山楽らが中心となって、金地に豊かな色彩を用いた濃絵が襖や昇風に描かれました。

京都・大坂・堺・博多などで活躍する富裕な町衆の文化も花開き、室町時代に始まった茶道・花道や能・狂言な



彦根城



姫路城



どが大いに流行しました。

特に茶道では千利休が佗茶の方式を完成したほか、織田有楽斎・古田織部らの大名も、それぞれ茶道の流派を開きました。茶席で用いられる茶碗も朝鮮出兵のとき諸大名が連れてきた朝鮮の陶工によ

って、有田焼・薩摩焼・萩焼・平戸焼などが始められ、優雅な趣きを持つものが作られました。

民衆の娯楽も豊かになり、17世紀初めには、出雲の阿国という女性が京都に現れ、男装して刀をさすという変わった姿の踊りを始めました。この踊りは歌舞伎と言われて、人気を



集めました。三味線を伴奏にして人形を操る人形浄瑠璃も流行し、各地で盆踊りが盛んに行われるようになりました

日常生活にも変化が起こり、京都などでは2階建ての民家がで



き、屋根には瓦が使われました。衣服では女性の小袖の着流しが普通になって、髪を結び、男性も烏帽子は

南蛮衣装

かぶらず、まげを結うようになりました。

南蛮貿易が盛んになると、庶民の中にも南蛮風の衣服を身につけたり、カステラ・コンペイトウ・パンなどの南蛮菓子を食べたり、タバコを吸うようになりました。宣教師たちは、天文学・医学・地理学などの実用的な学問を伝えたほか、活字印刷技術・油絵や銅版画の技法をもたらし、日本人の手によって南蛮屏風が描かれるようになりました。「平家物語」「伊曾保物語」などが活字印刷されました。

江戸時代



徳川家康

1603年、徳川家康は征夷大將軍となり、京都ではなく、江戸に幕府を開きました。

家康は將軍になった5ヶ月後に、秀吉との約束を守って孫娘の千姫と秀頼を結婚させ、自らは秀頼の後見人となって、豊臣恩顧の大名を安心させました。

ところが秀頼が方広寺大仏殿を再建し、その開眼供養が間近に迫った頃、鐘の銘に「国家安康 君臣豊楽 子孫殷昌」と書いてあるのを見た家康が激高しました。これは家康の名前を分断して記載することによって徳川家を滅ぼし、豊臣家の子孫繁栄を図る意味だと

する言いがかりをつけて、大阪冬の陣が始まりました。

大阪城は秀吉が知恵と財力を惜しみなく注いで作った天下の名城ですから、1年攻めても落とすことはできませんでした。そこで和睦を提案する際に策略を巡らせて、大阪城の外堀を埋めて、裸同然にしてしまいました。豊臣側は抗議したものの時既に遅く、翌年の夏の陣で大阪城は落ちてしまいます。



大阪夏の陣



徳川家光

江戸幕府の制度は、3代将軍家光の時代にはほぼ出来上がり、国家・社会の仕組みは、将軍と大名とが強力な領主権を持って、土地と人民とを支配する幕藩体制が整備されました。将軍は旗本や御家人という直属の家臣団を多数かかえ、諸大名をはるかにしのぐ強大な軍事力を持っていました。財力の面でも、天領とよばれる将軍の直轄地が

17世紀末に400万石に達していた他、江戸・京都・大坂・長崎などの重要都市や、佐渡・伊豆・但馬生野・石見大

森などの金・銀山を直轄にして貨幣の鑄造権を握り、諸大名の財力を大きく上まわっていました。幕府の職制では、譜代大名が老中・若年寄などの要職につき、旗本は町奉行・勘定奉行などの役職につきましたが、主な役職には2名以上を任じて月番交代で政務をとらせ、権力の独占ができにくいようにしてありました。

将軍の配下にいる1万石以上の領地をもつものを大名と呼び、大名が支配する領域を藩と呼びました。御三家など徳川氏一門の大名を親藩、初めから徳川氏の家臣であったものを譜代、関ヶ原の戦いの前後に徳川氏に臣従した大名を外様と呼びました。幕府は大名の配置に意を配り、特に外様大名の動きを警戒しました。

武家諸法度は将軍の変わる度



参勤交代

に少しずつ改められ、3代将軍家光の時から参勤交代が加えられました。大名は、原則として、1年おきに1年間、江戸に留まり、その間妻子は人質として江戸に住むことになりました。大名は、石高に応じて一定数の兵馬を用意したり、江戸屋敷を構えて、多くの家臣を常駐させなければならない上、多数の家臣や従者をつれて江戸と領国を往復したので、財政上大きな負担となりました。

近世の社会では、いわゆる士農工商と呼ばれる身分の別がたてられました。それは幕藩体制をかため維持してゆくためのもので、武士は四民の最上位におかれ、苗字・帯刀の特権を許され、農民や町人の無礼に対して切捨御免が認められることもありました。農民は貢租の担当者として重視されましたが、そのために生活の規制もきびしく、都市に住む職人や商人は社会的には一段と低い身分にされましたが、統制は比較的緩やかでした。

このような身分差を設けたのは、農工商の人々に、武士が支配する不満をまぎらわせようとしたものと考えられます。幕府や諸藩は近世を通じて、身分差別が動かせないものであるように人々に思いこませていきました。近世社会では多くのことが家を単位に考えられ、家の中では、家長や、家長の後を継ぐ長男の立場がはるかに強く、結婚は家の存続のために結ばれるものと考えられていたので、妻の地位は低く、古代から続いていた女性優位の社会が大きく変わりました。

1637年に起きた島原・天草一揆を機会に、キリスト教の弾圧が強まり、徳川幕府は外国船の入港を徐々に制限して、1641年にオランダ人を長崎の出島に移して、3代将軍家光の時代に鎖国しました。実際は長崎を通して



長崎の出島

世界の情勢を把握しながら、日本は外国から干渉されない固有の国家の中で、独自の文化を発展させていったのです。

九州の諸大名にはキリスト教を保護する者もあり、代々藩主がクリスチャンだった大村藩では、アメリカ藩の存続を守るために、全ての教会を日蓮宗の寺院に改装し、境内の敷石も決して十字



水戸光圀

に交わらないように配慮したと言われています。しかし代々の領主の墓には、一見分からない場所に十字架が彫られています。

儒学の合理的、現実的な考え方は、本草学・医学・数学・天文学などの自然科学の発達も促しました。和算の関孝和は円周率や円の面積・筆算・代数などに優れた研究成果をあげ、渋川春海は天文学や暦学を学び、元の授時暦を基に新しい暦をつくりました

歴史学や国文学の研究にも実証的な態度がみられ、山鹿素行が古文書を引

用して「武家事紀」を表し、新井白石は「読史余論」で武家政権の発展を段階的に考察する独自の史論を展開しました。

1657年、水戸光圀による大日本史の編纂が開始されますが、これが完成したのは、1906年です。この本では、南北朝時代の南朝を正統な皇位としており、幕末の尊王攘夷に大きな影響を与えました。

5代将軍綱吉の時代に、元禄文化が花開きました。平和な時代が続き、経済が発展し、町人たちも裕福な生活を謳歌することができました。綱吉が「生類憐みの令」を出したのも、平和な時代であったからかもしれません。

農業は近世になってめざましい発達をとげました。幕府や諸藩が新田開発を積極的に進めた結果、各地で広域にわたる灌漑施設がつけられ、越後の紫雲寺潟新田など新しい耕地がひらかれました。初期には富力のある農民が開



元禄文化

発に当たりましたが、後には町人が資本を投じて大規模に進めました。武蔵野に水を供給した玉川上水・見沼代用水や、箱根芦ノ湖の水を駿河方面に引いた箱根用水などがよく知られています。農業技術の面では、作物の品種改良や肥料の使用が進み、農具の改良・発明によって農作業の飛躍的な効率化が図られました。

海に囲まれた日本では漁業が各地で行われていましたが、特に網を用いる漁法が発達して、捕鯨業などが紀伊から各地に広まっていきました。土佐沿岸の鰹漁、五島の鮪漁、九十九里浜の鰯の地引網なども有名です。瀬戸内海で生産された塩は全国に送られました。

鉱山の開発も進み、特に佐渡や伊豆の金山、石見や生野の銀山、別子や足尾の銅山などが知られています。

京都の西陣では、18世紀になると国内産の生糸が多く生産されるようになり、西陣の技術が各地に伝えられました。醸造業では、近世になると、それまでのにごり酒に代わって清酒を作る技術が生まれ、伏見・池田・灘・伊丹などが名産地となりました。瀬戸・九谷・有田など優良な陶土の得られるところでは大量の陶磁器がつけられました。



松尾芭蕉



井原西鶴

幕府の全国支配や商品流通の進展につれて、全国的な交通網が整えられていきました。そのうち東海道・中山道・日光道・奥州道・甲州道の五街道は幕府が直轄にして、宿泊・運輸・通信のための施設を整えました。街道には宿場がつくられ、大名たちが利用する本陣や、一般旅行者のための旅籠屋・茶店・商店などが軒を並べました。

元禄文化を特徴づけるのは人間性の追求をめざした町人文芸です。連歌から起こった俳諧は17世紀半ばには奇抜な趣向をねらう西山宗因の談林風が流行したのち、松尾芭蕉がでて幽玄閑寂を旨とする蕉風俳諧を確立させました。芭蕉は歌人の西行や連歌師の宗祇のように旅に生き、諸国を巡りました。なかでも奥羽



近松門左衛門

地方から北陸を巡る 600 里に及ぶ旅は、「奥の細道」という紀行文にまとめられました。大坂の町人であった西鶴は、初めは談林風俳諧で名を知られましたが、やがて浮世草子と呼ばれる小説に転じて、人間の愛欲本能を赤裸々に描き出した「好色一代男」などの好色物や、町人の金銭をめぐる悲喜劇とも言える「日本永代蔵」や「世間胸算用」などで人気を集めました。

芭蕉・西鶴に少し遅れてでた近松門左衛門は、若いころに京都に住んでおり、当時、上方では人形浄瑠璃が盛んでした。近松はその浄瑠璃・歌舞伎の脚本を書いていましたが、「曾根崎心中」などの実話をとりあげた世話物や、歴史上のことがらを題材にした「国姓爺合戦」は大きな人気を博しました。江戸初期に女歌舞伎が風俗上の理由で禁止されて、男優だけの野郎歌舞伎として上演されました。



日光東照宮

このころの歌舞伎はまだ人形浄瑠璃ほどの人気はありませんでしたが、江戸の市川団十郎や上方の坂田藤十郎らの人気役者もいました。

幕府が多額の費用を投じて造営した日光東照宮を始めとする霊廟建築が流行し、狩野派の絵画も幕府や大名の御用絵師となって繁

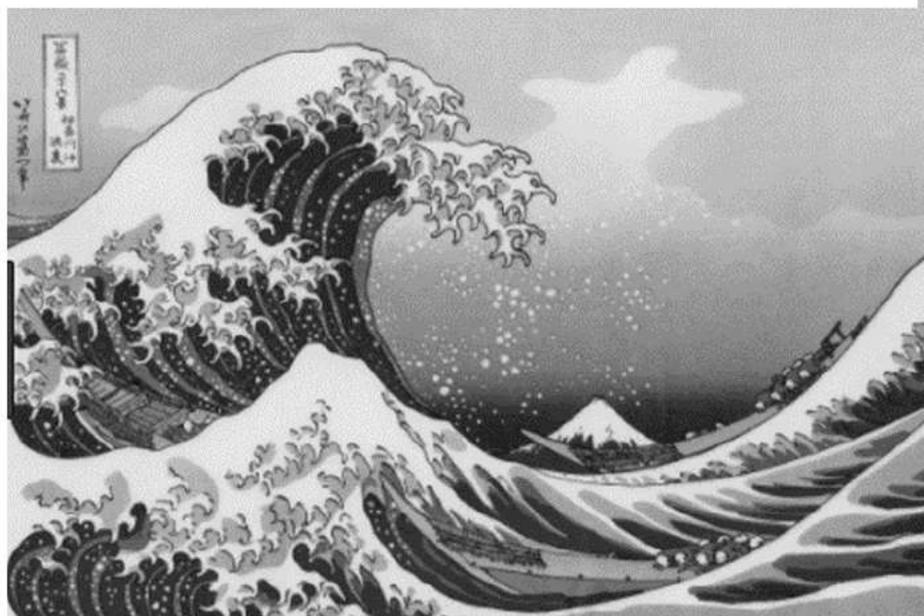
栄していました。

しかし、その一方で、伝統的な公家文化の流れをひく優雅な美術も健在でした。書院造に茶室を取り入れた簡素な数寄屋造の桂離宮の書院は、その代表とも言え、京都の上層の町衆で多才な文化人として知られる本阿弥光悦は絵画・蒔絵・陶芸・書道など、あらゆる方面に独創的な才能を発揮しました。土佐派の画法を基に、独特のやわらかみのある装飾画の新様式を生み出した俵屋宗達もこの頃の人です。

禄時代にわたる尾形光琳は書画の教養も深く、蒔絵にも優れていました。その系統の絵を琳派と呼びますが、宗達の画法を取り入れ、装飾的な表現を強くあ



桂離宮の書院





らわして上層町人の間で人気がありました。

陶芸では、17世紀前半に有田焼の酒井田柿右衛門が赤絵の磁器に成功したあとをうけて、京都に野々村仁清、尾形乾山が現れ、高雅な色絵の陶器を作りました。染物では京都の宮崎友禅が友禅染を始め、綸子や縮緬の生地に華やかな模様を表して、大いに流行しました。

しかし、何といたっても新しい境地を開いたのは浮世絵です。

葛飾北斎、喜多川歌麿、歌川広重、菱川師宣などは、江戸の風俗を画材とした絵を描き、浮世絵と名づけました。

1枚だけの肉筆画は高価で、庶民の手に入りにくかったので、肉筆画のほかに、同じものを何回も刷ることのできる木版画を作って、絵本や1枚刷りにして売らだして、町人の人気を集

めました。

華やかな文化の恩恵を受けたのは富を蓄えた町人たちで、元禄模様などの華美な絹の衣装を身につけて、2階建て・瓦屋根の家に住み、劇場にでかけて人形浄瑠璃や歌舞伎を楽しむ人で溢れました。

その平和な元禄時代に起こった大事件が、赤穂浪士の仇討です。

その荒筋については、改めて説明する必要はありませんが、刃傷行為そのものについては賛否両論があります。



忠臣蔵

アメリカは占領政策

としてこの忠臣蔵を禁止しましたが、日本人は復讐心が強いと考えて、原爆投下の復讐を恐れたのかもしれない。しかし現実の日本社会では、復讐はレアケースであり、水に流すという習慣が定着しています。レアケースであるがゆえに、この事件が日本でいつまでも語り継がれているのかも知れません。

1716年、徳川吉宗は八代将軍に就任し、享保の改革を行いました。武道を奨励し風紀の乱れを厳しく取り締まりました。約40年間続いた元禄文化はこれで終わりを告げました。スキャンダルを防ぐために大奥の女性を大量整理したため、江戸城の風紀は改善されました。

経済政策として、大名から1万石につき100石を課税したり、新田開発を進めて、14年で幕府の財政を再建しました。しかし米が増産されることによって価格は下がったので、米の価格が戻るまで借金を返す必要はないと言う徳政令をだしたため、経済に大混乱が起きました。武士と商人の間に金銭貸借に関する裁判が急増したため、相对済令が出されました。従って、享保の改革は武士にとっては善令、庶民にとっては悪令とされています。



江戸の人口は18世紀初頭には300万を超えたといわれ、大江戸八百八町と呼ばれる世界一の大都市でした。同じ頃のロンドンの人口は50万位といわれて

います。

江戸が栄えたのは、井戸水や川の水だけに頼らず、何十里という長さの上水道を、僅かの勾配を利用して江戸まで引いてきて、江戸の町民がそれを自由に使えたのです。このような都市は世界に例がありませんでした。江戸は上水があるうえに、排泄物はすべて畑に返したため、非常に清潔でした。「江戸に廃物なし」といって、捨てる物は何もなかったといわれるほどでした。

さらに新田開発が進み、米の耕作面積は2倍に、収穫量は4倍になりました。町人は、同業組合を組織して金を集め、支配階級だった武士よりも豊かで、街は文化財に溢れていました。町人が江戸に繁栄をもたらし、空威張りする武士は、質素な生活を送り、金に困ると頼ったのは町人であり、審美眼を持っていた裕福な町人が、豪華絢爛な文化を生むことに貢献しました。

江戸時代には、土農工商の身分制があったものの、侍だからといって、威張りませんでした。神道は、八百万の神々が横並びになっている水平な宗教です。

日本では昔から、身分を超えて酒を酌む、無礼講が行なわれていました。無礼講は身分の上下の別なく、日常の身分差を忘れて行なう宴のことです。ヨーロッパでも、支那でも、朝鮮でも、階級間の差別が厳しく、身分を超えて酒席に連なったり、交わるようなことは、ありませんでした。今日でも、アメリカ

やヨーロッパでは、はっきりとした階級差別があって、エリート階級の者と、労働階級の者が、社交的に同席することはありません。

江戸時代には、武士も、庶民が催す句会や、連歌の会や、茶会に参加する時には、長脇差を差しませんでしたし、武士は遊郭でも、帳場に両刀を預けてから、上がらなければなりませんでした。シェイクスピア劇の登場人物が、すべて王侯貴族であるのに対して、浄瑠璃、歌舞伎狂言の劇作家として著名な近松門左衛門の主人公は、みな庶民たちです。江戸時代は、庶民の時代であり、「侍とても貴からず。町人とても賤しからず。貴い物は比の胸一つ」と記しています。また井原西鶴は「一切の人間、目あり鼻あり、手足も変わらず生れ付て、俗姓、筋目にもかまはず、ただ金銀が町人の氏系図になるぞかし」と書いています。庶民は経済力によって、武士に対抗する力を持っていましたが、人が平等であることを、意識していたのです。

当時、世界で最大の首都だった江戸は、絵画や舞台芸術の世界でも、極めて高い芸術性を有し、歌舞伎や浄瑠璃といった芸能も、浮世絵などの芸術も、すべて庶民のものであり、庶民文化がこれほどまでに栄えた国は、世界のどこにもありませんでした。歌舞伎は、庶民の感覚と風俗を映した大衆劇であり、その豪華絢爛さは、世界で抜きんでていました。浮世絵は庶民芸術であり、歌麿、写楽、北斎、広重などの浮世絵は、19世紀後半のヨーロッパに衝撃的な影響を及ぼしました。

東京と大坂を結んだ東海道は、おびただしい数の旅人によって溢れ、1000軒を超える旅籠がありました。出版についても、庶民の識字率が、世界で最も高かったので、木版印刷による出版業と、貸本屋が繁栄しました。浮世絵も大量に刷られて、庶民を楽しませ、売れっ子の浮世絵作家による作品が、飛ぶように売れました。

江戸の治安維持を行っていた同心は100人位くらいしかおらず、南町奉行所、北町奉行所に配備された与力の数はわずか25騎であり、300万の人口を考えれば、この人数の少なさは驚きであり、治安の良さを物語っています。

幕末から明治初めにかけて数多くの外国人が来日していますが、皆が感嘆しているのは江戸の町が清潔なことで、泥棒がないことです。アメリカの動物学者、モースは、治安の良さについて、日本の旅館の部屋にはドアがない。机の上に財布を置いて旅行に行っても、盗まれずにそのままあったと、手記に書いています。



北町奉行所

江戸時代は商業が大いに発達しました。平和な時代が続いて、他国から攻められる恐れも全くなかったため、産業を振興して隣の藩に負けないようにと競争をするようになりました。

共同体のなかで、互いに気持ちよく生きてゆくためには、自己中心のではありません。尊重しあうことが大切になります。江戸時代の300年に及ぶ平和のなかで、そうした共同体の生活のルールが、今日まで続く日本人の精神性を作ってきました。江戸では町人の75%が、長屋に住んでいました。長屋は同じつくりの小さな家をつなげて、一棟としていました。薄い壁だったので、隣りを気遣う必要がありました。人々は長屋全体が家族のように、子どもたちを世話し、悪



寺子屋

さをすると、自分の子も他人の子も別け隔てなく叱りました。

日本では、庶民の教育水準が高く、全国にわたって寺子屋が、20000軒あまりありました。少年男女のほぼ全員が、読み書き、算盤、行儀のほか、農業、漁業など地元の産業について学びました。当時の教科書であった往来物が、7000種以上も残っています。

寺子屋はすべて、地元の人々の手作りであって、幕府や藩には、教育を担当する役人は一人も存在しませんでした。この他に、おびたしい数の私塾が存在しており、身分にかかわらず、向学心がきわめて旺盛でした。

幕府は社会秩序を維持するために、士農工商の四身分制をとりましたが、庶民は武家の株を買って武士になれましたし、農工商のあいだの区分は、ほとんどありませんでした。



江戸時代の大坂

商業の中心地として栄えたのが大坂であり、全国の商品が大坂に集まって捌かれました。江戸だけが日本の中心ではなく、大坂というもう一つの中心地ができたのです。大坂は幕府の直轄領であったため、非常に自由度が高い町でした。そこで全国各地から商品が集められて、大経済圏ができました。

当時は陸上交通がまだ不便であったため、山形庄内の米などは港に集められ、そこで船積みされて、いわゆる北前船として、日本海を進み、関門海峡から瀬戸内海に入って、大坂に運ばれました。

大坂には各大名の米蔵ができて、米の相場が立って、1717年、大坂堂島に世界最初の先物取引の市場ができました。イギリスのリバプールに綿花の取引所ができたのは、それから、かなり経ってからです。

田沼意次は、低い身分から異例の出世を遂げて、老中になりました。この時代は、江戸の歴史上、最も評判悪くて、賄賂と汚職の時代とも言われています。

然し、この時代は学問が栄えた時代でもありました。杉田玄白が解体新書を発行し、本居宣長は古事記伝を現しました。近世日本文学の代表作と言われる上田秋成の雨月物語が出版され、俳諧では与謝野蕪村が登場しました。狂歌や川柳が盛んになり、鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎などの浮世絵が普及しました。また、石田梅岩を開祖とする石門心学が広まりました。田沼意次にとって予想外な事は、老中在職中 15 年に亘って、世界的な異常気象のために、川の凍結、氾濫、火山の噴火、地震や津波、大飢饉などの大災害が頻発したことです。

国学と蘭学という新しい分野の学問が生まれました。

国学の分野において、幕末の尊皇思想の中で最も影響力があった歴史家は頼山陽です。日本の歴史に詳しく、若い頃から日本外史を書き始めました。更に、神武天皇から秀吉の第 2 次朝鮮出兵までの歴史を纏めた日本政記を書きました。戦前の日本の歴史書の殆どは、この 2 冊の本を基にして書かれたと言われています。

世の中が再び自由を取り戻して江戸文化最後の爛熟期が文化文政の時代です。十返舎一九の東海道膝栗毛、曲亭馬琴の南総里見八犬伝などの本が出版されました。

蘭学の分野では、オランダの医師、シーボルトが鳴滝塾を開いて、多くの蘭学者を育てました。杉田玄白と前野良沢の存在も忘れてはなりません。オランダ語の人体解剖書、ターヘル・アナトミアを翻訳して、解体新書を発行して医学に大きく貢献しました。

天保の改革が失敗して、水野忠邦が失脚して 10 年後の 1853 年に、300 年という、世界に例を見ない平和な日本に襲い掛かったのがペリーです。

ペリーの開国要求は強硬にして執拗だったので、幕府のみでは対処しきれなくなって、諸大名に対応を相談しました。相談をされた大名たちはそれぞれ勝

手な意見を述べました。その結果、国政を合議制で決定しようという「公議輿論」の考え方が広がり、幕府の権威を下げることになりました。

この和親条約によって、下田と函館の2港が開港されることになりました。

井伊直弼が孝明天皇の意に反して、アメリカと和親条約を結んだことに反発する尊皇攘夷運動が起きました。この反対派をことごとく弾圧したのが安政の大獄です。前水戸藩主・徳川斉昭が蟄居され、近藤茂左衛門、梅田雲浜、橋本左内らが逮捕され、吉田松陰が死刑になりました。

藩主・斉昭の蟄居に反発した水戸藩士は、桜田門で井伊直弼を殺害しました。江戸幕府最高の重責を担った大老が、城門で、20人足らずの藩士に殺されたことは幕府の権威が失墜したことを示す大事件でした。



桜田門の変

攘夷の気運が高まるな

かで、外国人殺傷事件もしばしばおこりした。1862年には神奈川に近い生麦で、薩摩藩士がイギリス人を殺傷する生麦事件がおこり、翌年イギリス艦隊がその報復として鹿児島を砲撃するという事態に発展しました。幕府も急進派の動きにおされて諸藩に攘夷決行を命じて、長州藩では下関の海峡をとおる外国船を砲撃しました。しかし朝廷内では、保守派の公家が会津藩とむすんで、1863年、武力を用いて三条実美ら急進派公家と長州藩の勢力を朝廷から残らずしりぞけたました。長州藩は翌年、池田屋事件をきっかけに京都に攻めのぼりました。薩摩、会津両藩は協力してこれを打ち破った結果、長州藩は、幕府の征討を受けることになりました。同じころ、イギリス・アメリカ・フランス・オランダの四国連合艦隊は、長州藩のおこなった外国船砲撃の報復とし、下関に攻撃

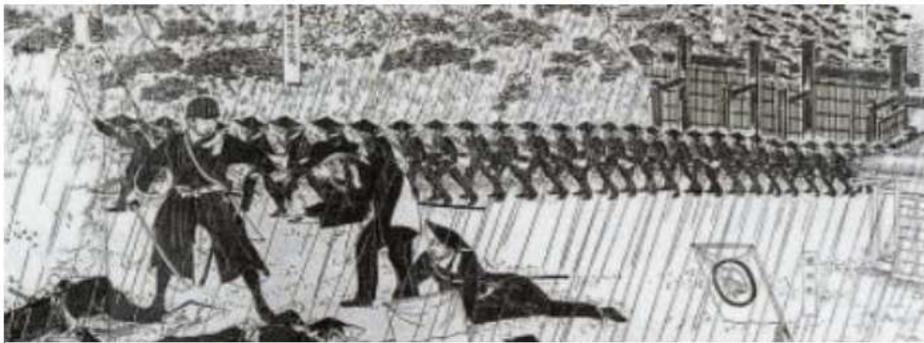
を加えました。窮地にたった長州藩は、4カ国の連合軍に和をこい、また幕府にも姜文恭順の態度を示した。

列強は日本国内の混乱に乗じて、1865に兵庫に艦隊をおくって条約の勅許をえ、翌年には幕府に改税約書を調印させ、自国に有利な税率にあらためた。このころイギリスの駐日公使パークスは、幕府の国内統治能力に疑問をいだき、対日貿易発展のために、天皇を中心とする薩摩藩などの雄藩連合政権の実現に期待をかけるようになった。

桜田門の変から2年後の1867年に、徳川慶喜は大政奉還を申し出ました。直ちに、王政復古の大号令が発せられ、京都御所内で小御所会議が開かれました。明治天皇も出席した御前会議でした。この会議に出席していなかった徳川慶喜を巡って、議論が噴出しましたが、「慶喜がこの会に列席するためには、まず慶喜自身が恭順の意を表して、全ての領地を差し出して官位を捨てるのが条件。」という結論に達しました。

慶喜はいったん大坂城に退きますが、公議政体派の山内容堂、松平春嶽、徳川慶勝らの工作によって、小御所会議の決定は骨抜きにされ、また慶喜も諸外国の公使に対して外交権の継続を宣言するなど、次第に列侯会議派の巻き返しが顕著になってきました。

大坂城内の強硬派から大政奉還に反対して、薩摩を討つべしという主戦論が沸騰し、幕府軍と薩摩藩兵と衝突して、戦闘となったのが、鳥羽・伏見の戦いです。しかし朝廷は薩摩・長州藩兵側を官軍と認定して錦旗を与え、幕府軍は



鳥羽・伏見の戦い



徳川慶喜

朝敵となってしまったため、戦局は幕府軍が劣勢に陥ります。更に、淀藩や津藩などが幕府軍から離反したので、慶喜は軍を捨てて大坂城を脱出、軍艦開陽丸で海路江戸へ逃走しました。このようにして、鳥羽・伏見の戦いは幕府の完敗で終幕しました。

新政府は直ちに、徳川慶喜追討令を発して、慶喜・松平容保・松平定敬を初め幕閣など 27 人の官職を剥奪して、京都藩邸を没収するなどの処分を行いました。諸藩に対して兵を上京させるよう命じ、諸外国の代表に対して、徳川方に武器・軍艦の供与や兵の移送、軍事顧問の派遣などの援助を行わないよう要請し

ました。

江戸城西の丸に入った慶喜は、今後の対策を練りました。新政府による徳川征伐軍の襲来が予想されるこの時点で、徳川家の取り得る方策は、徹底抗戦か、恭順かの二つの選択肢しかありませんでした。

陸軍奉行の小栗忠順や、軍艦頭の榎本武揚らは主戦論を主張しましたが、恭順の意思を固めつつあった慶喜はこれを受け入れず、江戸の諸藩主を招集して、恭順の意を伝えて協力を要請しました。

新政府側でも慶喜に対して厳しい処分を断行すべきとする強硬論と、穏当な処分で済ませようとする寛容論の両論が検討されました。薩摩藩の西郷隆盛や大久保利は慶喜の切腹を求めています。東征軍の目的は単に江戸城の奪取だけではなく、徳川家の断絶を要求していました。その一方で、長州藩の木戸孝允・広沢真臣・山内容堂・松平春嶽・伊達宗城らは徳川慶喜個人に対しては寛容論をとなえました。

新政府はすでに東海道・東山道・北陸道の三道から江戸を攻撃する体制を整えて、大総督府参謀には正親町公董・西四辻公業が、下参謀には強硬派の西郷

隆盛と林通頭が補任されました。大総督府の軍議において江戸城進撃の日付が決定されましたが、同時に、慶喜の恭順の意思が確認できれば一定の条件でこれを容れる用意があることも示されました。この頃にはすでに西郷や大久保利通らの間にも、慶喜の恭順が完全であれば厳罰には及ばないとの合意ができていたと思われま

す。幕府軍は次々と江戸から敗走しますが、下野国築田で東征軍と戦って敗れた部隊や新選組の近藤勇・土方歳三らも甲陽鎮撫隊と称して、甲州街道を進撃し、東征軍を迎撃しようと試みましたが、勝沼で東征軍に敗れて、下総流山に転戦しました。

これらの暴発は、陸軍総裁・勝海舟の暗黙の承認や支援を得て行われており、いずれも兵数・装備の質から東征軍には全く歯が立たないことを見越したうえで出撃していました。また、恭順路線に不満を抱いた主戦派を江戸から排除することを目的とする意味もあったと思われま

す。差し迫る東征軍に対し、寛永寺で謹慎中の徳川慶喜を護衛していた山岡鉄舟が、駿府まで進撃していた大総督府に赴くことになりました。勝は山岡とは初対面でしたが、意気投合して、西郷への書状をしたためました。山岡は駿府へ急行し、西郷隆盛が宿泊する旅館に乗り込んで、西郷との面談を求めました。

すでに江戸城進撃の予定は決定していましたが、西郷は勝からの使者と聞いて山岡と会談を行い、山岡の真摯な態度に感じ入り、交渉に応じました。ここで初めて東征軍から徳川家へ開戦回避に向けた条件提示がなされました。江戸城総攻撃の回避条件として西郷から山岡へ



山岡鉄舟



勝海舟

提示されたのは以下の7箇条でした。

徳川慶喜の身柄を備前藩に預けること。

江戸城を明け渡すこと。

軍艦をすべて引き渡すこと。

武器をすべて引き渡すこと。

城内の家臣は向島に移って謹慎すること。

徳川慶喜の暴挙を補佐した人物を厳しく調査し、処罰すること。

暴発の徒が手に余る場合、官軍が鎮圧すること。

山岡は他の六箇条は受け入れるが、第1条だけは絶対に受けられないとして断固拒否しました。西郷も山岡の立場を理解して折れ、第1条は西郷が預かる形で保留となりました。

山岡はこの結果を持って江戸に帰り、勝に報告しました。西郷も山岡を追うように駿府を発って、江戸薩摩藩邸に入りました。江戸城への進撃を予定されていた日の僅か2日前の出来事でした。

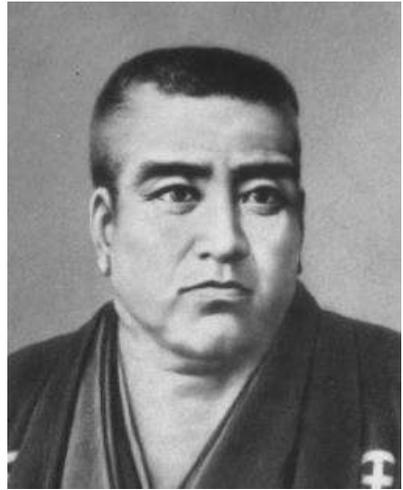
山岡の下交渉を受けて、徳川家側の最高責任者である勝海舟と、西郷隆盛との江戸開城交渉は、薩摩藩江戸藩邸において行われました。

勝と西郷は大坂で面会して以来の旧知の仲であり、西郷にとって勝は、新政権の構想を教示された恩人でもありました。この間に、板垣退助が八王子駅に到着。同じく伊地知正治と岩倉具定も板橋に入って、江戸城の包囲網は完成しつつあり、緊迫した状況下における会談となりました。

しかし西郷は血気にはやる板垣らを抑えて、勝との交渉が終了するまでは厳に攻撃開始を戒めました。

第1回交渉では静寛院宮の処遇問題と、以前山岡に提示された慶喜の降伏条件の確認がおこなわれました。

第2回交渉では、勝から先般の降伏条件に対する回答が提示されました。



西郷隆盛



五稜郭の戦い

徳川慶喜は故郷の水戸で謹慎する。

慶喜を助けた諸侯は寛典に処して、命に関わる処分者は出さない。

武器・軍艦はまとめておき、寛典の処分が下された後に差し渡す。

城内居住の者は、城外に移って謹慎する。

江戸城を明け渡しの手続きを終えた後は即刻田安家へ返却を願う。

暴発の士民鎮定の件は可能な限り努力する。

これは、以前に山岡に提示した条件に対して全くの骨抜き回答であり、事実上拒否したに等しいものでしたが、西郷は勝を信頼して、翌日の江戸城進撃を中止し、自らの責任で回答を京都へ持ち帰って検討することを約束しました。

このようにして、江戸城無血明け渡しが決定的になりました。この日、京都では天皇が五箇条の御誓文を發布して、明治国家の基本方針が示されました。

海軍副総裁の榎本武揚は徳川家に対する処置を不満とし、約束の軍艦引き渡しを断固拒否していましたが、徳川慶喜が寛永寺から水戸へ移った日、抗戦派の幕臣らとともに幕府艦隊7隻を率いて品川沖から出港し、館山沖に逃れました。勝の説得により艦隊はいったん品川に戻り、新政府軍に4隻を渡すことで妥協しました。

その後も再三にわたり勝は榎本に自重を求めましたが、徳川家に対する処分に不服の榎本はこれを聞かず、結局、軍艦8隻を率いて東征軍に抵抗する東北諸藩の支援に向かいました。後に榎本らは函館の五稜郭を占拠し、最後まで新政府軍に抵抗しました。

不満を持つ旧幕臣を中心に結成された彰義隊は、江戸の各地において、新政府軍と衝突を繰り返しました。西郷はその事態を憂慮し説得を続けましたが、

彰義隊は一向に耳を傾けようとはしませんでした。京都の朝廷から派遣されてきた長州藩士の大村益次郎が、上野に結集した彰義隊約 3000 人に対して総攻撃が開始されました。全軍の指揮を執ったのは大村で、西郷は最も激戦地となった黒門口の攻撃を薩摩兵の隊長として担当しました。新政府軍と彰義隊との戦いは、大村の作戦が功を奏し、新政府軍の完全勝利に終わりました。

当時鎖国状態を保っていた朝鮮に対して、日本との国交を促す国書を何回も送りましたが、突き返され、更に、朝鮮に滞在する日本人居留民を侮辱するような文書が流れました。板垣退助は速やかに兵を派遣する征韓論を主張しましたが、西郷は板垣の出兵策に対して、真っ向から反対の意見を述べました。

西郷は、武力で朝鮮を支配するのではなく、使節団を派遣して平和的に解決すべきであると主張し、西郷が正式に朝鮮へ派遣する全権大使に任命されることになりましたが、岩倉具視がこの文書を無視しました。

西郷は政府に辞表を提出して、鹿児島へ帰郷しました。西郷を慕う陸軍少将の桐野利秋や篠原国幹ら旧薩摩藩出身の近衛兵や士官たちは、西郷に付き従うかのように相次いで辞表を提出して、続々と鹿児島に帰郷しました。

西郷は、政治的なことには一切関わらず、温泉に湯治に出かけ、農耕に励み、魚釣りや狩猟に勤しむなど、俗事から離れた生活を始めました。

その後西郷は、鶴丸城の厩跡に私学校を設立しました。砲隊学校・銃隊学校・幼年学校からなる、私立の学校で、鹿児島に帰郷した若者たちの受け皿として教育機関を設立したのです。西郷は、ロシアや欧米列強諸国の軍事的な脅威に備えるため、軍隊の養成機関とも言える私学校を設立し、いざ日本に国難が迫った際には、そこで育てた人材や兵士を活用させることを考えていました。

政府にとって、明治維新最大の戦力となった旧薩摩藩士族の動きは最も気にかかる場所であったため、西郷が創設した私学校の動きを監視するために、密偵を送り込んで、西郷暗殺を計画しました。これを知った一部の志士が、陸軍の火薬庫を襲撃したことが発端になって、西南戦争が始まりました。

西郷は約 13000 名の旧薩摩藩士族を率いて反抗しました。熊本城を幾重にも包囲して激しい攻撃を加えましたが、天下の名城と謳われた熊本城をついに陥落させることが出来ず、田原坂や吉次峠などで激しい戦闘を繰り広げました。

しかし、圧倒的な兵力と物資を誇る政府軍に対し、薩軍の敗戦は濃厚となり、追い詰められていきました。

薩軍は和田越における決戦で大敗を喫したので、正式に軍を解散し、生き残った薩軍将兵らと共に鹿児島に向かって引き返しました。

故郷鹿児島で最後の決戦を行なおうと考えたのです。峻険な城山を占領し、土塁を積み上げ、陣地を作り上げました。政府軍もまた、兵士を増強し、城山を幾重にも包囲しました。政府軍は総攻撃を始め、城山に向けて集中砲火を浴びせかけました。

一発の銃弾が西郷の体を貫き、その場にながっくりと膝を落としました。西郷は切腹し、傍らにいた別府晋介が介錯をして、幕末最後の戦い西南の役は終わりました。

大久保利通は、京都には旧弊が多いとして大阪遷都論を政府へ提出し、木戸もこれに強く賛同していましたが、これには公家などから反対が多く、遷都論は燻り続けていました。そんな中、江戸城が無血で新政府の管轄に入ったことは、遷都先として江戸が急浮上することに繋がりました。



西南戦争 城山の戦い



年号が明治と改元され、明治天皇が東京行幸に出発して江戸城に到着されました。同時に名を東京城と改められ、東京行幸の際の皇居と定められました。この後、再度の東京行幸が行われると共に、首都機能が京都から東京へ次々と移転されて、事実上、東京が首都と見なされるようになり、東京城はやがて宮城と呼ばれるようになりました。

明治時代



明治天皇

安政五年、当時の幕府はアメリカ・イギリス・フランス・ロシア・オランダと通商条約を結んで正式な国交を持つようになりました。

開国に当たって、列強諸国が日本に押し付けた**不平等条約**は、輸出国の承認なしには関税の変更ができないこと、犯罪人に対して日本の法律が適用できない治外法権でした。

治外法権が撤廃されたのは、日清戦争後であり、不平等関税が撤廃されたのは日露戦争後のことです。

初期の日本の近代化はイギリスの影響を大きく受けましたが、明治の後半からは、憲法、哲学、経済、医学、法

律などの殆どの文化はドイツの影響を受けました。

1868年、明治天皇は公家や諸侯に対して、**5箇条の御誓文**を示して、明治新政府の方針を明文化しました。これは、近代日本の指針となった重要な声明です。

- 広く会議を興し、万機公論に決しべし
- 上下心を一にして、盛んに経論を行うべし
- 官武一途庶民に至る迄、各基志を遂げ人心をして倦まさらしめん事を要す
- 旧来ノ陋習を破り天地の公道に基くべし
- 智識を世界に求め大いに皇基を振起すべし



鹿鳴館

ヨーロッパ風の社交場として、鹿鳴館が作られたのは、日本の文化が高いことを示して、不平等条約を無くすための方策だったと言われていいます。

北方領土はその帰属を、日本とロシアで争っていましたが、1875年に交渉の結果、樺太はロシアの領土、千島列島は日本の領土になることで決着しました。

1877年には、征韓論を巡って、日本最後の内乱と言われる西南戦争が起こって、明治維新の英雄・西郷隆盛が自刃しました。

日本が欧米並みの先進国であることを示すために作られたのが、1889年に発布された明治憲法であり、その草案を作ったのは伊藤博文です。

当初参考にしなかったのは議会制民主主義が根付き、日本と同様に王室が存在するイギリスでしたが、イギリスには憲法が存在しませんでした。フランスやアメリカは共和制なので参考になりません。オーストリア、ドイツに目をつけて、最終的にはドイツが併合したプロセイン憲法を基本に、日本的な伝統を付け加えて明治憲法が作られました。

日本は東アジアで初めて近代憲法を有する立憲君主国家となりました。また同時に、皇室の家法である皇室典範も定められました。

明治憲法をより身近なものにするために作られたのが教育勅語です。その全文を暗唱し、それを実践することが当時の義務教育の役割でした。

教育勅語が説くのは日本人の伝統的価値観であり、万世一系の皇室を尊重し、国の繁栄に寄与し、親を大事にし、友人や配偶者と仲良くし、身を謹んで学業に励み、人格を修養することが述べられています。表現が伝統的であり、古風であることを除けば、現在でも通用する内容です

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ
徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克
ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セル
ハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實
ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦
相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及
ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器
ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲
ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉
シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ
ハ獨リ朕力忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ
爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫
臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬
ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ
拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

教育勅語

我が国の先祖が国を創ったのは、遙か昔のことです。爾来、徳を以て国を治め、国民は国に忠節を尽くし、孝行に励み、国民が一致協力して、世代を超えて美德を重ねてきたことは、我が国の精華であり、教育の根源でもあります。国民は、父母に孝行し、兄弟は仲良くし、夫婦は円満に、友人はお互いに信じあい、人に対して慎み深く、博愛の手を差し伸べなければなりません。学問を修め、事業に勤しむことによって、能力を開発し、人徳と才能を磨き、公共の利益や義務を果たし、常に憲法を守って法律を遵守しなければなりません。有事の事態には、正義の心を以て公のために奉仕し、国体を保持しなければなりません。これは、国に忠節を尽くす善良な国民であることだけではなく、先祖が残した美風を踏襲することでもあります。これらの遺産は、我が国の先祖が残した教訓であり、その子孫である国民が共に、守っていかねばならないことであり、時代や国の内外を問わず順守すべき真理です。私はあなた方国民と共に、この教えを心にしっかり受け留めて、その美德を守ることを、切に願っています。

田中 毅 口語訳



日清戦争

明治憲法発布と同時に、最初の選挙が行われて、議会が招集されました。投票できる人は、直接国税 15 円以上を収めた 25 才以上の男性に限られていましたので、全人口の 1%でした。日本に、民意を反映した本格的な政党内閣を作ったのは原敬ですが、反対派の刺客

によって、東京駅で刺殺されました。

文明開化を視察するために欧米諸国を訪れた、岩倉具視、木戸孝允、伊藤博文たちが最も力を入れたのが、富国強兵政策です。

日本は武士の国でありながら、軍事力が欧米諸国からかなり遅れていることが分かりました。富国強兵を実現するために生まれたスローガンが殖産興業でした。そのために最初に作られたのが、富岡製糸場であり、アメリカへの主要な輸出品である生糸が生産されました。産業を振興し軍事力を高めて、1894年に挑戦したのが、清国の朝鮮植民地化を恐れた**日清戦争**でした。

日本と結んで国内改革を進めようとする朝鮮の改革派が、クーデターを起こしましたが、清国軍の出動によって失敗しました。日本は清国と天津条約を結んで、武力衝突を避けようとしませんが、大規模な農民の反乱が起疑ったことを契機に、清国はその鎮圧を理由に出兵しました。日本は天津条約違反だという理由で、清国に宣戦を布告し、日清戦争が始まりました。

眠れる獅子と言われていた清国に対して、近代化していた日本軍は圧倒的に優位な戦いを進めました。

海軍は北洋艦隊を撃破し、陸軍は清国軍を朝鮮から一掃して、遼東半島や山東半島まで制圧しました。

下関条約によって、朝鮮の独立、台湾と澎湖諸島と遼東半島の割譲、賠償金

3 億円を得ました。この結果、日本は海外に植民地を持ち、大陸進出の足場を築くこととなりましたが、満州に深い利害関係を持つロシアは、日本の進出を警戒して、ドイツ、フランスの**三国干渉**によって、遼東半島は清国に返還することになりました。

大規模な対外戦争を初めて経験したことで、国家としての意識が高まると共に、経済が飛躍的に発展しました。また戦後、財政と公共投資が膨張することによって、積極的な国家運営に転換すると共に、懸案であった各種政策の多くが実行され、産業政策や金融制度や税制体系などの原型が作られました。

1901 年、清国から得た賠償金を使って、八幡製鉄所ができました。鉄鉱石は清国から運び、北九州には多くの炭鉱がありました。

日本の近代化に大きな役割を果たしたのは、官僚でした。当初の高級官僚は薩長両藩出身者が大きな比重を占めていましたが、官僚制の整備を進めるために、文官任用令などを定めて、試験に合格した大学卒業者を官僚として採用するようになりました。そのための大学が東京帝国大学であり、その傾向はいまだに続いています。

日露戦争

列強の支那大陸における分割植民地化が進み、特にロシアは満州の鉄道施設権を得て満州全体を支配下に置き、更に朝鮮半島へ進出する準備を整えました。

1902 年に、対ロシア政策の一環として、日本の立憲君主制と軍事力を高く評価したイギリスと、**日英同盟**が締結されました。

ロシアは朝鮮半島内に兵を進めてきたので、ロシアは満州の利権を、日本は朝鮮の利権を認めるように提案しましたが、この案は一蹴されました。

1904 年 2 月 6 日の国交断絶、日本海軍の旅順攻撃、陸軍の仁川上陸によって、日露戦争が開始されました。

ロシア国内では圧政に対する民衆の反対運動、共産主義革命が起こっていて、対日戦争に専念できる状態ではありませんでした。

日本は軍事的に優位な状態で戦争を展開しました。

陸軍は数か月に及ぶ203高地における攻防戦の結果、東洋一の難攻不落と言われた旅順を陥落し、日本海側の制海権を手中にして、奉天にまで兵を進めました。更に樺太全島を占領しました。



203高地の激戦



日本海海戦

海軍は日本海海戦において、7ヶ月かけてヨーロッパから回航してきた、世界最強と言われた、バルチック艦隊を全滅させて、戦争を優位に導きました。日本連合艦隊の損害は、水雷艇3隻のみでした。

日本も巨額の戦費を捻出するためにアメリカや同盟国イギリスから外国債を募集しており、これ以上戦争を続けると財政的に破綻する状況でした。そこで、日本海海戦で勝利を収めた直後、日本政府は正式にアメリカのセオドール・ルーズベルト大統領を通じて、和平の仲介を依頼しました。ポーツマスで開催された講和会議の結果、次のような結論が出されました。

- ① 日本の朝鮮におけるあらゆる権限を承認する。
- ② 旅順、大連の租借権
- ③ 旅順から長春までの鉄道とそれに付属するあらゆる権利の譲渡
- ④ 北緯50度以南の樺太の割譲
- ⑤ 沿海州とカムチャッカの漁業権

⑥ 満州からのロシア軍の撤退

⑦ ロシアの賠償金を免除

しかし、日本にこれ以上戦争を続ける財政的能力がないことを知らされていなかった国民の不満は大きく、「屈辱的講和反対」「戦争継続」を叫ぶ暴動が各地で発生しました。政府は戒厳令を出すと共に軍隊を出して鎮圧を図りました。

日露戦争によって、朝鮮は日本の保護国になりましたが、朝鮮はあらゆる手段を使ってそれを妨害し、初代統監に就任した伊藤博文の暗殺事件にまで発展しました。

1910年、朝鮮総督府を設置して、正式に朝鮮を日本の植民地にしました。

日本は1906年旅順に關東都督府を置くと共に、半官半民の南満州鉄道株式会社を設立して、南満州の経営を進めていきました。ドイツとの対立を強めたイギリスは、日英同盟の期間を延長すると共に、その適用範囲をインドにまで拡大し、更にイギリスは日本の朝鮮の支配権を承認しました。

アメリカが日露戦争で日本に好意的立場をとり、講和を仲介したのは、ロシアが満州を独占的に支配することを警戒したためでした。戦後、日本の南満州への進出が盛んになると、満州の鉄道に関心を持つアメリカとの対立が芽え始めました。日露講和条約締結直後の1905年、アメリカは長春・旅順間の鉄道を日米共同経営とすることを提案しましたが、日本政府はこれを拒否しました。その後も、アメリカは満州に対する門戸開放を唱えて、1909年には、満州における列国の鉄道権益を清国に返還して、共同管理することを提案しましたが、日本とロシア両国が反対したため、この提案は実現しませんでした。

日露戦争に勝利をおさめた日本が大陸へ勢力を広めたことは、アメリカから、新しい競争相手の出現として警戒され、満州の鉄道権益や日本人のアメリカ移民問題などを巡って、対立が芽え始めました。

アメリカは17世紀初頭に、迫害を逃れてイギリスから、大西洋を渡って東海岸に上陸した清教徒によって築かれた国です。アメリカの建国者たちは、北アメリカの大自然を、神が自分たちに与えたものと考えました。原住民のインデ

アンは人間ではなく、単に人の形をした動植物の一部としか考えませんでした。インディアンはできるかぎり早く、駆除すべき害虫と変わらない存在であり、清教徒が東海岸に到着した時に、北アメリカ大陸にいた300万人のインディアンは、19世紀には30万人にまで減りました。

アメリカでは入植した当初から、黒人奴隷を使役していましたが、奴隷解放宣言が発せられるまで、700万人以上の黒人奴隷がアフリカから拉致されて酷使されました。インディアンは従順でなかったため奴隷として適しませんでした。黒人は牛馬より寿命が長かったし、従順で安価に売買可能でした。1960年代の半ばまでは、奴隷は私的な所有物であり、婚姻することは許されませんでした。殺しても、強姦しても罪に問われることはありませんでした。

アメリカにおける奴隷制度が完全に終結したのは、僅か20年前の、1995年ミシシッピ州憲法によってです。

ハワイのアメリカ植民地化は、日本と大きな関りがありました。1881年、カラカウア王が来日し、明治天皇と会見しました。アメリカの政治的経済的侵略に危機感を抱いていた王は、カイウラニ王女と山階宮との結婚によってハワイ王朝と日本の皇室との間の関係強化を要請しましたが、アメリカとの関係悪化を懸念する日本政府がそれに応じませんでした。1891年にリリウオカラニ女王が即位して、アメリカとの不平等条約を撤廃する動きをみせると、アメリカ人の民兵組織はクーデターを起こして、王政を打倒して、女王をイオラニ宮殿に軟禁しました。この時、日本は国王派から依頼を受け邦人保護を理由に軍艦2隻をハワイに派遣し、ホノルル軍港に停泊させてアメリカを威嚇しました。女王を支持する先住民らは涙を流して歓喜したといわれています。もし日本が侵略国ならば、この時点でハワイを日本の領土にすることは可能でした。

アメリカでは黒人奴隷制が廃止されたため、それに代わる安価な労働力として支那人移民が歓迎されました。1860年代の大陸横断鉄道建設が始まると、多くの支那人が労働者として酷使されました。現在でも、シアトル近郊にはノー

ザンバシフィック鉄道で働いた大勢の支那人移民の子孫が生活しています。

経済不況下で、低賃金で働く支那人労働者の存在は、白人労働者の反発を招くようになり、支那人移民排斥運動に発展しました。

白人の支那人に対する人種的な差別、攻撃はたびたび暴力的になり、多くの犠牲者が出ました。労働組合も支那人労働者の排斥を強く訴え、組織的な支那人排除の動きは、しばしば残虐な殺人にも発展しました。これらの運動の結果、アメリカは、1882年に支那人労働者移民排斥法を議決しました。

これと入れ替わりに、日本人の移民が始まりました。最初の移民は、1869年カリフォルニア州に入植した旧会津藩士たちだと言われています。その後、一般の移民も始まり、鉱山・鉄道敷設・道路建設・農場などの労働者として働きました。

日本人移民は勤勉で長時間労働を厭わなかったのも、白人労働者の地位を脅かし、アメリカ人社会に溶け込めず、日米摩擦の原因となりました。

カリフォルニア州の日本人移民排斥運動は、1890年代から始まりましたが、日露戦争の頃になると、アメリカ全体に広がり、1906年にはサンフランシスコで、日本人の学童が公立学校への通学を一時禁止される事件が起こり、その後、日本人の土地所有が禁止されるなど排日気運が高まって、1924年には新移民法が成立して、日本人移民のアメリカ全土への入国は禁止されました。

急激に国力と存在感を高めた黄色人種国である日本への、人種差別感情が強くなっていきました。

真珠湾が攻撃されて戦争が始まると、ルーズベルト大統領行政命令によって、12万人以上にのぼるアメリカ国籍を持つ日系アメリカ人が、敵性国人として、それまで汗水流して築いた財産をすべて没収されたうえで、身の回りの物だけ持って、全米の僻地に設けられた強制収容所に送り込まれた。

これは、典型的な人種差別であり、同じ敵国であったドイツ系、イタリア系などの白人は全く収容されることがありませんでした。White Anglo-Saxon Protestant WASP でなければ人に非ずというアメリカ人の人種差別感は今も健在です。

さて、日本国内においては、1880年代になると、政府の殖産興業政策の下で、民間にも次第に近代的な産業が起こってきました。綿糸を生産する紡績業は、1882年に財界の有力者や華族などによって大阪紡績会社が設立されたのを始め、次々に大規模な会社が作られ、蒸気力を原動力とした機械による大量生産が行われました。1891年から10年間で綿糸の生産高は約4.5倍に増え、イギリスの綿糸と競争しながら清国や朝鮮に輸出されて、1897年には、輸出高が輸入高を上まわるようになりました。日本の生糸は輸出の花形となり、アメリカ市場でもイタリアや清国の生糸との競争に勝利を収め、外貨の稼ぎ頭の商品となりました。このようにして日本では、1900年頃までに、紡績業・製糸業などの軽工業部門で産業革命が達成されました。

軽工業に比べて重工業の発展はかなり遅れており、鉄は輸入に頼っていました。そこで政府は巨費を投入して、官営の八幡製鉄所を建設して、1901年に、東洋一と言われた溶鉱炉に火が入れられ、日露戦争後には生産が軌道に乗りました。1901年から1913年の間に国内の鉄の生産高は、銑鉄が約4.5倍、鋼鉄は約10倍に急増したが、それでも激増する鉄の需要を満たすことはできませんでした。

また、三菱長崎造船所などを中心に、造船業の発展も本格的になり、10000トン級の大型鉄鋼船の建造ができるようになって、重工業の面でも急速な工業化を進めていきました。

延びる鉄道産業の発展と共に、交通も目覚ましい発達を遂げました。帝国議会の開設に間に合うように政府の手で建設が進められていた東海道線が、1889年には全通し、1891年には、上野・青森間が日本鉄道会社により開通して、1890年代には民間会社による鉄道敷設が盛んにおこなわれました。やがて政府は、鉄道経営の全国的統一と軍事利用の必要から、1906年に鉄道国有法を制定して、全国の主な鉄道を国有化しました。また、京都・名古屋・東京などの大都市で次々と市街電車が開通して、市民の足として親しまれるようになりました。このような交通機関の発達によって、人と物資を短時間に大量に輸送することができるようになったのです。

第1次世界大戦

日露戦争が勝利した結果、満洲における鉄道や鉱山開発などの権益が日本へ引き渡され、更に南樺太は日本の領土になりました。

1910年の日韓併合の結果、朝鮮半島も日本の領土になりました。

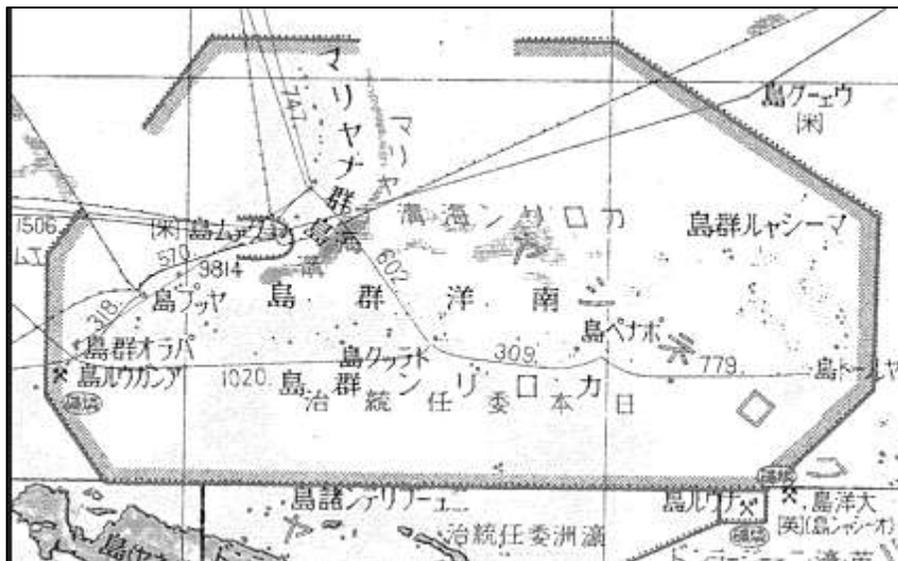
日露戦争後、東アジアの強国となった日本は、陸軍を25師団に、海軍を戦艦8隻、巡洋戦艦8隻にするという軍備拡張の計画を立てました。

ヨーロッパでは国家統一を実現したドイツ帝国が急速な発展をとげ、イギリスに対抗して中近東に進出を図り、大規模な海軍拡張計画を推し進めてイギリスを脅かしました。イギリスは日英同盟、英仏協商、英露協商を結んで、ドイツに対する包囲体制を作りました。これに対してドイツは、イタリア、オーストリア、ハンガリーと三国同盟を結んで軍事協力を深めました。

1914年、ボスニアの首都サラエボを訪問中のオーストリア皇太子が、セルビア人によって暗殺された事件は、全ヨーロッパを戦乱に巻き込みました。ドイツ・オーストリア・ブルガリア・オスマン帝国の同盟国と、イギリス・フランス・ロシア・セルビア・イタリアの連合国との間で第1次世界大戦が始まりました。日本は日英同盟に従って、連合国陣営に加わり、日本陸軍は東アジアにおけるドイツの重要な根拠地である山東省の青島を、海軍はドイツ領の南洋諸島を占領して、ドイツの勢力を東アジアや太平洋から一掃しました。また連合国の要請で、日本の艦隊が地中海に出動してドイツ海軍と交戦しました。

1917年のアメリカの連合国側への参戦によって、戦局は大きく変化し、ドイツとオーストリアの帝政は崩壊して第1次世界大戦は終結しました。

日本は戦勝国として、赤道以北の南洋諸島が委任統治領となり、山東省におけるドイツの権益を継承しました。



日本の委任統治領

第1次世界大戦によって、ヨーロッパ諸国から東アジア市場への輸出が減少し、代わって綿糸・綿織物などの日本の商品が市場を独占するようになりました。アメリカ経済の好況を反映して、アメリカ向けの生糸の輸出も増大しました。世界的に船舶需要が激増したため、それに応じて造船・海運業が飛躍的な発展を遂げました。中小海運業者の中には、このブームで巨万の利益をあげた船成金が続出しました。この結果、日本の造船量はアメリカ・イギリスに次いで世界第3位となりました。薬品・肥料などの分野では国産化が進み、化学工業も発展しました。また水力発電による電力事業が発達し、工業原動力の電化が進みました。好景気の中で工業生産額は農業生産額を上まわり、輸出は増大して、国際収支は大幅な黒字になりました。

現代

大正・昭和・平成時代

1920年頃からアメリカにおいて、日本人移民に対する市民権剥奪や WASP (White Anglo-Saxon Protestant) 以外の移民を制限するための有色人種移民法が成立しました。排日色が明白であったため、日本政府は抗議の提案書を米政府に提出し交渉を続けましたが、退けられました。

国内においても、第1次世界大戦の戦後恐慌が発生して、株式市場の暴落に端を発し、綿糸・生糸相場が半値以下に下落しました。

第1次世界大戦で大きな痛手を負った欧米諸国は、軍備拡張が各国経済を圧迫し、また戦争を誘発することから、世界的な軍縮を呼びかけました。1922年、ワシントン海軍軍縮条約によって、主力艦保有比率をアメリカ・イギリス各5、日本3に制限。主力艦建造を10年間禁止にしました。



関東大震災

1923 年に関東大震災が発生し、死者・行方不明者 10 万人以上、全壊・流失・全焼家屋 57 万戸という大災害を起こしました。火災は地震発生時の強風に煽られて起こった火災旋風を引き起こしながら広まり、旧東京市の約 43%を焼失して、40 時間以上燃え続けました。火災による被害は全犠牲者中、約 9 割に上ります。東京市内の建造物の被害としては、凌雲閣が大破し、建設中だった丸の内内外ビルディング、大蔵省・文部省・内務省・外務省・警視庁など官公庁の建物や、帝国劇場や日本橋三越本店などの文化施設や商業施設の多くが焼失しました。

1925 年に普通選挙法が成立して、25 歳以上の男子が納税額に関わらず選挙権を持つようになりました。

1927 年ころから金融恐慌が発生し、銀行の不良経営状態が暴かれたことがきっかけで、取り付け騒ぎが起り、銀行の休業が続出しました。

1929 年、ニューヨークのウォール街で始まった株価暴落に端を発した世界大恐慌によって、日本も深刻な昭和恐慌に陥り、東北地方を中心に農家は特に厳しい状況に置かれました。同年成立した浜口内閣は、財政健全化を指向し、軍縮に前向きでした。主力艦建造禁止が 5 年延長され、日本の補助艦総トン数は、アメリカ・イギリスの 7 割に制限されました。ロンドン軍縮会議で、海軍軍令部の反対を押し切って、条約に調印したことに対して、天皇の専権事項である兵力量を、天皇直轄である軍令部の了承を得ずに勝手に決めたことは統帥権の干犯に当たり、憲法違反であるとして、野党や右翼勢力から厳しく追及されました。浜口首相は軍縮会議後、右翼青年に襲撃され、翌年命を落とします。世界的な軍縮の動きに対し、日本国内では軍部や右翼勢力を中心に、政府への不満が高まっていきました。

1931 年に、日露戦争によって日本が權益を得、更に第 1 次世界大戦によってその權益が延長されていた、南満州鉄道の柳条湖が爆破されたことを契機に満州事変が起りました。

1932 年には、満州国が建国宣言を行い、愛新覚羅溥儀が皇帝に擁立されました。



満州国建国

中国は、満州国は日本の傀儡政権だとして、独立は無効だとして国際連盟に訴えましました。国際連盟はリットン調査団による査察を行って、中国の言い分を認めたため、日本は国際連盟から脱退して、国際的に孤立しました。

満州国は満州、支那、朝鮮、蒙古、日本を表す五色の国旗に象徴されるように、列強の植民地を開放して東洋人に取り戻す目的で建国したのですが、その言い分は聞き入れられませんでした。

新しい植民地の開拓を目指して、多くの日本人が満州に渡りました。

1937年に、盧溝橋事件が起こり、それは支那事件に発展して、ずるずると拡大して行きました。日本軍は南京まで進攻しましたが、その一方で日本を取り巻く国際情勢は、ますます悪化して行きました。

当時、欧米列国は、東南アジアのほとんどの国を植民地化しており、後発国の日本が割り込む余地は、第1次世界大戦で権益を得た、支那大陸しかありませんでした。

第2次世界大戦

1939年、ヨーロッパで第2次世界大戦が始まり、1940年には、日独伊三国同盟が締結されましたが、日本は隠忍自重して、参戦しませんでした。

イギリスのチャーチル首相とアメリカのルーズベルト大統領は、オランダと支那に働きかけて、ABCD包囲陣によって日本を経済封鎖し、鉄鉱石や石油の輸入を完全に遮断しました。

政府も軍部も、アメリカと戦うことを、まったく望んでいませんでした。戦争を回避しようとして、開戦の直前まで、何回も日米首脳会談を提案しました

が、ルーズベルトはそれに応じませんでした。

ルーズベルトは、祖父が清朝末期に阿片貿易によって巨万の富を築いて、香港に豪邸を持っており、支那の高価な美術品に囲まれて育った関係から、支那に愛着を持っていました。大統領になってからも、巨大な支那市場を夢みて、支那に好意を寄せていました。彼の眼には、日本は伝統文化を守って、キリスト教文明に同化することを拒み、アメリカに媚びることがない異質な国に見えたのでしょう。

1941年1月には、すでに暗号傍受によって、日本側に真珠湾攻撃の計画があることを知って、駐日大使グルーからハル長官に報告がっていました。

ルーズベルト政権は、国際法を犯しながら、支那に対して惜しみなく、援助資金と兵器、軍需物資を注ぎ込みました。落介石総統とその宋美齡夫人がキリスト教徒だったために、キリスト教国である支那が、異教の日本によって侵略を被っているとみなしたとされています。

1941年4月に、アメリカ陸軍航空隊のクレア・シュノルトを中華民国空軍航空参に任命したルーズベルト大統領は、フライング・タイガース戦闘機部隊に自主的に志願するように命令を出し、1941年7月23日、蒋介石政権に新型のボーイング B17 大型爆撃機を供与して、支那機に偽装したうえで、アメリカ

の退役軍人や民間人のボランティアを搭乗させて支那の航空基地から発進し、日本を爆撃する「JB No.355」計画に署名しました。

1970年にABC テレビ 20/20 で公開された「JB No.355」によると、1941年10月1日に、蒋介石政権に150機のB17爆撃機と、350機の戦闘機を供与して、ビルマのラングーン飛行場まで運び、そこから、東京、横浜の産業地域と、神戸、京都、大阪に奇襲爆撃を加えることになっていました。



JB No.355

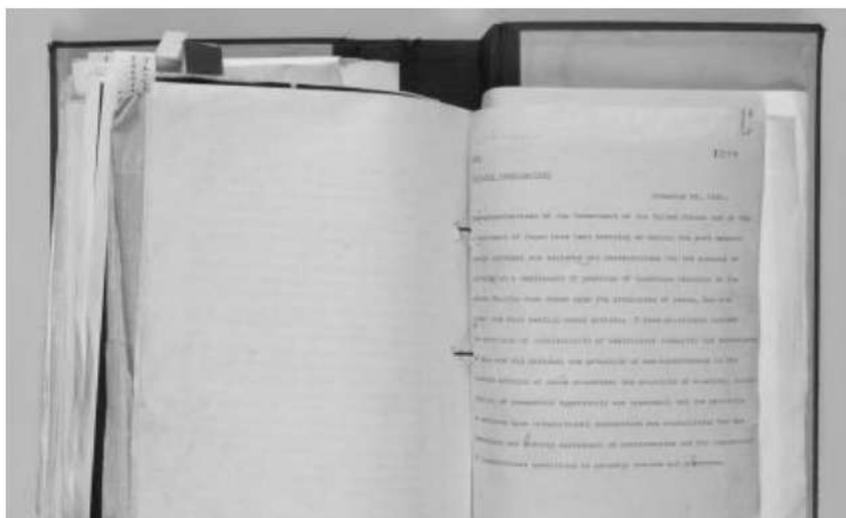
ところが、この日本本土奇襲爆撃作戦は、フランスがドイツに降伏して、イギリスが孤立したために、大型爆撃機をイギリスに急いで回さなければならなくなったために、支那での活動が不可能になって、結局実施されませんでした。



ちなみにこの部隊はカーチス P-40 とボーイング B-17 による航空隊で、現在の貨物航空機会社フェデックスの前身です。

ルーズベルト大統領は日本と戦うことを決めていたので、日米交渉が妥結することを望んでいませんでした。日本政府はアメリカも日本と同じように平和を望んでいるものと思い込んでいたのが誤算でした。

日本政府と日本大使館でやり取りされる全ての情報は、同時にアメリカ側に傍受解読されていましたから、日本から小出しに出される提案は全て拒否されました。



ハル・ノート

アメリカは11月26日に、それまで日米の交渉によって積み上げてきた、合意の一際を否定する、「ハル・ノート」を日本に突き付けました。

ハル・ノートには、支那大陸や仏印からの即時撤退、日独伊三国同盟の破棄、支那の反日蒋介石政権の承認等々、日本が受諾できない要求ばかりが書き込まれた最後通牒でした。

「合衆国政府及日本国政府の採るべき措置」

- イギリス・中国・日本・オランダ・ソ連・タイ・アメリカ間の多边的不可侵条約の提案
- 仏印（フランス領インドシナ）の領土主権尊重、仏印との貿易及び通商における平等待遇の確保
- 日本の支那（中国）及び仏印からの全面撤兵
- 日米がアメリカの支援する蒋介石政権（中国国民党重慶政府）以外のいかなる政府も認めない（日本が支援していた汪兆銘政権の否認）
- 英国または諸国の中国大陸における海外租界と関連権益を含む1901年北京議定書に関する治外法権の放棄について諸国の合意を得るための両国の努力
- 最恵国待遇を基礎とする通商条約再締結のための交渉の開始
- アメリカによる日本資産の凍結を解除、日本によるアメリカ資産の凍結を解除
- 円ドル為替レート安定に関する協定締結と通貨基金の設立
- 日米が第三国との間に締結した如何なる協定も、太平洋地域における平和維持に反するものと解釈しない（日独伊三国軍事同盟の実質廃棄）
- 本協定内容の両国による推進

大きな犠牲を払って、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦で克ち得た全ての利権を放棄して、明治維新直後の日本に戻れという、長年続いた排日運動の

総仕上げとも思われる屈辱的な内容でした。

何とかして日米交渉を円満理に進めたいと考えていた日本も、交渉継続を断念せざるを得ない最後通牒でした。

日本政府は12月1日の午前会議で、今まで和平交渉を唱えられていた昭和天皇も口を閉ざされ、連合国との開戦が決定しました。資源という生命線を絶たれた上に、大和民族としての尊厳を傷つけられた日本は、太平洋戦争に突入せざるを得ませんでした。



空母 赤城より出撃

1941年12月8日、日本の連合艦隊はアメリカ海軍の基地、ハワイの真珠湾を攻撃して、アメリカ太平洋艦隊に大打撃を与えましたが、たまたま、米空母が湾内にいなかったことが、後半戦におけるアメ

リカを優位にさせる原因になりました。

開戦の30分前に米国務省に国交断絶の通告を渡すことになっていましたが、ワシントンの日本大使館の怠慢によって、それが55分遅れてしまいました。

ルーズベルト大統領はこのミスを最大限利用して、日本は宣戦布告なしの奇襲攻撃をした卑劣で悪辣な国



真珠湾攻撃

であると国内向けにプロパガンダすることによって、排日感情を煽りました。

タイはこの戦争において日本側に付いて、米英に対して宣戦布告をしています。緒戦における日本軍の進撃は、連戦連勝と目覚ましいものでした。日本軍は開戦と共に、イギリスが「東洋の真珠」と誇った香港をたちまち攻略し、イギリスの支配下にあつたマレー半島、シンガポール、インドネシア、アメリカが統治していたフィリピン、オランダの植民地だったビルマを開放しました。



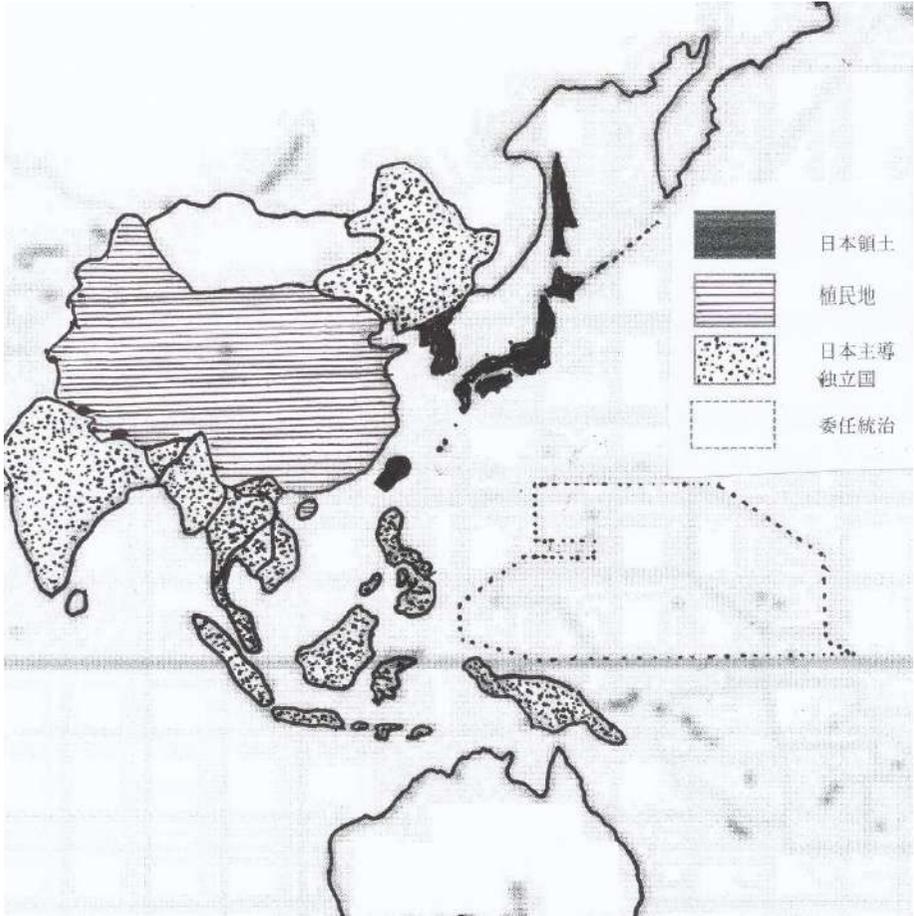
シンガポール陥落

色が違うために辱められてきた人々が、日本の働きによって、重鎖から解き放たれて、前途に眩い光を見ることができました。抑圧された有色人種が覚醒するなかで、アメリカ、イギリス、オーストラリア当局が狼狽えて、有色の活動家たちの取り締まりを強化したり、

有色の人々を懐柔するために、慌てて人種差別政策を緩和することを強いられました。日本軍の進攻によって、数世紀にわたった白人の優位が打破されたことは、まさに驚天動地の出来事でした。

日本は、アジア人を兄弟としてみなしたのです。日本の占領地域では、日本の将兵が、同じアジア人に対して思い遣りをもって、対等に接しました。支那人が打算的で、白人に媚びていたのに対して、日本が毅然として、白人と対決してきたことは、高く評価されました。

歴史には、「もしも」という仮定を持ち込むことはできません。しかし、シンガポール陥落直後に持ち込まれた、停戦案に日本が同意していたら、どうなっていたかを、想像することも自由です。



台湾と朝鮮と千島列島と南カラフトと当時日本が委任統治していた南洋諸島に加えて、アリューシャン列島とハワイは日本の領土になっていたはずですが。

さらに満州国というバッファーを置いて、支那は日本の植民地に、そしてインド、ベトナム、マレーシア、ボルネオ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、タイ、パプアニューギニアなどの東南アジアの諸国は日本の支援を受けて独立国になっていたはずですが。当時の日本の国策であった大東和共栄圏が完成して、世界最大の排他的領海を有する海洋国家になっていたのです。

1943年11月5日に、帝国議会議事堂において、日本の戦争目的を世界と後世へ向けて宣明するめに、大東亜会議が開催されました。日本の東條英機首相、中華民国国民政府行政院長の江兆銘、タイのワンワイタヤコン首相代理、満州国の張景恵國務総理、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モウ首相、自由インド仮政府のチャンドラ・ボース主席が一堂に集り、アジア諸国の独立について話し合いました。日本はこの年8月にビルマと、10月にフィリピンを独立させていました。更に、オランダ領東インド諸島として知られていたインドネシアは、日本の指導下で独立へ向けて、教育、行政制度の整備や、将来の国軍の訓練などの準備が着々と進められていました。

第二次世界大戦時の、東南アジアにおけるイギリス、アメリカ、オランダの植民地において、日本が連戦連勝したのは、日本軍がアジアを支配するために、原住民を侵略したのではなく、アジア諸民族を、欧米の帝国主義から解放して独立に導くためだったので、現地の人々の協力を得られたからです。

日本は植民地となっていた人々に教育を施し、軍事訓練を行い、独立の手助けを行いました。日本軍に支援されて、インド国民軍総司令官となったチャンドラ・ボースは、「日本はアジアの希望の星」と語り、日本に深く感謝しました。

マレーシアもシンガポールも同様でした。日本軍がマレー半島を南下して、シンガポールへ向かう途上、日本の諜報部隊が、イギリス軍のインド兵に脱走するように呼びかけたところ、インド兵が次々と投降し、日本軍に協力したいと申し出て、その数は45000人を超えました。

彼らを中心にインド国民軍が結成され、日本軍と協同して、ビルマからインド東北部のインパールを目指して進撃しました。日本が戦争に敗れると、イギリスはインパール作戦を戦ったインド国民軍反乱軍として、裁判にかけましたが、インド全土の民衆が憤って、数百万人がインドの街頭を埋め尽くしました。イギリスはスピットファイアー戦闘機を飛ばして、上空から群衆に機銃掃射を加えて、鎮圧を試みたが、混乱は収まらず、止む無くイギリスはインドの独立を認めざるを得ませんでした。インパール作戦は、日本にとって作戦上は惨憺たる失敗に終わりましたが、インドは独立するという目的を達成しました。

インドネシアは、日本が降伏した二日後に独立を宣言しました。日本が敗れると、オランダ軍がインドネシアを再び植民地にしようとして、イギリス軍の援助を受けて攻撃してきました。インドネシア独立軍は30000人にのぼるペタ出身者が中核となって応戦しました。当時インドネシアに残留していた2000人近くの日本兵が、祖国に復員せずに、インドネシア人と共に独立戦争に加わりました。

日本の敗戦後、東南アジアからインドに至るまで、大戦中に日本に協力した人々が裁判にかけられたり、処刑を受けたことは一度もありませんでした。もし日本が東南アジアの諸国を侵略するための戦争をしていたなら、このようなことはありえません。インドネシアでも、インドでも、ミャンマーでも、戦後、対日協力者は民族の功労者となりました。フィリピンでも、初代のラウレル大統領、アキノ大統領の一家も、対日協力者でした。

日本はアジアを解放することによって、アジアに恒久的な平和を確立することを願っていました。日本の多くの青年たちが、人種差別撤廃の大義を信じて、戦野に果てていきました。

日本が大きな犠牲を払うことによって、アジアだけではなく、更にアフリカの諸民族も解放されました。戦後、この高波がアフリカ大陸に押し寄せて、アフリカ諸民族が次々と、独立を獲得していきました。

昭和天皇を元首とする日本が、白人と戦った結果として、アジア・アフリカの諸民族が解放されて、数多くの独立国が誕生したことに感謝して、昭和天皇の崩御に当たっては、164ヶ国の元首や、代表が、全世界から弔間に訪れました。この数字は、如何に多くの国が、日本によって独立を勝ち得たかを示すものです。

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦で統治する権益を得た国や地域を、宗主国による一方的な搾取による植民地統治ではなく、国民を差別することなく、教育や、民生の向上に努めた統治を行いました。西太平洋のサイパン、テニアン、ペリリューなどのマリアナ諸島とマーシャル諸島とパラオ諸島の島民たちは、今日でも日本を慕って、日本語を使っています。

前近代的な水準にあった台湾と朝鮮においても、民生と、教育の向上を図り、大学、学校、病院、鉄道を普及させ、治水、灌漑を整備して、農工業を振興して、短期間のうちに近代国家に引き上げました。

アジアのほとんどの国が、日本に関して好意的なのに反して、朝鮮と中国だけが異なった反発をしています。

朝鮮は歴史の歯車の中で、常に何れかの国の植民地であったことのひがみが強いのかも知れません。

支那は世界有数の歴史の中で、長期間続いた政権がなかったため、国としての概念に乏しく、広大な国土があるのに、世界中にコロニーを作って、個人的な利益を追求する傾向が見られます。

日本の長い歴史の中で、万世一系の天皇制度を維持し、例え戦国時代であっても、戦うのは武士だけであり、奴隷制度を採ったり、市民の大虐殺をした記録はありません。

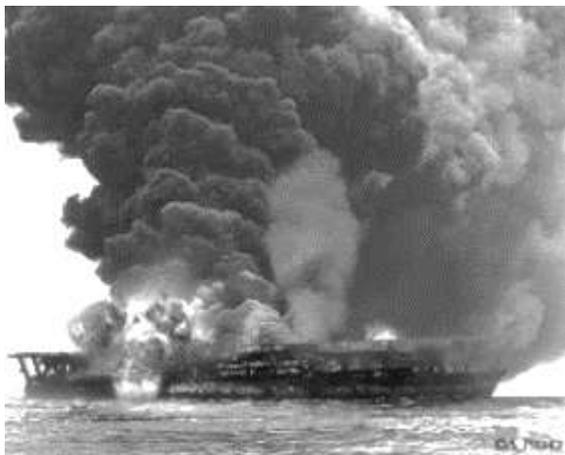
朝鮮における慰安婦の問題にしても、若い女性を強引に拉致して性奴隷にしたわけではなく、本人が自らの意思によってその職業を選んだのです。戦場に慰安婦はつきものです。

支那は南京に於いて、30万人の大虐殺があったと主張しています。しかし激戦によって双方の兵士に多数の死傷者がでたことは想像できますし、支那は正式に降伏しないまま、蔣介石は重慶に、唐生智司令官も南京陥落前夜に逃げてしまいました。支那軍は総崩れになり私服で敗走したため、これを追撃したことが民間人を虐殺したと誤解されました。当時の南京市民の数は20万人(当時の警察庁長官の公式発表)、南京陥落1ヶ月後の人口は25万人であることから、30万人殺害されという数字は、きわめて誇張されたプロガパンダに過ぎないことがよく分かります。

嘘も何回も重ねると、真実のように見えてくるものです。イエスカノーかの二者択一で迫ってくる外国人に対して、何も知らない政治家が、安易に頭を下げることが、後々、大きな禍根を残すこととなります。

終戦後も例年続けていた靖国神社の参拝を、中国の胡耀邦国家主席に懇願さ

れて取りやめた中曽根首相のせいで、歴代主首相は靖国神社の参拝という伝統的行事が不可能になってしまいました。日本が侵略戦争を戦ったと語った、極左の村山富市首相、朝日新聞の捏造記事を鵜呑みにして、無垢の娘たちを拉致して、慰安婦に仕立てたと語った河野洋平氏の責任は重大です。



ミッドウエー海戦 加賀撃沈

話を第二次世界大戦に戻しましょう。ミッドウエー海戦に敗れたことが、戦局を大きく変えました。この作戦に参加していた日本の空母は、「赤城」「加賀」「飛龍」「蒼龍」の4隻とその後方には戦艦大和も控えておりました。

しかし、この作戦の情報や日本の空母群の所在位置

はアメリカ側の暗号解読によって事前に知られており、がぜん有利な体制にあったにも関わらず、突然現れたアメリカ太平洋艦隊の空母は3隻による奇襲攻撃に対処全てのできませんでした。敵空母の接近を知って、あわてて陸上攻撃用の爆弾を空母攻撃用の魚雷に交換している最中に、高空から米軍攻撃機の急降下爆撃を受けました。艦内の格納庫にミッドウエー島を攻撃するために爆弾を積んだ大量の攻撃機を收容していたことも災いして、自爆の連鎖を起こして、全ての空母を失ってしまいました。ミッドウエー島を攻撃して弾薬と爆弾を空にして帰還したゼロ戦は、撃墜されるか、不時着水するしか方法は残されていませんでした。圧倒的に優位な戦力を持ちながら、情報収集の差によって惨敗する結果になりました。

これ以降戦局はアメリカに大きく傾き、局地的に勝つことがあっても、撤退の連続となります。なおこの海戦でアメリカの主力となった空母は、真珠湾で

みすみす取り逃がした空母でした。

もしも日本がミッドウェイ海戦で勝利を収めていれば、アメリカ陸軍はヨーロッパの兵力を、アメリカ西海岸に回して本土防衛をする必要があり、ドイツがイギリスを破ってヨーロッパの覇者になっていた可能性も否定できません。

1943年4月、連合艦隊司令長官・山本五十六がブーゲンビル島上空で、撃墜されて戦死しました。これもまた、情報が把握されていた結果でした。

世界一強いと自他ともに認めていた日本軍が、なぜ負けたのでしょうか。戦争の後半は物量の差であることは明白ですが、敗戦の引き金になったミッドウェイ海戦は、優れた電波探知機を備え、暗号探知機能と解読に優れたアメリカのIT技術に負けたのです。日本の機密情報はアメリカに筒抜けでした。情報の取り扱いに弱いという日本の情報音痴は現在も続いています。

1944年、サイパン島の日本軍が玉砕して、日本全土がB25とB29爆撃機の



神風特攻隊

行動範囲に入りました。

同年フィリピンのレイテ湾の戦闘で、初めての神風特攻隊が、沖縄線では大量の特攻隊が出撃しました。陸軍の特攻隊は隼で知覧と万世から、海軍の特攻隊は零戦で鹿屋と指宿から飛び立ちました。

飛行機が不足したので、指宿からも出撃したのは、零式水上偵察機でした。

日本が失った特攻機は2800機、アメリカ軍の損害は戦艦10隻、空母9隻、巡洋艦5隻、駆逐艦118隻、その他艦船40隻と言われています。なお、著名な野球選手、故青田昇氏の奥様の話では、同氏が知覧基地から出撃する前日に終戦になったそうです。

1945年4月、戦艦大和と連合艦隊の残存艦9隻は、航空機の援護もなく、



戦艦大和

帰りの燃料も積まずに、沖縄に向かいました。沖縄の浅瀬で座礁して、艦砲射撃をする海上基地にする予定だったと言われています。

しかし、途中、鹿児島県坊ノ岬沖で米軍機 386 機の猛攻を受けて大爆発を起こして沈没しました。

アメリカ軍は B29 を用いて、日本各地の大都市を無差別爆撃しました。軍事目標ではなく、意図的に市民を大量虐殺したのです。1945 年 3 月の東京大空襲では、10 万人の市民が殺されました。木造住宅が燃えやすいことに目をつけて、大量の焼夷弾を上空から、無差別にばらまいて、大量の非戦闘員を火あぶりにして虐殺しました。

なお、東京には 106 回、名古屋には 63 回大阪には 8 回の空襲が行われました。

日本が降伏寸前であることを知りながら、広島にはウラニウム爆弾、北九州が視界が悪かったため変更した長崎にはプルトニウム爆弾を落としました。広島では 11 万人、長崎では 7 万人以上の方が犠牲になりました。健康な男子は出征して、町に残っていたのは老人と女・子供ばかりでした。

日本が和平の意志を示していたにもかかわらず、広島と長崎に原爆投下し

たのは、日本人を有色人種として蔑視する、強い意識が働いたからです。無駄な死者を出さずに、戦争を早く終わらせるために、原爆を使ったというのは勝者の詭弁であって、原爆の威力を人体実験したいという欲望の結果であり、虐殺のための虐殺であることは間違いありません。



原爆による大殺戮

なおこの原爆投下については、まもなく参戦して

くるソ連との日本分割統治を避けるために、アメリカ主導型で早く戦争を終わらせたかった意図もあると言われています。

1944年に実施されたアメリカの世論調査では、「日本人を全員殺害すべきか」という設問に対して、「賛成」意見が13%ありました。ドイツ人に対する同様な設問は設けられていませんでした。

激戦地に於いて、投降してくる日本兵の多くは銃殺され、捕虜としての扱いを受けたのはごく僅かだと言われています。沖縄戦においては、多くの日本の女性が、米軍兵士によって凌辱されました。

本土では焼夷弾による無差別攻撃、原子爆弾によって70万人もの一般市民が焼き殺されました。どの国がフェアな戦いをしたのか、よく考える必要があります。日本人は有史以来、人種平等を旨としていましたが、戦後、人種平等の世界が到来するまでのアメリカでは、有色人種に対する身の毛がよだつような蔑視が支配していたのです。

ユダヤ人の大虐殺がヒットラーの犯罪ならば、日本における民間人の大虐殺はアメリカ人が犯した大罪なのです。極東軍事裁判で裁かれるべきことは、日



昭和天皇

本の戦争責任者と共にアメリカ軍による日本の民間人大虐殺です。

「勝った国のいうことがすべて正しい」このルールは現在も引き継がれています。

日本国に無条件降伏を強いれば、徹底抗戦となって、アメリカ側も大きな損害を被ることが予測されたので、日本陸海軍だけに無条件降伏を求めるポツダム宣言が作られました。軍部の徹底抗戦を退けた、昭和天皇の決断によって、ポツダム宣言が受諾され、第2次世界大戦は終了しました。

日本側の犠牲者数は軍人 240 万人、民間人 70 万人に上りました。

日本陸海軍が無条件降伏しましたが、日本の国は、天皇家を残すという条件の下で、ポツダム宣言を受諾したのです。憲法上、沈黙を守らざるを得なかった天皇陛下が、日本の将来と世界の平和に深い思いを馳せて、述べられたのが、終戦の詔勅です。

終戦の詔勅

朕深く世界の大大勢と帝國の現状とに鑑み非常の措置を以て時局を收拾せむと欲し茲に忠良なる爾臣民に告ぐ

朕は帝國政府をして米英支蘇四國に對し其の共同宣言を受諾する旨通告せしめたり

抑々帝國臣民の康寧を圖り萬邦共榮の樂を偕にするは皇祖皇宗の遺範にして朕の拳々措かざる所

曩に米英二國に宣戦せる所以も亦實に帝國の自存と東亞の安定とを庶幾するに出て他國の主權を排し領土を侵すか如きは固より朕か志にあらず

然るに交戦已に四歳を閲し朕が陸海將兵の勇戦朕が百僚有司の勵精朕が一億衆庶の奉公各々最善を盡せるに拘らず戦局必ずしも好轉せず

世界の大勢亦我に利あらず

加之敵は新に殘虐なる爆彈を使用して頗に無辜を殺傷し慘害の及ぶ所眞に測るへからざるに至る

而も尚交戦を繼續せむか終に我が民族の滅亡を招來するのみならず延て人類の文明をも破却すへし

斯の如くむは朕何を以てか億兆の赤子を保し皇祖皇宗の神靈に謝せむや

是れ朕が帝國政府をして共同宣言に應せしむるに至れる所以なり

朕は帝國と共に終始東亞の解放に協力せる諸盟邦に對し遺憾の意を表せざるを得ず

帝國臣民にして戦陣に死し職域に殉し非命に斃れたる者及其の遺族に想を致せば五内爲に裂く

且戦傷を負ひ災禍を蒙り家業を失ひたる者の厚生に至りては朕の深く軫念する所なり

惟ふに今後帝國の受くへき苦難は固より尋常にあらず

爾臣民の衷情も朕善く之を知る然れども朕は時運の趨く所堪へ難きを堪へ忍び難きを忍び以て萬世の爲に太平を開かむと欲す

朕は茲に國體を護持し得て忠良なる爾臣民の赤誠に信倚し常に爾臣民と共に在り

若し夫れ情の激する所濫に事端を滋くし或は同胞排擠互に時局を亂り爲に大道を誤り信義を世界に失ふか如きは朕最も之を戒む

宜しく舉國一家子孫相傳へ確く神州の不滅を信じ任重くして道遠きを念ひ總力を將來の建設に傾け道義を篤くし志操を鞏くし誓て國體の精華を發揚し世界の進運に後れさらむことを期すへし

爾臣民其れ克く朕が意を體せよ

御名御璽

昭和二十年八月十四日
内閣総理大臣鈴木貫太郎

ポツダム宣言

1. 我々合衆国大統領、中華民国政府主席、及び英国総理大臣は、我々の数億の国民を代表し協議の上、日本国に対し戦争を終結する機会を与えることで一致した。
2. 3ヶ国の軍隊は増強を受け、日本に最後の打撃を加える用意を既に整えた。この軍事力は、日本国の抵抗が止まるまで、同国に対する戦争を遂行する一切の連合国の決意により支持され且つ鼓舞される。
3. 世界の自由な人民に支持されたこの軍事力行使は、ナチス・ドイツに対して適用された場合にドイツとドイツ軍に完全に破壊をもたらしたことが示すように、日本と日本軍が完全に壊滅することを意味する。
4. 日本が、無分別な打算により自国を滅亡の淵に追い詰めた軍国主義者の指導を引き続き受けるか、それとも理性の道を歩むかを選ぶべき時が到来したのだ。
5. 我々の条件は以下の条文で示すとおりであり、これについては譲歩せず、我々がここから外れることも又ない。執行の遅れは認めない。
6. 日本国民を欺いて世界征服に乗り出す過ちを犯させた勢力を永久に除去する。無責任な軍国主義が世界から駆逐されるまでは、平和と安全と正義の新秩序も現れ得ないからである。
7. 第6条の新秩序が確立され、戦争能力が失われたことが確認される時までには、我々の指示する基本的目的の達成を確保するため、日本国領域内の諸地点は占領されるべきものとする。
8. カイロ宣言の条項は履行されるべきであり、又日本国の主権は本州、北海道、九州及び四国ならびに我々の決定する諸小島に限られなければならない。

9. 日本軍は武装解除された後、各自の家庭に帰り平和・生産的に生活出来る機会を与えられる。
10. 我々の意志は日本人を民族として奴隷化した日本国民を滅亡させようとするものではないが、日本における捕虜虐待を含む一切の戦争犯罪人は処罰されるべきである。日本政府は日本国民における民主主義的傾向の復活を強化し、これを妨げるあらゆる障碍は排除するべきであり、言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。
11. 日本は経済復興し、課された賠償の義務を履行するための生産手段、戦争と再軍備に関わらないものが保有出来る。また将来的には国際貿易に復帰が許可される。
12. 日本国民が自由に表明した意志による平和的傾向の責任ある政府の樹立を求める。この項目並びにすでに記載した条件が達成された場合に占領軍は撤退するべきである。
13. 我々は日本政府が全日本軍の即時無条件降伏を宣言し、またその行動について日本政府が十分に保障することを求める。これ以外の選択肢は迅速且つ完全なる壊滅があるのみである。

13条からも分かるように、ポツダム宣言によって無条件降伏したのは日本陸海軍であり、日本国ではないにも関わらず、マッカーサー元帥はまるで日本国が無条件降伏したかのように、占領政策を行いました。日本民族から独立心を奪い、贖罪意識を植えつけることが、占領政策の最も大きな目的でした。

このマッカーサーによる、日本人総洗脳の効果は絶大で、現在もまだ続いており、日本国全体がアメリカの言うがままに統治され続けているような気がします。

占領と同時に、報道を厳しく制限するプレスコードを定めて、新聞や出版社や国民の私信に至るまで徹底的な検閲と**言論統制**を行いました。NHKや全国の新報に、アメリカに都合の良い「太平洋戦争史」を連載させて、日本民族から歴史の記憶を奪うことによって、占領後も、アメリカの属国であり続けるよ

うに情報操作をしました。これは「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。」と記載されたポツダム宣言 10 条に違反する政策でした。

天然資源のない日本が、近代戦を互角に戦えた根源は、日本精神であると考えて、日本人の心のよりどころである**国家神道**を廃止しました。これもポツダム宣言 10 条に違反する政策です。さらに国を称え国に忠義を尽くす行為を禁止し、**日の丸**と**君が代**を禁止しました。

戦争協力者を 20 万人以上**公職追放**したため、戦争中は言論を封じられていた左翼の人々が、教育界や学会やマスコミで勢力を持つようになりました。それにシベリア抑留で共産主義に洗脳された人たちが加わって、大きく左傾化しました。

財閥が解体され、農地改革によって、多数の自作農が生まれました。財閥はまもなく復活しましたが、農地改革は極めて不平等だったために、没落した旧地主層と土地成金を生みました。

戦争責任者が逮捕されて、**極東裁判**にかけられましたが、この裁判は民主的に行われたものでなく、国際法にも合致していません。

学校教育も大きく変えられました。戦後、教育勅語はアメリカの指示によって全面的に否定され、それを受けて 1948 年 6 月に「教育勅語等排除に関する決議」が衆参両院に提案されて、廃止されました。

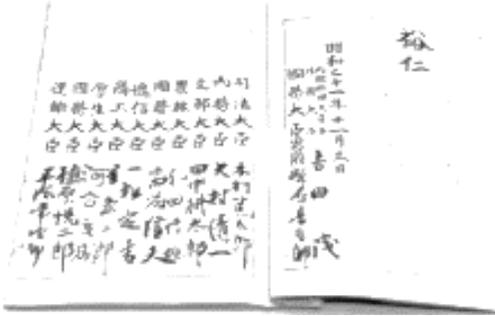
教育勅語を廃止した影響は極めて大きく、これによって日本人の教育に関する拠り所が否定されて、日本の風紀が乱れてしまったのです。速やかに復活すべきだと思います。

しかし、この作業は、天皇の勅語の改訂ですから、誰にでもできるものではありません。平成の時代が終わって、皇太子殿下が皇位継承をされる際、誰にでも理解できる口語体で原案を作成して、国会で議決して頂きたい作業です。

日本独自の年号である**皇紀**が廃止され、日本人の和の心を教える**修身**も廃止されました。御真影と教育勅語が収められていた**奉安殿**や二宮金次郎の銅像が撤去され、**学制**も教科書も一新されました。特に日本の近代史は、アメリカの

都合の良いように大幅に書き換えられました。

1945 年、選挙法が改正されて、20 歳以上の男女に選挙権が与えられるようになりました。



法的無効の日本国憲法

日本国憲法は 1946 年に公布され、1947 年 5 月に施行されました。当初は日本側に原文作成がある程度任せられていたのですが、日本側の出す案が余にも姑息的であったため、GHQ が苛立って、自らが英文で改正案を作成して政府に提示したと言われています。

当時の日本は占領下にあり、日本には主権がありませんでした。

主権のない日本に、主権の発動である憲法が存在するはずもなく、日本国憲法は進駐軍が植民地・日本の統治を都合よく行うために制定した占領政策に過ぎないのです。

現在の憲法は、占領政策としてアメリカから押し付けられたものであり、国民の総意に基づいて作られたものではありませんから無効です。従って姑息的な憲法改正ではなく、現行憲法をいったん失効して、明治憲法に戻った後に、新しい憲法を制定するのが筋です。戦後 70 年もその作業が続けられなかったことも、マッカーサーの日本人総洗脳の効果かもしれません。

第 9 条は、占領下の日本をアメリカの従わせるための条文です。典型的な資本主義国家であるアメリカが作った憲法なのに、独立国日本の中に、これを順守しようという動きが存在すること自体が問題であり、それが左派集団であることは二重の驚きです。戦後の長い平和は、憲法第 9 条があるおかげだという人がいますが、これは大きな間違いであって、日米安全保障条約があって、アメリカの庇護を受けていたからです。

戦後、アメリカの占領政策によって、日本に民主主義がもたらされたという人がいますが、それは大きな間違いで、日本は神話の時代から、八百万の神々の話し合いによって物ごとを決めてきたという歴史があります。日本の原点に、話し合いを通じて物事を決めるという民主主義があるのです。1500年前に作られた聖徳太子の17条の憲法の中には、日本型民主主義が詳細に記されています。

1950年に起こった朝鮮戦争で、アメリカは戦争に必要な品々を日本に生産させて、大量に購入したために、日本は奇跡的な復興への足がかりをつみました。その後、ソ連、中国を筆頭に、北朝鮮、モンゴルなど東アジアのほとんどの国



吉田茂

が共産主義国になってしまいました。危機感を感じたアメリカは、日本を西側陣営に加えるために、日本の占領政策の方針を180度転換して、アメリカの同盟国として、共産主義に対する防波堤として利用しようと考えました。その足掛かりとして、戦争賠償金を免除して、サンフランシスコ講和条約を締結しました。

ソ連やその影響下にあった日本共産党や社会党は反対しましたが、日本の全権代表を務めた吉田茂首相が強引に条約にサインしました。

1951年に、最初に吉田茂首相が結んだ日米安全保障条約は、「アメリカが日本に基地を置き、自由に使用することができる。従って日本の安全も保障できる。」という、言わば間接的、従属的な条約でした。

1961年に、岸信介首相が結んだ改訂安保条約は、日米が対等な立場で軍事同盟を結ぶものです。

左派学生や共産党、社会党は「60年安保闘争」として激しい抗議運動を起こして、一部の学生が国会に突入するという事件まで起こしました。

岸首相が結んだ改定安保条約の下で、その後の内閣は安心して経済政策を遂行し、それが日本の繁栄をもたらして今日に至っているのです。

岸首相の時代のソ連にかわって、現在、直接の脅威となっているのは中国です。

驚異的な経済成長をとげている中国に対して、経済優先の立場から各国は強い態度に出ることができません。中国の露骨な覇権主義にもかかわらず、アメリカは中国への配慮と、イスラム諸国のテロなどに対する自国の防衛で手一杯です。従ってそれに対処するために、日本もアメリカと核を共有する、新しい安保条約が必要な時期にきているのではないのでしょうか。これだけ核が拡散した現在では、核攻撃を受ければ、直ちに報復することができるために、現実の核戦争が起こる可能性は極めて低いと思われます。即ち核抑止力のための核武装が必要なのです。これは北朝鮮の政策とも合致します。核を持っているが故、アメリカと対等に交渉ができたのです。



岸信介

今の中国と対処するためには、日本は、アメリカの軍事力と共に、核という抑止力を持つ必要があることを認識しなければなりません。

さて話を前に戻しましょう。池田首相による所得倍増政策や田中首相による日本列島改造などによって奇跡的とも言われる回復を遂げ、国民の大半が中間階級を意識する時代が続きました。



田中角栄

田中首相を悪しざまに言う人が多いようです。確かに収賄は良い行為ではありませんが、彼の政治力によって、日本が豊かな国になったことは否定できません。別な角度から見れば、彼は、アメリカ独特の司法取引の犠牲者なのかもしれません。

朝鮮特需のおかげなどもあって、1950年代半ばには日本の経済状態はほぼ戦前の水準にまで回復しま

した。その後 20 年近くにわたって、世界で奇跡と呼ばれる急成長を遂げるようになります。中でも鉄鋼、自動車などの重化学工業は大成長を遂げます。また 1960 年には東京オリンピックが開催され、それに併せて東海道新幹線が開通し、さらに 1970 年には大阪万国博覧会が開催され、それに併せて東名高速道路が開通しました。GDP は高度経済成長期には約 5 倍に成長して、1968 年にはアメリカに次いで、資本主義国第 2 位の経済大国となりました。これを可能にしたのは、日本人の勤勉さ、手先の器用さ、技術の習得応用のうまさなどであると共に、安全保障条約によって多額の軍事費用をかける必要がなかったことも否定できません。

長く続いた日本の平和ぼけに冷や水を注いだのが 1989 年から起こったバブル崩壊です。これを契機に日本経済は低迷期に入ります。抜本的な経済政策を取ることができず、政権も目まぐるしく変わり、1994 年には、社会党の村山氏を首班とする、世にも奇妙な連立内閣が登場しました。

1995 年 1 月 17 日に、阪神淡路大震災が起きました。大都市直下型の地震であったため、神戸市、芦屋市、西宮市、伊丹市などの被害は甚大で、世界中に衝撃を与えました。狭い地域に起こったにも関わらず、死者 6435 名、負傷者 43492 名、被災家屋 646722 棟、損害総額 10 兆円を超える大災害でした。

災害発生当初、社会党政権は、自衛隊への出動命令も出せず、全く無策でした。消防・警察は、自身が被害を受けていることもあって、初期の救助は殆ど行うことができませんでした。地震当日は、自衛隊はもちろん、警察も消防もその姿はなく、被災者を救出したのは、近隣



43 号線と倒壊した高速道路

の住民とボランティア達でした。

全国の消防・警察からの応援も交通渋滞に巻き込まれて、まともに到着できる状態ではありませんでした。

私も午前中はのこぎりとバールを持って、近隣の倒壊住宅からの救出、午後は応急診療所に詰め、夜は徹夜で死亡診断書を書きました。翌日はバイクに乗って、倒壊した高速道路に沿って、芦屋市から兵庫区の家内の実家を訪ねましたが、その途中で、救助活動をしたり交通整理をする公務員の姿は、全く見られませんでした。

芦屋市の被災地区に自衛隊が入ったのは、4日後であり、生存限界と言われる72時間はとっくに過ぎていました。

世界中から寄せられた大量の義援金も、死者に僅かばかりの弔慰金がただだけで、一般の被災者にはほとんど渡らず、倒壊住宅の撤去費用も当初は自己負担でした。



小泉首相

2001年に政権を担った小泉首相は、経済政策を、アメリカで洗脳を受けた竹中平蔵氏の影響を大きく受けた新資本主義に転換し、市場万能主義による規制の自由化を推進すると共に、デフレ政策を取りました。

華々しく登場した、堀江氏や村上氏が相次いで失脚したことによって、新資本主義が日本には馴染まないことを証明しました。

小泉首相の急激な政策変更は、経済不況を強めたため、修正資本主義に慣れ親しんでいた国民の反発をかつて、民主党政権への転換に繋がりました。

新しく政権を担った民主党は、右派から極左派に至る複雑な党内事情のため、国民が期待した福祉社会への転換を図ることができず、迷走に迷走を重ねた史

上最低の政権と言われました。国の頭脳にも例えられるスーパー・コンピューターを、何故、世界第2位では駄目かと、問い詰める女閣僚すらいました。



東日本大震災

2011年3月13日に東日本に大地震と津波が襲いました。東北から関東にかけて地震と巨大な津波が襲い、沿岸部の多くの町が津波と共に消失し、福島原子力発電所のメルト・ダウンによって、広範な地域が放射能汚染を受けました。

メルト・ダウンは未然に防ぎ得た災害だとして、東京電力の責任が追及されています。東日本大震災の学習効果が生かされて、直ちに災害本部が設置され、大量の自衛隊員が現場に投入されました。

この地震もまたまた、民主党政権の時であり、どうやら日本における未曾有の大災害は、左派政権の時に起こる模様です。

東北から関東の沿岸部を襲ったこの地震による被害は、死者、15895名、行方不明者2535名、負傷者6156名、家屋の損害は全・半壊402699棟、被害総額は16兆9000億万円に上りました。

幕末から日本にも深く関わった、長崎のグラバー・マーチンは、東日本大震災の直後に、日本人の姿に感動して、日本から学ぶべき10項目を知人たちに発信しました。

1 おだやかさ 号泣し、泣きわめく姿をまったく見ることがなかった。個人

の悲しみを内に秘め、悲しみそのものを昇華させた。

- 2 尊厳 整然と列をつくって、水や食料が渡されるのも待った。罵詈雑言や、奪い合いは一切なかった。
- 3 能力 驚くべき建築技術。建物は揺れたものの、倒壊しなかった。
- 4 気品 人々は、必要なものだけを購入した。買い占めることなく、そのため、すべての人が必要なものを手にすることができた。
- 5 秩序 車がクラクションを鳴らしたり、道路を占拠したりすることがまったくなかった。
- 6 犠牲的行為 福島第一原発で事故が起きた時に、50名の作業員が海水を注入するために、逃げずにその場で作業を続けた。彼らの犠牲的行為はどう報いてあげられるだろうか。
- 7 優しさ 食堂は値段を下げ、ATMには警備がつくこともなく、そのまま使えるようにされた。弱者には特に助けが差しのべられた。
- 8 訓練 老若男女の別け隔てなく、すべての人々がどうすれば良いかが分かっており、その通りに行動した。
- 9 媒体 メディアは、冷静かつ穏やかに報道をした。
- 10 良心 店で買い物をしている人たちは、停電になると、手にしていた商品を棚に戻して、店を出た

なお、同じようなエピソードは、阪神淡路大震災の時にも語られており、日本人の倫理性の高さは、健在であることを示しています。

尖閣諸島における中国漁船の衝突事件は、中国の暴挙と日本政府の失態を世間にさらしました。海上保安庁は漁船の船長を公務執行妨害で逮捕しましたが、領海侵犯、漁業権過侵害という重大な罪であったにも関わらず、民主党政府はその責任を沖縄の検事局に押しつけ、船長を帰国させてしまいました。その模様を収めたビデオをすぐさま世界に公表すべきでした。そうすれば中国漁船が意図的に衝突してきたこと、船長逮捕のために海保が乗り込んだときの中国漁船乗組員たちの暴力などの一切が世界に明らかになったはずです。

民主党政府がビデオを公開しようとし、しないことを憂いた海上保安官、一色正春氏によって、その一部がインターネットに流れたにもかかわらず、民主党政府はこのビデオの全貌を依然として隠したままで押し通しました。

尖閣諸島は 1885 年以降、日本政府が十分な調査を行って、どこの国にも属していないことを確認した上で、領



尖閣諸島攻防戦



尖閣諸島

有権を宣言して実効支配してきた島々です。

かつお漁の基地ができて、かつお節工場も建設されて住民も住んでいました。

終戦後は米軍の占領下に置かれていましたが、1971年に、沖縄返還と共に沖縄県石垣市に編入されました。

これを以て、当時の連合国も

尖閣諸島が日本国の領土であると認めていたことは明らかです。

韓国に不法占拠されてしまった竹島についても同様なことが言えます。

民主党の領土に対する曖昧な態度をみて、ロシアが戦後不法占拠したままの北方領土を、メドベージェフ大統領が訪れ、実効支配の意志を示すという事態を招きました。国家は国民と領土と主権によって成り立っています。その主権と領土が侵され、日本の漁民の生命が危険にさらされているのに、日本政府は放置したままです。

日米安保条約があると言っても、それが適応されるのは、日本が戦争に巻き込まれた場合のことであって、平和な時にアメリカが助けるということはありません。

得ません。尖閣列島に少数であっても自衛隊を常駐させ、ヘリコプターを配置するなどの具体的な措置を取るべきです。

この尖閣諸島事件は、戦後安閑と暮らしてきた多くの日本人に国家意識を目覚めさせたという意味では、大きな事件でした。



安倍首相

マイナス面ばかりが目立った民主党政権が終わり、自民党の安倍政権が誕生しました。

国民の期待を一身に受けた安倍政権の経済政策によって日本経済は持ち直し、株価も市場最高値を付けています。

トランプ大統領は、共和党であるにも関わらず、ケインズの修正資本主義を支持しており、アメリカ国内の富の流失に大きく関わっている、新資本主義者による金融のグローバリズムと一線を画して、ナショナリズムを標榜しています。

従来の WASP 中心の共和党政権とは、明らかに異なった政策をとっています。ドイツ系移民

であるトランプは、従来の共和党の政策とは一線を画して、パナマ文書の情報公開などによって、利益をタックス・ヘブンの国に隠した、新資本主義者に大きなダメージを与えると共に、不法移民の禁止などによって、国家財政の健全化に取り組んでいます。

トランプ大統領のナショナリズムは、国家をコントロールする可能性のある、国家より上にある政治経済組織、即ち、国連、EU、TPP、COP（温暖化防止）などの規制を排除して、国家の利益を優先させる政策です。



トランプ大統領

安倍首相も、トランプ大統領の影響を受けて、従来の新資本主義の影響を排して、日本の国益を第一に考える政策を取ることを願うのみです。

日本の将来を考える

修正資本主義と新資本主義

現在の資本主義は、修正資本主義(ライン型資本主義・ヨーロッパ型資本主義)と新資本主義(アングロサクソン型資本主義・新自由主義)とに大別されます。前者を採用している国にはドイツ、フランス、北欧三国などの EU 諸国、かつてドイツから近代文明を学んだ日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます



アメリカの歴代政権が、すべて新資本主義を採用していたわけではありません。かつては、この政策は WASP (White Anglo-Saxon Protestant) を主流とする共和党が採用しており、民主党は修正資本主義を採用していました。

しかし現在は、WASP 以外の国民が急増しているため、国民全体の両党の支持率は、ほ

ぼ均衡を保っています。即ち、WASP は共和党を支持し、WASP 以外の白人、黒人、ヒスパニック、東洋人の殆どは民主党を支持しています。ただし、昨今は民主党の中にもアングロサクソン型資本主義に共鳴する人が急増しているため、現在のアメリカの政治は、共和党対民主党の対立ではなく、個人の富を追求するアングロサクソン型資本主義者と、雇用を促進し国家の財政を健全化する修正資本主義者の戦いに変化しつつある感があります。



この度のアメリカ大統領選挙は、従来の共和党対民主党の戦いではなく、修

正資本主義を標榜するトランプと、アングロサクソン型資本主義に転向したクリントンとの戦いだったわけです。すなわち、ITの活用によって巨万の富を築いたアメリカのグローバル企業とその配下にいるエリート達と、今まで伝統的にアメリカの産業を支えてきたのに、政府の間違った経済政策によって職を奪われたアメリカの伝統的なブルーカラー層との戦いであったわけです。

修正資本主義・ライン型資本主義

修正資本主義はライン型資本主義とも呼ばれており、古典的資本主義の無計画性に基づくさまざまな弊害を国家が政策的に是正し、福祉国家を目指そうとする政策です。



ジョン・ケインズ

資本主義における所得分配の不平等は、労使の協調と国家の所得再分配政策によって、また失業の増大は完全雇用政策によって、恐慌の発生は経済計画によって是正し、克服することができます。

この思想は 1929 年から始まった世界大恐慌後、1933 年のアメリカ民主党のフランクリン・ルーズベルト大統領によるニューディール政策として採択された政策であり、この理論は ジョン・ケインズが提唱したも

のです。

なお、ジョン・ケインズより 30 年前に、シカゴでビジネス・スクールを開設していた、アーサー・シェルドンがこれと全く同じ経営学理念を提唱しています。

修正資本主義は、ドイツ、フランスなどのヨーロッパの先進国やかつての日本が採用している資本主義の形態で、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会

の組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。

労働の対価として賃金が支払われ、それを使うことによって経済が発展するため、株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富や働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の運命共同体であると考えます。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。社会福祉を重視するために、政治的には大きな政府になります。

ヨーロッパでは長い間続いた宗教戦争の教訓から、宗教に関する偏見は殆どなくなりました。プロテスタント最優先のアメリカとは大きな違いです。

東西ドイツ統合に当たって、実質的には10対1の通貨を、1対1にした理由を考える必要があります。当面の損失よりも、将来の国の繁栄を考えたからに他なりません。EUに於ける通貨統合も同様です。自国のことだけではなく、ヨーロッパ全体の繁栄を目指しているのです。これが、ライン型資本主義を採用しているヨーロッパの先進国が、一様に高いGDPの伸びを記録している理由です。

しかしこれにも問題点があります。EUという国家を超えた組織によって、経済はもちろん、政治までも干渉を受けることになります。国の経済を守るためには、通貨の発行権や関税の自由裁量権が必要不可欠です。イギリスがポンドを死守し、EUを離脱した大きな理由です。

今後、アメリカやイギリスと同様に、ナショナリズムを標榜してEUを離脱する動きが高まりそうです。

新資本主義・アングロサクソン型資本主義

一方、新資本主義はアングロサクソン型資本主義・新自由主義とも呼ばれています。この思想の創始者はミルトン・フリードマンという経済学者であり、



フリードリッヒ・ハイエク

1950年代には、フランク・ナイト、ジェイコブ・バイナー、フリードリッヒ・ハイエクといった新自由主義思想を持った経済学者が続出しました。

新資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。企業は金融市場から直接資金を調達し、株主の利益の最大化を目指します。業績が悪化した場合、株主の利益を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成

果主義をとり、自己責任を重視します。

アメリカは建国の歴史からも分かるように、原住民を殺戮して積極的に前進した者のみが、自分の領有権を主張できた国です。何ごとも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセスストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクは、今も健在です。

フリードマンを元祖とする新自由主義者には、社会的秩序の維持、倫理観の尊重といった考えは全くありません。国家も制度も民族も否定して、新自由主義のメカニズムのみが、人間社会に幸福をもたらすと考えます。新自由主義の思想と論理は単に経済思想だけではなく、政治・経済・社会全般に具体化していけば、結果として、全体の富がごく僅かな富裕層に集中していくように仕組みられており、新自由主義の信奉者は、その目的のためには政治権力と結託して行動を起こし、手段を選ばず目的を貫徹しようとするのです。

自由な市場は、価格機能によって資源の最適配分ができるようになるので、富を最も効果的に分配することができ、そのためには経済活動を可能な限り自

由にすべきであると考えます。

それを実現するためには、政府の介入をできるだけ縮小して「小さい政府」にして、富裕層に減税して、社会保障制度を否定すれば、富裕層に富が集中し、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

しかし、その反面、他人の迷惑を無視して、全ての商品を投機化する結果、バブルに陥るリスクがあります。

1970-80年代、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブス（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしてきました。

イギリスのサッチャー首相、アメリカのレーガン、ブッシュ大統領の政策がこれに相当します。

アメリカ人の90%が神の存在を本気で信じており、最近の教科書からはダーウインの進化論は消えています。国民の50%がプロテスタントの信者であり、共和党政権の支持母体であるとともに、新資本主義の推進力になっています。

アメリカでは牧師に対する懺悔によってあらゆる罪が許されると信じている人が大勢います。牧師は信者の個人情報を持っていることから、教会の力が政治に及ぶほど大きいと考えられます。

利潤を追求することが目的ですから、福祉社会の構築とか従業員対策などに対する配慮は全くありません。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、レバレッジの技法を使って、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返します。

コンピューターを駆使して、100万分の1秒のタイミングで売買を繰り返します。あらゆるものを債券化して、例えば不良債券や売れ残りの家まで取引の対象にするのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

この社会は、映画「ウォール・ストリート」の一連のシリーズの中で、友人や家族や国家すら裏切りながら、個人の利益を追求する新自由主義者の姿が描かれてお



り、「友人も家族もいない。も

ウォール・ストリート

し寂しかったら犬を飼えばいい」という名せりふを生み出しました。

これらのグループはグローバリズムと称して、国家を無視したタックス・ヘーブンの場所に資金を移して、納税の義務を免れて、国家に大きな損害をもたらしました。

さらに、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。憂うべき現実です。

同様な傾向は、本来、修正資本主義を取るべき立場にある民主党にも広がってきました。アメリカ国内の富の流失に大きく関わっている、新資本主義者による金融のグローバリズムと一線を画して、ナショナリズムを標榜して大統領に就任したのがトランプです。

彼はケインズの修正資本主義を支持しています。

ドイツ系移民であるトランプは、従来の共和党の政策と一線を画して、パナマ文書の情報公開などによって、新資本主義者に大きなダメージを与えると共

に、不法移民の禁止などによって、国家財政の健全化に取り組んでいます。

トランプ大統領のナショナリズムは、国家をコントロールする可能性のある、政治経済組織、即ち、国連、EU、TPP、COP(温暖化防止)などよりも、国家の利益を優先させる政策です。政治的には共和党の小さな政府を目指し、経済的にはナショナリズムを標榜して、雇用問題や不法移民の禁止、共和党内のネオコン・グループの排除などに取り組んで、国民から大きな支持を受けています。

瑞穂の国型資本主義

過去を知らなければ、未来を語ることはできません。私が一番心配していることは、日本の若者が日本の歴史の実態をあまりにも知らないことです。日本国民の立場から見た、歴史の真実を語り継ぐことによって、はじめて未来が展望できるのです。

原爆の使用によって平和がもたらされたという、アリリカ側から見た、勝てば官軍的な発想で、近代史を信じ込む若者が多いのは残念なことです。日本人の視野から日本の歴史を見つめなおす必要があります。

日本を経済的な孤立に追い込み、日本の立ち位置を明治維新の状態に戻そうとしたことが、第2次世界大戦の誘因であることを忘れてはなりません。

日本が21世紀に向かって政治的にも経済的にも発展していくためには、現在傾きつつある新資本主義から決別して、修正資本主義に極めて近い、瑞穂の国型資本主義に転換する必要があります。ここからは、私なりに考えた天下国家論を展開してみたいと思います。

明治維新による日本の近代化の殆ど、即ち哲学、経済、医学、法律などの文化はドイツから入ってきました。私の年代が最後になりましたが医学は全てドイツ語でした。英語が外国語の代名詞になったのは終戦後のことです。この事実からも、日本の基本的な政治経済は、ドイツからもたらされたライン型資本主義(ケインズの修正資本主義)であり、新資本主義に移行しかかったのは、ごく最近のことなのです。



もし日本が、つい最近までアメリカがとっていた新資本主義経済を採用すれば、日本の将来が危うくなることが予想されます。アメリカの将来の人口増加は1億人と予測されています。その分大きな内需が喚起されます。日本には急速かつ大幅な人口減少と高齢化が起こるのです。内需が拡大する国と縮小する国の経済政策が異なるのは当然のことです。

日本が21世紀を生き抜くためには、人口が増加して、内需が拡大するアメリカの経済を真似るのではなく、むしろヨーロッパのライン型資本主義に近い、日本独自の資本主義形態に転換する必要があります。

私はそれを「瑞穂の国型資本主義」と名づけました。日本書紀では日本のことを「豊芦原瑞穂の国」と呼んでいるので、日本にふさわしいネーミングだと思います。

日本には「実るほど頭(こうべ)を垂れる稲穂かな」という諺があります。

日本が実行する国内政策、外交政策、経済政策は、3000年近い長い歳月を経て、たわわに実った稲穂のように、皆に喜びと幸せをもたらすものでなければなりません。

「瑞穂の国型資本主義」の具体的な戦略は次の通りです。

新資本主義・市場原理主義とは一線を画し、利益の再配分と福祉の充実を図る必要があります。

経済政策や貿易においては、アメリカ追従ではなく、アジアを中心にした全方位型を採用することが必要です。

円高は、日本の経済力を示すバロメーターですから、長期的に見れば喜ばしい現象です。

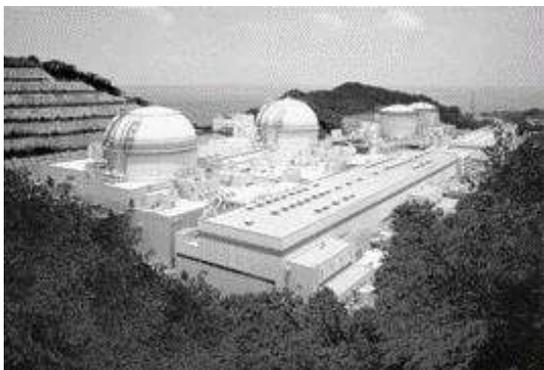
ヨーロッパでは長い間続いた宗教戦争の教訓から、宗教に関する偏見は殆どなくなりました。日本にも宗教的な偏見は殆どありません。プロテスタント最優先のアメリカとは大きな違いです。政治・経済のグローバル化を図った EU は分裂の危機にあり、ナショナリズムが復活しつつあります。大量の難民問題を抱えて、いかにして自分の国を守るのかという時代に入ったのです。しかし、ドイツ、フランス、北欧三国などの一般社会や従業員の福祉を重視した経済政

策には学ぶべき多くの政策があります。

核兵器なき世界平和を推進しつつ、原子力の平和的利用を推進する必要があります。低価格のエネルギー源として、また潜在的な核抑止力として、原発を保持して、安全性を第一に維持管理しなければなり

ません。

次世代のスーパー・コンピューターの消費電力は原発一基分と言われております。エネルギー源として十分な電力を供給するためには原発が必要不可欠であり、国土の狭い日本では、再生可能エネルギーに全てを依存することは不可能です。





防衛力を他国に依存することは、独立国として恥ずべき姿です。すみやかに現行憲法を廃止して、新憲法には自衛隊の存在を明記すると共

に、核兵器を使わないことを条件にして、核武装の是非を真剣に検討する必要があります。何故ならば核武装は抑止力として、大きな効果を持っているからです。

領土保全のための国防力を更に充実する必要があります。日本には零戦や大和を作った優れた技術があります。アメリカにすべての軍備を依存するのではなく、積極的に、国内の軍需産業を育成すべきです。

なお日本国民としての自覚と結束力を高めるための、短期間徴兵制度の導入も検討に値します。なお国土防衛のために、尖閣諸島・与那国島・壱岐・對馬に自衛隊を常駐させるべきです。

国土保全や防衛の見地からも、外国人の土地買収には、法的な制限をかける必要があります。

医療における国民皆保険制度は世界に誇る日本独特の制度です。僅かな保険料を払って、健康を維持できる国は、日本だけです。この分野にだけは外国資本やアングロサクソン型の資本主義の介入は排除すべきです。ただし、特区を設けて、新たな先進医療技術の開発や、迅速な新薬承認は積極的に進めるべきです。人口対医師数は世界で 53 位であり、高齢化を迎えた日本としては、憂うべき状態にあります。医学部の定員増などの措置が必要です。

福祉国家として発展するためには、社会的共通資本を整備、拡充して、さら



なる近代化を図らなければなりません。第2次日本列島改造計画として、リニア新幹線網、電線・光ファイバーの地下埋没、交通・物流・介護の無人化などによ

るインフラ整備を図ることによって、新しい形の内需が生まれます。

21世紀半ばから、日本の人口は急激に減少します。人口の減少は内需が縮小することを意味します。もはや、従来型の公共事業に頼って内需の拡大を図ることは不可能です。マン・パワーを代行するロボット工学、日本が得意とする先端医療、新薬開発、宇宙産業、人工知能など、産業構造を大幅に転換する必要があります。

日本は1200兆円の債務残高がありますが、その殆どは国債であり、国債の90%は日銀を始めとした日本人が持っているのです。国の債務は、言い換えれば、日本人の債権でもあり、国内の問題として解決することができます。日銀の超低金利政策が続く限り、外国は金利0円の日本の国債を買うことはありません。さらに300兆円を超す、対外純資産を持っています。

アメリカの債務残高は2000兆円であり、国債のかかなりの部分は、日本や中国などの外国が所有しているのですから、日本の現状とは対比すること自体がナンセンスです。

実質的に日本は世界一豊かな債権国だと言えます。国内で消化できる範囲の赤字国債の発行は何の心配もありません。安定的成長を持続できるような、ライン型経済政策をとり、世代に関わらず豊かな生活が送れるように、思い切って社会保障を充実することが必要です。

日本の国土面積から考えると、適正人口は 8000 万人だと言われています。移民は全く必要とせず、国内で人口減少に伴う労働力を確保することは可能なのです。そのためには、積極的な従業員対策が必要です。利益を公正に再配分して、終身雇用制や年功序列制などを復活して、従業員に配慮する、かつての日本の労使関係戻ることが必要です。

なお日本の文化は、島国として独特の進化をしてきたため、外国人が同化するのには困難なので、難民の受け入れは慎重に考える必要があります。

農地の集約化によって、食料の自給率向上を図るとともに、遺伝子工学を活用した高度な品種改良、人工栽培による農業、鮮魚の完全人口養殖技術を生かして、価格変動性が少ない、安全性の高い、さらに付加価値の高い農畜産物・鮮魚を輸出産業として育成しなければなりません。

アメリカの占領政策によって、日本人は洗脳されて、日本の文化は大きく変えられました。



日本は、エジプト、メソポタミアにも匹敵する、3000 年に近い歴史の中で、「和の心」という独自の文化を育ててきました。しかし昨今は、物が豊かになるのに伴って、心が貧しくなってきました。本来共同体であった日本の社会が急速に壊れつつあります。

人の心が貧しくなり、家族の解体が進んでいます。若者の心が疲労して、安易な癒しを求めます。

謙虚、尊敬、誠実、おもいやりなどの日本伝統の「わび・さび」「和の心」を取り戻す必要があります。修身の復活、日本国の正しい歴史（特に近代史）を徹底的に学ぶことなどの、教育の大幅な

改革が必要です。

資本主義は豊かな先進国から、資源を持っている途上国に、投資することによって成長してきました。豊かな国が、資源を持っている途上国に投資することによって、貧しい国は豊かな国になります。

この 50 年間で、世界の資源の 90%を消費したと言われていています。活発な投資によって、資源の大半を消費した現在、先進国間には投資すべき資源は、ほとんど見当たりません。だから、不良債券や売れ残りの家までのサブプライムが投資の対象になるのです。

最後の投資対象として、皆が熱いまなごしを向けているのがアフリカ大陸です。最後まで残ったアフリカ大陸への投資が終わることは、地球上の資源が枯渇したことを意味します。金儲けの手段が途絶えたときに、新資本主義が終焉を迎えることは自明の理ですが、その時期まで放置しているわけにはいかないのです。

国連の統計によると、現在の世界の人口は 76 億人、2050 年には 98 億人に達すると言われていています。人口爆発によって、食料を始め全ての資源が枯渇してしまえば、アフリカ大陸が豊かな国になるのではなく、地球上の全ての国が貧困国になる可能性を示唆しているのです。

地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人々は他人のことを思いやり、残り少ない資源を皆で分かち合って生きていかなければならないことに気づくでしょう。

1915 年に作られた、ロータリーの道徳律には、ドイツ系アメリカ人、ジョン・ナトソンが、「黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。」と記載しています。

この分かち合いの精神は 2010 年にチリで起こった鉱山の落盤事故で見事に証明されました。僅か 3 日分しかない食料を強いものが独占するのではなく、皆で公平に分かち合いながら、18 日間も生き延びたのです。この偉業は特別に

訓練を受けた組織ではない、単なる鉱山労働者が達成したのです。これが人間と他の動物との大きな違いです。

フランスの経済学者ジャック・アタリは、国境なき超民主主義の世界を提唱しています。一見理想的な社会に見えますが、国家の概念を無くすことは、新資本主義を意味しますので、富の一極集中に繋がる可能性があります。グローバリズムというのは、世界の政治も経済も統一しようという考え方であって、世界国家という響きのいい理想社会を連想させますが、国家の否定に繋がる危険な考え方でもあります。超民主主義まで望まなくても、1500年前に聖徳太子が作った17条の憲法に明記されている民主主義で十分ではないでしょうか。

資本主義の最終章がどのような結末になるのかは誰にもわかりません。しかし私たちは未来に向かって歩んでいかなければならないのです。正しい歩を進めるためには、過去の歴史を反省しつつ、日本の偉大な文化である「和の心」を守っていくことが最善であるように思われるのですが・・・

参考文献

- | | |
|---------------------|------------|
| 古事記 | 倉野憲司 |
| 現代語古事記 | 竹田恒泰 |
| 日本書紀 | 坂本太郎 |
| 現代語訳日本書紀 | 宇治谷孟 |
| 歴代天皇肖像画 | 弥彦神社 宝物殿 |
| もういちど読む日本史 | 五味文彦 |
| 日本史 | 後藤武士 |
| 日本の歴史 | 渡辺昇一 |
| 日本近代史 | 坂野潤治 |
| 日本現代史 | 田原総一郎 |
| もういちど読む日本近代史 | 鳥海 靖 |
| 政治入門 | 藤井厳喜 |
| 日本史 | 渡辺昇一 |
| 読むだけですっきりわかる日本史 | 後藤武士 |
| 戦国史研究 | 戦国史研究会 |
| 源氏物語 | 谷崎潤一郎 |
| 明治維新 | 遠山茂樹 |
| 幕末史 | 半藤一利 |
| 世界経済の支配構造 | 菅沼光弘 |
| 日本人が知らないアメリカの本音 | 藤井厳喜 |
| 日本人が知っておくべき世界の裏側 | 藤井厳喜 |
| 大東亜戦争で日本はいかに世界を変えたか | 加瀬英明 |
| なぜアメリカは、対日戦争を仕掛けたのか | 加瀬英明 |
| 太平洋戦争の大嘘 | 藤井厳喜 |
| 世界に比類なき日本文化 | ヘンリー・ストークス |
| 資本主義対資本主義 | ミシェル・アルベール |

新自由主義の自滅	菊池英博
新自由主義の終焉	佐和隆光
日本型資本主義と市場主義の衝突	藤井真人訳
資本主義の終焉と歴史の危機	水野和夫
国家の逆襲	藤井巖喜
世界を操るグローバリズムの洗脳を解く	馬測睦夫
新自由主義の帰結	服部茂幸
21世紀の歴史	ジャック・アタリ 林昌宏訳
21世紀の資本	トム・ピケティ
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	笠原俊彦訳
ケインズの経済学	滝川好夫
瑞穂の国型資本主義を目指して	田中毅



TANAKA TAKESHI

発行 2018年7月

著者 田中 毅

発行者 源流の会

1996年度 2680地区パストガバナー

Mail ashicon@pop02.odn.ne.jp

URL <http://genryu.org>

主な著書

Golden Strand 翻訳、Rotary? 翻訳、The Meaning of Rotary 翻訳

Rotary Philosophy 翻訳、奉仕の原則と保全の法則 翻訳

Sheldon Course 翻訳、奉仕理念の提唱者 アーサー・シェルドン

詳説 アーサー F. シェルドン、ロータリー歴史展望、ロータリー歴史展望(日本編)、職業奉仕その原理と実践、ロータリーの奉仕理念、ロータリーの森を巡る旅、My Golden Life

脱新資本主義を目指して

2680 地区 PDG 田中 毅

グローバリゼーションとは「グローバル化」であって、人・物・金の国際間の流れを自由にするために、障壁を取り払い、世界各国の政治や経済の流れを良くすることを意味します。

グローバリズムは、新自由主義に基づく資本主義のことであり、アングロサクソン型資本主義とも言われています。似たようなフレーズですが、全く異なった意味を持っています。

現在の資本主義の形態は、アングロサクソン型資本主義とライン型資本主義に分類されます。

アングロサクソン型資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、企業は金融市場から直接資金を調達し、株主利益の最大化を優先します。業績が悪化した場合、株主価値を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視し、政治的には小さな政府を志向します。何ごととも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセスストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てます。しかし、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。イギリスのサッチャー首相、レーガン、ブッシュ大統領の政策、さらに現在ではトランプ大統領の *America first* の政策がこれに相当します。

ライン型資本主義は、ドイツなどのヨーロッパの先進国に見られる資本主義の形態で、企業は主に金融機関から資金を調達し、株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。社会福祉を重視し、政治的には大きな政府になります。

日本はライン型資本主義の典型と言われてきましたが、1996年以降、
アングロサクソン型資本主義に傾きつつあります。

アダム・スミスは、1776年に国富論を展開して、古典的資本主義の
礎を築きました。

従来の重商主義を転換して、資本家を含めた国民各自が資本蓄積を
考えれば、最も効果的な経済発展を起こして人々のためになるという
経済政策です。

本来の富とは、国に存在するお金の量ではなくて、消費できる生産物
の量にあります。経済には関わる無用な介入を排除して、政府の役割を
国家の司法、交通、通信、教育等に限定して、フェアな市場の維持を目
指した小さい政府を目標にするという考え方です。

イギリスの産業革命の進行とともに、自由主義的国家、自由貿易、自
己調整的市場、国際金本位制などに象徴される古典的資本主義が確立
しました。

19世紀末から、国家の枠組みの中で改革するという修正資本主義の
時代が始まりました。市場の行き過ぎを抑えて、資本家が労働者から利
益を不当に搾取することを禁止する政策です。国家は自由市場の暴挙
や不公正に対抗して、労働者を保護し、貧困の解消に努力しました。

当時これを達成する改革の中心的役割を果たしていたのは、カール・
メンガーの流れをくむ経済学者のグループであるオーストリア学派の
人たちでした。

ミシガン大学でオーストリア学派に属していたと思われる、エルバ
ート・ハバートやアーサー・フレデリック・シェルドンなどは資本主義
のもたらすこれらの社会矛盾や害悪を、社会主義や共産主義に変える
のではなく、現在の資本主義の大枠の中で和らげたり克服することによ
って、資本主義の形態を保ちながら、この難関を克服できないものか

と考えました。これは、ミシガン大学の経営学部では 1890 年代にすでに修正資本主義を先取りした研究が行われていたことを物語ります

修正資本主義とは、古典的資本主義の無計画性に基づくさまざまな弊害を国家が政策的に是正し、福祉国家を目指そうとする政策です。資本主義における所得分配の不平等は、労使の協調と国家の所得再分配政策によって、また失業の増大は完全雇用政策によって、恐慌の発生は経済計画によって是正し、克服することができます。この思想は 1929 年から始まった世界大恐慌後、1933 年のアメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領によるニューディール政策として採択された政策であり、この理論は ジョン・ケインズが提唱したものです。

ケインズはケンブリッジ大学で貨幣論を研究し、1935 年に「雇用・利子および貨幣の一般理論」を発表して、有効需要の不足に基づく失業は減税・公共投資などの政策により投資を増大させることで、回復可能であることを示して、大恐慌に苦しむルーズベルト大統領によるニューディール政策の強力な後ろ盾となりました。

然し、1902 年にアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した **He profits most who serves vest** に基づく経営学理念は、この修正資本主義の考え方とほぼ同じ理念でした。唯一異なる点は、修正資本主義は国家が国策として行うのに対して、シェルドンの思考は企業の経営者が自主的に行うという点だけです。

ケインズの政策はマクロ経済学として国家が採用したのに反して、シェルドンの経営学はミクロ経済学として企業や個人が採用したために、修正資本主義より先に実施されたにも拘わらず、シェルドンの考え方が一般に知られていないことは、ロータリアンとして非常に残念なことです。

シェルドンはこの経営学理念を広めるために、シカゴにシェルドン・スクールを設立しました。修正資本主義を 30 年も先取りした内容を具

体的に教えたために、この考え方を実践した事業所は業績を伸ばし、1921年の最盛期には学生数は通信教育を含めて26万人に達したという記録が残っています。

シェルドンの経営学に基づく奉仕理念は、継続的な利益をもたらす顧客を確保する活動であり、それを分かり易く説明するモットーとして、「He profits most who serves best」を提唱しました。

シェルドンの奉仕理念は極めて単純明快なものです。

- ・事業を営んでいる限り、価値ある奉仕を行う必要があること。
- ・奉仕を行う能力を開発して、その能力を適用すること。
- ・奉仕を行えば、正当な報酬が得られること。

健全な事業経営とは、奉仕理念に基づいて、継続的な利益 profit をもたらす常連客を確保することです。Profit とは奉仕を行った正当な報酬のことです。

奉仕という原因には、必ず報酬という結果が与えられます。この順番を間違えないことが重要です。あまりにも事業に失敗する人が多いのは、この順番を間違えて先に報酬と言う結果を得ようとするからです。

奉仕については次のような定義をつけています。

- ・仕事を管理する人たち（企業主）を管理すること。
- ・管理される人たち（従業員）を管理すること。
- ・この両者に顧客を加えた集団を管理すること。

さらに、これに時間やエネルギーやお金や材料を無駄遣いせず有効に活用して保全することを付け加えることです。これはすべて安心と豊かな実りを獲得するための道です。

世に有用な職業に従事している人は全員、奉仕によって品物を作ったり、売ったりしているのです。すべての従業員は、人に役立つものを作り、雇用主はそれを売っているのです。役に立つこととは奉仕の別名なのです

奉仕の原則を条件とした満足感を表したのが「質・量・管理の状態」

を示した価値ある奉仕の要素です。即ち、正しい管理状態の下で、十分な量の良い商品を顧客に提供することです。

質とは、商品の品質が高いこと。一度売った商品には責任を持つこと。適正な価格であること。

量とは、商品の種類が豊富で、十分な量が確保できること。

管理の状態とは、店主や従業員この態度が良いこと。商品知識があること。広告が適正であること。

こういうことが守られている店には、何度でも行きたくなるものです。一見さんだけを相手にしては、継続的な事業の発展はありません。リピーターとなって再三、店に訪れる常連客を確保することが、すべての事業所を繁栄させるのです。

もう一つの考え方は、人間関係学から見た利益の適正な再配分です。自分の事業が成功しているのは、事業主の力量によるところが大ですが、事業所で働いてくれている従業員、事業所に色々な品物を納めてくれている取引業者や下請け業者、事業所から品物を買ってくれる顧客、さらに、その事業が、その町の中で普遍的に営んでいけるのは同業者がいるおかげであることを忘れてはなりません。

事業主を取り巻く全ての人たちのおかげで事業が成り立っていることを考えるならば、得た利益を、事業主が一人占めするのではなく、事業に関係する人たちと適正にシェアをしながら、事業を進めていけば、必ずその事業は発展していくはずです。

そのような経営方針を採用して事業が発展していく様子を、自らの事業所をサンプルとして実証すれば、同業者の人たちは、その事業態度を真似るに違いありません。そうすれば、業界全体のレベル・アップに繋がっていくというのが、**He profits most who serves best**のもう一つ意味です。この考え方は今も昔も変わらない真理です。

雇用主の従業員に対する責務は、適正な報酬を支払うこと、安全、福利厚生、社会保障、快適な生活を保証すること、従業員に教育の機会を

与えることです。

従業員の雇用主に対する責務は、職場では最善を尽くして働くこと、過失を最小限におさえること、会社の管理運営に協力することです。

雇用主と従業員がこの三種類の責務をお互いに果たすことが、会社の発展に繋がるのです。

これらの説明によって、政府の政策か、事業主の自発的な規制かという点を除けば、シュルドンの経営学に基づく奉仕理念が修正資本主義とほぼ同じだということが分かります。

修正資本主義の時代の後に登場したのが新自由主義（新資本主義・アングロサクソン型資本主義）です。

この思想の創始者はミルトン・フリードマンという経済学者です。彼が修士号を取得した頃のシカゴ大学には、フランク・ナイト、ジェイコブ・バイナー、フリードリッヒ・ハイエクといった新自由主義思想を持つシカゴ学派の経済学者が在籍しており、とくにハイエクは徹底した新自由主義者として有名です。

国家も制度も民族も否定して、新自由主義のメカニズムのみが、人間社会に幸福をもたらすという考え方です。新自由主義の思想と論理は単に経済思想だけではなく、政治経済社会全般に具体化していけば、結果として、全体の富がごく僅かな富裕層に集中していくように仕組みられており、新自由主義の信奉者は、その目的のためには政治権力と結託して行動を起こし、手段を選ばず目的を貫徹しようとする執念を持っているのです。

1960年代、国際通貨市場が不安定で、ポンド切り下げの噂が強まっていた時に、フリードマンが1万ポンドを空売りしようとして、銀行から断られたとき、「資本主義の世界では、儲かるときに儲けるのが当然だ」と、シカゴ大学の講演で反論しました。フリードマンを元祖とする新自由主義者には、社会的秩序の維持、倫理観の尊重といった考えは全

くありません。

新自由主義の基本理念は、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」です。これは、自由な市場は、価格機能によって、資源の最適配分ができるようになるので、富を最も効果的に配分することができ、そのためには経済活動を可能な限り自由にすべきであるという考え方です。それを実現するためには、政府機能を縮小して「小さい政府」にし、富裕層に減税し、社会保障制度を否定すれば、富裕層に富が集中し、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

アングロサクソン型資本主義は、何ごとも利益追求のチャンスとして、ゼロから無限の富を目指すサクセスストーリーで、人々の競争意識を駆り立てる魅力があります。しかし、その反面、他人の迷惑は無視して、全ての商品を投機化した結果、バブルに陥るリスクがあります。

1970-80年代、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブ（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしてきました。

そして、この政策を採り入れたのが、アメリカではレーガン、ブッシュ親子、トランプ大統領、イギリスではサッチャー首相であり、日本では小泉、安倍首相がその影響を大きく受けています。

なお、新自由主義経済学の論理では「バブルは発生しない」「物を供給すれば必ず売れる」「失業はない」「不況はない」「恐慌はない」「政府は市場に介入しない」という前提であったため、こうした危機を予測することができませんでした。

現在の資本主義は、ライン型資本主義（ヨーロッパ型資本主義）とア

ングロサクソン型資本主義（新資本主義）とに大別されます。前者にはドイツ、フランス、日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます。

アングロサクソン型は「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。金融市場依存型であって、企業は証券市場において株式や社債を発行して資金を調達します。株主重視の経営であるために、経済発展のダイナミズムに敏感な企業経営となる一方で、株主が気に入らない経営者は罷免されるので、経営者は常に株価を最重要視せざるを得ません。業績が悪化すると、従業員はいとも簡単にレイオフされます。

ライン型資本主義は、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会構造や組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。富と働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の公共的機関であると考え、株主より従業員を重視します。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。

しかし、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

この社会は、映画「ウォール・ストリート」の一連のシリーズの中で、友人や家族や国家すら裏切りながら、個人の利益を追求する新自由主義者の姿が描かれており、「友人も家族もいない。もし欲しければ犬を飼えばいい」という名言を生み出しました。

現在の国際情勢は、世界秩序を維持したり、国際問題を解決するために必要なリーダーシップを発揮できる政治力を持つ国が存在しない「Gゼロ」の状態にあります。America first を強調するトランプ政権も、新自由主義政策による失敗で 2100 兆円（2017 年度推計）の負債を抱えており、日本にも大きな債務を抱えているため、常に円安になるように誘導しています。特に中国には多額の国債を保有してもらっており、大国同士としての経済面での相互依存関係が進んでいます。今や中国の提案による AIIB（アジアインフラ投資銀行）の加盟国は 70 ケ国を超えて、日本主導のアジア開発銀行を超える存在になりました。アメリカと中国が経済関係における共存共栄路線のなかで、日本が孤立してしまう可能性すらあります。

ロータリーでは、政治や宗教を語らないことが原則になっているようです。しかし政治と経済は一体になっており、ロータリアンはおもに経済人によって構成されている関係上、政治を語らざるを得ません。ロータリーは政治に関わる決議を表明してはなりません、政治を語ることは自由なのです。

第二次世界大戦によって壊滅的になった日本経済は、朝鮮戦争による特需、田中首相による日本列島改造、池田首相による所得倍增政策などによって奇跡的とも言われる回復を遂げ、その後ライン型資本主義を採り入れて、国民の大半が中間階級を意識する時代が続きました。

しかし 1989 年から起こったバブル崩壊を契機に日本経済は低迷期に入ります。抜本的な経済政策を取ることができずに、政権も目まぐるしく変わりました。

2001 年に政権を担った小泉首相は、経済政策を、竹中平蔵氏の影響を大きく受けた新資本主義に転換し、市場万能主義による規制の自由化を推進すると共に、デフレ政策を取りました。しかし、この急激な政策変更は返って経済不況を強めたため、ライン型資本主義に慣れ親し

んでいた国民の反発をかって、民主党政権への転換に繋がりました。

新しく政権を担った民主党は、経験不足であり、かつ無策であったため短命に終わり、自民党の安倍政権が誕生しました。安倍政権の経済政策によって日本経済は持ち直し、株価も 20 年ぶりの高値を付けていますが、新資本主義の影響を大きく受けた政策であり、第三の矢と言われる特区に代表される構造改革の推進に、一抹の不安を抱く経済人も多いようです。

日本が 21 世紀を生き抜くためには、日本型資本主義に転換する必要があります。私はそれを瑞穂の国型資本主義と名付けたいと考えています。

その具体的な内容は次の通りです。

- ① 新資本主義・市場原理主義から決別して、ライン型資本主義に回帰すること。
- ② 核なき世界平和を推進しつつ、国防力を充実すること。
- ③ 産業構造を内需型に転換して、輸出立国の考えから内需中心の福祉国家へ転換すること。
- ④ 安定的成長を持続できる経済政策をとり、社会保障を充実すること。
- ⑤ 利益を公正に再配分して、従業員に配慮する理念に戻ること。
- ⑥ 社会的共通資本を整備、拡充して、近代化を図ること。
- ⑦ 食料の自給率向上を図り、農産物を輸出産業として育成すること。

以上、新資本主義の弊害を縷々述べましたが、それはロータリーの奉仕理念として **He profits most who serves best** が存在する限り、ロータリーの理念は理論的に新自由主義型資本主義ではなく、ライン型資本主義を順守しなければならないからです。

2017 年の決議審議会で、新資本主義の体制下にある RI から、このモットーの廃止提案が出ることを危惧していましたが、その憂いがな

かったことに安堵しています。

今、日本経済は、新資本主義の方向に向かって、大きく傾こうとしています。ロータリアンの中にも新資本主義を信奉する人が多く存在する時代になりました。

しかし、アメリカ・イギリス型の新資本主義は、シェルドンが提唱する経営学理念 **He profits most who serves best** とは整合性がありません。**Sheldonism** に従った取引は奉仕が目的であり、利潤を目的とした取引は虚業であることを忘れてはなりません。ロータリークラブは実業人の集合体であって、虚業人が入る場所ではないのです。

地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人々は他人のことを思いやり、残り少ない資源を皆で分かち合わなければならぬことに気づくでしょう。僅かな物資を分け合って人々は助け合って生きていかなければなりません。この分かち合いの社会のことを、フランスの経済学者、ジャック・アタリは超民主主義と呼んでいます。

超民主主義は利他主義であり、これまで個人の利益・幸福を追求したことに対する反省をこめて、人々が他人のために働くことによって自分の利益を得るという心の発展と開放を目指すことを意味します。

超民主主義とは、市場原理主義の限界を超えた、人の善意で世界が運営される、国境すらない世界平和主義という理想モデルの一つなのです。そしてロータリーは超民主主義を目指して 100 年有余の活動を続けてきたはずです。

これが、**Sheldonism** の真髄であることは、道徳律の第 11 条に、「**he profits most who serves best** という黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである」と書かれていることから明らかです。

超民主主義のリーダーとして未来の人類を牽引していく人達のこと

をトランス・ヒューマンと呼んでいます。トランス・ヒューマンとは知的にも肉体的にも道徳的にも最も進化した未来の人間像を現し、他人のことを思い遣り他人のために尽くす調和を重視した超民主主義を構築する中心的役割をする存在と定義されています。私はそれを、未来のロータリアンの姿に重ね合わせます。

近未来の社会を管理するためには、ロータリーの正しい経営学に基づく高い倫理基準と理性的な行動力が必要になってきます。これらの技術を開発するための優秀な頭脳を持つ人材をつくり出すことが将来のロータリー財団の重要な役割になっていくでしょう。

RI がどの道を歩もうとも、**He profits most who serves best** というモットーが残っている限り、我々個々のロータリー・クラブとロータリアンは、**Sheldonism** の精神に従って、正しい経営者としての道を進まなければならないのです。

He profits most who serves best の理念に基づいて、**Service above self** の活動をすることによって、トランス・ヒューマンとして我々の住む地球を次の世代に引き継ぐことが、我々ロータリアンの責務ではないでしょうか。

フリーメイソンリー

2680 地区 PDG 田中 毅

フリーメイソンリーがこの団体の名称であって、会員個人のことをフリーメイソンと呼んでいます。ロータリーとロータリアンとの呼称の差と同じです。

ロータリーとフリーメイソンリーとの関係を、何か特別なもののように説く人もいますが、ロータリーが閉鎖的な組織であるのに反して、フリーメイソンリーは至って開放的で、一定の条件さえ満たせば、ロータリー、ライオンズ、ボーイスカウトなどの他の団体の会員、政治家、宗教家、小説家、芸能人、更に共産主義者でも入会できるので、特にロータリーという組織だけが特別深い関係にあるわけではありません。

フリーメイソンリーのルーツについては幾つかの説があります。

一番古いものは、1360 年、イギリスのウィンザー宮殿の建造の際に徴用された 568 人の石工職人団体に遡ります。

聖地エルサレムへの巡礼者の保護のためフランスで結成されたテンプル騎士団の生き残りが作った組織だという説もあります。



更にソロモン神殿の建築に携わった石工職人団体を起源とする組織だという説もあります。

現在のフリーメイソンリーのシンボルマークは、上にコンパス、下に直角定規という、石工職人のギルドだったことを示しています。

G はギルド (Guild) を意味するという人もいますが、神 (God)、幾何学 (Geometry)、栄光 (Glory)、寛容 (Grandeur)、黄金 (Gold)、靈知 (Gnosis) を表すと考えている人もいます。

フリーメイソンリーにおける個々の建築道具は人間の美德と対応しており、「直角定規」は道徳、「コンパス」は真理「鎚」は結束と友愛、「槌」は知識や知恵を象徴しています。

この組織は各々独立したロッジから成り立っていて、16 世紀後半にはスコットランドに、17 世紀中盤にはイングランドに、1717 年には、英国グランドロッジが設立されています。なお、独立戦争以降に米国にグランドロッジができています。

その職人団体としてのフリーメイソンリーは近代になって衰えていきますが、その後、建築学、専門職人、貴族、知識人などが加わり、職人団体から、友愛団体に変わって著しい成長を遂げます。商業や文化のネットワークを通じて、イギリスから、ヨーロッパ諸国、ロシア、アメリカ大陸、アフリカやアジアにまで広がっていきました。会員であれば相互に助け合うというフリーメイソンリーは、困難を抱えた人間にとって非常にありがたい存在でした。坂本竜馬が亀山社中を通じて大量の武器の輸入をしたり、討幕派の長州藩のためにユニオン号を買った金は、フリーメイソンであったグラバーから出たものだと言われています。ちなみにニューヨークの自由の女神像は、フランス系とアメリカ系フリーメイソンの間に交わされた贈り物であり、台座の銘板にはその経緯とフリーメイソンリーのシンボルマークが刻まれています。

最盛期には 600 万とも 300 万とも言われた会員も現在は 140 万人に激減し、日本人は僅か 300 人程度しか在籍していません。ロータリーは声高に会員増強を叫びますが、フリーメイソンリーでは、入会勧誘はご法度であり、会員 2 名の推薦を受けて、本人自らが申請しなければ

なりません。

入会条件はかなり厳しく、真摯な信仰心を持つ人と限定されていますが、特定の宗教を信仰しなくても、神や創造者の存在を信じる者ならば許されます。世間での評判、高い道徳的品性や健全な心の持ち主も条件です。定職を持ち、家族を養える一定の収入が必要です。政治的信条は問われず、共産主義者も可です。

フリーメイソンリーには「自由」、「平等」、「友愛」、「寛容」、「人道」という5つの基本理念が存在しています。この基本理念に基づいて、全人類の兄弟愛という理想の実現と、文明というものがもつ真正で最高の理想を実現するのです。

入会資格は18歳以上の男子に限定されます。身体障害者は入会できませんが、戦傷者については除外する規定があります。なお、黒人には別の専用ロッジがあります。

入会は月1回行われるロッジに於ける例会で面接があり、満場一致で会員候補者に決定されます。その再必ず聞かれるのは、5つの基本理念に関する自らの考え方です。後日身辺調査が行われ、入会金5万円と年会費5千円を支払って会員となります。なお、各ロッジによってこの金額は異なります。

入会の際、儀式の暗記と宣誓の暗唱が求められます。会員が付ききりで教えてくれますが、儀式の内容は極秘であり、外部に明かすことは禁じられています。このあたりが、秘密結社の疑いのかかる所以かも知れません。階級昇進においても儀式の暗記と宣誓の暗唱が求められ、その内容も、一段と高度化、神秘化していきます。

階級制度が厳しく、最低ランクの「徒弟」から最高ランクの「最高大総監」まで33階級あります。昇格の基準については公表されていません。石工ギルドの時代には、1階級上がるのに2~3年かかったといわれています。



フリーメイソンには有力者の会員も多いため、さまざまな人脈が出来て有利に働きます。符牒や握手の方法は、現実にはあまりにも有名になりすぎたため、実際に会員かどうかを知る必要がある時は会員証を提示させたり、特別な検分質問を行うこともあります。

ロッジに於ける食事会や集会では、政治活動、事業、宗教、政治問題を語ることは禁止されています。

主な活動内容は、高度な知識や技術を守るための儀式、会員同士の社交活動、慈善活動、募金・献血等チャリティー活動があげられます。まさしくこれらの活動を通じて、会員相互の友愛を図る活動です。

ホワイトハウス、自由の女神、ワシントン記念塔もフリーメイソンが設計や作成や寄贈に関与しました。

会員自身がフリーメイソンであることを告げるのは自由ですが、他人の身分を公表することは禁じられています。

日本における主なフリーメイソンは、西周、後藤新平、坂本龍馬、高橋龍太郎、河井彌八、佐藤尚武、鳩山一郎、笠井重治、加納久朗、星島二郎、東ヶ崎潔、三島通陽、沢田教一、小泉純一郎、高須克弥。

世界における主なフリーメイソンは、ベンジャミン・フランクリン、ヘンリー・フォード、ポール・ハリス、メルビン・ジョーンズ、ダグラス・マッカーサー、カーネル・サンダース、ゼバスティアン・バッハ、ウィンストン・チャーチル、フランクリン・ルーズベルト、などがあげられます。

なお、組織の管理は、独立したグランド・ロッジ別の中間管理組織が行い、ロッジ別の規約が定められています。入会金、年会費もロッジが定めます。貨幣価値が大幅に変わったにも関わらず、その金額は数十年前から変わっていません。

なお、1980年代の後半に、私自身もある政治家から入会を勧められましたが、当時フィリピンにおける貧困対策に取り組んでいたため、例会出席が不可能であることを理由に、お断りしたことを申し添えます。

ロータリーが秘密結社でないのと同様に、フリーメーソンリーも秘密結社ではありません。その設立が余にも古いため、宗教的要素を含んだ過去の活動は、謎に包まれています。現時点では、会員相互の異常とも思われる堅い友愛と、ロッジ別の細やかな対社会的なボランティア活動をしている組織です。

人種差別との戦い

2680 地区 PDG 田中 毅

日本は先進国の仲間入りをした当初から、欧米列強によるアジアの植民地化を阻止して、人種平等の世界を創ろうと努力してきました。1919年にパリにおいて国際連盟憲章が起草された時に、日本全権団が人種平等の原則を盛り込むように提案しました。多数の国がこの提案に賛成して、日本案が採択される寸前に、議長であったアメリカのウッドロー・ウイルソン大統領が、このような重要な議案は、全会一致によらなければならない主張して、否決されました。当時アメリカは、フィリピンとハワイを武力で植民地にしており、国内で黒人に対して人種差別を行っており、典型的な人種差別国でした。

アメリカは17世紀初頭に、迫害を逃れてイギリスから、大西洋を渡って東海岸に上陸した清教徒によって築かれた国です。アメリカの建国者たちは、北アメリカの大自然を、神が自分たちに与えたものと考えました。原住民のインディアンは人間ではなく、単に人の形をした動植物の一部としか考えず、できるかぎり早く、駆除すべき害虫と変わらない存在であり、当初、北アメリカ大陸にいた300万人のインディアンは、19世紀には30万人にまで減りました。

アメリカでは入植した当初から、黒人奴隷を使役していましたが、奴隷解放宣言が発せられるまで、700万人以上の黒人奴隷がアフリカから拉致されて酷使されました。インディアンは従順でなかったため、奴隷として適しませんでした。黒人は牛馬より寿命が長かったし、従順で安価に買えました。奴隷は私的な所有物であり、殺しても、強姦しても罪に問われることはありませんでした。アメリカにおける奴隷制度は、1865年の憲法修正第十三条の成立で終わりましたが、完全に終結したのは1995年ミシシッピ州憲法によってです。

ハワイのアメリカ植民地化は、日本と大きな関りがありました。1881年、カラカウア王が来日し、明治天皇と会見しました。アメリカの政治的経済的侵略に危機感を抱いていた王は、カイウラニ王女と山階宮との結婚によってハワイ王朝と日本の皇室との間の関係強化を要請しましたが、アメリカとの関係悪化を懸念する日本政府がそれに応じませんでした。1891年にリリウオカラニ女王が即位して、アメリカとの不平等条約を撤廃する動きをみせると、アメリカは王政を打倒して、女王をイオラニ宮殿に軟禁しました。この時、日本は国王派から依頼を受け邦人保護を理由に軍艦2隻をハワイに派遣し、ホノルル軍港に停泊させてアメリカ軍を威嚇しました。女王を支持する先住民らは涙を流して歓喜したといわれています。もし日本が侵略国ならば、この時点でハワイは日本の領土になっていたのです。

アメリカでは黒人奴隷制が廃止されたため、それに代わる安価な労働力として支那人移民が歓迎されました。1860年代の大陸横断鉄道建設が始まると、多くの支那人が労働者として酷使されました。経済不況下で、低賃金で働く支那人労働者の存在は、白人労働者の反発を招くようになり、支那人移民排斥運動に発展しました。白人の支那人に対する人種的な差別、攻撃はたびたび暴力的になり、多くの犠牲者が出ました。労働組合も支那人労働者の排斥を強く訴え、組織的な支那人排除の動きは、しばしば残虐な殺人にも発展しました。これらの運動の結果、アメリカは、1882年に支那人労働者移民排斥法を議決しました。

これと入れ替わりに、日本人の移民が始まりました。最初の移民は、1869年カリフォルニア州に入植した旧会津藩士たちだったといわれています。その後、一般の移民も始まり、鉱山・鉄道敷設・道路建設・農場などの労働者として働きました。日本人移民は勤勉で長時間労働を厭わなかったため、白人

労働者の地位を脅かし、アメリカ人社会に溶け込めず、日米摩擦の原因となりました。

1890年代から始まった日本人移民排斥運動は、1924年には有色人種移民法の成立、更に戦争が始まると、アメリカ国籍を持つ日系アメリカ人が、敵性国人として、それまで汗水流して築いた財産をすべて没収されたうえで、全米の僻地に設けられた強制収容所に送り込まれた。これは、典型的な人種差別であり、同じ敵国であったドイツ系、イタリア系などの白人は全く収容されることがありませんでした。WASP (White Anglo-Saxon Protestant) でなければ人に非ずというアメリカ人の人種差別感は今も健在です。

第二次世界大戦は、日本から仕掛けた戦争ではありません。当初は日本政府も軍部も、アメリカと戦うことを、まったく望んでいませんでした。戦争を回避しようとして、開戦の直前まで、何回も日米首脳会談を提案しましたが、ルーズベルトはそれに応じませんでした。

ルーズベルトは、祖父が清朝末期に阿片貿易によって巨万の富を築いて、香港に豪邸を持っており、支那の高価な美術品に囲まれて育った関係から、支那に愛着を持っていました。大統領になってからも、巨大な支那市場を夢みて、支那に好意を寄せていました。日中戦争の間、ルーズベルト政権は、支那へ惜しみなく、援助資金と兵器、軍需物資を注ぎ込みました。

アメリカ陸軍航空隊のクレア・シュノルトを中華民国空軍航空参に任命したルーズベルト大統領は、1941年7月23日、蒋介石政権に新型のボーイング B17 大型爆撃機爆撃機を供与して、支那機に偽装したうえで、アメリカの退役軍人を搭乗させて支那の航空基地から発進し、日本を爆撃する「JB No.355」計画に署名しました。予算総額は5000万ドルでした。

1970年に公開された、ABC-TVの20/20によると、「JB No.355」という計画を立てられて、1941年10月1日に、蒋介石政権に150機のB17爆撃機と、350機の戦闘機を供与して、支那の航空基地から発進して、東京、横浜の産業地域と、神戸、京都、大阪に奇襲爆撃を加えることになっていました。

ところが、この日本本土奇襲爆撃作戦は、フランスがドイツに降伏して、イギリスが孤立したために、大型爆撃機をイギリスに急いで回さなければならなくなったために、支那への供与が遅れることになり、結局実施されませんでした。

日本政府はアメリカも日本と同じように平和を望んでいるものと思い込んでいたのが誤算でした。ルーズベルト大統領は日本と戦うことを決めていたので、日米交渉が妥結する可能性はゼロでした。

アメリカは11月26日に、それまで交渉によって積み上げてきた、合意の一際を否定する、「ハル・ノート」を日本に突き付けました。これまで獲得してきた全ての権益を放棄して、明治維新直後に戻れと言う、最後通牒でした。

緒戦における日本軍の進撃は、連戦連勝と目覚ましいものでした。日本軍は開戦と共に、イギリスが「東洋の真珠」と誇った香港をたちまち攻略し、イギリスの支配下にあつたマレー半島、シンガポール、インドネシア、アメリカが統治していたフィリピン、オランダの植民地だったビルマを開放しました。

色が違うために辱められてきた人々が、日本の働きによって、重鎖から解き放たれて、前途に眩い光を見ることができました。抑圧された有色人種が覚醒するなかで、アメリカ、イギリス、オーストラリア当局が狼狽えて、有色の活動家たちの取り締まりを強化したり、有色の人々を懐柔するために、慌てて人種差別政策を緩和することを強いられました。

日本軍の進攻によって、数世紀にわたった白人の優位が打破されたことは、まさに驚天動地の出来事

でした。日本は、アジア人を兄弟みなして、日本の占領地域では、日本の将兵は、同じアジア人に対して思い遣りをもって、対等に接しました。支那人が打算的で、白人に媚びていたのに対して、日本が毅然として、白人と対決してきたことは、高く評価されました。

1943年11月5日に、帝国議会議事堂において、日本の戦争目的を世界と後世へ向けて宣明するめに、大東亜会議が開催されました。日本の東條英機首相、中華民国国民政府行政院長の江兆銘、タイのワンワイタヤコン首相代理、満州国の張景恵國務総理、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モウ首相、自由インド仮政府のチャンドラ・ボース主席が一堂に集り、アジア諸国の独立について話し合いました。日本はこの年8月にビルマと、10月にフィリピンを独立させていました。更に、オランダ領東インド諸島として知られていたインドネシアは、日本の指導下で独立へ向けて、教育、行政制度の整備や、将来の国軍の訓練などの準備が着々と進められていました。

第二次世界大戦時の、東南アジアにおけるイギリス、アメリカ、オランダの植民地において、日本が連戦連勝したのは、日本軍がアジアを支配するために、原住民を侵略したのではなく、アジア諸民族を、欧米の帝国主義から解放して独立に導くためだったもので、現地の人々の協力を得られたからです。

日本は植民地となっていた人々に教育を施し、軍事訓練を行い、独立の手助けを行いました。

日本軍に支援されて、インド国民軍総司令官となったチャンドラ・ボースは、「日本はアジアの希望の星」と語り、日本に深く感謝しました。マレーシアもシンガポールも同様でした。日本軍がマレー半島を南下して、シンガポールへ向かう途上、インド兵が次々と投降し、日本軍に協力したいと申し出て、その数は45000人を超えました。彼らを中心にインド国民軍が結成され、日本軍と協同して、ビルマからインド東北部のインパールを目指して進撃しました。日本が戦争に敗れると、イギリスはインパール作戦を戦ったインド国民軍を、反乱軍として鎮圧を試みたが、混乱は収まらず、止む無くイギリスはインドの独立を認めざるを得ませんでした。インパール作戦は、日本にとって作戦上は惨憺たる失敗に終わりましたが、インドは独立するという目的を達成しました。

インドネシアは、日本が降伏した二日後に独立を宣言しました。日本が敗れると、オランダ軍が再び植民地にしようとして、攻撃してきました。30000人のインドネシア独立軍と、インドネシアに残留していた2000人近くの日本兵が、インドネシア人と共に独立戦争に加わりました。

日本の敗戦後、東南アジアからインドに至るまで、大戦中に日本に協力した人々が裁判にかけられたり、処刑を受けたことは一切ありませんでした。インドネシアでも、インドでも、ミャンマーでも、戦後、対日協力者は民族の功労者となりました。フィリピンでも、初代のラウレル大統領、アキノ大統領の一家も、対日協力者でした。

日本はアジアを解放することによって、アジアに恒久的な平和を確立することを願っていました。結果として、日本が大きな犠牲を払うことによって、アジアだけではなく、アフリカ諸民族が次々と、独立を獲得していきました。

昭和天皇を元首とする日本が、白人と戦った結果として、アジア・アフリカの諸民族が解放されて、数多くの独立国が誕生したことに感謝して、昭和天皇の崩御に当たっては、164ヶ国の元首や、代表が、全世界から弔問に訪れました。

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦で統治する権益を得た国を、宗主国による一方的な搾取による植民地統治ではなく、国民を差別することなく、教育や、民生の向上に努めた統治を行いました。西太平洋の旧南洋諸島の島民たちは、今日でも日本を慕って、日本語を使っています。前近代的な水準にあった台湾と朝鮮においても、民生と教育の向上を図り、学校、病院、鉄道などのインフラを整備し

て、短期間のうちに近代国家に引き上げました。

アジアのほとんどの国が、日本に対して好意的なのに、朝鮮と中国だけが異なった対応をしているのは解せません。朝鮮における慰安婦の問題にしても、若い女性を強引に拉致して性奴隷にしたわけではなく、本人が自らの意思によってその職業を選んだのです。中国は南京に於いて、30万人の大虐殺があったと主張しています。しかし激戦によって双方の兵士に多数の死傷者がでたことは推察されますが、当時の南京市民の数は20万人(当時の警察庁長官の公式発表)、南京陥落1ヶ月後の人口は25万人であることから、30万人という数字が虚偽であることは明白です。日本の長い歴史の中で、奴隷制度はもちろん、一般市民の大虐殺をしたことのない、数少ない国なのです。

嘘も何回も重ねると、真実のように見えてくるものです。

何も知らない政治家が、安易に頭を下げるのが、後々、大きな禍根を残すこととなります。中国の胡耀邦国家主席に懇願されて、靖国参拝を取りやめた中曽根首相、日本が侵略戦争をしたと語った村山富市首相、国が無垢の娘たちを拉致して、慰安婦に仕立てたと語った河野洋平氏の責任は重大です。

WASP とロータリー

2680 地区 PDG 田中 毅

ロータリー・クラブは WASP **White Anglo-Saxon Protestant** を中心に作られた団体です。

アメリカの東部へ最初にやってきたのはアングロサクソンであり、カソリックの教えに強烈に抵抗したプロテスタントの人達でした。

その後、大飢饉の影響によって、大量のカソリックを信仰するアイルランド人がやってきました。

プロテスタントを信仰するイギリス人によって開かれたアメリカという、宗教上の敵地に乗り込んだアイルランド人は、いじめ、他処者扱い、人種差別を受けました。

彼等はその差別から逃れるため、新天地を求めて西部の町シカゴへ移って、自分達の王国を築き上げました。カソリック教徒がつくった町シカゴに、同じカソリック教徒が世界中から集まってきました。カソリック教徒であるポーランド、イタリア、ユダヤ系ドイツの人達はここに安住の地を見出しました。

団結心と町づくり、政治的手腕に長けたアイルランド人は東部プロテスタントの人達が関わった共和党という政治基盤とは別に、民主党の地盤をつくりました。それが報われたのはアイルランド移民の J.F. ケネディがアメリカ合衆国の大統領に選ばれた時です。ちなみに、ケネディ以前のアメリカ大統領 41 名は、全てアングロサクソン・プロテスタントでした。

WASP の共和党、それ以外の移民の民主党という構図は今でもそのまま残っています。

当初は人種や階級の格差といった偏見の根拠として作り出された、骨相学や人相学といった 19 世紀の疑似科学や、人種的劣等性に基づくナチスのイデオロギーや、人種差別を科学的に纏めようという生物学的決定論も、ロータリーの白人の間では徐々に薄れて同化していきました。

表向きには、宗教や人種的な差別をしないという前提で、ロータリーの拡大が進められてきましたが、WASP 優先の姿は、今でも変わっていません。

1990 年ごろに何回かニューヨークでメイクアップを行いました。マンハッタンには二つのクラブしかなく、ニューヨーク・クラブは全員白人と黄色人種、もう一つのアップパー・マンハッタン・クラブは全員黒人でした。現在は変わっているかもしれません。

ブルーネットや黄色人種の人種ロータリー参加は、比較的早い時期から認められましたが、黒人がロータリー運動に参加できるようになったのは 1960 年代の公民権運動以降であり、女性に門戸が開かれたのは、1987 年になってからです。

これらの変化の殆どは、アメリカの法律の改正に基づくものであり、ロータリーやロータリー財団の管理運営が、アメリカ連邦法やイリノイ州法に左右されるという、異常な状態が続いています。

ロータリー運動を世界に広げるためには、WASP やアメリカの国内法にとらわれることなしに、民族、文化、言語などの多様化を尊重した中間管理組織による管理運用が是非とも必要だと思えます。

アングロ人は、古代ローマの時代には、現在のデンマークやドイツ北部に住んでいたゲルマン民族の一派であり、その後、北海を船で渡ってブリテン島に侵入しました。これが英国における最初のアングロ・サクソン人であり、彼らの言葉が英語の基礎となりました。

アングロ・サクソンとは、「アングリア（イングランド）のサクソン人」という意味です。

現在、アングロ・サクソン諸国とは、英語を公用語とする白人主流派のイギリス、アメリカ、カナダ、所謂、**White Anglo-Saxon Protestant** のことを意味し、人類学的にはルーツに遡るゲルマン人やケルト

人などのヨーロッパ諸国は、アングロ・サクソンからは除外されています。

現在の資本主義は、ライン型資本主義（ヨーロッパ型資本主義）とアングロ・サクソン型資本主義（新資本主義）とに大別されます。前者を採用している国にはドイツ、フランス、北欧三国、日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます。

ライン型資本主義は、修正資本主義の延長線上にあり、ドイツなどのヨーロッパの先進国が採用している資本主義の形態で、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会構造や組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。

株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富と働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の公共的機関であると考えます。

強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。社会福祉を重視するために、政治的には大きな政府になります。

シェルドンの経営学に基づくサービス理念は、ライン型資本主義そのものです。

アングロ・サクソン型資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。企業は金融市場から直接資金を調達し、株主利益の最大化を優先します。業績が悪化した場合、株主価値を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視します。

何ごとも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセス・ストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。イギリスのサッチャー首相、レーガン、ブッシュ大統領の政策がこれに相当します。

しかし、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

he profits most who serves best 廃止論

2680 地区 PDG 田中 毅

アーサー・シェルドンは、事業主とその事業に関連するすべての人々が、継続的な利益をもたらすための、経営学に基づくサービス理念を提唱し、それをわかりやすく示すために he profits most who serves best というモットーを示しました。

シェルドンは、このモットーの意味を、「自分が他人からしてもらいたいことを、先に他人にしてあげなさい」すなわち、do unto others as you would have them do unto you という黄金律と同義語であると述べています。

さらに、シェルドンのサービス理念をまとめた道德律第 11 条には、「he profits most who serves best という黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである」と書かれています。

すなわち、労働の対価として適正な賃金が支払われ、株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視しなければなりません。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富や働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の運命共同体であると考えます。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指のが、シェルドンの経営学に基づくサービス理念なのです。

この考え方は、ライン型資本主義すなわち修正資本主義とも呼ばれています。

いま RI を含めたアメリカは、ライン型資本主義を否定して、市場万能主義と小さい政府と金融万能主義を基本理念に掲げた新資本主義への道を歩んでいます。

株主の利益の最大化を目指ので、業績が悪化した場合は積極的に人員を削減し、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視します。何ごととも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセスストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。

現在のアメリカは、シェルドンが描いた経営学に基づくサービス理念とは全く逆の方向へ向かって歩んでいるのです。

RI が推奨する職業奉仕の概念は、それを作った理事や役員の無知から、He profits most who serves best というモットーの真意との間に、大きな乖離と錯誤があります。

今、日本の若いシニアリーダーの中には、時代の変化に対応しなければならないという理由で、RI が推奨する職業奉仕を鸚鵡返しに語る人が見受けられますが、he profits most who serves best というモットーが残ってる限り、シェルドンのサービス理念を正確に伝えていかなければなりません。

RI が、シェルドンの経営学に基づくサービス理念とは異質な職業奉仕を推奨するなら、思い切って、he profits most who serves best というモットーを廃止すべきです。

今、日本経済は、新資本主義の方向に向かって、大きく傾こうとしています。ロータリアンの中にも新資本主義に基づく職種に属する人が多く存在する時代になりました。しかし、新資本主義は、シェルドンが提唱するサービス理念とは整合性がありません。

世界中の心あるロータリアンは、このモットーの真意を順守するための管理組織を作って、より良い社会を目指して将来に繋がりたいと思います。

付記：5月19日に開催される源流セミナーではこの問題を徹底的に討議したいと思います。

その目的は、前述の通り、サービスですが、ただ、サービスと言っただけでは漠然としているので、これを具体的に示すために、次の6項に分けて規定しています。

サービスの概念を一切の企業の基調とすること。

各業務における道義的標準を向上すること。

私生活、業務の執行、社会生活において、サービスの観念の応用に努力すること。

サービスをなし得る機会を作るため、交友を広めること。

一切の業務の価値を認識し、社会にサービスを行う機会を与えるために、自己の業務を尊重すること。

サービスの概念の下に結合された、実業人の世界的友好に依り国際間の平和の促進に努力すること。

ロータリーに於いてはそのサービスを、次の4つに分けています。

ロータリーの主義精神を実行するためには、実行力を強くするための堅固にして、活動力旺盛な団体が必要です。その目的を達成することが第一のサービスです。一人一業種とか毎週会合を開くとか、出席を厳しく問うことは、組織を堅固にして活動を有効にするためのサービスであり、これをクラブ・サービスと呼んでいます。これは対内的な活動ですが、残りの三つのサービスは対外的な活動になります。

ロータリーの根本となるのが、各自の業務を通じて社会人類にサービスをすることであり、これをヴォケーションナル・サービスと言います。今日世界一般に於いては、ほとんどの企業は利益を目的にしています。仮に、事業の計画を発表して株を募る場合に、この計画の第一の目的はサービスであって、利益は第二であると言え、株を買う人はいないかもしれません。しかし、その事業がもし社会人類に対するサービスにならないものならば、おそらくその事業は成立しないでしょう。サービスになればなるほど、その事業は繁盛するわけですが、一般の人は利益第一主義で考えますから、サービスと利益が衝突するように見える場合は、サービスを捨てて、利益に走るようです。我々はそれは間違っていると考えているのです。サービスを捨てて、利益に走るものは、結局は真の利益を獲得しないと思います。

また、業務に於いて、サービスをすることは、その適用の範囲がすこぶる広範です。例えば製造工業ならば最善の方法によって最低のコストで最良の製品を作り出すことがサービスです。その製造に携わる職員や労働者の最善の能率を発揮させるためには、それに適応した最大の報酬を与えることもサービスです。なぜならば、人間の活動を有効に活用した結果、最大の報酬を支払うことが可能になれば、従業員も幸福を享受することができるからです。

品物を販売するに当たっては、世間を欺瞞するような、また、競争者を不当に傷つけるような宣伝広告をせず、フェア・プレーでいくことも、またサービスです。何故ならば、これによって、広告宣伝に対する一般公衆の信用を確立し、最小の販売費によって最大の結果を得ることができるからです。このようにして、その事業に関係ある全ての人に満足を与えることができるのです。

理屈は簡単ですが、実行は簡単なものではありません。我々ロータリアンはその実行に於いて種々苦勞努力を重ねているのです。これは製造工業に関する一例ですが、いかなる業務においてもこの理屈は通用するのです。

ロータリーにおいては、この結果を”He profits most who serves best”と結論付けています。

第三は、ロータリアンは、サービスの精神を業務上に於いて実行するだけでなく、これを私生活にも、社会生活にも適用しなければなりません。このサービスをコミュニティ・サービスと言います。ロータリアンはその家族に対しても、隣近所の人に対しても、自分が住む地域社会の人に対しても、何らかの役に立つことを心掛けるべきであり、各人がそのように心掛けるだけで明るい社会になります。

各国のクラブは、その国情を勘案して、数々の有益なサービスを行っています。将来の社会を改善するために子供の生い立ちに尽力する者、不幸な不具な子供に同情する者、学生の学費を援助する者、各国の学生を交換する者、養老院を慰問する者、学童にロータリーのサービス精神を鼓吹する者、即ち、世の中にロータリー精神を普及して、此の世を住みよくするために、あらゆる努力をすることが、コミュニティ・サービスなのです。

第四は国際間のサービスであり、インターナショナル・サービスと呼んでいます。ロータリークラブは同一組織、同一会則の下で世界各国にできており、ロータリーの目的達成のために世界中のクラブの連絡統制を図ることができます。従ってロータリー本来のボケーション・サービスだけではなく、その組織を利用して国際間の平和親善に協力するのが、インターナショナル・サービスの起源です。ロータリアンは人種や環境の如何を問わず、初対面より旧知のごとく交わり、国際間の問題があったとしても、ロータリアン同士は隔意なき友誼によって、虚心坦懐な議論をすることによって、問題解決に協力することができます。

ロータリーの目的は今まで述べた通りですが、ロータリーは議論よりも実行を標榜していますから、我々は、その目的の実現のために一意専心精進しています。

he profits most who serves best 廃止論

2680 地区 PDG 田中 毅

アーサー・シェルドンは、事業主とその事業に関連するすべての人々が、継続的な利益をもたらすための、経営学に基づくサービス理念を提唱し、それをわかりやすく示すために he profits most who serves best というモットーを示しました。

シェルドンは、このモットーの意味を、「自分が他人からしてもらいたいことを、先に他人にしてあげなさい」すなわち、do unto others as you would have them do unto you という黄金律と同義語であると述べています。

さらに、シェルドンのサービス理念をまとめた道徳律第 11 条には、「he profits most who serves best という黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである」と書かれています。

すなわち、労働の対価として適正な賃金が支払われ、株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視しなければなりません。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富や働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の運命共同体であると考えます。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指のが、シェルドンの経営学に基づくサービス理念なのです。

この考え方は、ライン型資本主義すなわち修正資本主義とも呼ばれています。

いま RI を含めたアメリカは、ライン型資本主義を否定して、市場万能主義と小さい政府と金融万能主義を基本理念に掲げた新資本主義への道を歩んでいます。

株主の利益の最大化を目指ので、業績が悪化した場合は積極的に人員を削減し、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視します。何ごととも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセスストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。

現在のアメリカは、シェルドンが描いた経営学に基づくサービス理念とは全く逆の方向へ向かって歩んでいるのです。

RI が推奨する職業奉仕の概念は、それを作った理事や役員の無知から、He profits most who serves best というモットーの真意との間に、大きな乖離と錯誤があります。

今、日本の若いシニアリーダーの中には、時代の変化に対応しなければならないという理由で、RI が推奨する職業奉仕を鸚鵡返しに語る人が見受けられますが、he profits most who serves best というモットーが残ってる限り、シェルドンのサービス理念を正確に伝えていかなければなりません。

RI が、シェルドンの経営学に基づくサービス理念とは異質な職業奉仕を推奨するなら、思い切って、he profits most who serves best というモットーを廃止すべきです。

今、日本経済は、新資本主義の方向に向かって、大きく傾こうとしています。ロータリアンの中にも新資本主義に基づく職種に属する人が多く存在する時代になりました。しかし、新資本主義は、シェルドンが提唱するサービス理念とは整合性がありません。

世界中の心あるロータリアンは、このモットーの真意を順守するための管理組織を作って、より良い社会を目指して将来に繋がりたいと思います。

付記：5月19日に開催される源流セミナーではこの問題を徹底的に討議したいと思います。

WASP とロータリー

2680 地区 PDG 田中 毅

ロータリー・クラブは WASP **White Anglo-Saxon Protestant** を中心に作られた団体です。

アメリカの東部へ最初にやってきたのはアングロサクソンであり、カソリックの教えに強烈に抵抗したプロテスタントの人達でした。

その後、大飢饉の影響によって、大量のカソリックを信仰するアイルランド人がやってきました。

プロテスタントを信仰するイギリス人によって開かれたアメリカという、宗教上の敵地に乗り込んだアイルランド人は、いじめ、他処者扱い、人種差別を受けました。

彼等はその差別から逃れるため、新天地を求めて西部の町シカゴへ移って、自分達の王国を築き上げました。カソリック教徒がつくった町シカゴに、同じカソリック教徒が世界中から集まってきました。カソリック教徒であるポーランド、イタリア、ユダヤ系ドイツの人達はここに安住の地を見出しました。

団結心と町づくり、政治的手腕に長けたアイルランド人は東部プロテスタントの人達が関わった共和党という政治基盤とは別に、民主党の地盤をつくりました。それが報われたのはアイルランド移民の J.F. ケネディがアメリカ合衆国の大統領に選ばれた時です。ちなみに、ケネディ以前のアメリカ大統領 41 名は、全てアングロサクソン・プロテスタントでした。

WASP の共和党、それ以外の移民の民主党という構図は今でもそのまま残っています。

当初は人種や階級の格差といった偏見の根拠として作り出された、骨相学や人相学といった 19 世紀の疑似科学や、人種的劣等性に基づくナチスのイデオロギーや、人種差別を科学的に纏めようという生物学的決定論も、ロータリーの白人の間では徐々に薄れて同化していきました。

表向きには、宗教や人種的な差別をしないという前提で、ロータリーの拡大が進められてきましたが、WASP 優先の姿は、今でも変わっていません。

1990 年ごろに何回かニューヨークでメイクアップを行いました。マンハッタンには二つのクラブしかなく、ニューヨーク・クラブは全員白人と黄色人種、もう一つのアップー・マンハッタン・クラブは全員黒人でした。現在は変わっているかもしれません。

ブルーネットや黄色人種の人種ロータリー参加は、比較的早い時期から認められましたが、黒人がロータリー運動に参加できるようになったのは 1960 年代の公民権運動以降であり、女性に門戸が開かれたのは、1987 年になってからです。

これらの変化の殆どは、アメリカの法律の改正に基づくものであり、ロータリーやロータリー財団の管理運営が、アメリカ連邦法やイリノイ州法に左右されるという、異常な状態が続いています。

ロータリー運動を世界に広げるためには、WASP やアメリカの国内法にとらわれることなしに、民族、文化、言語などの多様化を尊重した中間管理組織による管理運用が是非とも必要だと思います。

アングロ人は、古代ローマの時代には、現在のデンマークやドイツ北部に住んでいたゲルマン民族の一派であり、その後、北海を船で渡ってブリテン島に侵入しました。これが英国における最初のアングロ・サクソン人であり、彼らの言葉が英語の基礎となりました。

アングロ・サクソンとは、「アングリア（イングランド）のサクソン人」という意味です。

現在、アングロ・サクソン諸国とは、英語を公用語とする白人主流派のイギリス、アメリカ、カナダ、所謂、**White Anglo-Saxon Protestant** のことを意味し、人類学的にはルーツに遡るゲルマン人やケルト

人などのヨーロッパ諸国は、アングロ・サクソンからは除外されています。

現在の資本主義は、ライン型資本主義（ヨーロッパ型資本主義）とアングロ・サクソン型資本主義（新資本主義）とに大別されます。前者を採用している国にはドイツ、フランス、北欧三国、日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます。

ライン型資本主義は、修正資本主義の延長線上にあり、ドイツなどのヨーロッパの先進国が採用している資本主義の形態で、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会構造や組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。

株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富と働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の公共的機関であると考えます。

強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。社会福祉を重視するために、政治的には大きな政府になります。

シェルドンの経営学に基づくサービス理念は、ライン型資本主義そのものです。

アングロ・サクソン型資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。企業は金融市場から直接資金を調達し、株主利益の最大化を優先します。業績が悪化した場合、株主価値を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視します。

何ごとも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセス・ストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。イギリスのサッチャー首相、レーガン、ブッシュ大統領の政策がこれに相当します。

しかし、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

人種差別との戦い

2680 地区 PDG 田中 毅

日本は先進国の仲間入りをした当初から、欧米列強によるアジアの植民地化を阻止して、人種平等の世界を創ろうと努力してきました。1919年にパリにおいて国際連盟憲章が起草された時に、日本全権団が人種平等の原則を盛り込むように提案しました。多数の国がこの提案に賛成して、日本案が採択される寸前に、議長であったアメリカのウッドロー・ウイルソン大統領が、このような重要な議案は、全会一致によらなければならない主張して、否決されました。当時アメリカは、フィリピンとハワイを武力で植民地にしており、国内で黒人に対して人種差別を行っており、典型的な人種差別国でした。

アメリカは17世紀初頭に、迫害を逃れてイギリスから、大西洋を渡って東海岸に上陸した清教徒によって築かれた国です。アメリカの建国者たちは、北アメリカの大自然を、神が自分たちに与えたものと考えました。原住民のインディアンは人間ではなく、単に人の形をした動植物の一部としか考えず、できるかぎり早く、駆除すべき害虫と変わらない存在であり、当初、北アメリカ大陸にいた300万人のインディアンは、19世紀には30万人にまで減りました。

アメリカでは入植した当初から、黒人奴隷を使役していましたが、奴隷解放宣言が発せられるまで、700万人以上の黒人奴隷がアフリカから拉致されて酷使されました。インディアンは従順でなかったため、奴隷として適しませんでした。黒人は牛馬より寿命が長かったし、従順で安価に買えました。奴隷は私的な所有物であり、殺しても、強姦しても罪に問われることはありませんでした。アメリカにおける奴隷制度は、1865年の憲法修正第十三条の成立で終わりましたが、完全に終結したのは1995年ミシシッピ州憲法によってです。

ハワイのアメリカ植民地化は、日本と大きな関りがありました。1881年、カラカウア王が来日し、明治天皇と会見しました。アメリカの政治的経済的侵略に危機感を抱いていた王は、カイウラニ王女と山階宮との結婚によってハワイ王朝と日本の皇室との間の関係強化を要請しましたが、アメリカとの関係悪化を懸念する日本政府がそれに応じませんでした。1891年にリリウオカラニ女王が即位して、アメリカとの不平等条約を撤廃する動きをみせると、アメリカは王政を打倒して、女王をイオラニ宮殿に軟禁しました。この時、日本は国王派から依頼を受け邦人保護を理由に軍艦2隻をハワイに派遣し、ホノルル軍港に停泊させてアメリカ軍を威嚇しました。女王を支持する先住民らは涙を流して歓喜したといわれています。もし日本が侵略国ならば、この時点でハワイは日本の領土になっていたのです。

アメリカでは黒人奴隷制が廃止されたため、それに代わる安価な労働力として支那人移民が歓迎されました。1860年代の大陸横断鉄道建設が始まると、多くの支那人が労働者として酷使されました。経済不況下で、低賃金で働く支那人労働者の存在は、白人労働者の反発を招くようになり、支那人移民排斥運動に発展しました。白人の支那人に対する人種的な差別、攻撃はたびたび暴力的になり、多くの犠牲者が出ました。労働組合も支那人労働者の排斥を強く訴え、組織的な支那人排除の動きは、しばしば残虐な殺人にも発展しました。これらの運動の結果、アメリカは、1882年に支那人労働者移民排斥法を議決しました。

これと入れ替わりに、日本人の移民が始まりました。最初の移民は、1869年カリフォルニア州に入植した旧会津藩士たちだったといわれています。その後、一般の移民も始まり、鉱山・鉄道敷設・道路建設・農場などの労働者として働きました。日本人移民は勤勉で長時間労働を厭わなかったため、白人

労働者の地位を脅かし、アメリカ人社会に溶け込めず、日米摩擦の原因となりました。

1890年代から始まった日本人移民排斥運動は、1924年には有色人種移民法の成立、更に戦争が始まると、アメリカ国籍を持つ日系アメリカ人が、敵性国人として、それまで汗水流して築いた財産をすべて没収されたうえで、全米の僻地に設けられた強制収容所に送り込まれた。これは、典型的な人種差別であり、同じ敵国であったドイツ系、イタリア系などの白人は全く収容されることがありませんでした。WASP (White Anglo-Saxon Protestant) でなければ人に非ずというアメリカ人の人種差別感は今も健在です。

第二次世界大戦は、日本から仕掛けた戦争ではありません。当初は日本政府も軍部も、アメリカと戦うことを、まったく望んでいませんでした。戦争を回避しようとして、開戦の直前まで、何回も日米首脳会談を提案しましたが、ルーズベルトはそれに応じませんでした。

ルーズベルトは、祖父が清朝末期に阿片貿易によって巨万の富を築いて、香港に豪邸を持っており、支那の高価な美術品に囲まれて育った関係から、支那に愛着を持っていました。大統領になってからも、巨大な支那市場を夢みて、支那に好意を寄せていました。日中戦争の間、ルーズベルト政権は、支那へ惜しみなく、援助資金と兵器、軍需物資を注ぎ込みました。

アメリカ陸軍航空隊のクレア・シュノルトを中華民国空軍航空参に任命したルーズベルト大統領は、1941年7月23日、蒋介石政権に新型のボーイング B17 大型爆撃機爆撃機を供与して、支那機に偽装したうえで、アメリカの退役軍人を搭乗させて支那の航空基地から発進し、日本を爆撃する「JB No.355」計画に署名しました。予算総額は 5000 万ドルでした。

1970年に公開された、ABC-TV の 20/20 によると、「JB No.355」という計画を立てられて、1941年10月1日に、蒋介石政権に 150機の B17 爆撃機と、350機の戦闘機を供与して、支那の航空基地から発進して、東京、横浜の産業地域と、神戸、京都、大阪に奇襲爆撃を加えることになっていました。

ところが、この日本本土奇襲爆撃作戦は、フランスがドイツに降伏して、イギリスが孤立したために、大型爆撃機をイギリスに急いで回さなければならなくなったために、支那への供与が遅れることになり、結局実施されませんでした。

日本政府はアメリカも日本と同じように平和を望んでいるものと思い込んでいたのが誤算でした。ルーズベルト大統領は日本と戦うことを決めていたので、日米交渉が妥結する可能性はゼロでした。

アメリカは11月26日に、それまで交渉によって積み上げてきた、合意の一際を否定する、「ハル・ノート」を日本に突き付けました。これまで獲得してきた全ての権益を放棄して、明治維新直後に戻れと言う、最後通牒でした。

緒戦における日本軍の進撃は、連戦連勝と目覚ましいものでした。日本軍は開戦と共に、イギリスが「東洋の真珠」と誇った香港をたちまち攻略し、イギリスの支配下にあつたマレー半島、シンガポール、インドネシア、アメリカが統治していたフィリピン、オランダの植民地だったビルマを開放しました。

色が違うために辱められてきた人々が、日本の働きによって、重鎖から解き放たれて、前途に眩い光を見ることができました。抑圧された有色人種が覚醒するなかで、アメリカ、イギリス、オーストラリア当局が狼狽えて、有色の活動家たちの取り締まりを強化したり、有色の人々を懐柔するために、慌てて人種差別政策を緩和することを強いられました。

日本軍の進攻によって、数世紀にわたった白人の優位が打破されたことは、まさに驚天動地の出来事

でした。日本は、アジア人を兄弟みなして、日本の占領地域では、日本の将兵は、同じアジア人に対して思い遣りをもって、対等に接しました。支那人が打算的で、白人に媚びていたのに対して、日本が毅然として、白人と対決してきたことは、高く評価されました。

1943年11月5日に、帝国議会議事堂において、日本の戦争目的を世界と後世へ向けて宣明するめに、大東亜会議が開催されました。日本の東條英機首相、中華民国国民政府行政院長の江兆銘、タイのワンワイタヤコン首相代理、満州国の張景恵国務総理、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モウ首相、自由インド仮政府のチャンドラ・ボース主席が一堂に集り、アジア諸国の独立について話し合いました。日本はこの年8月にビルマと、10月にフィリピンを独立させていました。更に、オランダ領東インド諸島として知られていたインドネシアは、日本の指導下で独立へ向けて、教育、行政制度の整備や、将来の国軍の訓練などの準備が着々と進められていました。

第二次世界大戦時の、東南アジアにおけるイギリス、アメリカ、オランダの植民地において、日本が連戦連勝したのは、日本軍がアジアを支配するために、原住民を侵略したのではなく、アジア諸民族を、欧米の帝国主義から解放して独立に導くためだったもので、現地の人々の協力を得られたからです。

日本は植民地となっていた人々に教育を施し、軍事訓練を行い、独立の手助けを行いました。

日本軍に支援されて、インド国民軍総司令官となったチャンドラ・ボースは、「日本はアジアの希望の星」と語り、日本に深く感謝しました。マレーシアもシンガポールも同様でした。日本軍がマレー半島を南下して、シンガポールへ向かう途上、インド兵が次々と投降し、日本軍に協力したいと申し出て、その数は45000人を超えました。彼らを中心にインド国民軍が結成され、日本軍と協同して、ビルマからインド東北部のインパールを目指して進撃しました。日本が戦争に敗れると、イギリスはインパール作戦を戦ったインド国民軍を、反乱軍として鎮圧を試みたが、混乱は収まらず、止む無くイギリスはインドの独立を認めざるを得ませんでした。インパール作戦は、日本にとって作戦上は惨憺たる失敗に終わりましたが、インドは独立するという目的を達成しました。

インドネシアは、日本が降伏した二日後に独立を宣言しました。日本が敗れると、オランダ軍が再び植民地にしようとして、攻撃してきました。30000人のインドネシア独立軍と、インドネシアに残留していた2000人近くの日本兵が、インドネシア人と共に独立戦争に加わりました。

日本の敗戦後、東南アジアからインドに至るまで、大戦中に日本に協力した人々が裁判にかけられたり、処刑を受けたことは一切ありませんでした。インドネシアでも、インドでも、ミャンマーでも、戦後、対日協力者は民族の功労者となりました。フィリピンでも、初代のラウレル大統領、アキノ大統領の一家も、対日協力者でした。

日本はアジアを解放することによって、アジアに恒久的な平和を確立することを願っていました。結果として、日本が大きな犠牲を払うことによって、アジアだけではなく、アフリカ諸民族が次々と、独立を獲得していきました。

昭和天皇を元首とする日本が、白人と戦った結果として、アジア・アフリカの諸民族が解放されて、数多くの独立国が誕生したことに感謝して、昭和天皇の崩御に当たっては、164ヶ国の元首や、代表が、全世界から弔問に訪れました。

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦で統治する権益を得た国を、宗主国による一方的な搾取による植民地統治ではなく、国民を差別することなく、教育や、民生の向上に努めた統治を行いました。西太平洋の旧南洋諸島の島民たちは、今日でも日本を慕って、日本語を使っています。前近代的な水準にあった台湾と朝鮮においても、民生と教育の向上を図り、学校、病院、鉄道などのインフラを整備し

て、短期間のうちに近代国家に引き上げました。

アジアのほとんどの国が、日本に対して好意的なのに、朝鮮と中国だけが異なった対応をしているのは解せません。朝鮮における慰安婦の問題にしても、若い女性を強引に拉致して性奴隷にしたわけではなく、本人が自らの意思によってその職業を選んだのです。中国は南京に於いて、30万人の大虐殺があったと主張しています。しかし激戦によって双方の兵士に多数の死傷者がでたことは推察されますが、当時の南京市民の数は20万人(当時の警察庁長官の公式発表)、南京陥落1ヶ月後の人口は25万人であることから、30万人という数字が虚偽であることは明白です。日本の長い歴史の中で、奴隷制度はもちろん、一般市民の大虐殺をしたことのない、数少ない国なのです。

嘘も何回も重ねると、真実のように見えてくるものです。

何も知らない政治家が、安易に頭を下げるのが、後々、大きな禍根を残すこととなります。中国の胡耀邦国家主席に懇願されて、靖国参拝を取りやめた中曽根首相、日本が侵略戦争をしたと語った村山富市首相、国が無垢の娘たちを拉致して、慰安婦に仕立てたと語った河野洋平氏の責任は重大です。

フリーメイソンリー

2680 地区 PDG 田中 毅

フリーメイソンリーがこの団体の名称であって、会員個人のことをフリーメイソンと呼んでいます。ロータリーとロータリアンとの呼称の差と同じです。

ロータリーとフリーメイソンリーとの関係を、何か特別なもののように説く人もいますが、ロータリーが閉鎖的な組織であるのに反して、フリーメイソンリーは至って開放的で、一定の条件さえ満たせば、ロータリー、ライオンズ、ボーイスカウトなどの他の団体の会員、政治家、宗教家、小説家、芸能人、更に共産主義者でも入会できるので、特にロータリーという組織だけが特別深い関係にあるわけではありません。

フリーメイソンリーのルーツについては幾つかの説があります。

一番古いものは、1360 年、イギリスのウィンザー宮殿の建造の際に徴用された 568 人の石工職人団体に遡ります。

聖地エルサレムへの巡礼者の保護のためフランスで結成されたテンプル騎士団の生き残りが作った組織だという説もあります。



更にソロモン神殿の建築に携わった石工職人団体を起源とする組織だという説もあります。

現在のフリーメイソンリーのシンボルマークは、上にコンパス、下に直角定規という、石工職人のギルドだったことを示しています。

G はギルド (Guild) を意味するという人もいますが、神 (God)、幾何学 (Geometry)、栄光 (Glory)、寛容 (Grandeur)、黄金 (Gold)、靈知 (Gnosis) を表すと考えている人もいます。

フリーメイソンリーにおける個々の建築道具は人間の美德と対応しており、「直角定規」は道徳、「コンパス」は真理「鎚」は結束と友愛、「槌」は知識や知恵を象徴しています。

この組織は各々独立したロッジから成り立っていて、16 世紀後半にはスコットランドに、17 世紀中盤にはイングランドに、1717 年には、英国グランドロッジが設立されています。なお、独立戦争以降に米国にグランドロッジができています。

その職人団体としてのフリーメイソンリーは近代になって衰えていきますが、その後、建築学、専門職人、貴族、知識人などが加わり、職人団体から、友愛団体に変わって著しい成長を遂げます。商業や文化のネットワークを通じて、イギリスから、ヨーロッパ諸国、ロシア、アメリカ大陸、アフリカやアジアにまで広がっていきました。会員であれば相互に助け合うというフリーメイソンリーは、困難を抱えた人間にとって非常にありがたい存在でした。坂本竜馬が亀山社中を通じて大量の武器の輸入をしたり、討幕派の長州藩のためにユニオン号を買った金は、フリーメイソンであったグラバーから出たものだと言われています。ちなみにニューヨークの自由の女神像は、フランス系とアメリカ系フリーメイソンの間に交わされた贈り物であり、台座の銘板にはその経緯とフリーメイソンリーのシンボルマークが刻まれています。

最盛期には 600 万とも 300 万とも言われた会員も現在は 140 万人に激減し、日本人は僅か 300 人程度しか在籍していません。ロータリーは声高に会員増強を叫びますが、フリーメイソンリーでは、入会勧誘はご法度であり、会員 2 名の推薦を受けて、本人自らが申請しなければ

なりません。

入会条件はかなり厳しく、真摯な信仰心を持つ人と限定されていますが、特定の宗教を信仰しなくても、神や創造者の存在を信じる者ならば許されます。世間での評判、高い道徳的品性や健全な心の持ち主も条件です。定職を持ち、家族を養える一定の収入が必要です。政治的信条は問われず、共産主義者も可です。

フリーメイソンリーには「自由」、「平等」、「友愛」、「寛容」、「人道」という5つの基本理念が存在しています。この基本理念に基づいて、全人類の兄弟愛という理想の実現と、文明というものがもつ真正で最高の理想を実現するのです。

入会資格は18歳以上の男子に限定されます。身体障害者は入会できませんが、戦傷者については除外する規定があります。なお、黒人には別の専用ロッジがあります。

入会は月1回行われるロッジに於ける例会で面接があり、満場一致で会員候補者に決定されます。その再必ず聞かれるのは、5つの基本理念に関する自らの考え方です。後日身辺調査が行われ、入会金5万円と年会費5千円を支払って会員となります。なお、各ロッジによってこの金額は異なります。

入会の際、儀式の暗記と宣誓の暗唱が求められます。会員が付ききりで教えてくれますが、儀式の内容は極秘であり、外部に明かすことは禁じられています。このあたりが、秘密結社の疑いのかかる所以かも知れません。階級昇進においても儀式の暗記と宣誓の暗唱が求められ、その内容も、一段と高度化、神秘化していきます。

階級制度が厳しく、最低ランクの「徒弟」から最高ランクの「最高大総監」まで33階級あります。昇格の基準については公表されていません。石工ギルドの時代には、1階級上がるのに2~3年かかったといわれています。



フリーメイソンには有力者の会員も多いため、さまざまな人脈が出来て有利に働きます。符牒や握手の方法は、現実にはあまりにも有名になりすぎたため、実際に会員かどうかを知る必要がある時は会員証を提示させたり、特別な検分質問を行うこともあります。

ロッジに於ける食事会や集会では、政治活動、事業、宗教、政治問題を語ることは禁止されています。

主な活動内容は、高度な知識や技術を守るための儀式、会員同士の社交活動、慈善活動、募金・献血等チャリティー活動があげられます。まさしくこれらの活動を通じて、会員相互の友愛を図る活動です。

ホワイトハウス、自由の女神、ワシントン記念塔もフリーメイソンが設計や作成や寄贈に関与しました。

会員自身がフリーメイソンであることを告げるのは自由ですが、他人の身分を公表することは禁じられています。

日本における主なフリーメイソンは、西周、後藤新平、坂本龍馬、高橋龍太郎、河井彌八、佐藤尚武、鳩山一郎、笠井重治、加納久朗、星島二郎、東ヶ崎潔、三島通陽、沢田教一、小泉純一郎、高須克弥。

世界における主なフリーメイソンは、ベンジャミン・フランクリン、ヘンリー・フォード、ポール・ハリス、メルビン・ジョーンズ、ダグラス・マッカーサー、カーネル・サンダース、ゼバスティアン・バッハ、ウィンストン・チャーチル、フランクリン・ルーズベルト、などがあげられます。

なお、組織の管理は、独立したグランド・ロッジ別の中間管理組織が行い、ロッジ別の規約が定められています。入会金、年会費もロッジが定めます。貨幣価値が大幅に変わったにも関わらず、その金額は数十年前から変わっていません。

なお、1980年代の後半に、私自身もある政治家から入会を勧められましたが、当時フィリピンにおける貧困対策に取り組んでいたため、例会出席が不可能であることを理由に、お断りしたことを申し添えます。

ロータリーが秘密結社でないのと同様に、フリーメーソンリーも秘密結社ではありません。その設立が余にも古いため、宗教的要素を含んだ過去の活動は、謎に包まれています。現時点では、会員相互の異常とも思われる堅い友愛と、ロッジ別の細やかな対社会的なボランティア活動をしている組織です。

脱新資本主義を目指して

2680 地区 PDG 田中 毅

グローバリゼーションとは「グローバル化」であって、人・物・金の国際間の流れを自由にするために、障壁を取り払い、世界各国の政治や経済の流れを良くすることを意味します。

グローバリズムは、新自由主義に基づく資本主義のことであり、アングロサクソン型資本主義とも言われています。似たようなフレーズですが、全く異なった意味を持っています。

現在の資本主義の形態は、アングロサクソン型資本主義とライン型資本主義に分類されます。

アングロサクソン型資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、企業は金融市場から直接資金を調達し、株主利益の最大化を優先します。業績が悪化した場合、株主価値を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視し、政治的には小さな政府を志向します。何ごととも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセスストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てます。しかし、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。イギリスのサッチャー首相、レーガン、ブッシュ大統領の政策、さらに現在ではトランプ大統領の *America first* の政策がこれに相当します。

ライン型資本主義は、ドイツなどのヨーロッパの先進国に見られる資本主義の形態で、企業は主に金融機関から資金を調達し、株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。社会福祉を重視し、政治的には大きな政府になります。

日本はライン型資本主義の典型と言われてきましたが、1996年以降、
アングロサクソン型資本主義に傾きつつあります。

アダム・スミスは、1776年に国富論を展開して、古典的資本主義の
礎を築きました。

従来の重商主義を転換して、資本家を含めた国民各自が資本蓄積を
考えれば、最も効果的な経済発展を起こして人々のためになるという
経済政策です。

本来の富とは、国に存在するお金の量ではなくて、消費できる生産物
の量にあります。経済には関わる無用な介入を排除して、政府の役割を
国家の司法、交通、通信、教育等に限定して、フェアな市場の維持を目
指した小さい政府を目標にするという考え方です。

イギリスの産業革命の進行とともに、自由主義的国家、自由貿易、自
己調整的市場、国際金本位制などに象徴される古典的資本主義が確立
しました。

19世紀末から、国家の枠組みの中で改革するという修正資本主義の
時代が始まりました。市場の行き過ぎを抑えて、資本家が労働者から利
益を不当に搾取することを禁止する政策です。国家は自由市場の暴挙
や不公正に対抗して、労働者を保護し、貧困の解消に努力しました。

当時これを達成する改革の中心的役割を果たしていたのは、カール・
メンガーの流れをくむ経済学者のグループであるオーストリア学派の
人たちでした。

ミシガン大学でオーストリア学派に属していたと思われる、エルバ
ート・ハバートやアーサー・フレデリック・シェルドンなどは資本主義
のもたらすこれらの社会矛盾や害悪を、社会主義や共産主義に変える
のではなく、現在の資本主義の大枠の中で和らげたり克服することによ
って、資本主義の形態を保ちながら、この難関を克服できないものか

と考えました。これは、ミシガン大学の経営学部では 1890 年代にすでに修正資本主義を先取りした研究が行われていたことを物語ります

修正資本主義とは、古典的資本主義の無計画性に基づくさまざまな弊害を国家が政策的に是正し、福祉国家を目指そうとする政策です。資本主義における所得分配の不平等は、労使の協調と国家の所得再分配政策によって、また失業の増大は完全雇用政策によって、恐慌の発生は経済計画によって是正し、克服することができます。この思想は 1929 年から始まった世界大恐慌後、1933 年のアメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領によるニューディール政策として採択された政策であり、この理論は ジョン・ケインズが提唱したものです。

ケインズはケンブリッジ大学で貨幣論を研究し、1935 年に「雇用・利子および貨幣の一般理論」を発表して、有効需要の不足に基づく失業は減税・公共投資などの政策により投資を増大させることで、回復可能であることを示して、大恐慌に苦しむルーズベルト大統領によるニューディール政策の強力な後ろ盾となりました。

然し、1902 年にアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した **He profits most who serves vest** に基づく経営学理念は、この修正資本主義の考え方とほぼ同じ理念でした。唯一異なる点は、修正資本主義は国家が国策として行うのに対して、シェルドンの思考は企業の経営者が自主的に行うという点だけです。

ケインズの政策はマクロ経済学として国家が採用したのに反して、シェルドンの経営学はミクロ経済学として企業や個人が採用したために、修正資本主義より先に実施されたにも拘わらず、シェルドンの考え方が一般に知られていないことは、ロータリアンとして非常に残念なことです。

シェルドンはこの経営学理念を広めるために、シカゴにシェルドン・スクールを設立しました。修正資本主義を 30 年も先取りした内容を具

体的に教えたために、この考え方を実践した事業所は業績を伸ばし、1921年の最盛期には学生数は通信教育を含めて26万人に達したという記録が残っています。

シェルドンの経営学に基づく奉仕理念は、継続的な利益をもたらす顧客を確保する活動であり、それを分かり易く説明するモットーとして、「He profits most who serves best」を提唱しました。

シェルドンの奉仕理念は極めて単純明快なものです。

- ・ 事業を営んでいる限り、価値ある奉仕を行う必要があること。
- ・ 奉仕を行う能力を開発して、その能力を適用すること。
- ・ 奉仕を行えば、正当な報酬が得られること。

健全な事業経営とは、奉仕理念に基づいて、継続的な利益 profit をもたらす常連客を確保することです。Profit とは奉仕を行った正当な報酬のことです。

奉仕という原因には、必ず報酬という結果が与えられます。この順番を間違えないことが重要です。あまりにも事業に失敗する人が多いのは、この順番を間違えて先に報酬と言う結果を得ようとするからです。

奉仕については次のような定義をつけています。

- ・ 仕事を管理する人たち（企業主）を管理すること。
- ・ 管理される人たち（従業員）を管理すること。
- ・ この両者に顧客を加えた集団を管理すること。

さらに、これに時間やエネルギーやお金や材料を無駄遣いせず有効に活用して保全することを付け加えることです。これはすべて安心と豊かな実りを獲得するための道です。

世に有用な職業に従事している人は全員、奉仕によって品物を作ったり、売ったりしているのです。すべての従業員は、人に役立つものを作り、雇用主はそれを売っているのです。役に立つこととは奉仕の別名なのです

奉仕の原則を条件とした満足感を表したのが「質・量・管理の状態」

を示した価値ある奉仕の要素です。即ち、正しい管理状態の下で、十分な量の良い商品を顧客に提供することです。

質とは、商品の品質が高いこと。一度売った商品には責任を持つこと。適正な価格であること。

量とは、商品の種類が豊富で、十分な量が確保できること。

管理の状態とは、店主や従業員この態度が良いこと。商品知識があること。広告が適正であること。

こういうことが守られている店には、何度でも行きたくなるものです。一見さんだけを相手にしては、継続的な事業の発展はありません。リピーターとなって再三、店に訪れる常連客を確保することが、すべての事業所を繁栄させるのです。

もう一つの考え方は、人間関係学から見た利益の適正な再配分です。自分の事業が成功しているのは、事業主の力量によるところが大ですが、事業所で働いてくれている従業員、事業所に色々な品物を納めてくれている取引業者や下請け業者、事業所から品物を買ってくれる顧客、さらに、その事業が、その町の中で普遍的に営んでいけるのは同業者がいるおかげであることを忘れてはなりません。

事業主を取り巻く全ての人たちのおかげで事業が成り立っていることを考えるならば、得た利益を、事業主が一人占めするのではなく、事業に関係する人たちと適正にシェアをしながら、事業を進めていけば、必ずその事業は発展していくはずです。

そのような経営方針を採用して事業が発展していく様子を、自らの事業所をサンプルとして実証すれば、同業者の人たちは、その事業態度を真似るに違いありません。そうすれば、業界全体のレベル・アップに繋がっていくというのが、**He profits most who serves best**のもう一つ意味です。この考え方は今も昔も変わらない真理です。

雇用主の従業員に対する責務は、適正な報酬を支払うこと、安全、福利厚生、社会保障、快適な生活を保証すること、従業員に教育の機会を

与えることです。

従業員の雇用主に対する責務は、職場では最善を尽くして働くこと、過失を最小限におさえること、会社の管理運営に協力することです。

雇用主と従業員がこの三種類の責務をお互いに果たすことが、会社の発展に繋がるのです。

これらの説明によって、政府の政策か、事業主の自発的な規制かという点を除けば、シュルドンの経営学に基づく奉仕理念が修正資本主義とほぼ同じだということが分かります。

修正資本主義の時代の後に登場したのが新自由主義（新資本主義・アングロサクソン型資本主義）です。

この思想の創始者はミルトン・フリードマンという経済学者です。彼が修士号を取得した頃のシカゴ大学には、フランク・ナイト、ジェイコブ・バイナー、フリードリッヒ・ハイエクといった新自由主義思想を持つシカゴ学派の経済学者が在籍しており、とくにハイエクは徹底した新自由主義者として有名です。

国家も制度も民族も否定して、新自由主義のメカニズムのみが、人間社会に幸福をもたらすという考え方です。新自由主義の思想と論理は単に経済思想だけではなく、政治経済社会全般に具体化していけば、結果として、全体の富がごく僅かな富裕層に集中していくように仕組みられており、新自由主義の信奉者は、その目的のためには政治権力と結託して行動を起こし、手段を選ばず目的を貫徹しようとする執念を持っているのです。

1960年代、国際通貨市場が不安定で、ポンド切り下げの噂が強まっていた時に、フリードマンが1万ポンドを空売りしようとして、銀行から断られたとき、「資本主義の世界では、儲かるときに儲けるのが当然だ」と、シカゴ大学の講演で反論しました。フリードマンを元祖とする新自由主義者には、社会的秩序の維持、倫理観の尊重といった考えは全

くありません。

新自由主義の基本理念は、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」です。これは、自由な市場は、価格機能によって、資源の最適配分ができるようになるので、富を最も効果的に配分することができ、そのためには経済活動を可能な限り自由にすべきであるという考え方です。それを実現するためには、政府機能を縮小して「小さい政府」にし、富裕層に減税し、社会保障制度を否定すれば、富裕層に富が集中し、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

アングロサクソン型資本主義は、何ごとも利益追求のチャンスとして、ゼロから無限の富を目指すサクセスストーリーで、人々の競争意識を駆り立てる魅力があります。しかし、その反面、他人の迷惑は無視して、全ての商品を投機化した結果、バブルに陥るリスクがあります。

1970-80年代、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブ（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしてきました。

そして、この政策を採り入れたのが、アメリカではレーガン、ブッシュ親子、トランプ大統領、イギリスではサッチャー首相であり、日本では小泉、安倍首相がその影響を大きく受けています。

なお、新自由主義経済学の論理では「バブルは発生しない」「物を供給すれば必ず売れる」「失業はない」「不況はない」「恐慌はない」「政府は市場に介入しない」という前提であったため、こうした危機を予測することができませんでした。

現在の資本主義は、ライン型資本主義（ヨーロッパ型資本主義）とア

ングロサクソン型資本主義（新資本主義）とに大別されます。前者にはドイツ、フランス、日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます。

アングロサクソン型は「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。金融市場依存型であって、企業は証券市場において株式や社債を発行して資金を調達します。株主重視の経営であるために、経済発展のダイナミズムに敏感な企業経営となる一方で、株主が気に入らない経営者は罷免されるので、経営者は常に株価を最重要視せざるを得ません。業績が悪化すると、従業員はいとも簡単にレイオフされます。

ライン型資本主義は、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会構造や組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。富と働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の公共的機関であると考え、株主より従業員を重視します。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。

しかし、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

この社会は、映画「ウォール・ストリート」の一連のシリーズの中で、友人や家族や国家すら裏切りながら、個人の利益を追求する新自由主義者の姿が描かれており、「友人も家族もいない。もし欲しければ犬を飼えばいい」という名言を生み出しました。

現在の国際情勢は、世界秩序を維持したり、国際問題を解決するために必要なリーダーシップを発揮できる政治力を持つ国が存在しない「Gゼロ」の状態にあります。America first を強調するトランプ政権も、新自由主義政策による失敗で 2100 兆円（2017 年度推計）の負債を抱えており、日本にも大きな債務を抱えているため、常に円安になるように誘導しています。特に中国には多額の国債を保有してもらっており、大国同士としての経済面での相互依存関係が進んでいます。今や中国の提案による AIIB（アジアインフラ投資銀行）の加盟国は 70 ケ国を超えて、日本主導のアジア開発銀行を超える存在になりました。アメリカと中国が経済関係における共存共栄路線のなかで、日本が孤立してしまう可能性すらあります。

ロータリーでは、政治や宗教を語らないことが原則になっているようです。しかし政治と経済は一体になっており、ロータリアンはおもに経済人によって構成されている関係上、政治を語らざるを得ません。ロータリーは政治に関わる決議を表明してはなりません、政治を語ることは自由なのです。

第二次世界大戦によって壊滅的になった日本経済は、朝鮮戦争による特需、田中首相による日本列島改造、池田首相による所得倍增政策などによって奇跡的とも言われる回復を遂げ、その後ライン型資本主義を採り入れて、国民の大半が中間階級を意識する時代が続きました。

しかし 1989 年から起こったバブル崩壊を契機に日本経済は低迷期に入ります。抜本的な経済政策を取ることができずに、政権も目まぐるしく変わりました。

2001 年に政権を担った小泉首相は、経済政策を、竹中平蔵氏の影響を大きく受けた新資本主義に転換し、市場万能主義による規制の自由化を推進すると共に、デフレ政策を取りました。しかし、この急激な政策変更は返って経済不況を強めたため、ライン型資本主義に慣れ親し

んでいた国民の反発をかって、民主党政権への転換に繋がりました。

新しく政権を担った民主党は、経験不足であり、かつ無策であったため短命に終わり、自民党の安倍政権が誕生しました。安倍政権の経済政策によって日本経済は持ち直し、株価も 20 年ぶりの高値を付けていますが、新資本主義の影響を大きく受けた政策であり、第三の矢と言われる特区に代表される構造改革の推進に、一抹の不安を抱く経済人も多いようです。

日本が 21 世紀を生き抜くためには、日本型資本主義に転換する必要があります。私はそれを瑞穂の国型資本主義と名付けたいと考えています。

その具体的な内容は次の通りです。

- ① 新資本主義・市場原理主義から決別して、ライン型資本主義に回帰すること。
- ② 核なき世界平和を推進しつつ、国防力を充実すること。
- ③ 産業構造を内需型に転換して、輸出立国の考えから内需中心の福祉国家へ転換すること。
- ④ 安定的成長を持続できる経済政策をとり、社会保障を充実すること。
- ⑤ 利益を公正に再配分して、従業員に配慮する理念に戻ること。
- ⑥ 社会的共通資本を整備、拡充して、近代化を図ること。
- ⑦ 食料の自給率向上を図り、農産物を輸出産業として育成すること。

以上、新資本主義の弊害を縷々述べましたが、それはロータリーの奉仕理念として **He profits most who serves best** が存在する限り、ロータリーの理念は理論的に新自由主義型資本主義ではなく、ライン型資本主義を順守しなければならないからです。

2017 年の決議審議会で、新資本主義の体制下にある RI から、このモットーの廃止提案が出ることを危惧していましたが、その憂いがな

かったことに安堵しています。

今、日本経済は、新資本主義の方向に向かって、大きく傾こうとしています。ロータリアンの中にも新資本主義を信奉する人が多く存在する時代になりました。

しかし、アメリカ・イギリス型の新資本主義は、シェルドンが提唱する経営学理念 **He profits most who serves best** とは整合性がありません。**Sheldonism** に従った取引は奉仕が目的であり、利潤を目的とした取引は虚業であることを忘れてはなりません。ロータリークラブは実業人の集合体であって、虚業人が入る場所ではないのです。

地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人々は他人のことを思いやり、残り少ない資源を皆で分かち合わなければならぬことに気づくでしょう。僅かな物資を分け合って人々は助け合って生きていかなければなりません。この分かち合いの社会のことを、フランスの経済学者、ジャック・アタリは超民主主義と呼んでいます。

超民主主義は利他主義であり、これまで個人の利益・幸福を追求したことに対する反省をこめて、人々が他人のために働くことによって自分の利益を得るという心の発展と開放を目指すことを意味します。

超民主主義とは、市場原理主義の限界を超えた、人の善意で世界が運営される、国境すらない世界平和主義という理想モデルの一つなのです。そしてロータリーは超民主主義を目指して 100 年有余の活動を続けてきたはずで

これが、**Sheldonism** の真髄であることは、道徳律の第 11 条に、「**he profits most who serves best** という黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである」と書かれていることから明らかです。

超民主主義のリーダーとして未来の人類を牽引していく人達のこと

をトランス・ヒューマンと呼んでいます。トランス・ヒューマンとは知的にも肉体的にも道徳的にも最も進化した未来の人間像を現し、他人のことを思い遣り他人のために尽くす調和を重視した超民主主義を構築する中心的役割をする存在と定義されています。私はそれを、未来のロータリアンの姿に重ね合わせます。

近未来の社会を管理するためには、ロータリーの正しい経営学に基づく高い倫理基準と理性的な行動力が必要になってきます。これらの技術を開発するための優秀な頭脳を持つ人材をつくり出すことが将来のロータリー財団の重要な役割になっていくでしょう。

RI がどの道を歩もうとも、**He profits most who serves best** というモットーが残っている限り、我々個々のロータリー・クラブとロータリアンは、**Sheldonism** の精神に従って、正しい経営者としての道を進まなければならないのです。

He profits most who serves best の理念に基づいて、**Service above self** の活動をすることによって、トランス・ヒューマンとして我々の住む地球を次の世代に引き継ぐことが、我々ロータリアンの責務ではないでしょうか。

眞実を伝える
日本史

国際ロータリー2680 地区

PDG 田中 毅

最初に

最近次々と新しい遺跡が発掘されて、弥生時代に優れた文化を持った日本固有の大和民族が、国内に広く定住していたことが分かり、日本の古代史は大きく書き換えられようとしています。

神代の時代は、アメリカの占領政策によって、今は忘れられつつある、古事記や日本書紀などの日本神話を中心に記述しました。初代から9代までの天皇の内の数名があまりにも長寿であるために、その存在を疑問視する人もいますが、在位年数の誇張は別にして、各種の資料から、世界で最も古い王朝である、万世一系の天皇家が存在していたことは確かなことです。日本には神武天皇の即位から始まる皇紀という暦が使われていましたが、占領政策によって廃止されてしまいました。世界中で広く使われている西暦も、キリスト誕生という神話の世界から始まり、処女マリアの懐胎という非科学のおまけまでついていますから、日本に於いて皇紀を使うことは歴史学上、何の問題もないと思います。なお、本書における歴代天皇のご尊顔は、新潟弥彦神社宝物殿に展示されている肖像画から転載させていただきました。

飛鳥時代から大政奉還までの歴史は、大勢の歴史の専門家が調べ尽くしていますので、特記すべき新しい発見はありません。

明治維新から現在までの歴史は大きく書き換える必要があります。第2次世界大戦後、皇室は残ったものの、それに繋がる日本の歴史は、進駐軍のプレス・コードによって葬り去られ、さらにこの大戦の誘因となった日本の現代史も、アメリカの意のまま書き換えられてしまいました。満州国の存在は知っていても、ハワイ王国が日本に助けを求めてきたり、千島列島や南太平洋の多くの島々が、日本の領土であり、日本は世界最大の海洋国家であったことを知る人は、僅かになってしまいました。

日本人の性格も、大きな誤解を受けています。はっきりと意見を言わず、曖昧で、腹のなかで何を考えているか分からないと言われるますが、はっきり意見を言わないのは、自己主張を抑えることで争いを避け、他人との調和を第一に

考える日本人の知恵です。曖昧な態度を取るのも、はっきり言わなくても、五感を働かせて、相手に察してもらえる文化があるからです。宗教的に厳格な規範がなくても、日本では万物に神様が宿る多神教が定着しているために、宗教戦争を回避して、数千年来の確固とした道徳律があって、それが国民の暮らしを律しているのです。

戦後生まれの人が 80.2%の今日、日本の歴史の真実を知らない人が殆どであることは、世界有数の長い歴史を持つ日本人としては、非常に残念なことです。何の疑念も抱かずに、アメリカの意のまま自虐的に受け入れてきた日本の歴史に、改めてメスを入れて、この機会に真実を掘り起こしてみたいと思います。

私なりに数多くの歴史書を参考にして、なるべく忠実に、皇紀 2678 年の長きにわたって、日本が歩んできた道を綴ってみるつもりです。

古代史

地球上に人類の先祖であるネアンデルタール人が現れたのは、今から約 40 万年前だと言われています。ネアンデルタール人は、ヨーロッパを中心に西アジアから中央アジアにまで分布しており、旧石器時代の石器の作製技術を有し、火を積極的に使用していました。ネアンデルタール人は現生人類と類人猿との中間の特徴を持っており、曲がった下肢と前かがみの姿勢で歩く、白い肌と茶色の髪を持った原始的な人類でした。大規模な火山噴火によって約 3 万年前に絶滅したと言われています。

現生人類のホモ・サピエンスは 20 万年前にアフリカに現れ、ヨーロッパや東アジアを経て、4 万年後には日本に達したと言われています。その過程で、ネアンデルタール人とホモ・サピエンスの交配が行われて、最終的にはホモ・サピエンスに吸収されますが、ヨーロッパ人に比べるとアジアの方が僅かにネアンデルタール人の DNA を多く有しているとのこと。

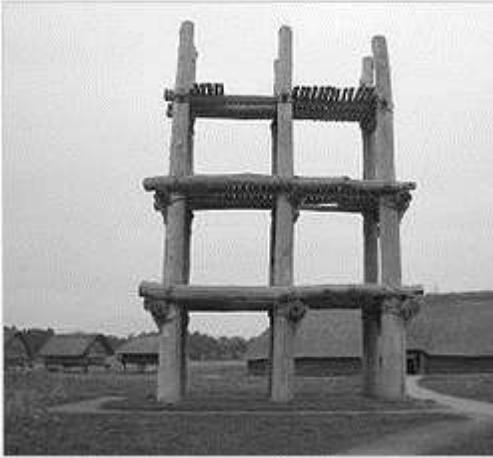
日本列島に最初に人類が定着した記録は、日本最古の遺跡として斜軸尖頭器が出土した柳沢館遺跡（奥州市）や金取遺跡（遠野市）であり、約 4 万年前の旧石器時代です。さらに群馬県の岩宿遺跡からは、約 3 万 5 千年前にできた関東ローム層より黒曜石の打製石器が発見されています。これらの事実は、当時日本列島に人類が住んでいたことを証明しています。

青森県の大平山遺跡からは約 1 万 6 千年前の大量の土器が出土しています。

約 6 千年前には温暖化現象によって海面が上昇して、海が内陸に入って現在の日本列島の姿が形成されました。

約 5 千 5 百年前の縄文時代における最も有名な遺跡は、青森県の三内丸山遺跡であり、約千軒以上の集落があり、復元作業によって、高さ約 15 メートルの木製の櫓が立っていたと推測されます。

直径 2 メートル、深さ 2 メートルの柱の穴が、4.2 メートル間隔で六つ発見されました。その柱の穴から推定すると、5 階建てのマンションの高さに相当



六本柱建物（復元）

します。古代の日本文明が建てた、バベルの塔ならぬ、丸山の塔なのです。

2千点の土偶、1万点以上の土器、その他にも高度な技術で作られたさまざまな木製品、貝の装飾品、動物の骨や角でつくった釣り針、ヒスイの加工品などが出土しています。

極東の島国に、エジプト文明やメソポタミア文明、インダス文明

や、黄河文明に匹敵する、固有の古い文明があったのです。

約3千年前には、佐賀県において稲作や野菜の栽培や家畜の飼育が行われていた痕跡が残っていますし、この頃に作られたと思われる鉄器や青銅器が数多く出土しています。当時の遺跡の中には武器が存在しないこと、発掘された頭蓋骨に傷がないのは、争いごとがなかったことを示しています。当時の人たちは農耕や狩猟をしながら、ひたすら平和な共同生活を営んでいたのです。

文字は朝鮮を経由して支那から渡来しました。当初は漢字が使われていましたが、万葉仮名を経て、ひらがな・カタカナに変化しました。言語については、日本語との関連が証明された言語は、世界中どこを探しても存在しません。更に独特な文法を持っていることから、日本固有の言語が生まれ、それが発達したものと思われます。

日本人の先祖については、アジア大陸南部の南方系古モンゴロイド系の縄文人と、西日本に渡来した大陸北部の新モンゴロイド系の弥生人の血が混ざりあって日本人ができたという説もありますが、前述の古い遺跡が残っていることから、この日本の地で固有の文化を持った大和民族が、長い日本の歴史を作ったとも考えられます。

アメリカの高名な政治学者で、コロンビア大学のサミュエル・ハンチントン

教授は、日本文明は、2世紀から5世紀にかけて、中華文明から派生して、成立した文明圏であるという、従来の定説を否定して、日本文明を世界の「八大文明の一つ」と位置づけて、日本文明が「日本一国のみで成立する、孤立した文明」であると定義しています。

現在は使われていませんが日本には神武天皇即位を元年とする皇紀という年号があって、これは西暦660年に相当します。皇紀は神話と言われる古事記、日本書紀の記述が証拠になりますが、支那の文献、宋史の日本国伝にも神武天皇即位を紀元前681年にするという記述があります。第2次世界大戦後この皇紀が使われなくなった事は残念なことです。なお、今年皇紀2678年に当たります。

西暦200年、卑弥呼が邪馬台国の女王となり、その後邪馬台国が大和朝廷となったという説もありますが、ギネス世界記録では、神武天皇を世界最古の王朝と認定しています。

西暦300年代の古墳時代を経て、607年には法隆寺が建てられ、645年には大化の改新、667年には近江大津宮、694年には藤原京に遷都されます。その後平安時代、鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代を経て現在に至ったことは、歴史的事実として、証明されています。

神話の世界

古事記

日本の歴史は、古事記による神話によって始まります。

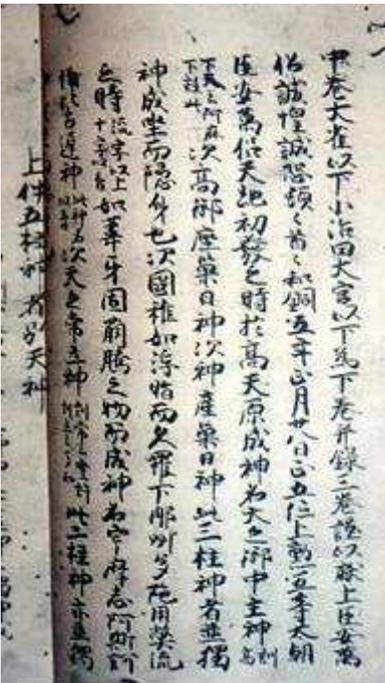
古事記は日本最古の歴史書で、語り部である稗田阿礼に焼失してしまった国記などを思い起こさせて、712年に太安万侶が編纂し、元明天皇に献上されたものであり、天皇家による支配を正当化するために国内向けに書かれたものです。

内容は、神代における天地創造から推古天皇の時代に至るまでの様々な出来事や、数多くの詩が、日本人に読みやすいように漢文体を組み替えた日本漢文体で記載されています。序文によると、天武天皇の勅撰とも考えられますが、史料的价值としては、序文に書かれた成立過程や皇室の関与に不明な点や矛盾点が多いという意見もあります。

なお、古事記や日本書紀には、天皇の悪口もそのまま記載されており、自由に書かれた歴史書でもあることが分かります。

古事記は、歴史書であると共に、文学的な価値も非常に高く評価されており、神道を中心にした日本の宗教文化や精神文化に大きな影響を与えています。古事記に現れる八百万の神々は、現在でも、日本国中の神社に祭られています。

古事記は壮大なスケールで国づくりと天皇家の歴史が描かれています。日本の神様は、西洋の神様と違って好色であり、随所に奔放な性描写の場面が出てくるのが特徴です。



古事記

一神教のユダヤ・キリスト・イスラム教は、神が人間を自然の支配者として、創造したために、人格神を戴く一神教が、世界に間断のない戦争や殺戮を繰り返して、血みどろの世界史を作ってきましたが、日本の神道は、自然を拜む多神教なので、神々も話し合いで物事を決めるという高度な文明の技術を持っていました。

古事記を読むと、日本は男尊女卑の国であるどころか、これほど女性が自由で、生き生きと活躍していた国はないことに、驚きます。古代の日本は世界でも類を見ない、豊かで洗練された文化を育んできた国であり、これほど素晴らしい歴史と文化を持った国は、他にはないと思います。

古事記に出てくる**天地開明**は、ビッグ・バンによって、混沌とした宇宙の中に、神々や人間が生まれてくるという、近代科学がもっとも有力な学説として、宇宙創成の姿に似ています。

ユダヤ・キリスト・イスラムの一神教の絶対的な人格神による「創造神話」と比べると、日本の神話のほうが、科学的な宇宙創成の姿に似ているのです。どうして、古代の日本人が、このような宇宙創成の物語を思い描くことができたのでしょうか。想像力によるものでしょうか、それとも靈感によるものでしょうか。

太古の地球には空と海しかありませんでした。天界には沢山の神様がおり、その中に伊弉那岐命(イザナギノミコト)と伊弉那美命(イザナミノミコト)がいました。二人は地上で国を作れという命令を受けて、地上に降り立ち、矛で海をついたら島ができました。二人が性行動に励んだ結果、日本列島の多くの島と八百万(ヤホヨロス)の神が生まれました。なお最初の雫の一滴が淡路島、次が四国と言われています。壱岐、對馬も記載されていますが、東北と北海道の地名



は見当たりません。

天照大神(アマテラスオオミカミ)は日本神話に登場する太陽を神格化した皇



天照大神

室の先祖であり、伊邪那岐命(イザナギノミコト)、伊邪那美命(イザナミノミコト)を両親とする女神です。

高天原を君臨していましたが、弟の須佐之男命(スサノオノミコト)が乱暴を働いたので、天照大神は天の岩戸に隠れたため世の中は闇に包まれて数々の災いが起こりました。八百万(ヤホヨロズ)の神々が岩戸から出して、須佐之男命(スサノオノミコト)を高天原から追放したと言う記述があります。

天照大神から5代目の子孫に当たる神武天皇は、長髓彦との長い戦いの後、八咫鳥(ヤタノカラス)の道案内で勝利を収め、51歳の時に、橿原宮で即位をしました。享年127歳と言われており、奈良県橿原市畝傍山に御陵があります。

神武天皇の存在を認めつつも、次の第2代目天皇の綏靖天皇から第九代の開化天皇までの実在性に疑義を唱える説もありますが、第10代の崇神天皇からは、数々の文献や建造物が残されているので、実在の人物であることは、疑いの余地はありません。ただし、初期における天皇の寿命については、かなりの誇張があるように思われます。

神武天皇の記述は、弥生時代末期から古墳時代にかけての種々の出来事を基に、実在した複数の人物の功績や人物像を重ねあわせて古事記、日本書紀を書く際に創作されたものとする意見もあります。さらに、神武天皇像は、実在の可能性が認められる崇神天皇、応神天皇、継体天皇、さらに古事記、日本書紀が書かれた時期である天武天皇であるという説もあります。

なお、神武天皇が実在したという説も多く、神武東征物語は、邪馬台国政権が九州から畿内へ移動したという説や、神武天皇が開いた大和朝廷を九州王朝である邪馬台国の分家だという説もあります。

古事記は、上巻、中巻、下巻に分かれ、天地の創生から推古天皇までの歴史が書かれています。

上巻には、天地明開から天孫降臨を経て、神武天皇の誕生までが書かれています。

中巻には、初代神武天皇から 15 代応神天皇までが書かれていますが、2 代から 9 代までの天皇は、欠史 8

代と呼ばれており、系譜などの記述のみで、その詳細な記録は記載されておりません。在位年数も極めて長く、百歳を超える天皇が 8 名いることが、極めて不自然です。

下巻には、16 代仁徳天皇から、33 代推古天皇までの出来事が詳しく書かれています。その主な内容は次の通りです。



古事記

黄泉の国 伊邪那岐命(イザナギノミコト)は幸せに暮らしていましたが、伊邪那美命(イザナミノミコト)が火の神を産んだため、火傷を負い死んでしまつて黄泉の国に行きました。悲しんだ伊邪那岐命(イザナギノミコト)が黄泉の国を訪れると、そこには焼けただれて変わり果てた伊邪那美命(イザナミノミコト)の姿がありました。伊邪那岐命(イザナギノミコト)はその場から逃げだしたので、伊邪那美命(イザナミノミコト)は醜い姿を見られたことを恨んで、呪いをかけて 1 日 1000 人の人間を殺すことにしました。その代わりに伊邪那岐命(イザナギノミコト)は 1 日 1500 人の人間を産ませることにしました。こうして人間に寿命ができました。

天の岩戸 伊邪那岐命(イザナギノミコト)が黄泉の国から地上に帰る途中に、禊をするために川で水浴びしたところ、飛び散った雫から沢山の神が生まれました。その中に天照大神と須佐之男命がいました。天照大神は天界を、須佐之男命は海を治めることになりました。須佐之男命は乱暴な性格の持ち主で、

何事にも反抗しました。叱ると泣き叫び、その度に悪霊が増えたり、災いが起こったので、遂に、須佐之男命を出雲の国に追放して、自らは、天岩屋戸に引きこもりました。太陽神がいなくなったので、世界は暗黒になりました。八百万の神々が集まって相談の上、天岩屋戸の前で雄鶏を集めてきて鳴かせたり、肉体美溢れる女神が滑稽な裸踊りを演じて宴会を始めました。天照大神は外の騒がしさが気になって、少し戸を開きました。天手力雄神(タジカラオノミコト)が力一杯、戸を明けると、眩しく光っている天照大神の姿が現れ、八百万の神々は喜びました。ちなみに天照大神は女性です。

八岐大蛇 天界から追い出された須佐之男命が歩いていると、八岐大蛇が可愛い娘(クシナダ姫)を飲み込もうとしていました。そこで、上手に誘って八岐大蛇に酒を飲ませると、酔って寝てしまったので退治しました。須佐之男命はクシナダ姫を娶り、八岐大蛇から奪い取った草薙の剣を天照大神に献上しました。

因幡の白兔

須佐之男命の子孫に大国主命がいました。大国主命にはたくさんの兄弟がいて、いつもいじめられていました。ある日、兄弟で美人を娶るために因幡の国に行きました。大国主命は荷物持ちで後に続きました。道中、皮が剥がされた兔を見つけた兄弟は、追い打ちをかけるように更にいじめました。大国主命が蒲の穂をかぶせて兔を助けると、兔は、「あなたが美人と結婚できる」と予言しました。大国主命は因幡の美人を娶ることができました。



根の堅洲国 大国主命が因幡の美人と結婚したので、兄たちは恨んで大国主命を殺しましたが、大国主命は生き返って、須佐之男命の下に逃げ帰りました。須佐之男命も試練という名目で、更にいじめたので、出雲の根の堅洲国に逃げ帰りました。後日、大国主命は出雲の国を治めることになりました。

大国主命の国譲り 大国主命は日本全国を治めるためには、天照大神よりも自分の息子の方が良いと考えて、再三使者を送って交渉をした結果、国を譲ってもらうことになりました。

天孫降臨 天照大神の孫、瓊瓊杵尊(ニギノミコト)は、三種の神器を持って地上に降り、日向の高千穂に宮殿を作って日本を治めました。ある日、美しい山の女神と出会って求婚しました。山の女神は、父親の同意を得ると言っ、一旦実家に帰りましたが、翌日、醜い顔をした姉と一緒に嫁ぐと言っ戻ってきました。瓊瓊杵尊(ニギノミコト)は醜女はいらないと言っ、姉を追い返しました。この醜女の正体は不老不死の神でした。その後、



天皇も寿命が尽きるようになりました。一夫多妻制であったことが伺われます。

海幸彦と山幸彦 瓊瓊杵尊(ニギノミコト)の孫に海幸彦と山幸彦がいました。海幸彦は釣りが得意で、山幸彦は狩りが得意でした。ある日、海幸彦と山幸彦は道具を交換しました。釣りにいった山幸彦は、針を失くしてしまいました。海幸彦が怒ったので、針を探しに海に潜って竜宮城を見つけ、美しい海の女神と出会って結婚しました。長い間竜宮城で暮らしていましたが、ふと、



神武天皇

針のことを思い出して、針を探し出し、地上に戻って海幸彦に渡しました。海の女神は陸の生活には耐えられず、子供を残したまま、竜宮城に逃げ帰りました。この話が浦島太郎の原点になったと思われます。

神武天皇 山幸彦の孫は、日向国は日本の西端に過ぎないので、数々の試練を経ながら東に進みました。そして大和を征服し、橿原宮で即位して、神武天皇と名乗りました。

欠史8代 初代の神武天皇から、10代目の崇神天皇の間に、8人位の天皇がいたと言われていますが、詳しいことはわかりません。

崇神天皇 10代目の崇神天皇は、全国に蔓延していた疫病を治めました。

垂仁天皇 出雲大社を造営し、相撲を振興しました。不老不死の薬を探しましたが見つかりませんでした。



日本武尊 日本武尊(ヤマトタケルノミコト)は12代景行天皇の皇子であり、女装をして襲った熊襲征討・東国征討など日本古代史上の伝説的英雄です。東国征討の途中、伊勢神宮に寄って草薙の剣をもらい、北上川付近まで進みました。古事記によると、東征の途上各地で、嫁を娶っており、当時は一夫多妻制であったことを示しています。東征の帰途、日本武尊はイノシシの神に呪い殺され、白鳥になって天空に行きました。

神功皇后 日本武尊の皇子が神功皇后と結婚しました。「新羅を治めなさい」という神様のお告げがありましたが、皇子は断りました。その結果、呪い殺されました。皇子の代わりに神功皇后が新羅に行って、国を治めました。

仁徳天皇 神功皇后の孫、仁徳天皇が即位しました。ある日山に登って里を見ると、どの家も食べる物がなくて 釜戸の煙が昇っていないことに気付きました。そこで、3年間、税金を免除しました。民は豊かになったので「聖帝」と呼ばれています。ただし、女好きで数々の問題を起こして、「性帝」と呼ぶ人もいたそうです。

雄略天皇 皇位後継者を皆殺しにして即位しました。多くの悪い伝説が伝わっています。伊勢神宮に外宮を作りました。

古事記はまだまだ延々と続きますが、冒頭のみで紹介に終わります。

日本書紀

日本書紀は、奈良時代に書かれた日本に伝わる最古の本格的な歴史書です。

舎人親王らの編纂で、古事記から8年後の720年に完成したと言われ、神代から持統天皇の時代までの歴史が書かれています。日本書紀の編纂は当時の天皇によって命じられた国家の大事業であり、外人が読むことを想定し、皇室や各氏族の歴史上における位置づけを含めた極めて政治的な色彩の濃厚な書物で



日本書紀

す。文体は、大部分は漢文体ですが、処々に倭文や万葉仮名が使われています。日本全国における各地の伝承が、豊富に収められており、世界で最初の歴史書と言われています。ちなみに、朝鮮の歴史書は11世紀になってやっと書かれています。

巻第一から巻第三十まで分かれ、巻第一は天地開明から天照大神(女帝)、須佐之男命が出雲に降臨するまで、巻第二は海幸彦と山幸彦についての記述があります。巻第三は神武天皇の記述で、東征、八咫鳥、長髓彦、金鷄、橿原即位があります。

巻第四には欠史8代、即ち、在位が疑問視されている、綏靖天皇、安寧天皇、懿徳天皇、孝昭天皇、孝安天皇、孝霊天皇、孝元天皇、開化天皇に関する記述が纏められています。

巻第五・巻第六・崇神天皇には、任那、新羅抗争、相撲の開祖、埴輪。



天照大神



神武天皇



崇神天皇



垂仁天皇



景行天皇



成務天皇



仲哀天皇



応神天皇



仁徳天皇



履中天皇



反正天皇



充恭天皇



安康天皇



雄略天皇



清寧天皇



顕宗天皇

卷第七・景行天皇には、熊襲征伐、日本武尊。

卷第八・仲哀天皇には、神功皇后の熊襲征伐。

卷第九・神功皇后(女帝)には、熊襲征伐、新羅出兵、百濟、新羅の朝貢。

卷第十一・仁徳天皇には、民の籠の煙、新羅、蝦夷征伐。

卷第十三・允恭天皇には、最古の地震記録。

卷第十四・雄略天皇には、新羅討伐、高麗、百濟の降伏。

卷第十七・継体天皇には、任那四県の割譲

卷第二十・敏達天皇には、蘇我馬子の崇仏、物部守屋の排仏。

卷第二十一・崇峻天皇には、法興寺の創建。

卷第二十二・推古天皇(女帝)には、聖徳太子の摂政、新羅征伐、冠位十二階の制定、憲法十七条、遣隋使の派遣。

卷第二十三・舒明天皇には、遣唐使の派遣。

卷第二十四・皇極天皇(女帝)には、百濟と高句麗の政変、蘇我入鹿、斑鳩急襲、中大兄皇子と中臣鎌子、蘇我蝦夷、入鹿の滅亡。



継体天皇



欽明天皇



推古天皇



皇極天皇



孝徳天皇



天智天皇



天武天皇



持統天皇

卷第二十五・孝徳天皇には、大化の改新の詔。

卷第二十七・天智天皇には、白村江の戦い、近江遷都。

卷第二十八・天武天皇には、大海人皇子吉野入り、東国への出発、大津京陥落、大和の戦場、筑紫大地震、律令編纂と帝紀の記録、銀の停止と銅銭使用の令、服装改定、八色の姓と新冠位制。

卷第三十・持統天皇(女帝)には、大津皇子の変、浄御原令の施行、金光明経、藤原宮遷都に至る歴代天皇に関する詳しい史実が書かれています。

日本の言語・文字文化

漢字が伝来する以前の日本には固有の文字はありませんでした。そのため人々は神話や伝承などを暗記して口頭で語り継いでいました。

日本に漢字が伝来したのは3世紀頃で、日本で出土した3世紀頃のものだと考えられる土器には漢字が書かれています。出土した木簡から、漢字は仏教の伝来と共に朝鮮半島を経由して伝わったと考えられています。漢字は5世紀の稲荷山古墳出土の鉄剣や、江田船山古墳出土の太刀などに見られ、漢文で書かれています。

日本に伝来した漢字は、次第に日本独自の変化を遂げました。

- ① 本来の漢字の使い方 (例：山＝サン)
 - ② 日本独自に訓読して使う (例：山＝ヤマ)
 - ③ 表音文字 (例：也麻＝ヤマ、波奈＝ハナ)
- ①の用法は現代の音読み、②の用法は現代の訓読みに通じます。③のように漢字が持つ意味を無視して音だけを使用して表記した文字を万葉仮名といいます。

万葉仮名は人名や地名といった日本独自の名詞を漢字で表記するときに使われていました。稲荷山古墳出土の鉄剣も、名前の部分に万葉仮名が使われています。出土資料から、万葉仮名は7世紀ごろには完成したと考えられています。

表音文字は最初、固有名詞だけに使われていましたが、「万葉集」に見られ

るように次第に和歌にも使われるようになっていきました。

万葉仮名で書かれた日本語は全て漢字表記です。したがって、現代のような漢字と仮名を交えたものではありません。

古事記・日本書紀・万葉集に用いられている万葉仮名の漢字は合計 973 個あります。「き」の音を表すと考えられる漢字には、岐・支・伎・妓・吉・棄・枳・弃・企・祇・紀・記・己・忌・帰・幾・機・基・奇・綺・騎・寄・貴・癸などがあります。

平安時代には万葉仮名から平仮名・片仮名へと変化していきました。平仮名は万葉仮名の草書体化が進化して、独立した字体と化したもの、片仮名は万葉仮名の一部ないし全部を用いて、音を表す訓や記号として生まれたものです。

和歌を詠む時など私的な時や、女性に限って用いるものとされていた平仮名のことを「女仮名」と呼び、公的文章に用いる仮名として使われる万葉仮名を「男仮名」と呼んでいます。

古墳時代

神話に登場する神功皇后は、三韓征伐後、任那を植民地にして、更に支那の吉林に到達したものと思われ、現地にはそれを示す碑が残されています。日本書紀によると、崇神天皇の時代に、任那や新羅を支配下においた模様です。

日本最古の神社は大国主命が作った出雲大社であり、諏訪大社と共に神話の時代に建立されました。天照大神を祭った伊勢神宮は紀元4年に、熱田神宮は113年に作られた神社です。

当時の日本の状況は支那の歴史書からもうかがわれます。

「漢書」地理志によると、紀元1世紀前後の日本は倭と呼ばれ、100ほどの国に分かれており、朝鮮半島北部に置かれた漢の楽浪郡に定期的に使いを送っていたと書かれています。また「後漢書」東夷伝には、倭の奴の国王が紀元57年に後漢の光武帝のもとに使いを送って印綬を与えられたという記録があります。

卑弥呼を女王とする邪馬台国は、30カ国ほどを勢力下におく連合国家で、239年に魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号と印綬などを与えられました。

邪馬台国の位置については、古くから九州説と大和説があります。もし邪馬台国が九州にあったとすれば、銅鐸・銅文分布圏を中心とする地域的な連合国家であり、大和にあったとすれば、銅鐸分布圏の勢力がすでに西日本を支配していたこととなります。

やがて、北部九州を中心とする政治勢力と奈良盆地東南部を中心とする政治勢力が統一されて、畿内を本拠地とする大和朝廷が国内をほぼ統一しました。欽明天皇の時代には、戸籍が作られて国家機構が整備されました。

4世紀以降、鉄鉾石を得るために、朝鮮で高句麗を攻め、任那を日本の植民地にしました。





仁徳天皇陵

日本全国に古墳が作られ、5世紀に作られた仁徳天皇陵は、日本最大の前方後円墳です。最近の研究によると、古墳の築造には一定の方式があり、後円部の直径と前方部の長さをほぼ等しくするなど、高度な設計がおこなわれています。

古墳の中からは、刀剣類、勾玉、埴輪などが収められ、集落跡からは須恵器や鎌や鋤などの農機具が出土しています。

九州には墳長が120メートルを超える前方後円墳が全部で12基あります。律令制に基づく国別でみると、現在の宮崎県と鹿児島県の大隅半島地域を含む日向国が8基と圧倒的に多く、これは畿内王権と深いつながりがあったことの証しだと受け止められています。

なぜ畿内王権が日向と深い関係を持ったのでしょうか。謎を解く鍵の一つが「后」です。古事記と日本書紀には12代の景行天皇、15代の応神天皇、16代の仁徳天皇がそれぞれ日向出身の後を迎え、皇子や皇女をもうけたと記されて



九州古墳群

います。古事記では3人の、日本書紀では4人の日向出身の后が登場します。

支那の「宋書」倭国伝によると、5世紀には倭の五王が支那南朝の宋に次々に使いを送ったと言われています。その目的は、倭の国内における支配権と、朝鮮半島南部に対する軍事権を支那の皇帝に認めさせることによって、倭の東アジアにおける国際的地位を確保しようとしたものと考えられます。5人の内、最後の倭王武は雄略天皇であると考えられています。

仏教が百済を経由して、日本に伝来したのは、538年と言われていますが、5世紀前半頃には、高句麗との戦乱から逃れて、多くの百済人が日本へ来ており、それに伴って、大乘仏教が広がったものと思われます。人間の苦悩を救う仏教の教えは、まず天皇や豪族に受け入れられて、やがて一般民衆にも普及して行きました。仏教は精神面だけでなく、造寺、造佛などに関連して、土木、建築、彫刻などの数多くの新しい技術をもたらしました。このようにして5～6世紀に形成された文化は、その後の日本文化の基本となったのです。

仏教は、当初は外国の神なので、拝むと災いが起こるとして敬遠されていたのですが、欽明天皇が積極的に仏像や経典を伝えたと言われています。元来神道であった天皇が仏教を信じるようになったのは、仏教を宗教ではなく文化として取り入れたため、神道を妨げるものではないと判断したからです。神道が多神教であることが、日本に神仏混交を可能にしたのかも知れません。

飛鳥時代



飛鳥時代とは、聖徳太子が摂政になった推古天皇から藤原京への遷都が完了した持統天皇にかけての102年間を指します。

538年に、百済の聖王が、釈迦仏像や経論などを朝廷に贈り、仏教が公伝されると、物部守屋と蘇我馬子が対立します。聖徳太子は蘇我氏側に付いて、物部氏を滅ぼしました。蘇我氏は娘2人を后として天皇に献上して、大臣として、約半世紀の間、権力を握りました。588年には、蘇我馬子が飛鳥に法興

寺（飛鳥寺）の建立を始めました。

592年、蘇我馬子は崇峻天皇を暗殺して、日本初の女帝となる推古天皇を立て、聖徳太子は摂政となりました。603年には、冠位十二階が制定されました。これは徳・仁・礼・信・義・智の六つをそれぞれ大小に分けて十二階とし、冠の色と飾りによって等級を示したものです。

604年、聖徳太子は十七条の憲法を制定しました。

これは政府と国民の関係を規律する法律ではなく、皇族や貴族に対する道徳的な規範が示されており、行政法としての性格が強く、神道と仏教の思想が融合したものです。

十七条の憲法

一に曰(い)わく、和を以(も)って貴(とうと)しとなし、忤(さから)うこと無きを宗(むね)とせよ。人みな党あり、また達(さと)れるもの少なし。ここをもって、あるいは君父(くんぷ)に順(したが)わず、また隣里(りんり)に違(たが)う。しかれども、上(かみ)和(やわら)ぎ下(しも)睦(むつ)びて、事を論(あげつら)うに諧(かな)うときは、すなわち事理おのずから通ず。何事か成らざらん。

二に曰わく、篤(あつ)く三宝(さんぼう)を敬え。三宝とは仏と法と僧となり、則(すなわ)ち四生(ししょう)の終歸、万国の極宗(ごくしゅう)なり。何(い)ずれの世、何れの人かこの法を貴ばざる。人尤(はなは)だ悪(あ)しきもの鮮(すく)なし、能(よ)く教うれば従う。それ三宝に帰せずんば、何をもってか枉(まが)れるを直(ただ)さん。

三に曰わく、詔(みこと)のりを承(う)けては必ず謹(つつ)しめ。君をば則(すなわ)ち天とし、臣(しん)をば則(すなわ)ち地とす。天覆(おお)い地載せて四時(しじ)順行し、万氣(ばんき)通うことを得(う)。地、天を覆わんと欲するときは、則(すなわ)ち壞(やぶ)ることを致さむのみ。ここをもって、君言(のたま)えば臣承(うけたまわ)り、上行なえば下靡(なび)く。ゆえに、詔を承けては必ず慎め。謹まずんばおのずから敗れん。

四に曰わく、群卿百寮(ぐんけいひやくりょう)、礼をもって本(もと)とせよ。それ民(たみ)を治むるの本は、かならず礼にあり。上礼なきときは、下(しも)齊(ととの)わず、下礼なきときはもって必ず罪あり。ここをもって、群臣礼あるときは位次(いじ)乱れず、百姓(ひやくせい)礼あるときは国家自(おのず)から治(おさ)まる。

五に曰わく、饗(あじわ)いのむさぼりを絶ち、欲(たからのほしみ)を棄(す)てて、明らかに訴訟(うったえ)を弃(わ)きまえよ。それ百姓の訟(うったえ)、一日に千事あり。一日すらなお爾(しかり)、況(いわ)んや歳(とし)を累(かさ)ぬるをや。頃(このごろ)、訟を治むる者、利を得るを常となし、賄(まい)ないを見て(ことわり)を聴く。すなわち、財あるものの訟は、石を水に投ぐるがごとく、乏しき者の訴は、水を石に投ぐるに似たり。ここをもって、貧しき民は則(すなわ)ち由(よ)る所を知らず。臣の道またここに闕(か)く。

六に曰わく、悪を懲(こ)らし善を勸(すす)むるは、古(いにし)えの良き典(のり)なり。ここをもって人の善を匿(かく)すことなく、悪を見ては必ず匡(ただ)せ。それ諂(へつら)い詐(あざむ)く者は、則(すなわ)ち国家を覆(くつ)がえす利器(りき)たり、人民を絶つ鋒劍(ほうけん)たり。また佞(かたま)しく媚(こ)ぶる者は、上(かみ)に対しては則(すなわ)ち好んで下(しも)の過(あやまち)を説き、下に逢(あ)いては則(すなわ)ち上

の失(あやまち)を誹謗(そしる)。それかくの如(ごと)きの人は、みな君に忠なく、民(たみ)に仁(じん)なし。これ大乱の本(もと)なり。

七に曰わく、人各(おのおの)任(にん)有り。掌(つかさど)ること宜(よろ)しく濫(みだ)れざるべし。それ賢哲(けんてつ)官(くわん)に任(にん)ずるときは、頌音(ほむるこえ)すなわち起(おこ)り、?者(かんじゃ)官(くわん)を有(たも)つときは、禍乱(からん)すなわち繁(しげ)し。世(よ)に生(な)れながら知(し)るもの少(すく)なし。剋(よく)念(おも)いて聖(ひじり)と作(な)る。事(こと)大(おほ)少(すく)となく、人(ひと)を得(え)て必(かなら)ず治(ち)まり、時(とき)に急(いそ)緩(ゆる)となく、賢(けん)に遇(あ)いておのずから寛(ゆたか)なり。これに因(よ)って、国家(こくわ)永(とこ)久(く)にして、社稷(しゃしよく)危(あや)うきことなし。故(ゆえ)に古(いにし)えの聖王(せいおう)は、官(くわん)のために人(ひと)を求(もと)め、人(ひと)のために官(くわん)を求(もと)めず。

八に曰わく、群卿(ぐんせい)百寮(ひやくりやく)、早(はや)く朝(あ)ま(まい)りて晏(おそ)く退(ひ)け。公事(こうじ)?(もろ)きことなし、終日(しゅうじつ)にも尽(つ)しがたし。ここをもって、遅(おそ)く朝(あ)まれば急(いそ)なるに速(おほ)くばず。早(はや)く退(ひ)けば事(こと)尽(つ)さず。

九に曰わく、信(しん)はこれ義(ぎ)の本(もと)なり。事(こと)毎(ごと)に信(しん)あれ。それ善(ぜん)悪(あく)成(せい)敗(ぱい)はかならず信(しん)にあり。群臣(ぐんしん)ともに信(しん)あるときは、何(なに)事(こと)か成(せい)らざらん、群臣(ぐんしん)信(しん)なきときは、万(ま)事(こと)ごとく敗(ぱい)れん。

十に曰わく、忿(いかり)を絶(た)ち瞋(おもて)のいかりを棄(す)て、人の違(たが)うを怒(おこ)らざれ。人(ひと)みな心(こころ)あり、心(こころ)おのおの執(と)るところあり。彼(か)是(ぜ)とすれば則(すなは)ちわれは非(ひ)とす。われ是(ぜ)とすれば則(すなは)ち彼(か)は非(ひ)とす。われ必(かなら)ず聖(せい)なるにあらざらん。彼(か)必(かなら)ず愚(ぐ)なるにあらざらん。共にこれ凡(ぼん)夫(ぷ)のみ。是(ぜ)非(ひ)の理(こと)わりなんぞよく定(さだ)むべき。相(あ)共に賢(けん)愚(ぐ)なること鑑(かた)み(み)がねの端(はし)なきがごとし。ここをもって、かの人(ひと)瞋(おもて)のいかりと雖(いえど)も、かえってわが失(あやまち)を恐(おそ)れよ。われ独(ひと)り得(え)たりと雖(いえど)も、衆(しゆ)に従(したが)いて同じく挙(おこな)え。

十一に曰わく、功(こう)過(か)を明(あ)らかに察(さ)して、賞(しょう)罰(ばつ)必(かなら)ず当(あた)てよ。このごろ、賞(しょう)は功(こう)においてせず、罰(ばつ)は罪(つみ)においてせず、事(こと)を執(と)る群卿(ぐんせい)、よろしく賞(しょう)罰(ばつ)を明(あ)らかにすべし。

十二に曰わく、国司(こくし)国造(こくぞう)、百姓(ひやくせい)に斂(おさ)め

とることなかれ。国に二君なく、民(たみ)に両主なし。率土(そつど)の兆民(ちようみん)は、王をもって主(あるじ)となす。任ずる所の官司(かんじ)はみなこれ王の臣なり。何ぞ公(おおやけ)とともに百姓に賦斂(ふれん)せんや。

十三に曰わく、もろもろの官に任ずる者同じく職掌(しょくしょう)を知れ。あるいは病(やまい)し、あるいは使(つかい)して、事を闕(か)くことあらん。しかれども、知ること得(う)るの日には、和(わ)すること曾(かつ)てより識(し)れるが如くせよ。それあずかり聞くことなしというをもって、公務を防ぐることなかれ。

十四に曰わく、群臣百寮、嫉妬(しつと)あることなかれ。われすでに人を嫉(ねた)めば、人またわれを嫉(む)。嫉妬(しつと)の患(わざらい)その極(きまわり)を知らず。ゆえに、智(ち)おのれに勝(まさ)るときは則ち悦(よろこ)ばず、才(さい)おのれに優(まさ)るときは則ち嫉妬(ねた)む。ここをもって、五百(いおとせ)にしていまし賢(けん)に遇(あ)うとも、千載(せんざい)にしていもってひとりの聖(ひじり)を待つこと難(かた)し。それ賢(けん)聖(せい)を得(え)ざれば、何(なに)をもってか国(くに)を治(し)めん。

十五に曰わく、私(わが)に背(そむ)きて公(おおやけ)に向(む)うは、これ臣(しん)の道(みち)なり。およそ人(ひと)、私(わが)あれば必ず恨(うらみ)あり、憾(うらみ)あれば必ず同(どう)とのおらず。同(どう)らざれば則ち私(わが)をもって公(おおやけ)を妨(さ)ぐ。憾(うらみ)起(お)こるときは則ち制(せい)に違(たが)い法(ほう)を害(がい)す(そこな)う。故(ゆえ)に、初(はつ)めの章(しょう)に云(い)わく、上下(じやうげ)和(わ)諧(わ)いせよ。それまたこの情(こころ)なるか。

十六に曰わく、民(たみ)を使うに時(とき)をもってするは、古(いにしえ)の良(よ)き典(のり)なり。故(ゆえ)に、冬(ふゆ)の月(つき)には間(いとま)あり、もって民(たみ)を使うべし。春(はる)より秋(あき)に至(いた)るまでは、農(のう)桑(そう)の節(とき)なり。民(たみ)を使うべからず。それ農(のう)桑(そう)らざれば何(なに)をか食(くら)わん。桑(くわ)とらざれば何(なに)をか服(き)ん。

十七に曰わく、それ事(こと)は独(ひとり)り断(さだ)むべからず。必ず衆(しゆ)とともによろしく論(あげつら)うべし。少(せう)事はこれ軽(かる)し。必ずしも衆(しゆ)とすべからず。ただ大事(だいじ)を論(あ)うに速(おそ)びては、もしは失(あやまち)あらんことを疑(うた)ぐ。故(ゆえ)に、衆(しゆ)とともに相(あ)い(わ)き(ま)うるときは、辞(ことば)すなわち理(ことわり)を得(え)ん。

現代語訳

一。和をなによりも大切なものとし、いさかいをおこさぬことを根本としましょう。人はグループをつくりたがり、悟りきった人格者は少ない。それだから、君主や父親のいうことに従わなかったり、近隣の人たちともうまくいかない。しかし上の者も下の者も協調・親睦の気持ちをもって論議するなら、おのずからものごとの道理にかない、どんなことも成就するものだ。

二。あつく三宝(仏教)を信奉しましょう。3つの宝とは仏・法理・僧侶のことである。それは生命ある者の最後のよりどころであり、すべての国の究極の規範である。どんな世の中でも、いかなる人でも、この法理をとうとばないことがあるか。人ではなはだしくわるい者は少ない。よく教えるならば正道にしたがうものだ。ただ、それには仏の教えに依拠しなければ、何によってまがった心をただせるだろうか。

三。王(天皇)の命令をうけたならば、かならず謹んでそれにしたがいなさい。君主はいわば天であり、臣下は地にあたる。天が地をおおい、地が天をのせている。かくして四季がただしくめぐりゆき、万物の気がかよう。それが逆に地が天をおおうとすれば、こうしたとのった秩序は破壊されてしまう。そういうわけで、君主がいうことに臣下はしたがえ。上の者がおこなうところ、下の者はそれにならうものだ。ゆえに王(天皇)の命令をうけたならば、かならず謹んでそれにしたがえ。謹んでしたがわなければ、やがて国家社会の和は自滅してゆくことだろう。

四。政府高官や一般官吏たちは、礼の精神を根本にもちなさい。人民をおさめる基本は、かならず礼にある。上が礼法にかなっていないときは下の秩序はみだれ、下の者が礼法にかなわなければ、かならず罪をおかす者が出てくる。それだから、群臣たちに礼法がたもたれているときは社会の秩序もみだれず、庶民たちに礼があれば国全体として自然におさまるものだ。

五。官吏たちは饗応や財物への欲望をすて、訴訟を厳正に審査しなさい。庶民の訴えは、1日に1000件もある。1日でもそうなら、年を重ねたらどうなるか。このごろの訴訟にたずさわる者たちは、賄賂(わいろ)をえることが常識となり、賄賂をみてからその申し立てを聞いている。すなわち裕福な者の訴えは石を水中になげこむようにたやすくうけいられるのに、貧乏な者の訴えは水を石になげこむようなもので容易に聞きいれてもらえない。このため貧乏な者たちはどうしたらよいかわからずにいる。そうしたことは官吏としての道にそむくことである。

六。悪をこらしめて善をすすめるのは、古くからのよいしきたりである。そこで人の善行はかくすことなく、悪行をみたらかならずただしなさい。へつらいあざむく者は、国家をくつがえす効果ある武器であり、人民をほろぼすするどい剣である。またこびへつらう者は、上にはこのんで下の者の過失をいいつけ、下にむかうと上の者の過失を誹謗するものだ。これらの人たちは君主に忠義心がなく、人民に対する仁徳ももっていない。これは国家の大きな乱れのもととなる。

七。人にはそれぞれの任務がある。それにあたっては職務内容を忠実に履行し、権限を乱用してはならない。賢明な人物が任にあるときはほめる声がおこる。よこしまな者がその任につけば、災いや戦乱が充満する。世の中には、生まれながらにすべてを知りつくしている人はまれで、よくよく心がけて聖人になっていくものだ。事柄の大小にかかわらず、適任の人を得られればかならずおさまる。時代の動きの緩急に関係なく、賢者が出れば豊かにのびやかな世の中になる。これによって国家は長く命脈をたもち、あやうくならない。だから、いにしへの聖王は官職に適した人をもとめるが、人のために官職をもうけたりはしなかった。

八。官吏たちは、早くから出仕し、夕方おそくなってから退出しなさい。公務はうかうかできないものだ。一日じゅうかけてもすべて終えてしまうことがむずかしい。したがって、おそく出仕したのでは緊急の用に間にあわないし、はやく退出したのではかならず仕事をしのこしてしまう。

九。真心は人の道の根本である。何事にも真心がなければいけない。事の善し悪しや成否は、すべて真心のあるなしにかかっている。官吏たちに真心があるならば、何事も達成できるだろう。群臣に真心がないなら、どんなこともみな失敗するだろう。

十。心の中の憤りをなくし、憤りを表情にださぬようにし、ほかの人が自分とことなつたことをしても怒ってはならない。人それぞれに考えがあり、それぞれに自分がこれだと思ふことがある。相手がこれこそといつても自分はよくないと思ふし、自分がこれこそと思つても相手はよくないとする。自分はかならず聖人で、相手がかならず愚かだというわけではない。皆ともに凡人なのだ。そもそもこれがよいとかよくないとか、だれがさだめうるのだろうか。おたがいだれも賢くもあり愚かでもある。それは耳輪には端がないようなものだ。こういうわけで、相手がいきどおつていたら、むしろ自分に間違いがあるのではないかとおそれなさい。自分ではこれだと思つても、みんなの意見にしたがつて行動しなさい。

十一。官吏たちの功績・過失をよくみて、それにみあう賞罰をかならずおこないなさい。近頃の褒賞はかならずしも功績によらず、懲罰は罪によらない。指導的な立場で政務にあたっている官吏たちは、賞罰を適正かつ明確におこなうべきである。

十二。国司・国造は勝手に人民から税をとつてはならない。国に2人の君主はなく、人民にとって2人の主人などいない。国内のすべての人民にとって、王(天皇)だけが主人である。役所の官吏は任命されて政務にあたっているのであつて、みな王の臣下である。どうして公的な徴税といつしよに、人民から私的な徴税をしてよいものか。

十三。いろいろな官職に任じられた者たちは、前任者と同じように職掌を熟知するようにしなさい。病気や出張などで職務にいない場合もあろう。しかし政務をとれるときにはなじんで、前々より熟知していたかのようにしなさい。前のことなどは自分は知らないといつて、公務を停滞させてはならない。

十四。官吏たちは、嫉妬の気持ちをもってはならない。自分がまず相手を嫉妬すれば、相手もまた自分を嫉妬する。嫉妬の憂いははてしない。それゆえに、自分より英知がすぐれている人がいるとよこばず、才能がまさっていると思えば嫉妬する。それでは500年たっても賢者にあうことはできず、1000年の間に1人の聖人の出現を期待することすら困難である。聖人・賢者といわれるすぐれた人材がなくては国をおさめることはできない。

十五。私心をすてて公務にむかうのは、臣たるものの道である。およそ人に私心があるとき、恨みの心がおきる。恨みがあれば、かならず不和が生じる。不和になれば私心で公務をとることとなり、結果としては公務の妨げをなす。恨みの心がおこってくれば、制度や法律をやぶる人も出てくる。第一条で「上の者も下の者も協調・親睦の気持ちをもって論議しなさい」といっているのは、こういう心情からである。

十六。人民を使役するにはその時期をよく考えてする、とは昔の人のよい教えである。だから冬に暇があるときに、人民を動員すればよい。春から秋までは、農耕・養蚕などに力をつくすべきときである。人民を使役してはいけない。人民が農耕をしなければ何を食べていけばよいのか。養蚕がなされなければ、何を着たらよいというのか。

十七。ものごとはひとりで判断してはいけない。かならずみんなで論議して判断しなさい。ささいなことは、かならずしもみんなで論議しなくてもよい。ただ重大な事柄を論議するときは、判断をあやまることもあるかもしれない。そのときみんなで検討すれば、道理にかなう結論がえられよう。

出典・・・金治勇 「聖徳太子の心」

第一条では、いさかいを起こさないためには、神話の時代から、話し合いによって全てを解決したことを説き、第五条では、汚職や贈収賄を禁じ、第十七条では、重要な事柄は独断専行せず、話し合いによって解決すべきであるという、日本独特の民主主義、即ち「和の心」が説かれています。

民主主義という西欧文化を連想しがちですが、日本では1500年も前から、このような素晴らしい民主主義が定着していたのです。

同年、渡来人の子孫である小野妹子を遣隋使として隋に派遣して、煬帝に従来の貢ぎ物外交から対等な立場の外交を求める国書を届けました。

聖徳太子が没した後は、蘇我蝦夷と蘇我入鹿の専横ぶりが目立ちました。推古天皇没後、蝦夷は推古天皇の遺言を元に舒明天皇を擁立しました。舒明天皇の没後は、太后である宝皇女が皇極天皇として即位しました。蝦夷・入鹿の専横は激しくなって、蘇我蝦夷が自ら国政を執り、紫の冠を私用したことで、645年の乙巳の変で、中大兄皇子・中臣鎌子らが宮中で蘇我入鹿を暗殺し、蘇我蝦夷を自殺に追いやり、半世紀も続いた蘇我氏の体制を崩しました。

新たに即位した孝徳天皇は、次々と改革を進めて、645年には、都を難波長柄豊碕に移して中央集権国家の建設を目指して、**大化の改新**が行われました。

翌646年には、改新の詔を宣して、政治体制の改革を始め、今までは一人だけだった大臣を、左大臣・右大臣・内大臣の3人に改めました。更に東国等の国司に戸籍調査や田畑の調査を命じました。661年には、朝鮮半島に新羅征討軍を送りますが、白村江の戦いで敗れます。

694年に藤原京に遷都し、701年には大宝律令が施行されて、天皇を頂点とした、貴族・官僚による中央集権支配体制が完成しました。

中央行政組織は太政官と神祇官による二官八省制が採られ、地方行政組織は、国・郡・里制が採られるようになりました。新たに租・庸・調の税制が整備され、国家財政が支えられるようになりました。

文武天皇の死後、母の元明天皇が即位。710年に、平城京へ遷都しました。

飛鳥文化は、推古朝を頂点として大和を中心に華開いた仏教文化です。百済や高句麗を通じて伝えられた支那大陸の南北朝の文化や、ギリシャやペルシアなどの遠くの影響を受け、国際性豊かな文化でもあり、多くの大寺院や仏像が建立されました、

天王寺 聖徳太子の発願により 593 年に着工しました。飛鳥寺とともに、日本最古の本格的仏教寺院の 1 つです。



飛鳥寺 崇峻天皇の 588 年に着工され、596 年に完成しました。蘇我馬子が造営の中心になった、日本で最初の本格的な寺院です。



法隆寺 聖徳太子と推古天皇により 607 年に建立されました。現存する世界最古の木造建築物で世界遺産に登録されています。創建伽藍は 670 年に焼失し、現存する西院伽藍はその後の再建です。金堂の柱は中央部分が軽く膨れていて、これはエンタシスと呼ばれて、ギリシャのパルテノン神殿の影響を受けたものではないかと言われています。



広隆寺 帰化人系の氏族である秦氏の氏寺であり、平安京遷都以前から存在している京都最古の寺院です。国宝の弥勒菩薩半跏像を蔵することで知られ、聖徳太子信仰の寺でもあります。



善光寺 皇極天皇の命により、聖徳太子妃が出家し、尊光上人を名乗り、善光寺の開山上人となりました。それ以降、皇室を出家した尼公上人によって代々継承されています。

百済大寺 舒明天皇により 639 年に建立された、最初の天皇家発願の仏教寺院です。九重の塔がそびえ立ち、高さは法隆寺の五重塔の二倍もあり、現代の 25 階ビルに相当する、当時の東アジアでも超一級の寺院でした。

飛鳥時代の代表的仏像

彫刻では、法隆寺に納められている釈迦三尊像や百済観音像が有名で、何れも国宝に指定されています。また、広隆寺の弥勒菩薩、百済観音像も、残っています。工芸品として、箱の周囲に玉虫の羽を一面に貼った玉虫厨子が有名で、これも国宝に指定されています



飛鳥寺釈迦如来像（飛鳥大仏）



釈迦三尊像



百済観音像



広隆寺弥の勒菩薩

百済から多くの王族や貴族が日本に渡ってきた影響もあって、宮廷で漢詩文が盛んとなり、大友皇子、藤原不比等らの漢詩や、天智天皇、額田王、柿本人麻呂らの和歌が作られました。

奈良時代

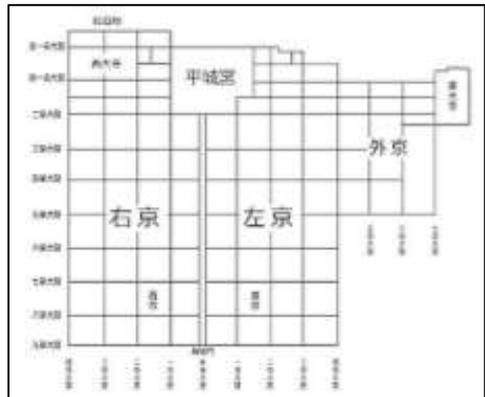
710年に、橿原の藤原京から奈良の平城京に都を移しました。

大宝律令によって、戸籍と計帳で人民を把握すると、租・庸・調と軍役を課し、皇族や貴族は、遣唐使を度々送って、遣唐使によってもたらされた周や唐の文化を積極的に取り入れました。

各地に国分寺が建てられて、仏教的な天平文化が花開きました。大宰府や国分寺などの官人や僧侶などによって、地方にも新しい文化が伝えられました。

シルクロードによって西アジアから唐へもたらされた文化が、遣唐使を通じて日本に渡来し、さらに支那風、仏教風の文化の影響が日本列島のあらゆる地域社会へ浸透していきました。日本人はその文化を消化して、日本独特の優れた文化にしたのです。

平城京の都市計画は、唐の都、長安を模したものと言われ、南北に長い長方形で、中央の朱雀大路をはさんで右京と、左京に分かれ、さらに左京の傾斜地に外京が設けられています。東西は一条から九条まで、南北軸には朱雀大路と左京一坊から四坊、右京一坊から四坊の大通りが設置された条坊制の都市計画です。



平城京街路図

平城京の造営工事はきわめて短期間のうちに遂行されました。工事着工後の1年4か月後には平城遷都が決行されましたが、このように急ピッチでの遷都が可能であったのは、寺院も含めて建物の多くが藤原京からの移築だったことによるものです。

万葉集には「あおによし 奈良の都は咲く花の 匂うがごとく 今 さかりなり」と、平城京の賑わいを詠んでいます。



和同開珎

貨幣の鑄造も早く進められました。708年2月に催鑄銭司がおかれ、同年8月には銅銭が発行されています。

和同開珎は唐の銭貨にならったものであって、新都の造宮に雇われた人びとへの支給銭など宮都造宮費用の支払いに利用されました。

政府はさらにその流通をめざして711年に一定量の銭を蓄えた者に位階を与えるとする蓄銭叙位令を発しましたが、地方では、稲や布などを物々交換する交易が広くおこなわれていま

した。

政府は、こののちも銅銭の鑄造をつづけ、10世紀の乾元大宝まで12回にわたり国家的に銭貨の鑄造がおこなわれました。

一方で、私鑄銭禁止令が出されており、役人が位階獲得を目的に私鑄銭を製造しないよう、違反者には官位剥奪や斬首の罰が加えられました。

皇位は、天武天皇と持統天皇の直系子孫によって継承され、天皇の神聖さを



天武天皇



持統天皇

保つ観点から、近親婚が繰り返されました。その結果、天武天皇と持統天皇の直系の皇子の多くは、病弱であり、相次いで早死にしました。そのような皇位継承の不安定さが、8世

紀におけるさまざまな政争を呼び起こしました。

百人一首には、「春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山」という、持統天皇の歌が納められています。

奈良時代の初めころは、中臣鎌足の息子藤原不比等が政権をにぎり、律令制度の確立に力を尽くすと共に、皇室に接近して藤原氏発展の基礎を固めました。

その後、政権を担当したのは天武天皇の孫にあたる長屋王でした。彼は右大臣に昇って権勢を誇りましたが、不況になって財政がひっ迫したため、723年に、三世一身法を施行して、土地の開墾を奨励しました。不比等の子、藤原四兄弟は長屋王を自殺に追いこんで、政権を手にし、不比等の娘光明子を光明皇后に立てることに成功しました。

藤原四兄弟が天然痘の流行で相次いで死亡すると、橘諸兄が吉備真備や僧玄昉を参画させて政権を担いました。これを不満とした藤原広嗣が、真備らを除くことを名目に、九州で挙兵しましたが、敗れました。

この反乱による中央の動揺ははなはだしく、聖武天皇は、山背、摂津、近江と転々と都を移しました。相次ぐ遷都による造営工事のせいもあって人心はさらに動揺し、そのうえ疫病や天災も続いたので、社会不安は一層高まりました。そこで、聖武天皇は社会の動揺を鎮めるために、東大寺大仏を建立し、752年に完成、女帝孝謙天皇・聖武太上天皇臨席のもと、盛大な開眼供養がおこなわれました。大仏は青銅製で完成当時は金箔が貼られて、まばゆいばかりに輝いていましたが、その後源平合戦と戦国時代に焼失して、現在の大仏は江戸時代に再建されたものです。



聖武天皇

光明皇后の信任を得た藤原仲麻呂が台頭、755年には橘諸兄から実権を奪い、757年には諸兄の子橘奈良麻呂も排除しました。仲麻呂は独裁的な権力を手中にして、傀儡淳仁天皇を擁立し、儒教を基本とした支那風の政治を推進しまし

たが、孝謙上皇の寵愛を得た僧道鏡が頭角を現して、これを倒しました。これにより、淳仁天皇は廃され、淡路に流されました。

道鏡は、765年には太政大臣、翌年には法王となって、一族や腹心の僧を高官に登用して権勢をふるい、西大寺の造立や百万塔の造立など、仏教による政権安定を図りました。称徳天皇と道鏡は、宇佐八幡宮に神託がくだったとして、道鏡を皇位継承者に擁立しようとしたが、藤原百川や和気清麻呂に阻まれ、



光仁天皇

称徳天皇の没後に失脚しました。光仁天皇を擁立した藤原永手や藤原良継らが活躍しました。光仁天皇はこれまでの天武天皇の血統ではなく、天智天皇の子孫でした。光仁天皇は、官人の人員を削減するなど財政緊縮につとめ、国司や郡司の監督を厳しくして、地方政治の粛正を図りました。

794年、強まってきた寺社勢力から脱却するため、桓武天皇が長岡の地に新たな都・長岡京を造成して山城国と改め、新京を平安京と名づけて遷都しました。この遷都をもって、奈良時代は完全に終焉を遂げ、平安時代が始まりました。

712年に完成した「古事記」は、天武天皇のとき古くから伝わる「帝紀」「旧辞」を稗田阿礼に命じて詠み習わせたものを、元明天皇が大安麻呂に筆録させたものです。720年にできた「日本書紀」は、舍人親王らが支那の史書の体裁にならない国家の正史として完成させたものです。

713年に編纂された風土記は、郷土の産物や山や川などの自然、あるいはその由来、古老の言い伝えなどを収めた地誌です。出雲国風土記がほぼ完全に伝存されているほか、常陸国、播磨国、豊後国、肥前国の風土記のそれぞれ一部が伝えられています。これは、古代の地方の様相を示す貴重な文献資料になっています。

教育機関として、中央には大学、諸国には国学がおかれ、貴族や豪族の子弟を対象に儒教の経典を中心とする教育が行われ、詩文では浜羅豊籍や石上宅嗣が知られ、「懐風藻」には7世紀以降の漢詩文が集められています。



万葉集

万葉集は759年までの歌約4500首を収録した歌集で、雄略天皇の歌が巻頭を飾っています。

舒明天皇・推古天皇以降の飛鳥時代、奈良時代の和歌が収められ、山上憶良・山部赤人・大伴家持らの著名な歌人や宮廷人の作品ばかりではなく、遊女や地方の農民の素朴な感情を表した作品も多く収められており、まさに国民的歌集と呼ぶべきものです。

その中には、女帝の持統天皇や、額田王、大伴坂上郎女を始めとして、多くの女性たちによる、胸を打つ、煌びやかな和歌が、多く集録されています。女性たちがヨーロッパにおいても、中東においても、アジアにおいても、男性にひたすら仕えて隷属していた時代に、日本では、女性たちが自立した精神をもって、いきいきと生きていたのです。

日本には言霊信仰があって、言葉に霊力があると信じられており、それを上手に使える人、即ち、和歌ができる人は平等に扱われたものと思われます。しかし、後年になると、身分の低い人は、「読み人知らず」として取り扱われるようになりました。漢字の音と訓をたくみに組み合わせて日本語を記す万葉仮名が用いられていることも大きな特徴です。和歌には外国語と思われる単語は入っておらず、「やまとことば」しか使っていません。

万葉集の巻頭を飾る雄略天皇の御製歌は次の通りです。



雄略天皇歌碑

「籠もよ み籠持ち 掘串もよ み掘串持ち この丘に 菜摘ます兒 家聞かな 名告らさね そらみつ 大和の国は おしなべて われこそ居れしきなべて われこそ座せ われこそは 告らめ 家をも名をも」

現代風に訳すと、「美しいかごを持ち、美しいへらを手に持ち、この丘で菜を摘む乙女よ。貴女はどこの家の娘ですか。何という名前ですか。この大和の

国はすべて私が治めています 私は名乗ります、家柄も名前も。」ということになります。

なおこの歌碑は、奈良県桜井市の白山神社の境内にあります。

日本の天皇には、神々に奉仕する神事を行うことと、和歌を詠むことが絶対的な条件として課されていました。歴代の天皇は多くの和歌を詠まれましたが、一つとして例外なく日本と世界の安寧と平和を祈ってきた歌ばかりです。

ここにも、日本文化の基本となっている、争いや対立を何よりも嫌い、和を重んじる心が現われています。このように歴代の皇帝や王が詩人であるのは、外国ではほとんどありえないことです。

奈良の文化財



東大寺 聖武天皇が752年に建立した東大寺は、世界最大の神式の仏閣で、高さ100メートルの二基の七重の塔の間の金堂には、これまた世界最大の奈良の大仏が鎮座しています。



大仏 この大仏は大日如来であり、太陽神を示す天照大神であり、神仏混交そのものであって、大仏信仰は神道に繋がるものです。この大仏を建立する資金は、一般の人々の寄付によるものであり、天皇の神というよりも庶民の神という発想でした。



薬師寺



興福寺

平安時代



桓武天皇

桓武天皇は新王朝の創始を強く意識し、自らの主導による諸改革を進めていきました。桓武天皇の改革は律令制の再編成を企図したものであり、その一環として平城京から長岡京を経て、974年に平安京に遷都しました。平安遷都は、前時代の旧弊を一掃し、天皇の権威を高める目的があったと考えられています。

王威の発揚のため、当時、天皇の支配外にあった東北地方の蝦夷征服に坂上田村麻呂を征夷大將軍として遠征させました。

嵯峨天皇治世初期は、太政官筆頭だった藤原園人の主導のもと、貧民救済のために有力貴族や寺社に対する抑制の政策がとられましたが、園人の後に政權を握った藤原冬嗣は、墾田開発の促進に変更しました。律令制の根幹は人別課税でしたが、これを土地課税に変更しました。冬嗣の子、藤原良房も冬嗣の路線を継承し、開墾奨励政策を取りました。当時、課税の対象だった百姓らの逃亡が頻発したので、墾田開発を促進して、土地課税に転換することで対処しようとした。

宇多天皇は小農民保護策を進めていきました。宇多天皇のもとには藤原時平と菅原道真の両者が太政官筆頭になり、協力しながら宇多天皇を補佐していましたが、醍醐天皇に譲位すると、時平と道真の対立が深まって、国風文化を推進していた道真が失脚する事態になりました。

道真は、京都を離れる時に、「東風吹かば にほひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ」と詠んでいます。

実権を握った時平は宇多路線を引継ぎ、権門抑制と小農民保護を遂行していきました。時平の死後、弟の藤原忠平が太政官首班となり、土地課税路線を推進していきました。忠平は百姓の富豪層へ土地経営と納税を請け負わせる体制

を開始し、この時期が律令国家体制から新たな国家体制、すなわち王朝国家体制へ移行する転換期だったと考えられます。

忠平以降は朝政の中心としての摂関が官職として確立し、忠平の子孫のみが摂関に就任するという摂関政治の枠組みが確定しました。平安時代150年を通



藤原道長

じて、藤原一族の娘たちは次々と天皇家に嫁いで、皇室と深い血縁関係を作りました。

1016年、藤原道長は摂政となり、「此の世をば 我が世とぞ思う 望月の 欠けたることも無しと思へば」と詠んでいます。

藤原氏は絶対的な権威を持ちながらも、自分が皇位に付こうと言う野望は持ちませんでした。それは藤原一族が神話時代から皇室に仕えるものであるという自負があったからです。道長以外の当主も、娘を天皇に差し出して、孫を天皇にすることで満足しました。この慎みと節度があったため、藤原氏は栄華を極めながら、末代ま

で続いたと考えられます。

荘園が拡大し始めたのもこの時期です。従来の租税収取体系が変質したことに伴って、有力貴族や寺社は各地に私領を作って、荘園が次第に発達していったのです。荘園を守るために、武装した農民が雇われるようになり、それが武士へと変化していきました。

武士団は離合集散を繰り返しながら、大きな集団を形成し、特に大きな武士団は、桓武天皇の血をひく平氏と清和天皇の血をひく源氏でした。

平安後期になると郡司・郷司・負名層が自ら墾田して領主となる開発領主が登場し、自領を有力貴族や寺社へ寄進することで権利を確保していきました。

天皇家と藤原家の姻戚関係に基づく摂関政治にも変化が生じてきました。外戚に藤原氏を持たない後三条天皇、白河天皇、鳥羽上皇も積極的に政治に取り

組み、退位して上皇となった後は皇室の長という立場で独自の政策を展開していきました。これが院政の開始となりました。

12世紀中期に鳥羽上皇が崩御すると、治天の君の座を巡って皇室・摂関家を巻き込む政争が起こり、保元の乱と平治の乱によって武士の政治的地位が上昇していきました。

平安文化



金剛峰寺 真言宗



比叡山延暦寺 天台宗

神道の影響を受けた、新しい文化として最澄の比叡山延暦寺に続いて、空海の金剛峰寺が創建されました。日本古来の信仰に仏教の影響を受けて、神仏混交が進んでいきました。

仏像は修行者の手になる木彫りのものが増え、ことに一木造で翻波式の衣文と、豊満で神秘的な表現形式に特色があり、神護寺薬師如来像や法華寺十一面観音像などはその代表です。また密教の教理は、図像的な表現をかりて明らかにされると考えられ、諸仏の世界を一定の方式に基づいて図化した曼荼羅が作られました。神護寺や東寺の両界曼荼羅などが有名です。



神護寺薬師如来像



法華寺十一面観音像

平仮名・片仮名の発明で日本語の表記が容易になったことによって、和歌・日記・物語文学が盛んになりました。

最初の勅撰漢詩集「凌雲集」や勅撰和歌集「古今和歌集」ができ、「竹取物語」「伊勢物語」に続いて「土佐日記」や清少納言の「枕草子」や紫式部の「源氏物語」、更に、「和泉式部日記」「紫式部日

記」、君が代の原点といわれる「和漢朗詠集」ができました。

官衣束帯や寝殿造等の和様建築が登場します。また、平安中期は、仏教の末法思想が人々に広く浸透し、浄土思想・浄土教が盛んになりました。

平安末期になると歴史物語・軍記物語などの文学が芽生えました。天台仏教・山岳仏教が日本各地へ広がりました。民衆の間に今様という歌謡が流行し、後白河上皇により今様を集成した梁塵秘抄や、鳥羽僧正の筆と言われる鳥獣人物戯画が発行されました。

宮中文化が花開き、それに関連した文学や詩歌が続々と誕生しました。イギリスで最初の女流作家、ジョン・オースチンよりも 800 年も前に、日本における女性文学が花開きました。

摂関政治の時代に、外威の地位を臨んだ貴族は自分の娘を後宮にいれて皇子を産ませようとしていました。その際、多くの有能な女房をつけたので、宮廷で華

やかなサロンが形成され、そこに多くの文学作品が生まれることになりました。一条天皇には、藤原道隆の娘の皇后定子と、道長の娘の中宮彰子がおり、後宮においても、この両者は対立関係にありました。清少納言は定子に、紫式部は彰子につかえた女房で、共に下級貴族の家に生まれましたが、豊かな学識と文才に恵まれていました。清少納言は15歳前後で結婚し、離婚した後に再婚をしました。枕草子は女性が書いた世界最初のエッセイですが、男性をやり込める場面がしばしば出てきます。日本は女性が強い国なのです。

清少納言は日本や支那の古典の知識をもとに才気あふれるやりとりを積極的にくりひろげ、才女の評判が高く、その際の自慢話なども織り込んだ随筆「枕草子」には、女性らしい鋭い観察力が見受けられます。定子の死によって宮廷を去り、その後の終息は明らかではありません。

紫式部は、26歳の時に19歳年上の藤原宣孝と結婚して、娘一人をもうけましたが、2年後に宣孝は亡くなってしまいます。紫式部はその文才を藤原道長に認められたますが、むしろひかえめな人柄で、漢文の素養のあることを他人から気づかれないようにしたほどであったと言われます。人類史上、初めて女性が書いた小説となった「源氏物語」を書きました。平安時代の貴族生活にお



紫式部



清少納言

ける、男女の細やかな心の働きを描いていますが、男たちが女性の心をとらえようと、努めています。女性が男性の上に立っている、世界最古の恋愛小説で



源氏物語

あり、主人公「光源氏」称えるかたわら、叩くところは叩いており、人間性がリアルに表現されています。宮中における洗練された華やかな生活や、自由奔放に生きる男女の姿が生き生きと描かれています。その高度に洗練された点からいっても、文学史上の金字塔と言えます。

彰子の宮廷サロンが勢力をえるにつれて、この二人の女性の間にもはげしい感情の対立が生まれたように思われます。

平安朝で最大の歌人は、「和泉式部日記」を書いたのは和泉式部です。日本文学史上最高の詩人であり、恋心や、孤独や、哀愁を歌って、右に出る者はいません。20歳で結婚しましたが、多情で、同時に多くの恋人を持っていたために、浮かれ女といって、非難されていました。

「源氏物語」に触発された菅原孝標女は、日記文学の白眉である「更級日記」を著しました。「更級日記」には、13歳から40歳までの日記が認められており、当時の日記文学は日本特有のものであり、ヨーロッパで、女性が小説を書くのは、18世紀まで待たなければなりません。

「土佐日記」は、男性の紀貫之が書きました。「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり」という文章で始まっており、女性を装って、平仮名で綴ったものです。

紫式部、清少納言、和泉式部以外にも、数多くの女性作家が登場して、筆を競い合っていました、女性が男に隷属しているのであれば、文筆を振るうなど、想像すらできないことです。

「源氏物語」を読むと、さまざまな色の和紙が登場します。紫系統が最も多く、「紫のにばめる紙」「自の薄様の紙」「青鈍」「浅緑」「胡桃色の紙」「空色の曇はしき」「赤き色紙」「紅の紙」「紅き薄様」を始めとして、数多くの色の紙の名が出てきます。鈍色は濃い鼠色のことです。

原料に染料を加えて漉いたのですから、「源氏物語」の全巻を通じて、登場してくる色の名を挙げていったら、きりはありません。平安時代には男女が、美しい紙を使って、文を遣り取りしていました。文には香を選んで焚き始めて、花を「折り枝」として添えて、相手に贈りました。「自の薄様」「紅き薄様」を挙げましたが、「薄様」は一枚の紙ではなく、重ねて使われました。それにしても、日本の先人たちの色彩感覚が豊かだったことには、心を揺さぶられずにはおられません。

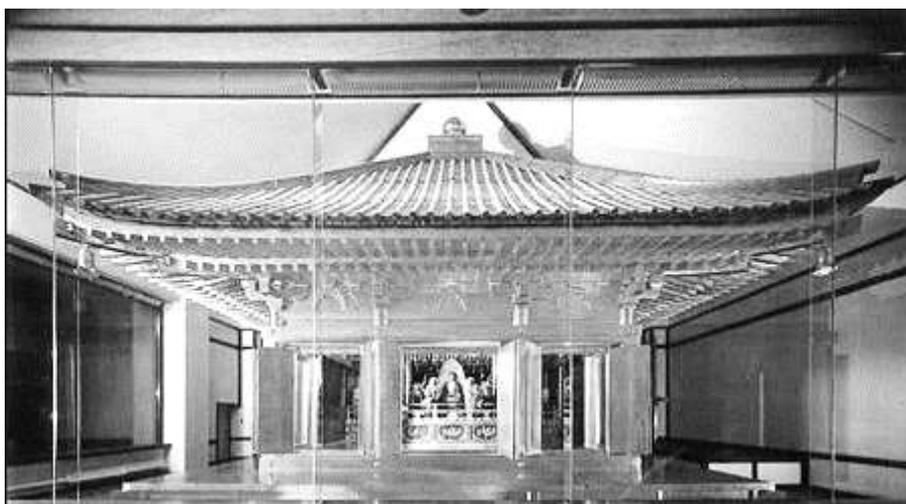
親日的な学者、ドナルド・キーンは、平安時代を世界史上最高の文明と絶賛しています。

仏教と在来の神祇信仰との調和をめざす神仏習合の動きは、すでに奈良時代にはじまりますが、平安時代には、神々を特定の仏と結びつけて、神の本来の姿は仏であるとする本地垂辺説が生まれました。一方、南都仏教や天台宗・真言宗などの有力寺院の荘園が増えていくと、荘園領主の鎮守神を祭って荘民の



宇治平等院鳳凰堂

心のよりどころとするものが多くなってきました。また、今までの山岳信仰が仏教や道教と結びついて、修験道という特異な信仰が生まれました。相次ぐ戦乱や災害に律令政府が無力であるという現実、仏法の衰えを感じさせ、末法思想を生み出しました。これとあいまって、この世でなく死後の世界に浄土を求め、弥陀仏にすがって極楽浄土に往生することを理想とする浄土教が広まりました。浄土教のひろまりは、美術のうえにも強い影響をおよぼし、宇治平等



中尊寺金色堂

院鳳凰堂は、極楽の蓮池をかたどった池に面して左右に回廊をのびした優美な御堂です。

奥州藤原氏の中尊寺金色堂も、この時代の建造物です。

鎌倉時代

源平盛衰

清和天皇の末裔に当たる八幡太郎義家が、朝廷の名を受けて、陸奥国の豪族安倍氏を攻め滅ぼしたのが前九年の役で、河内源氏の名を高めて、源氏の基盤を固めました。

それからおよそ10年後に、後三年の役と呼ばれる戦いが起こりました。最終的に源義家と清原清衡の連合軍が、清原家衡を滅ぼして、清衡は父方の姓である藤原姓を名乗り、藤原清衡として奥州藤原氏の祖となりました。

天皇家の皇位継承を巡る争いが、保元、平治の乱です。崇徳上皇と後白河天皇との間で起こったのが保元の乱であり、崇徳上皇と後白河上皇・二条天皇を中心にした争いが平治の乱です。

この争いは、源義朝と平清盛との戦いに発展して、義朝は敗れて、平家隆盛の時代となりました。頼朝は伊豆に流されましたが、そこで北条政子を娶り、その実家である北条氏の庇護を受けることになりました。

平治の乱に勝利を収めた平清盛は大政大臣になり、自分の娘徳子を高倉天皇



平清盛

の后にして、この二人の間に安徳天皇が生まれました。清盛は武家として政治の実権を握りながら、天皇家と縁戚関係を結んで平氏は公家化していきました。清盛の継室である時子の弟、平時忠は「平家に非ざれば人に非ず」と語ったと言われるほどの栄華を謳歌しました。

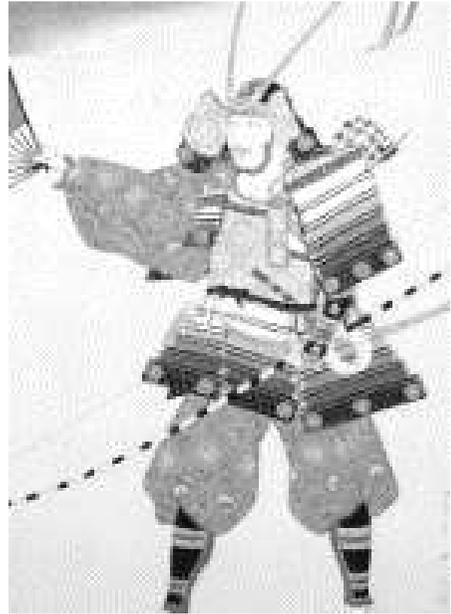
1180年、清盛は孫の安徳天皇を奉じて、突然、福原京への遷都を強行しました。

神戸には、奈良時代に行基が作った大輪田泊という停泊地がありました。

ここを整備して宋との貿易を始めたのですが、公家はもちろん平氏一門にも歓迎されなかったため、半年足らずで再び都を 京都に戻した直後、清盛は熱病



源頼朝



源義経

で急死し、やがて平家は滅亡への道を歩みます。

源頼朝は源氏の棟梁としての資質によって関東の豪族たちに挙兵を呼びかけて、20万とも言われる大軍を率いて鎌倉を出発し、駿河の黄瀬川で弟の義経と合流しました。清盛は、福原を出発して、進軍の途中で兵を募り、駿河国に着いたときにはおよそ5万の軍勢となっていました。そこで、かの有名な富士川の合戦になるわけですが、夜中に聞いた水鳥の羽音を、源氏の軍の大軍の総攻撃だと思い込んだ清盛の軍勢は、あわてふためいて武器も食料も放り出したまま、われ先に逃げてしまいました。源氏は戦わずして平家に勝ったのです。

俱利伽羅峠の戦いに勝利を収めた木曾義仲は京都に入りましたが、乱暴狼藉を働いたため、源義経によって成敗されます。



ひよどり越えの戦い

から従五位、判官を与えられました。

自分を脅かす存在と考えた頼朝は、鎌倉入り許さなかったため、義経は藤原秀衡をたよって奥州に逃げました。ちなみに歌舞伎などで有名な勧進帳は、この逃亡中の出来事です。

秀衡の死後、泰衡は

秀衡の命に背いて義経の首を頼朝に差し出しますが、結局、藤原一族は頼朝によって攻め滅ぼされます。全身に矢を受けながら立ち向かう、武蔵坊弁慶の立ち往生は、この戦いのエピソードです。

義経は、都落ちした平家を追討して、一の谷の合戦に挑みます。海に迫った急峻を馬で駆け下る戦法に平家の軍は総崩れになります。屋島における扇の的のエピソードを挟んで、壇ノ浦の戦いで、幼い安徳天皇の入水によって、平家は滅亡します。この時に、三種の神器のひとつ、草薙剣が紛失したとされています。

数々の武勲を立てた義経は、後白河法皇



壇ノ浦の戦い

鎌倉幕府

頼朝は、朝廷から、全国の行政・警察・軍事を司る総追捕使の位をもらって

1192年に征夷大將軍となって鎌倉幕府を開きました。

2代將軍・頼家は母・政子の実家北條氏に殺害され、3代將軍・実朝を始め実家、傍系の男子は全員殺害されて、鎌倉幕府の源氏政権は、北條政権に奪われてしまいました。

1221年、北條政権に対して不信感を抱いた後鳥羽上皇が、倒幕に失敗した承久の乱によって、その後の皇位継承は、執権・北條氏の意のままに管理されるようになりました。

1232年、北條泰時は武士の規範となる51ヶ条からなる御成敗式目を制定しました。皇室の律令と共に、この式目は武士に適用される法律として明治維新まで使われました。

元寇・文永の役・弘安の役

ジンギスカンの孫・フビライは、高麗を通じて、日本に国書を送ってきました。内容が脅迫的であったため、北条時宗は、使者を追い返しました。

1274年、フビライは日本を攻撃するために、壱岐・対馬を陥した後、4万人の兵を博多湾から上陸させ、5000人の日本軍はこれに対峙しました。集団で襲い掛かる元軍の攻撃に耐えかねて、退却し始めた時、たまたま射た矢が、敵の司令官に当たりました。司令官を失った元軍は、統制を失って船に引き返しま



した。そして、その夜、たまたま台風が襲来して多くの船が沈み、元軍は撤退しました。

時宗は元軍の再襲来に備えて、全国の武士を総動員して、博多に石垣のよる防塁を作りました。

1281年、フビライは10

万人の大軍を率いて、博多を攻撃しました。堅固な防塁と敵船に切り込む日本の武士の反撃を受けて、戦いは2ヶ月に及びました。元軍が優位になり始めた夜、再び台風が襲来して、海上の元軍の船は全滅しました。生きて帰国できたのは二割にも満たなかったと言われています。これが神風の真相です。

夏から秋にかけて2ヶ月以上も博多湾にいれば、1回位は台風襲われるのは今も同じですが、当時では、全国の社寺に国難打開の祈禱をしたおかげで、神風が吹いたと信じたのでしょう。

たまたま吹いた台風によって、日本が難を免れたと考える人も多いようですが、文永の役は敵の司令官を射殺したことによる勝利であり、弘安の役は強力な防塁を構築し、毎晩のように切り込み隊による攻撃をかけて、戦局を長引かせたことが勝因に繋がったのです。

建武の中興

皇位継承を巡って、天皇家内に争いが起こったので、北條幕府は持明院統と
大覚寺統を10年交代で交互に皇位につけることにしました。大覚寺統の尊治親王は朱子学を学び、日本の正統である天皇の皇位継承を幕府が決めるのは不遜であると考えました。

1318年、尊治親王は後醍醐天皇として即位しました。自分の子供を皇太子にしようとしたところ、北條高時は持明院統の量仁親王を皇太子にしました。

後醍醐天皇は、正統を守って皇位継承をするために、これに介入する幕府を倒す計画を立てて、これが発覚しますが、何とかとがめを受けることは避けました。しかし、再び立てた討幕の計画が幕府側に洩れたので、天皇は三種の神器を持って、山城の笠置山で兵を挙げました。

河内の武将、楠木正成が後醍醐天皇に味方して、赤坂城で挙兵しました。後醍醐天皇は笠置で籠城して戦いますが、楠木正成が立てこもる赤坂城に向かう途中で幕府軍に捕まって、隠岐に流されました。一方、赤坂城では楠木正成が

さまざまな戦略で幕府軍と戦い、城に火を放って、死んだと見せかけて、突然、赤坂城に舞い戻って、これを占領してしまいました。

一方、赤坂城では楠木正成がさまざまな戦略で幕府軍と戦い、城に火を放って、死んだと見せかけて、突然、赤坂城に舞い戻って、これを占領してしまいました。



千早城址

さらに正成は勢力を拡大して、金剛山に千早城を築いて本拠とし、徹底抗戦を始めました。

驚いた幕府は動員令を下して大軍を送り込み、赤坂城も吉野城も陥落して、護良親王は高野山に逃れました。

しかし、幕府軍が総力をあげて攻めかかっているのに、最後の拠点である千早

城だけはどうしても落ちません。

そのうちに、幕府に不満を持っていた武士が蜂起し、幕府軍にいた新田義貞も足利尊氏も北条幕府を見限って討幕軍に加わりました。さらに播磨の赤松円心も挙兵して、討幕軍として京都に攻め入りました。隠岐島を抜け出した後醍醐天皇は、伯耆国の名和長年に迎えられ、船上山で兵を挙げました。楠木正成一人の抵抗をきっかけに天下の大勢は一変して、あっという間に形勢は大逆転したのです。

足利高氏が京都の六波羅を落とし、新田義貞が鎌倉を落とし、九州の鎮西探題が落ち、僅か20日足らずの間に関東から九州まで幕府の拠点が全て陥落して、鎌倉幕府はあっという間に滅亡してしまったのです。

源頼朝が幕府を開いてから140年ぶりに政権は朝廷にもどり、後醍醐天皇による親政、すなわち建武の中興がなされたのです。後醍醐天皇は、武士に任せるとはならず、あくまで天子自らが武を握るという姿勢を示しました。

建武の中興の理念そのものが、源平の争乱以来、武家の手に渡っていた政權を朝廷が取り返し、平安時代のような王朝に戻すことでした。朱子学では武家などは、見下すべき存在だったので、恩賞が恣意的な配分となり、この建武の中興で活躍した武士たちは必ずしも報われませんでした。

赤松円心は、すぐに天皇親政をやめ、武家政治に戻すべしと主張しました。

足利尊氏は、征夷大將軍として実権を握り、北条時行を討つため鎌倉へ兵を出しました。在京の武士の半数以上が尊氏に従ったのは、武家政治の復活を願う武士が天下に満ちていることを示すものです。朝廷は尊氏に従二位を授けて労をねぎらい、京に兵を戻すよう促しましたが、尊氏はそれに従わず、鎌倉で勝手に論功行賞を始めました。この機会に新田義貞の基盤を奪うつもりで、新田の領地をことごとく部下たちに与えました。義貞と尊氏の対立は決定的なものになり全面戦争となりました。しばし一進一退の戦でしたが、結果的に義貞が勝って、左近衛中将に任ぜられました。

一計を考えた尊氏は、赤松円心の助言に従って、不遇をかこっていた光厳上皇から、自分が官軍であることを示す院宣をもらって、大軍を率いて京都に入りました。

後醍醐天皇は楠木正成に義貞の援軍を依頼しましたが、正成が考えた作戦は採用されません

でした。勝ち目のない戦である湊川の戦場に行く前に、桜井の宿場で、嫡子正行に天皇から賜った菊水の紋の入った短刀を渡した、「菊水の別れ」は、「大楠公



大楠公 菊水の別れ

の歌」と共に、日本人の心に染み付いた史実です。

「七生報国」は神風特攻隊の合言葉になったことから、大楠公の史実そのものが、占領政策によって消し去られました。正成と共に自害した弟・正季の「七度生まれ変わって、朝敵を打たん」という「七生報国」という言葉は、日本人の根底に今も流れる心情です。

後醍醐天皇は花山院に幽閉されますが、吉野に逃れてそこに南朝を開き、南北朝という形で正統の明快さを曇らせることとなります。北朝と南朝の間を多くの武士が出入りしましたが、千早城陥落によって南朝は弱体化し、頼みは楠木一族のみになりました。

義満が出した南北朝統一の条件は、南朝の持っている三種の神器を北朝に返還すること、皇位には北朝と南朝が交互につくこと、領地もほぼ北条時代にもどすことなどでした。しかしその約束は果たされず、南朝系は絶えて、南北朝時代は終わりました。

鎌倉の文化



西行法師

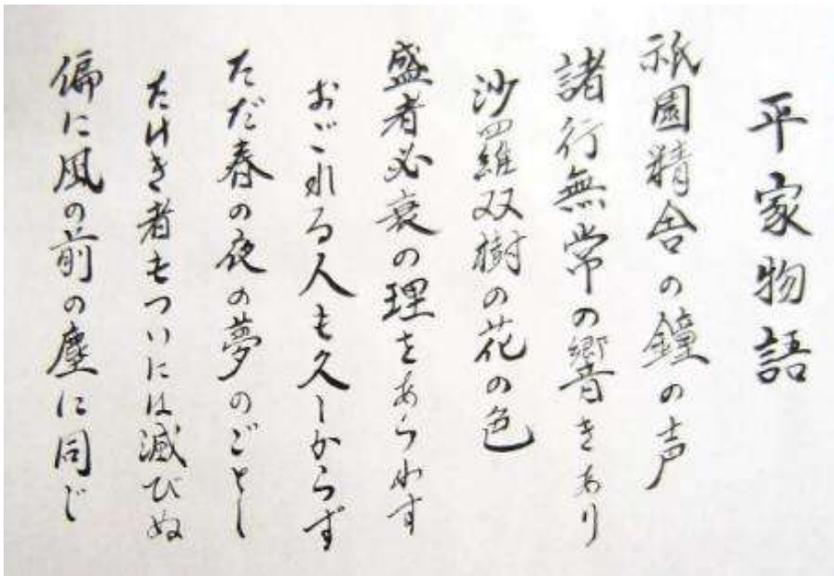
西国では源平のソ乱後、荘園や都市の復興の兆しがみられ、伝統的な公家文化にも新たな息吹が生まれました。その代表は後鳥羽上皇が苦心して編集した**新古今和歌集**です。この歌集には、西行・鴨長明・藤原定家らの歌が収められています。西行は**山家集**、鴨長明は**方丈記**を書きました。

「行く川のながれは絶えずして しかも本の水にあらず よどみに浮ぶうたかたは かつ消えかつ結びて久しくとゞまりたるためしなし 世の中にある人とすみかと またかくの如し」

吉田兼好の徒然草も有名な作品です。

「つれづれなるままに 日ぐらしすずりに むかひて ころにうつりゆく
よしなしごとを そこはかたなく書きつくれば あやしうこそものぐるほしけれ」

將軍皆源実朝は**金櫃和歌集**を残しています。**平家物語**、**源平盛衰記**などの武士を主人公とした軍記物語の傑作が生み出され、これらの物語は琵琶法師によって日本国中に語り広められました。幕府の成立と発展の歴史を書いた**吾妻鏡**が現わされ、北条氏一族の金沢氏が和漢の書物を集めた金沢文庫が建てられま



した。藤原定家による百人一首が書かれ、北畠親房が**神皇正統記**を記し、**軍記物語・太平記**が書かれました。

日蓮によって法華宗が開祖しました。

源平の争乱により 焼失した奈良の諸寺院は、勸進上人重源のなみなみならぬ努力で復興しました。

東大寺の大仏の修理、大仏殿、南大門の再建は容易なことではありませんでしたが、南都仏師の運慶・湛慶父子や快慶らの協力も得て、この事業をなすと



金剛力士像

げました。東大寺南大門の運慶・快慶合作の金剛力士像にはこの復興の力がみなぎっています。

絵画の面でも 写実的な要素は強くなり、絵巻物では一遍の生きた社会をみごとに再現した「一遍上人絵伝」、武士の生活や合戦を豊かにえがいた「男余三郎絵巻」や「蒙古襲来絵巻」などが作られました。

工芸では、武具の政策が活発となり、刀剣の長船長光、栗田口吉光、岡崎政



長船長光の名刀

宗などの名刀が生まれました。陶器では尾張の瀬戸焼を始め、各地でその生産が活発になりました。

室町時代



足利義満

1379年、3代将軍足利義満は南北朝を統一して、京都北小路室町に花の御所・鹿苑寺金閣を造営したことから、室町幕府と呼ばれるようになりました。

室町幕府においては公家と幕府の差は曖昧になりました。義満自身が征夷大将軍という武家の位に甘んじることなく、宮廷での出世を望んだからです。武家の棟梁であると同時に公家の支配者にもなろうと考えました。

後小松天皇の生母が重い病気にかかり、命があやぶまれた時に、自分の妻を天皇の母、つまり国母に任命しました。義満自身は天皇の母の夫、即ち太上天皇になるという計画でした。後小松天皇の後に息子の義嗣を天皇に即位させようとして元服させた当日、義満は病で倒れ、まもなく帰らぬ人になりました。武士が皇室を乗っ取る計画は実現しませんでした。



金閣寺

王位を狙った平清盛が熱病で死に、自分の子供を皇位につけようとした義満が急死したことから、後世の人は「天佑神助」と語っています。

南北朝が統一されてようやく幕府に権力が集中し、6代将軍足利義教の時には完全に諸大名を制し、足利幕府は絶対的な権威を持つようになりましたが、義教が重臣赤松満祐によって暗殺された後は、幕府の基盤がゆらぎはじめま



足利義政

した。8代将軍義政には家督相続をめぐる内紛が起こり、更に山名家と細川家の争いは大名にも広がって、ついに全国の武士が細川の東軍と山名の西軍に別れて争う、「応仁の乱」に発展していきました。

8代将軍足利義政は、1458年、祖父義満が造営した室町第の花の御所の復旧工事をはじめ、美しい盆山を築き、立派な大庭園を造り上げて、翌年ここに移り住みました。当時、諸国に飢饉が起こり、悪疫の流行も加わって賀茂川を死体が埋め尽くすほどでしたが、義政は造園に夢中でした。当時は插花といった華道も好み、造園、盆景、插花など、日本人の自然趣味の原型が、義政のもとで全国に広まっていきました。義政の贅沢の極みが、1465年に行われた華頂山の花見であり、公家や武家を引き連れ、黄金の箸を配るなど、華美を極めた衣服調度の中で、花見をしながら連歌会を催しました。

この豪華な花見の2年後に、応仁の乱が起こりましたが、政治に関心を持たず、また武力もない義政は、外の戦争を横眼で見ながら、詩歌の会と宴会に興じていました。



応仁の乱

義尚に將軍職を譲った義政は、東山の月待山山麓に隠居所の造営を始めました。幕府の勢力が衰えていたため費用の捻出に苦労しながら、ようやく東山山荘・慈照寺銀閣を完成させました。東山殿に11の楼閣を建てたますが、現在残っているのは銀閣だけです。



銀閣寺

義政は美的感覚が抜群で、高く評価される唐や宋の名画や水墨画を集めました。彼が集めた茶碗は、大名物と呼ばれ、信長や秀古の時代には特別重要な茶器として尊ばれました。自ら茶をたて、四畳半の茶



茶の湯

室の始まりとされる書院「同仁齋」を東山殿東求堂の中に作りました。日本の「茶の湯」は鎌倉時代の禅宗の僧侶たちによって精神修養的な意味で広まりましたが、この文化の発祥は義政の時代に遡るのです。

義満が建てた金閣寺のきらびやかさと美しさは、万人に理解できますが、私たち日本人にとっては、

渋さ、趣味のよさ、高尚な美から、むしろ銀閣寺の方が好ましいと感じられるようです。



観阿弥

日本人は義政によって、新しい感受性を発掘され、幽玄の美というものを理解できるようになったのではないのでしょうか。

上杉憲実が足利学校を設立し、最後の勅撰和歌集・新続古今和歌集が出版されました。

観阿弥、世阿弥によって能が盛んになり、狂言や連歌が生まれました。能は神秘的で真面目な内容であるの

に対して、狂言は滑稽で笑いを取るような親しみやすい庶民的なものです。

更に、浦島太郎や一寸法師のような御伽草子が流行りましたし、雪舟に代表される禅の影響を受けた水墨画が盛んになりました。



世阿弥

室町時代になると、農村の発達や生産物の多様化によって市日の回数が増え、月 6 回の六斎市となりました。市場相互のつながりもできて、巡回の行商人も増えました。都市では店棚をかまえた常設の小売店が増加し、京都・奈良の近郊には特定商品だけをあつかう、座と呼ばれる専門の市場も生まれました。座の間では、特定の商品を独占販売する、いわゆる談合が行われました。

小売店に商品を供給する問屋もあられ、商品運送のために馬借や車借などの運送業者が増え、港湾を結ぶ廻船の往来も盛んとなりました。

農業では、栽培技術や灌漑技術の発達によって、先進地域では稲の収穫が大幅に増えました。水稻の品種改良も進んで早稲・中稲・晩稲の作付も普及して、

二毛作は関東地方にも普及し、桑・こうぞ・漆など手工業原料の栽培も盛んになりました。

食生活も2食から3食へと変わり、禅宗寺院で作られていたうどんや豆腐が一般に広まって、野菜料理も発達して、普及するようになりました。

茶の栽培も広がり、茶商人が路上で売る茶を買って飲む習慣も付きました。こうした食生活の変化と多様化に伴って市は賑わい、野菜づくりや茶の栽培が京都・奈良の近郊で発達し、海辺や湖辺の村々では、漁業や製塩業が栄えました。

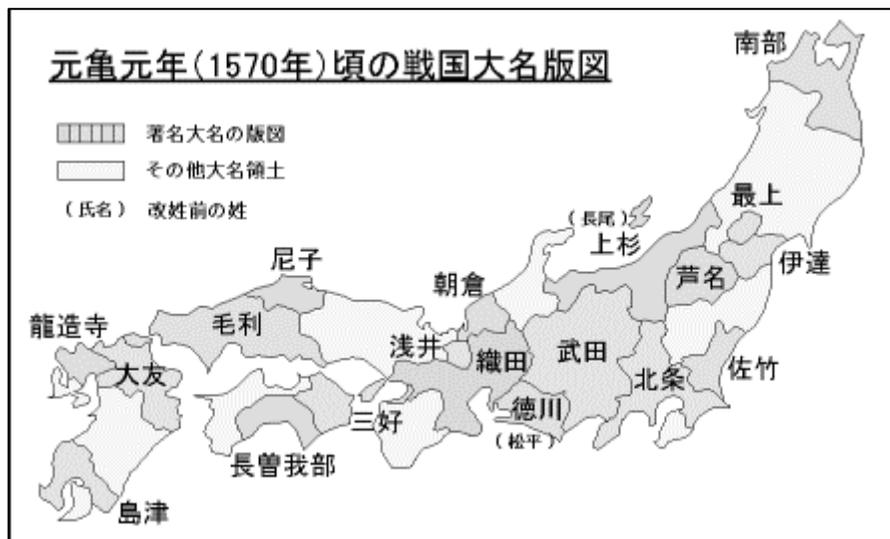
手工業者は独立して注文生産や市場目当ての商品生産を行うようになり、鍬・鎌・鋤などの農具や、鍋・釜などの日用品のほか、刀剣が多く生産されて販売されるようになりました。

戦国時代・安土桃山時代

戦国大名

応仁の乱によって、勢力を失った幕府に代わって、それぞれの地方で大名たちが勢力を競う、戦国時代が到来しました。将軍の権威が衰えただけでなく、「下剋上」と呼ばれる現象が起きて、身分の低い者が実力で上の者を倒す風潮が生まれ、守護大名の実権を家臣が奪ったり、小田原の北条早雲、美濃の斎藤道三に代表される新しい戦国大名が日本中に生まれました。各地で家督相続をめぐる争いは収まらず、将軍の後継者問題を巻き込んで混乱が続きました。

これは、明治維新までの長きにわたる、地方分権の始まりでもあり、武田信玄や上杉謙信らの時代を経て、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の天下統一までの相次ぐ戦いに至りました。



戦国時代における諸大名の動向は次の通りです。

奥羽地方は関東の騒乱にほとんど巻き込まれることなく、当然中央の政争の影響もほとんど見られません。15世紀前半から南部氏が仙北・鹿角に出兵、伊

達氏の河北地方へ侵攻して、領地争いが続きました。1542年には伊達植宗父子が家督の位置付けを巡って争いを起こして、天文の乱へ発展しましたが、その結果、伊達晴宗は他の奥羽諸大名に先駆けて戦国大名としての体制を確立することに成功しました。

関東では享徳の乱・長享の乱・永正の乱が立て続けに起こって、古河公方と関東管領山内上杉家・扇谷上杉家が覇権を争いました。

北条早雲は、足利政知の死去に伴う内乱に乗じて、伊豆を平定しました。北条氏と上杉氏が関東の覇権を巡って戦いました。この上杉氏・北条氏の争いは全関東の諸豪族を二分して、各地で戦いを引き起こしました。1579年、上杉謙信が死ぬと、北条氏の勢力拡大を抑える者はいなくなりました。

1582年の甲州征伐で織田氏、徳川氏、北条氏が武田氏の領地に侵攻しましたが、本能寺の変の後に北条氏は、織田氏との同盟を破棄して甲斐・信濃へ侵攻、さらに旧武田領を巡って天正壬午の乱が発生し、甲斐・南信濃を徳川氏、北信濃を上杉氏、上野を北条氏、沼田を真田氏が治めることで和睦しました。

1590年、北条氏の家臣による真田領への侵攻を巡って、豊臣氏を中心とする21万人の連合軍によって小田原城が陥落して、北条氏は滅亡して、豊臣秀吉による全国統一が完成しました。

北関東でも享徳の乱・長享の乱・永正の乱の影響を受けて、下野宇都宮氏、佐竹氏、結城氏が覇権を争いました。

1506年に永正の乱に誘発され古河公方家の内紛が勃発しました。足利政氏と嫡子高基の対立であり、政氏には小山成長、佐竹義舜、那須資房などが支持し、高基には宇都宮成綱、結城政朝、那須資親、小田成治・政治父子といった宇都宮成綱の勢力が中心となって支持しました。内紛は関東南部や奥州にも影響を与えて、岩城由隆、白河顕頼が政氏を支持し、伊達植宗、北条早雲・氏綱父子、下総の千葉勝胤・昌胤父子は高基を支持して、北関東は混沌としており各地で戦闘が勃発しました。戦国時代後期には北条氏が北関東へ進出。佐竹氏、宇都宮氏、小山氏らは上杉謙信を盟主とし敵対し、結城氏、那須氏、小田氏、壬生氏などが北条氏側に付き、各地で戦闘が起きました。

1579年、上杉謙信が没すると、関東諸将は頭角を現した佐竹義重を盟主にして北条氏直の侵攻に抵抗しましたが、結果的に北条氏の軍門に下ることになりました。豊臣秀吉による小田原征伐が行われると佐竹義重、結城晴朝、宇都宮国綱などはそれに従いましたが、小山氏、小田氏、壬生氏、大掾氏などといった勢力は姿を消しました。その一方で大関高増、大田原晴清、岡本正親、水谷政村、那須資晴などは豊臣大名として残ることができました



上杉謙信

甲斐国では武田氏が上杉禅秀の乱に荷担して没落していたため、戦国時代に至るまで国内では抗争状態に陥っていました。

一方、信濃国では、小笠原氏、村上氏、高

梨氏、海野氏、仁科氏、諏訪氏、木曾氏などの群雄が割拠していました。やが



武田信玄

て、武田信虎が甲斐一国を統一し、甲府を本拠地と定めて信濃侵攻を開始しますが、嫡男の信玄や重臣らによる謀反で駿河国へ追放されます。

武田信玄は信濃侵攻を本格化し、小笠原氏、村上氏らは駆逐されて、信濃は武田領国化されました。信玄は越後の上杉氏と10年余に亘って、川中島の戦いを繰り広げました。

その後、武田氏は桶狭間の戦い後に弱体化した今川氏領国へ侵攻し、更に、尾張の織田氏・三河の徳川氏とも対峙します。信玄は三河に侵

攻しましたが、野田城攻略中に急死しました。

1575年、武田勝頼軍と織田信長・徳川家康連合軍の間で起こった長篠の戦いで大敗を喫した武田氏は、木曾義昌への征伐軍を送ったものの敗退、徳川家康、北条氏政からも攻撃を受けて、十分な迎撃も出来ずに敗退し、武田勝頼・武田

信勝父子は天目山で自害し武田氏は滅亡しました。**越後**では、上杉氏から実権を奪った長尾氏が台頭。その長尾氏から誕生した上杉謙信は、1576年までに北陸地方をほぼ制圧しました。

越中では越後の上杉氏、畠山氏の連合軍によって支配されました。

能登は畠山氏が支配していましたが、1576年に、越後の上杉氏の軍門に降り滅亡しました。

越前では朝倉氏が一乗谷に京の貴族を迎えるなど栄華を極めていました。しかし、1573年に織田信長の侵攻を受け、浅井長政の援軍を受けて戦いましたが敗れて、朝倉義景は自害して滅亡しました。

加賀では加賀一向一揆が本願寺王国を作って、100年間守り抜きましたが、織田信長の家臣の柴田勝家に敗れました。

美濃国では斎藤道三が主君を追放して手中に収めました。その後、織田信秀や土岐頼芸、朝倉孝景が美濃へ侵攻しましたが、籠城戦から急襲に切り替えて、織田軍に大打撃を与えるなどして持ち堪えました。後に斎藤道三は織田信秀の嫡男織田信長へ娘を嫁がせ織田氏と和睦しました。1556年に長良川の戦いで道三は義龍に討たれました。信長は5年の歳月をかけて美濃を攻略し、稲葉山城を上洛に向けた新たな拠点にしました。

尾張国は朝倉氏の離反で越前を失った斯波氏の本拠となっていました。斯波氏は京都での政争にも敗れ、織田氏の権力抗争に巻き込まれて切腹して断絶し、それ以後織田氏が尾張を治めました。織田信長は桶狭間の戦いに勝利した後、今川氏から独立して松平氏の旧領の三河を回復した徳川家康と結ぶことで美濃攻略に専念しました。5年の歳月をかけて美濃国を斎藤龍興から奪うと、稲葉山城を岐阜城と改名し新たな本拠として天下の運営に乗り出しました。

駿河国では今川氏親が斯波氏から遠江の支配権を奪い、その子の今川義元の代には松平氏の三河も支配下に治め、1554年には甲斐国の武田氏や関東の北条氏と三国同盟を結んで、尾張の一部へも勢力を伸ばしていました。しかし1560年、桶狭間の戦いにおいて義元が戦死して、氏真が跡を継いだものの弱体化し、後に徳川氏、武田氏の駿河侵攻を受けて滅亡しました。

三河国では、松平清康が、1535年の守山崩れによって家臣に殺されると、駿河の今川氏からの後援無しに家命を保てないほど弱体化してしまいました。松平氏の人質として幼少期に今川氏へ渡った松平元康は、元服後は今川氏の先鋒武将として桶狭間の戦いに参加しましたが、その後、今川領国の動揺に乗じて三河を平定して、徳川家康と改名して、織田氏と同盟を結びました、甲斐の武田氏と密約を結んで、今川氏を滅ぼしました。その後、三方ヶ原の戦いでは徳川・織田両軍は大敗を喫しましたが、信玄の死で命拾いをしました。

1575年には、長篠の戦いで織田・徳川連合軍が鉄砲の力を利用して武田軍を破ると、1582年の甲州征伐への参戦協力の功により、徳川氏は信長から武田領の遠江、駿河を得ました。しかも同年、本能寺の変で織田信長が死ぬと織田領である甲信に侵攻し、勢力下に治めました。

1590年、豊臣秀吉により天下が定まると、秀吉より関東への移封を命ぜられたため徳川家康は武蔵国の江戸を本拠としました。やがて家康は秀吉の死後に起こった関ヶ原の戦いの勝者となって江戸幕府を開くことになりました。

畿内においては足利将軍家と管領の細川氏との抗争が繰り広げられました。ただし、この抗争は大内氏などを主体とする地方勢力が足利氏を利用して中央介入を試みた側面が強く、細川氏が内部の権力闘争によって弱体化すると、足利氏を補佐するという名目で、近江国の六角氏による介入が強まりました。近江では、京極氏と六角氏が覇を競いましたが、京極氏が浅井氏に実権を奪われたのちは、浅井氏と六角氏の争いが続きました。

基本的には各国とも室町幕府の定めた守護大名が、そのまま戦国大名化したケースが多く、河内国の畠山氏、但馬国の山名氏、丹後国の一色氏、若狭国の武田氏などは周辺の諸勢力におびえながら、しぶとく戦国時代を生き抜きました。

伊賀国は忍者に代表される豪族が力を持ち、合議制で支配されており、北部を六角氏、南部を北畠氏が支配していました。

紀伊国では高野山・根来寺・熊野三山などの寺社勢力の力が強く、根来衆・雑賀衆などの集団を形成し、宗教を盾に地域自治を行いました。

伊勢国・志摩国では北畠氏が勢力を誇り、戦国大名化しました。足利氏や細川氏の内紛は六角氏や赤松氏・浦上氏・畠山氏・筒井氏など周辺の豪族を巻き込んで行われました。しかし、本格的な騒乱は、三好氏が政権を掌握した以降に起こりました。阿波国、讃岐国、淡路国、摂津国、和泉国、河内国、山城国、丹波国、大和国などを実力で支配しました。しかしいずれの国も完全な統治はできず、三好長慶の死後は、織田信長によって平定されました。

山陽・山陰は大内義興と尼子経久が対立していました。大内義興は勘合貿易を掌握して勢力を伸張、一時は中国九州7ヶ国を支配しました。尼子経久は月山富田城を奪って出雲に基盤を作る一方、大内氏と何度か交戦しましたが決着が着きませんでした。

両勢力の接点にあった安芸国で、毛利元就が統率者となって戦国大名化しました。毛利元就は大内氏に付き、吉田郡山城の戦いで尼子晴久を破ります。その後、大寧寺の変によって大内義隆が死亡し、厳島の戦いで勝った毛利元就の



毛利元就

天下になります。更には出雲国においても難攻不落と讃えられていた月山富田城を落として中国の覇者となります。

織田信長の配下にある羽柴秀吉に攻められて、三木城、鳥取城、高松城が次々と落とされましたが、本能寺の変によって、毛利氏と和睦して軍を返したため、命拾いました。その後、毛利氏は豊臣氏の配下となり四国攻め、九州征伐、小田原征伐などで活躍し、毛利輝元が五大老に就任します。

1589年に毛利輝元は海運の利を活かせる広島城の築城を開始し、江戸時代を通じて城下は安芸広島藩 42万6000石の拠点として発展しました。関ヶ原の戦いで毛利輝元は西軍の総大将を務め、戦後に周防、長門の2か国の36万9000石に封じられました。

阿波は細川氏が支配していました。後に三好氏に実権を奪われますが、細川氏自体は江戸時代まで存続しました。

東讃岐は安富氏が統括していましたが、三好氏一族の支配下に入りました西讃岐は香川氏が毛利氏などと結んで、三好氏と対立していましたが、善通寺合戦後、三好氏の支配下に入りました。しかし三好氏の勢力が衰えると、織田氏へなびくようになりました。

伊予は河野氏が中予、宇都宮氏が大洲、西園寺氏が南予を割拠したといわれます。地理的に細長く山岳地帯が多い上に、中国・九州と近いために常に毛利氏・大友氏の干渉に晒されたため、国を統一するような勢力を持てずに終わりましたが、長宗我部の侵略に際しては頑強に抵抗しました。

土佐は一条氏の援助によって再興成った長宗我部が統一し、更に10年かけて1585年に四国全土を統一しました。淡路は細川氏が統治していました。秀吉の全国統一後、阿波は蜂須賀家政、讃岐は仙石秀久、伊予は小早川隆景に託しています。

九州の武家は関東では無名に近い少弐氏が筑前・肥前・豊前を、大友氏が筑後・肥後・豊後を、島津氏が薩摩・大隅・日向を分割統治していました。

しかし、少弐氏の勢力は徐々に衰え、毛利氏と大友氏の干渉を受けるようになります。

大友氏は豊後を拠点に筑後、肥後、豊前、筑前に勢力を伸ばしました。また大友宗麟はキリスト教を保護し南蛮貿易を盛んにしましたが、島津氏との戦いで大敗して急速に力を失っていきました。それを機会に肥前では龍造寺氏が勢力を拡大して、一時期は、大友・島津と肩を並べるまでに伸張しましたが、沖田畷の戦いで隆信が戦死すると急速に衰え、やがて重臣の鍋島直茂の時代になりました。

島津氏は島津貴久が本家を継いだ後、島津義久の指揮の下、薩摩・大隅を統一、木崎原の戦いで伊東氏を平らげ、大友宗麟との耳川の戦いで大勝利を収めて、薩摩・大隅・日向と九州を統一しました。残すは筑前・豊前のみというところで豊臣秀吉の中央軍の介入が始まり、降伏しました。

足利幕府は九代将軍義尚以降になると、もう名ばかりの存在であり、地方の豪族たちは、当てにならない将軍よりも、その奥に潜む天皇に対する敬愛の念に気づきだしました。そして戦国も末期になると、上杉謙信、織田信秀、毛利元就など、天皇家に寄進する武士が出てきました。

日本を再統一するためには京都に出て、天皇を立てて命令するのが賢明な方法であるという明確な意識を持つ武将も生まれてきました。それを最初に実行したのが今川義元でした。義元は、将軍家に繋がる血統からも、実力からも、この乱世を建て直すことができる唯一の武将だと自認していました。そこに立ち上がったのが、皇室尊重派の織田信長でした。

織田信長

織田家は信長の父信秀の時代から今川義元と国境を巡る戦いを重ねていました。1560年、満を持して上洛を目指す今川義元が20000の大軍を動員して尾張に侵攻して、最後の決戦となったのが、桶狭間の戦いです。これを迎え撃つ織田信長の軍勢は、今川軍の十分の一にも満たない2000前後でした。信長は、

義元を輿に乗せて進軍中の隊列の真ん中に、奇襲攻撃をかけて、敵が右往左往している間に、難なく義元の首を取りました。実際に義元の首を討ち取ったのは、毛利新助と服部小平太でしたが、今川勢の情報を伝えた野武士上がりの築田政綱にも論功行賞を与えました。

信長は、明智光秀の仲介によって接近してきた義昭を第十五代将軍に奉じて上洛し、僅か十数日で畿内平定しました。その後、義昭と信長の仲が悪化して、信長が義昭を



織田信長

京都から追放したため、実質的に足利幕府は滅亡しました。

信長は公家や朝廷に働きかけて元号を「天正」と変えました。

四国の阿波にいた三好の残党が、石山本願寺と連合して反信長勢力となり、さらに北の反信長勢力である近江の浅井長政、越前の朝倉義景の連合軍が京都に入り、比叡山延暦寺に立てこもりました。信長は比叡山に対して、浅井・朝倉の引き渡しを要求しましたが、比叡山はこれを拒絶しました。更に六角義賢が甲智で兵を挙げ、本願寺門徒衆は近江の通路を塞いで、信長の本拠地尾張との交通を断ちました。伊勢長島で起こった一向一揆で、信長の弟信興が自害するという不幸が重なりました。

2年間の隠忍自重の後、信長は浅井長政の居城である小谷城を攻め、次いで比叡山焼き討ちを行って、比叡山の建物すべてを焼き払うと共に、全ての関係者を大殺戮しました。日本の天皇に対抗する中世の象徴的な存在である比叡山を焼き払ったことによって、日本では、信長によって近世が始まったと評価する人もいます。

織田信長が最も恐れていた武田信玄が攻撃したのは信長と同盟関係にあった徳川家康でした。この三方ヶ原の戦いには敗れましたが、翌年、進軍の途中に信玄は病死しました。

信玄の遺志を継いだ勝頼は、1575年、再び京都をめざして進攻を開始し、三河国長篠城を包囲した武田勝頼軍と織田・徳川連合軍は、長篠で対峙しました。

長篠の戦いで信長が編み出した最も画期的な作戦は、馬防柵を築いて、その後ろに数千の鉄砲隊を置いたことでした。

前列の武士が発砲している間に、後列の武士が弾を込めることを繰り返すことによって、連続して発砲する技術であり、西洋では、そ



織田信長の鉄砲隊

れから100年後のハプスブルクの軍隊がオスマントルコ軍を破ったときに使われた技法です。これは信長の戦術の優秀性を示すものであると共に、種子島に鉄砲が伝来して、30年足らずの間に、大量の鉄砲を製造する技術を得たことを意味するのです。

この攻撃を受けて武田の主だった武将は全員戦死しました。武田軍は総崩れとなり、勝頼は甲斐に逃げ戻りました。その後、武田勝頼は度々、兵を出しましたが、決定的な勝利がなく、意味のない消耗戦を繰り返していました。そのうち、武田四天王の最後の一人、高坂昌信が死に、残りの諸将も次々と織田・徳川方に降参し、最後は重臣・小山田信茂に裏切られて勝頼は天目山に逃げて、そこで自害して、武田家は滅亡しました。

本能寺の変

信長は甲斐へ侵攻し、長年の宿敵だった武田氏を滅ぼしました。

1576年、都に近い琵琶湖のほとりに安土城を築きました。この城は大型の天守閣を持った豪華な城でした。

譲天下統一の手応えをつかんで、意気揚々と安土に帰還した信長でしたが、まもなく部下の豊臣秀吉に任せていた中国攻めで毛利氏の大規模な反攻が始まり、応援を要請されます。

信長はすぐさま部下の明智光秀に出陣を命じて、自身もその準備にとりかかって京都へ向かいました。このとき、信長が連れていたのは僅かな手勢のみで、

配下の諸将は皆、各地で奮戦中でした。

この間隙を突いて、中国へ向かったはずの明智光秀が突如、反旗を翻したのです。

光秀は早朝、信長の宿所だった本能寺を襲撃し、信長は焼け



本能寺

落ちる寺の中で自刃しました。

豊臣秀吉は本能寺の変を知って、急遽、毛利と和睦して、引き返して、山崎の戦いで光秀を討ちました。

光秀が謀反を起こした理由は、諸説があって定かではありません。

秀吉の天下統一

1585年、秀吉は朝廷から、関白の位を授かり太政大臣に任命されました。

勢いに乗った秀吉は高野山を制圧し、四国の長曾我部元親、越中の佐々成正を討ち、最大の難点である徳川家康とは姻戚関係を結んで、臣下にしました。

1587年には本格的な九州征伐に乗り出して、島津を降参させました。

1588年には、栄華を極めた聚楽第が完成し、後陽成天皇をお迎えして、北野



豊臣秀吉

の大茶会を催して、公家や諸大名はもちろん民衆とともに華やかな茶の湯を楽しみました。

秀吉は26万人の軍勢を引き連れて、小田原の北条氏を攻めました。北条氏は100日も籠城して、応戦しましたが結局降伏しました。このようにして北条早雲以来、名君を輩出した北条家は滅亡して、ここに秀吉の天下統一がなされました。

秀吉は征服地の拡大とともに新領土を家臣に分け与えましたが、蔵入

地とよばれる秀吉の直轄領は約200万石余に及びました。さらに京都・大坂・堺・伏見・長崎などの重要都市を直轄にするなどして財政的基盤を固めました。主要な街道を整備したり、天正大判などの貨幣を铸造しました。秀吉の事業の中で、後世に最も影響を及ぼしたのは、検地と刀狩です。秀吉の検地は中央か

ら役人を派遣して、全国に亘ってほぼ同一の基準で耕地や宅地の面積・等級を調べて耕作者とともに検地帳に登録するもので、これを太閤検地と言います。検地帳に登録された耕作者は、年貢や労役の負担者とされ、荘園制のもとでの一つの土地に、何人もの権利が重な



聚楽第

りあう状態が解決されました。これによって秀吉は全国の土地を確実に把握し、大名の配置換えも簡単になり、近世封建制の基礎が定まりました。

刀狩とは農民から武器を取り上げることです。秀吉は農民が刀や弓などの武器を持つと、一揆を起こす原因にもなると考えて、

1588年に刀狩令を出して、すべての武器を没収しました。これによって兵農分離が進み、更に1591年には、身分統制令を出して、武士・農民・町人などの身分や職業固定する方策を進めました。

朝鮮出兵

秀吉はかなり前から大陸の明に関心を持っていました。明を討つために朝鮮を通るので便宜を図るようという趣旨の書状を託しましたが、朝鮮も明もそれを無視したので、1591年に、朝鮮出兵命令を出しました。

朝鮮に上陸した日本軍は快進撃を続け、釜山、慶州、京城、平壤を占領しました。日本軍唯一の弱点は水軍であって、船も指揮系統も悪く、輸送船の集まりに過ぎませんでした。平壤で突然明軍の夜襲を受けましたが、日本軍は鉄砲で立ち向かったので、明軍は総崩れになって逃げ帰りました。大将格2人が撃

ち殺されて逃げ帰ったことを聞いた明の宮廷は愕然として、小西行長と交渉することを申し出ました。

戦争には勝ったものの、釜山から遠く離れた平壤まで来て、しかも、食糧を補給する船が朝鮮の水軍に阻まれて、食料が不足し、おまけに冬を迎える用意もろくにしていない上に、疫病が流行って、日本軍の士気が落ちてきました。

日本軍はだんだん追いつめられてきました。小西行長と宗義智は秀吉に無断で朝鮮と和平交渉を始めましたが、そこに明の勅使が現れたので、この男を信用して、ひとまず休戦状態にしたところ、明軍が総攻撃をしかけてきました。

平壤城に立てこもる小西行長軍は約 15000 人、明軍はおよそ 45000 人。ついに城の食糧庫に火が入ったので、小西軍は敗走しました。この平壤の戦いが陸上における日本唯一の敗戦になりました。日本の武將たちは行長を信じて、講和が近いと油断していたのです。

京城に再集結した日本軍は、敵を待ち受け、明軍を引きつけておいてから銃撃し、斬り込んでいきました。日本の強みはなんといっても鉄砲であり、一斉射撃という戦術を知らなかった明軍は総崩れとなって命からがら逃走しました。

しかし、兵糧もなく、手負いも増えた日本軍には厭戦気分が漂ったので大名全員の署名入りで、「日本軍も京城で餓死する寸前である。行長は明の使いを連れて帰国する予定で、明も講和を望んでいる。」という手紙を秀吉に送り、やっと撤退命令が出ました。破竹の勢いで京城に入ってから、1 年足らずで撤退することになりました。

秀吉は朝鮮との戦いで負けたとは思っていませんから、明との和平交渉に際して 7 カ条の講和条件を考えました。即ち、明の皇女を日本の天皇に差し出すこと、足利時代のような通商を行うこと、京城附近の南部四道を日本に譲ることでした。

明では、秀吉を日本の王に任命すればいいのだろう位にしか考えていませんでした。

仲介する人物が皇帝の怒りを怖れて秀吉の条件を明に伝えませんでしたし、明の考えも秀吉には伝わりませんでした。明の下心は、和平が成立したら、日

本は明の属国になるというものでした。明や朝鮮からの使節は秀吉が出した講和条件7カ条の内容を知っているのに、明に報告しませんでした。明は秀吉に降伏状を出せというのに、秀吉には言い出せませんでした。

小西如安という大名が、使者として北京に赴いて交渉に当たりました。交渉の文書に「日本、封を求む」という言葉があることから、「日本は朝鮮や琉球と同格の属国だ」という認識を明に植えつけたものと思われます。明としては秀吉を日本国王に封するつもりでした。

如安が明に伝えたことは、秀吉を日本国王に封じること。日本は釜山、対馬から撤退すること。貿易を求めないこと。日本は朝鮮と共に明の属国になることであり、秀吉の言っていることと全く違うことを伝えたのです。

即ち、今日の日本の官僚と全く同じような、文書書き換えを行ったのです。

明はその内容を了承して、正式な講和の使者を日本に送りました。秀吉は大坂城で明の使者を迎えました。使者は天子の下す任命書(封冊)と金印、位の高い人の礼装用の冠と衣服(見服)を献上しました。秀吉は見服を身につけて使者を引見して、封冊を読ませました。

「ここに特に爾を封じて日本国王と為す」それを聞いた秀吉は烈火のごとく怒り、明が献上した冠と衣服を脱ぎ捨てると、「国王になど明の小せがれに任じてもらわなくともいい。そもそも日本には天皇がおわすことを知らないのか」と一喝しました。

明の使いを追い返して、秀吉は直ちに、朝鮮征伐を命じました。文禄の役は明侵攻が目的でしたが、第2次朝鮮出兵の目的は、礼を欠いた朝鮮を成敗することでした。

動員した兵士は前回の約半分、14000人ほどでした。

築城中だった蔚山城に、明軍の本隊40000人、朝鮮軍2500人が攻めてきて、警戒をおろそかにしていた日本軍はたちまち外郭を取られました。浅野長政と加藤清正が駆けつけました。まだ建設中で、兵糧を運びこんでいなかったため、飢えのため玉砕寸前まで追い詰められましたが、和平交渉で時間を稼いで

いるうちに毛利秀元らの援軍が現れて、背後から攻撃したので、明・朝鮮軍は、兵糧も武器も大砲も全部捨てて退却しました。

島津義弘は四川城に明軍を引きつけて、徹底的に打ち破りました。

当時の記録によれば、38077人の首を取ったと言われています。明・朝鮮軍は島津軍を「石曼子」と呼んで恐れ、日清戦争でも「石曼子」といえば支那人は怖がったといえます。

秀吉軍がそのまま明を倒し、朝鮮を占領する可能性もありましたが、1598年、秀吉は伏見城で病死します。毛利輝元、宇喜多秀家、前田利家、徳川家康の4大老は朝鮮からの引き揚げ命令書を出しました。

講和は諸将の判断にまかせ、本国の指令を仰ぐ必要はないというので、それぞれの武将が出先で講和を結びました。秀吉が死んだことは朝鮮も明も知りませんでした。どの武将も勝者として円滑に講和を進め、諸将は釜山に集まり、帰国することになりました。

ところが朝鮮の水軍が明の水軍とともに、引き揚げてくる日本軍を待ち受けていました。この水軍は日本軍撤退を知って、海上を封鎖したのです。そこへ引き揚げるつもりで合戦の準備を解いた島津軍が現れ、海上で待ち受けていた敵の大軍と遭遇したわけです。

島津軍は大苦戦の末、命からがら逃げた、という明の文書が残されていますが、島津側の武将は全員無事だったのに対し、明水軍は大量の戦死者を出して退却しました。島津の兵隊たちは得意の銃で応戦し、明の船に斬り込んだのです。

従ってこの海上戦では日本が勝利を収めたと言えます。明・朝鮮の報告書は、とにかく皇帝に褒められるために出すものですから、都合のいい嘘を書き連ね、10倍、20倍の誇大な戦果を報告していました。現に、明の兵隊は朝鮮人の首を切って日本人の首だと言っていますし、朝鮮人も同胞の首を取って日本人の首だと言って差し出しています。この戦いで、明の財政は悪化し、やがて滅亡しました

秀吉は日本史の中で一番の英雄と言っても過言ではありません。何しろ、足輕から身を起こし 関白太政大臣として日本全土を統治したのです。信長のように敵を潰すのではなく、相手を降伏させることを重んじました。秀吉にはある種の明るさがありました。

北野に大茶会を催し、衆楽第に 後陽成天皇の行幸を仰ぎ、醍醐に花見し、金銀を気前よく分け与えました。秀吉は比叡山延暦寺も高野山金剛峯寺も再興し、本願寺を優遇しました。大仏を建てたことも昇平の気分を世の中に作り出したことも、刀狩りを行って農民の武器を取り上げて、その鉄を大仏殿に使ったことも秀吉の気質を表す象徴的な事例です。

秀吉が晩年になって淀君に男の子をませたことが、彼の知力を曇らせることとなります。

秀吉の死に方は実に英雄らしからぬ死に方でした。「秀頼を頼みます、頼みます」と前田利家や徳川家康たちに泣いて頼みながら死んでいきました。最晩年の秀吉は惨めで情けない老人でした。そして、我慢に我慢を重ねていた家康によりやく出番がまわってきたのです。

関ヶ原の戦い

秀吉の死後、大名のなかで突出した実力を持っていた徳川家康の独走が目立つようになってきました。家康を抑えるだけの力があるのは加賀の前田利家のみでしたが、その利家が秀吉の死の翌年、後を追うように亡くなると、家康の権勢はいよいよ大きくなっていきました。

秀吉に可愛がられ、予てから家康と対立していた石田三成は、家康が会津の上杉景勝を討つために大軍を卒いて東上した機会を捉えて、毛利輝元を総大将にして家康打倒の兵を挙げました。

この報を聞いた家康はすぐさまとって返し、三成の西軍と美濃国関ヶ原で所謂「天下分け目の戦い」が行われることとなります。この「関ヶ原の戦い」に

家康はかろうじて勝ったとも言えますが、それまで秀吉に手堅く仕え、他の大名の面倒を見ていたのが勝因の一つでもありました。

西軍を卒いた石田三成は、秀吉の朝鮮征伐の時に、船奉行として朝鮮に送る任に当たり、追撃してくる明の大軍との戦いには、小早川隆景の大勝利に貢献もしています。

慶長の役では、秀吉死後の引き揚げ業務を遂行しましたが、内地にいたことが多かった三成は、難戦を経験した武将たちからは楽をしていたように思われ、両者の間には感情の対立が生まれていました。誰が見ても、西軍の有利に見えた関ヶ原の戦いも、小早川秀秋が裏切り、大坂城に入っていた西軍の総大将、毛利輝元が出陣しませんでした。もし、輝元が戦場に出れば石田方が勝っていたことは間違いありません。従って天下分け目の戦いは、勝つべくして勝ったというよりも、運が味方して勝ったというべきかもしれません。

この戦いで勝利が決まると考えた人は殆どいませんでした。しかし、現実には、殆どの大名が家康についてしまったのです。こうして徳川の世が始まりました。

安土桃山文化



関ヶ原布陣図

下級の武士や農民から身をおこした新しい大名が多く生まれると共に、商工業の活発な活動によって富を得た豪商も現れました。そうした新興勢力が支配的になると、文化の上にも大きな変化が現れて、清新で、しかも華やかな文化



小田原城

が栄えました。仏教色が薄れて、現実の生活を楽しむ雰囲気が強まったことや、南蛮文化が盛んに取り入れられたことも見落とせません。

建築は壮麗な石垣と天守閣を持つ城で代表され、城主の居館は豪華な彫刻や絵画で飾られました。大広間には障壁画が発達

し、狩野永徳や狩野山楽らが中心となって、金地に豊かな色彩を用いた濃絵が襖や昇風に描かれました。

京都・大阪・堺・博多などで活躍する富裕な町衆の文化も花開き、室町時代に始まった茶道・花道や能・狂言な



彦根城



姫路城



どが大いに流行しました。

特に茶道では千利休が佗茶の方式を完成したほか、織田有楽斎・古田織部らの大名も、それぞれ茶道の流派を開きました。茶席で用いられる茶碗も朝鮮出兵のとき諸大名が連れてきた朝鮮の陶工によ

って、有田焼・薩摩焼・萩焼・平戸焼などが始められ、優雅な趣きを持つものが作られました。

民衆の娯楽も豊かになり、17世紀初めには、出雲の阿国という女性が京都に現れ、男装して刀をさすという変わった姿の踊りを始めました。この踊りは歌舞伎と言われて、人気を



集めました。三味線を伴奏にして人形を操る人形浄瑠璃も流行し、各地で盆踊りが盛んに行われるようになりました

日常生活にも変化が起こり、京都などでは2階建ての民家がで



き、屋根には瓦が使われました。衣服では女性の小袖の着流しが普通になって、髪を結び、男性も烏帽子は

南蛮衣装

かぶらず、まげを結うようになりました。

南蛮貿易が盛んになると、庶民の中にも南蛮風の衣服を身につけたり、カステラ・コンペイトウ・パンなどの南蛮菓子を食べたり、タバコを吸うようになりました。宣教師たちは、天文学・医学・地理学などの実用的な学問を伝えたほか、活字印刷技術・油絵や銅版画の技法をもたらし、日本人の手によって南蛮屏風が描かれるようになりました。「平家物語」「伊曾保物語」などが活字印刷されました。

江戸時代



徳川家康

1603年、徳川家康は征夷大將軍となり、京都ではなく、江戸に幕府を開きました。

家康は將軍になった5ヶ月後に、秀吉との約束を守って孫娘の千姫と秀頼を結婚させ、自らは秀頼の後見人となって、豊臣恩顧の大名を安心させました。

ところが秀頼が方広寺大仏殿を再建し、その開眼供養が間近に迫った頃、鐘の銘に「国家安康 君臣豊楽 子孫殷昌」と書いてあるのを見た家康が激高しました。これは家康の名前を分断して記載することによって徳川家を滅ぼし、豊臣家の子孫繁栄を図る意味だと

する言いがかりをつけて、大阪冬の陣が始まりました。

大阪城は秀吉が知恵と財力を惜しみなく注いで作った天下の名城ですから、1年攻めても落とすことはできませんでした。そこで和睦を提案する際に策略を巡らせて、大阪城の外堀を埋めて、裸同然にしてしまいました。豊臣側は抗議したものの時既に遅く、翌年の夏の陣で大阪城は落ちてしまいます。



大阪夏の陣



徳川家光

江戸幕府の制度は、3代将軍家光の時代にはほぼ出来上がり、国家・社会の仕組みは、将軍と大名とが強力な領主権を持って、土地と人民とを支配する幕藩体制が整備されました。将軍は旗本や御家人という直属の家臣団を多数かかえ、諸大名をはるかにしのぐ強大な軍事力を持っていました。財力の面でも、天領とよばれる将軍の直轄地が

17世紀末に400万石に達していた他、江戸・京都・大坂・長崎などの重要都市や、佐渡・伊豆・但馬生野・石見大

森などの金・銀山を直轄にして貨幣の鑄造権を握り、諸大名の財力を大きく上まわっていました。幕府の職制では、譜代大名が老中・若年寄などの要職につき、旗本は町奉行・勘定奉行などの役職につきましたが、主な役職には2名以上を任じて月番交代で政務をとらせ、権力の独占ができにくいようにしてありました。

将軍の配下にいる1万石以上の領地をもつものを大名と呼び、大名が支配する領域を藩と呼びました。御三家など徳川氏一門の大名を親藩、初めから徳川氏の家臣であったものを譜代、関ヶ原の戦いの前後に徳川氏に臣従した大名を外様と呼びました。幕府は大名の配置に意を配り、特に外様大名の動きを警戒しました。

武家諸法度は将軍の変わる度



参勤交代

に少しずつ改められ、3代将軍家光の時から参勤交代が加えられました。大名は、原則として、1年おきに1年間、江戸に留まり、その間妻子は人質として江戸に住むことになりました。大名は、石高に応じて一定数の兵馬を用意したり、江戸屋敷を構えて、多くの家臣を常駐させなければならない上、多数の家臣や従者をつれて江戸と領国を往復したので、財政上大きな負担となりました。

近世の社会では、いわゆる士農工商と呼ばれる身分の別がたてられました。それは幕藩体制をかため維持してゆくためのもので、武士は四民の最上位におかれ、苗字・帯刀の特権を許され、農民や町人の無礼に対して切捨御免が認められることもありました。農民は貢租の担当者として重視されましたが、そのために生活の規制もきびしく、都市に住む職人や商人は社会的には一段と低い身分にされましたが、統制は比較的緩やかでした。

このような身分差を設けたのは、農工商の人々に、武士が支配する不満をまぎらわせようとしたものと考えられます。幕府や諸藩は近世を通じて、身分差別が動かせないものであるように人々に思いこませていきました。近世社会では多くのことが家を単位に考えられ、家の中では、家長や、家長の後を継ぐ長男の立場がはるかに強く、結婚は家の存続のために結ばれるものと考えられていたので、妻の地位は低く、古代から続いていた女性優位の社会が大きく変わりました。

1637年に起きた島原・天草一揆を機会に、キリスト教の弾圧が強まり、徳川幕府は外国船の入港を徐々に制限して、1641年にオランダ人を長崎の出島に移して、3代将軍家光の時代に鎖国しました。実際は長崎を通して



長崎の出島

世界の情勢を把握しながら、日本は外国から干渉されない固有の国家の中で、独自の文化を発展させていったのです。

九州の諸大名にはキリスト教を保護する者もあり、代々藩主がクリスチャンだった大村藩では、アメリカ藩の存続を守るために、全ての教会を日蓮宗の寺院に改装し、境内の敷石も決して十字



水戸光圀

に交わらないように配慮したと言われています。しかし代々の領主の墓には、一見分からない場所に十字架が彫られています。

儒学の合理的、現実的な考え方は、本草学・医学・数学・天文学などの自然科学の発達も促しました。和算の関孝和は円周率や円の面積・筆算・代数などに優れた研究成果をあげ、渋川春海は天文学や暦学を学び、元の授時暦を基に新しい暦をつくりました

歴史学や国文学の研究にも実証的な態度がみられ、山鹿素行が古文書を引

用して「武家事紀」を表し、新井白石は「読史余論」で武家政権の発展を段階的に考察する独自の史論を展開しました。

1657年、水戸光圀による大日本史の編纂が開始されますが、これが完成したのは、1906年です。この本では、南北朝時代の南朝を正統な皇位としており、幕末の尊王攘夷に大きな影響を与えました。

5代将軍綱吉の時代に、元禄文化が花開きました。平和な時代が続き、経済が発展し、町人たちも裕福な生活を謳歌することができました。綱吉が「生類憐みの令」を出したのも、平和な時代であったからかもしれません。

農業は近世になってめざましい発達をとげました。幕府や諸藩が新田開発を積極的に進めた結果、各地で広域にわたる灌漑施設がつけられ、越後の紫雲寺潟新田など新しい耕地がひらかれました。初期には富力のある農民が開



元禄文化

発に当たりましたが、後には町人が資本を投じて大規模に進めました。武蔵野に水を供給した玉川上水・見沼代用水や、箱根芦ノ湖の水を駿河方面に引いた箱根用水などがよく知られています。農業技術の面では、作物の品種改良や肥料の使用が進み、農具の改良・発明によって農作業の飛躍的な効率化が図られました。

海に囲まれた日本では漁業が各地で行われていましたが、特に網を用いる漁法が発達して、捕鯨業などが紀伊から各地に広まっていきました。土佐沿岸の鰹漁、五島の鮪漁、九十九里浜の鰯の地引網なども有名です。瀬戸内海で生産された塩は全国に送られました。

鉱山の開発も進み、特に佐渡や伊豆の金山、石見や生野の銀山、別子や足尾の銅山などが知られています。

京都の西陣では、18世紀になると国内産の生糸が多く生産されるようになり、西陣の技術が各地に伝えられました。醸造業では、近世になると、それまでのにごり酒に代わって清酒を作る技術が生まれ、伏見・池田・灘・伊丹などが名産地となりました。瀬戸・九谷・有田など優良な陶土の得られるところでは大量の陶磁器がつけられました。



松尾芭蕉



井原西鶴

幕府の全国支配や商品流通の進展につれて、全国的な交通網が整えられていきました。そのうち東海道・中山道・日光道・奥州道・甲州道の五街道は幕府が直轄にして、宿泊・運輸・通信のための施設を整えました。街道には宿場がつくられ、大名たちが利用する本陣や、一般旅行者のための旅籠屋・茶店・商店などが軒を並べました。

元禄文化を特徴づけるのは人間性の追求をめざした町人文芸です。連歌から起こった俳諧は17世紀半ばには奇抜な趣向をねらう西山宗因の談林風が流行したのち、松尾芭蕉がでて幽玄閑寂を旨とする蕉風俳諧を確立させました。芭蕉は歌人の西行や連歌師の宗祇のように旅に生き、諸国を巡りました。なかでも奥羽



近松門左衛門

地方から北陸を巡る 600 里に及ぶ旅は、「奥の細道」という紀行文にまとめられました。大坂の町人であった西鶴は、初めは談林風俳諧で名を知られましたが、やがて浮世草子と呼ばれる小説に転じて、人間の愛欲本能を赤裸々に描き出した「好色一代男」などの好色物や、町人の金銭をめぐる悲喜劇とも言える「日本永代蔵」や「世間胸算用」などで人気を集めました。

芭蕉・西鶴に少し遅れてでた近松門左衛門は、若いころに京都に住んでおり、当時、上方では人形浄瑠璃が盛んでした。近松はその浄瑠璃・歌舞伎の脚本を書いていましたが、「曾根崎心中」などの実話をとりあげた世話物や、歴史上のことがらを題材にした「国姓爺合戦」は大きな人気を博しました。江戸初期に女歌舞伎が風俗上の理由で禁止されて、男優だけの野郎歌舞伎として上演されました。



日光東照宮

このころの歌舞伎はまだ人形浄瑠璃ほどの人気はありませんでしたが、江戸の市川団十郎や上方の坂田藤十郎らの人気役者もいました。

幕府が多額の費用を投じて造営した日光東照宮を始めとする霊廟建築が流行し、狩野派の絵画も幕府や大名の御用絵師となって繁

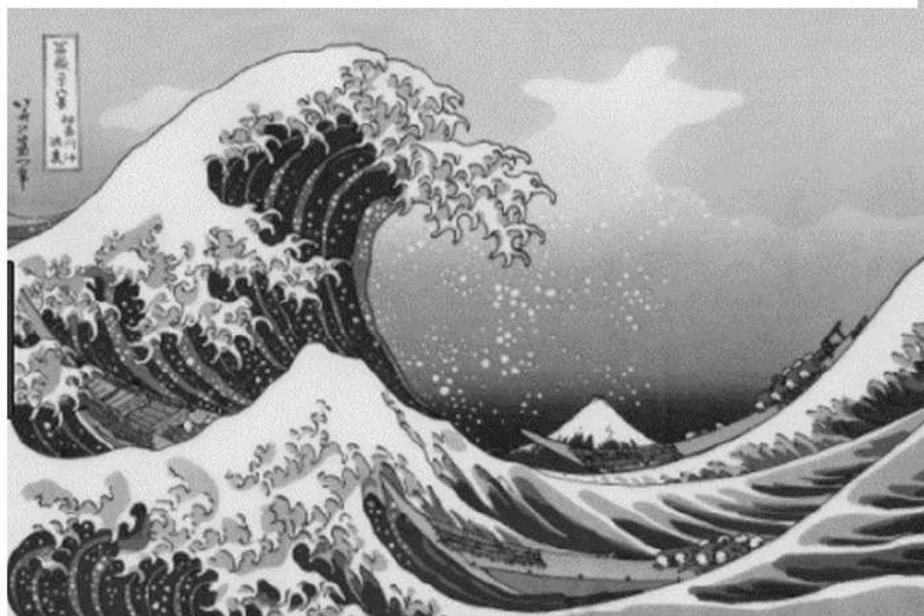
栄していました。

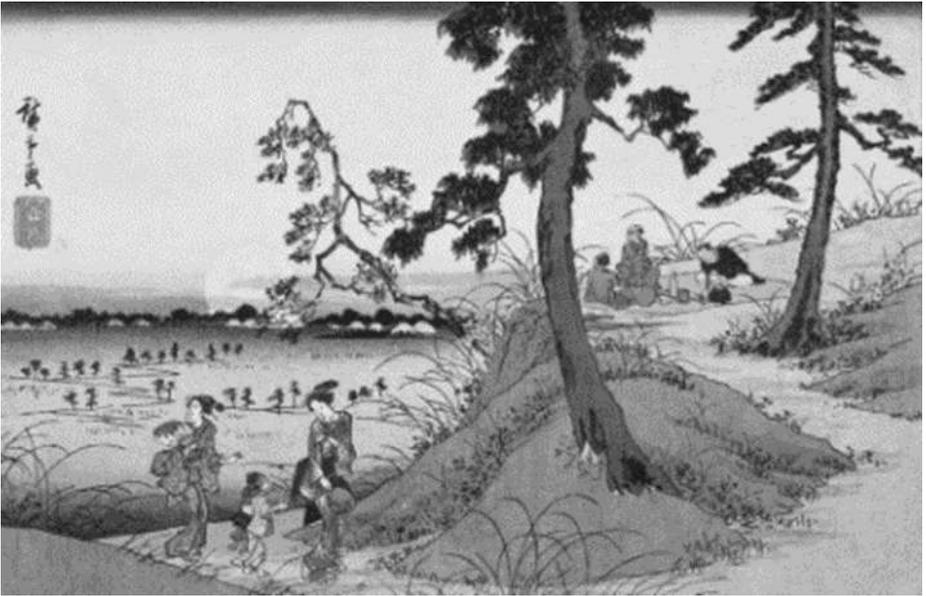
しかし、その一方で、伝統的な公家文化の流れをひく優雅な美術も健在でした。書院造に茶室を取り入れた簡素な数寄屋造の桂離宮の書院は、その代表とも言え、京都の上層の町衆で多才な文化人として知られる本阿弥光悦は絵画・蒔絵・陶芸・書道など、あらゆる方面に独創的な才能を発揮しました。土佐派の画法を基に、独特のやわらかみのある装飾画の新様式を生み出した俵屋宗達もこの頃の人です。

禄時代にいた尾形光琳は書画の教養も深く、蒔絵にも優れていました。その系統の絵を琳派と呼びますが、宗達の画法を取り入れ、装飾的な表現を強くあ



桂離宮の書院





らわして上層町人の間で人気がありました。

陶芸では、17世紀前半に有田焼の酒井田柿右衛門が赤絵の磁器に成功したあとをうけて、京都に野々村仁清、尾形乾山が現れ、高雅な色絵の陶器を作りました。染物では京都の宮崎友禅が友禅染を始め、綸子や縮緬の生地に華やかな模様を表して、大いに流行しました。

しかし、何といたっても新しい境地を開いたのは浮世絵です。

葛飾北斎、喜多川歌麿、歌川広重、菱川師宣などは、江戸の風俗を画材とした絵を描き、浮世絵と名づけました。

1枚だけの肉筆画は高価で、庶民の手に入りにくかったので、肉筆画のほかに、同じものを何回も刷ることのできる木版画を作って、絵本や1枚刷りにして売らだして、町人の人気を集

めました。

華やかな文化の恩恵を受けたのは富を蓄えた町人たちで、元禄模様などの華美な絹の衣装を身につけて、2階建て・瓦屋根の家に住み、劇場にでかけて人形浄瑠璃や歌舞伎を楽しむ人で溢れました。

その平和な元禄時代に起こった大事件が、赤穂浪士の仇討です。

その荒筋については、改めて説明する必要はありませんが、刃傷行為そのものについては賛否両論があります。



忠臣蔵

アメリカは占領政策

としてこの忠臣蔵を禁止しましたが、日本人は復讐心が強いと考えて、原爆投下の復讐を恐れたのかもしれない。しかし現実の日本社会では、復讐はレアケースであり、水に流すという習慣が定着しています。レアケースであるがゆえに、この事件が日本でいつまでも語り継がれているのかも知れません。

1716年、徳川吉宗は八代将軍に就任し、享保の改革を行いました。武道を奨励し風紀の乱れを厳しく取り締まりました。約40年間続いた元禄文化はこれで終わりを告げました。スキャンダルを防ぐために大奥の女性を大量整理したため、江戸城の風紀は改善されました。

経済政策として、大名から1万石につき100石を課税したり、新田開発を進めて、14年で幕府の財政を再建しました。しかし米が増産されることによって価格は下がったので、米の価格が戻るまで借金を返す必要はないと言う徳政令をだしたため、経済に大混乱が起きました。武士と商人の間に金銭貸借に関する裁判が急増したため、相对済令が出されました。従って、享保の改革は武士にとっては善令、庶民にとっては悪令とされています。



江戸の人口は18世紀初頭には300万を超えたといわれ、大江戸八百八町と呼ばれる世界一の大都市でした。同じ頃のロンドンの人口は50万位といわれて

います。

江戸が栄えたのは、井戸水や川の水だけに頼らず、何十里という長さの上水道を、僅かの勾配を利用して江戸まで引いてきて、江戸の町民がそれを自由に使えたのです。このような都市は世界に例がありませんでした。江戸は上水があるうえに、排泄物はすべて畑に返したため、非常に清潔でした。「江戸に廃物なし」といって、捨てる物は何もなかったといわれるほどでした。

さらに新田開発が進み、米の耕作面積は2倍に、収穫量は4倍になりました。町人は、同業組合を組織して金を集め、支配階級だった武士よりも豊かで、街は文化財に溢れていました。町人が江戸に繁栄をもたらし、空威張りする武士は、質素な生活を送り、金に困ると頼ったのは町人であり、審美眼を持っていた裕福な町人が、豪華絢爛な文化を生むことに貢献しました。

江戸時代には、土農工商の身分制があったものの、侍だからといって、威張りませんでした。神道は、八百万の神々が横並びになっている水平な宗教です。

日本では昔から、身分を超えて酒を酌む、無礼講が行なわれていました。無礼講は身分の上下の別なく、日常の身分差を忘れて行なう宴のことです。ヨーロッパでも、支那でも、朝鮮でも、階級間の差別が厳しく、身分を超えて酒席に連なったり、交わるようなことは、ありませんでした。今日でも、アメリカ

やヨーロッパでは、はっきりとした階級差別があって、エリート階級の者と、労働階級の者が、社交的に同席することはありません。

江戸時代には、武士も、庶民が催す句会や、連歌の会や、茶会に参加する時には、長脇差を差しませんでしたし、武士は遊郭でも、帳場に両刀を預けてから、上がらなければなりませんでした。シェイクスピア劇の登場人物が、すべて王侯貴族であるのに対して、浄瑠璃、歌舞伎狂言の劇作家として著名な近松門左衛門の主人公は、みな庶民たちです。江戸時代は、庶民の時代であり、「侍とても貴からず。町人とても賤しからず。貴い物は比の胸一つ」と記しています。また井原西鶴は「一切の人間、目あり鼻あり、手足も変わらず生れ付て、俗姓、筋目にもかまはず、ただ金銀が町人の氏系図になるぞかし」と書いています。庶民は経済力によって、武士に対抗する力を持っていましたが、人が平等であることを、意識していたのです。

当時、世界で最大の首都だった江戸は、絵画や舞台芸術の世界でも、極めて高い芸術性を有し、歌舞伎や浄瑠璃といった芸能も、浮世絵などの芸術も、すべて庶民のものであり、庶民文化がこれほどまでに栄えた国は、世界のどこにもありませんでした。歌舞伎は、庶民の感覚と風俗を映した大衆劇であり、その豪華絢爛さは、世界で抜きんでていました。浮世絵は庶民芸術であり、歌麿、写楽、北斎、広重などの浮世絵は、19世紀後半のヨーロッパに衝撃的な影響を及ぼしました。

東京と大坂を結んだ東海道は、おびただしい数の旅人によって溢れ、1000軒を超える旅籠がありました。出版についても、庶民の識字率が、世界で最も高かったので、木版印刷による出版業と、貸本屋が繁栄しました。浮世絵も大量に刷られて、庶民を楽しませ、売れっ子の浮世絵作家による作品が、飛ぶように売れました。

江戸の治安維持を行っていた同心は100人位くらいしかおらず、南町奉行所、北町奉行所に配備された与力の数はわずか25騎であり、300万の人口を考えれば、この人数の少なさは驚きであり、治安の良さを物語っています。

幕末から明治初めにかけて数多くの外国人が来日していますが、皆が感嘆しているのは江戸の町が清潔なことで、泥棒がないことです。アメリカの動物学者、モースは、治安の良さについて、日本の旅館の部屋にはドアがない。机の上に財布を置いて旅行に行っても、盗まれずにそのままあったと、手記に書いています。



北町奉行所

江戸時代は商業が大いに発達しました。平和な時代が続いて、他国から攻められる恐れも全くなかったため、産業を振興して隣の藩に負けないようにと競争をするようになりました。

共同体のなかで、互いに気持ちよく生きてゆくためには、自己中心のではありません。尊重しあうことが大切になります。江戸時代の300年に及ぶ平和のなかで、そうした共同体の生活のルールが、今日まで続く日本人の精神性を作ってきました。江戸では町人の75%が、長屋に住んでいました。長屋は同じつくりの小さな家をつなげて、一棟としていました。薄い壁だったので、隣りを気遣う必要がありました。人々は長屋全体が家族のように、子どもたちを世話し、悪



寺子屋

さをすると、自分の子も他人の子も別け隔てなく叱りました。

日本では、庶民の教育水準が高く、全国にわたって寺子屋が、20000軒あまりありました。少年男女のほぼ全員が、読み書き、算盤、行儀のほか、農業、漁業など地元の産業について学びました。当時の教科書であった往来物が、7000種以上も残っています。

寺子屋はすべて、地元の人々の手作りであって、幕府や藩には、教育を担当する役人は一人も存在しませんでした。この他に、おびただし数の私塾が存在しており、身分にかかわらず、向学心がきわめて旺盛でした。

幕府は社会秩序を維持するために、士農工商の四身分制をとりましたが、庶民は武家の株を買って武士になれましたし、農工商のあいだの区分は、ほとんどありませんでした。



江戸時代の大坂

商業の中心地として栄えたのが大坂であり、全国の商品が大坂に集まって捌かれました。江戸だけが日本の中心ではなく、大坂というもう一つの中心地ができたのです。大坂は幕府の直轄領であったため、非常に自由度が高い町でした。そこで全国各地から商品が集められて、大経済圏ができました。

当時は陸上交通がまだ不便であったため、山形庄内の米などは港に集められ、そこで船積みされて、いわゆる北前船として、日本海を進み、関門海峡から瀬戸内海に入っ、大坂に運ばれました。

大坂には各大名の米蔵ができて、米の相場が立って、1717年、大坂堂島に世界最初
の先物取引の市場ができました。イギリス
のリバプールに綿花の取引所ができたのは、それから、かなり経ってからです。

田沼意次は、低い身分から異例の出世を遂げて、老中になりました。この時代は、江戸の歴史上、最も評判悪くて、賄賂と汚職の時代とも言われています。

然し、この時代は学問が栄えた時代でもありました。杉田玄白が解体新書を発行し、本居宣長は古事記伝を現しました。近世日本文学の代表作と言われる上田秋成の雨月物語が出版され、俳諧では与謝野蕪村が登場しました。狂歌や川柳が盛んになり、鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎などの浮世絵が普及しました。また、石田梅岩を開祖とする石門心学が広まりました。田沼意次にとって予想外な事は、老中在職中 15 年に亘って、世界的な異常気象のために、川の凍結、氾濫、火山の噴火、地震や津波、大飢饉などの大災害が頻発したことです。

国学と蘭学という新しい分野の学問が生まれました。

国学の分野において、幕末の尊皇思想の中で最も影響力があった歴史家は頼山陽です。日本の歴史に詳しく、若い頃から日本外史を書き始めました。更に、神武天皇から秀吉の第 2 次朝鮮出兵までの歴史を纏めた日本政記を書きました。戦前の日本の歴史書の殆どは、この 2 冊の本を基にして書かれたと言われています。

世の中が再び自由を取り戻して江戸文化最後の爛熟期が文化文政の時代です。十返舎一九の東海道膝栗毛、曲亭馬琴の南総里見八犬伝などの本が出版されました。

蘭学の分野では、オランダの医師、シーボルトが鳴滝塾を開いて、多くの蘭学者を育てました。杉田玄白と前野良沢の存在も忘れてはなりません。オランダ語の人体解剖書、ターヘル・アナトミアを翻訳して、解体新書を発行して医学に大きく貢献しました。

天保の改革が失敗して、水野忠邦が失脚して 10 年後の 1853 年に、300 年という、世界に例を見ない平和な日本に襲い掛かったのがペリーです。

ペリーの開国要求は強硬にして執拗だったので、幕府のみでは対処しきれなくなって、諸大名に対応を相談しました。相談をされた大名たちはそれぞれ勝

手な意見を述べました。その結果、国政を合議制で決定しようという「公議輿論」の考え方が広がり、幕府の権威を下げることになりました。

この和親条約によって、下田と函館の2港が開港されることになりました。

井伊直弼が孝明天皇の意に反して、アメリカと和親条約を結んだことに反発する尊皇攘夷運動が起きました。この反対派をことごとく弾圧したのが安政の大獄です。前水戸藩主・徳川斉昭が蟄居され、近藤茂左衛門、梅田雲浜、橋本左内らが逮捕され、吉田松陰が死刑になりました。

藩主・斉昭の蟄居に反発した水戸藩士は、桜田門で井伊直弼を殺害しました。江戸幕府最高の重責を担った大老が、城門で、20人足らずの藩士に殺されたことは幕府の権威が失墜したことを示す大事件でした。



桜田門の変

攘夷の気運が高まるな

かで、外国人殺傷事件もしばしばおこりした。1862年には神奈川に近い生麦で、薩摩藩士がイギリス人を殺傷する生麦事件がおこり、翌年イギリス艦隊がその報復として鹿児島を砲撃するという事態に発展しました。幕府も急進派の動きにおされて諸藩に攘夷決行を命じて、長州藩では下関の海峡をとおる外国船を砲撃しました。しかし朝廷内では、保守派の公家が会津藩とむすんで、1863年、武力を用いて三条実美ら急進派公家と長州藩の勢力を朝廷から残らずしりぞけたました。長州藩は翌年、池田屋事件をきっかけに京都に攻めのぼりました。薩摩、会津両藩は協力してこれを打ち破った結果、長州藩は、幕府の征討を受けることになりました。同じころ、イギリス・アメリカ・フランス・オランダの四国連合艦隊は、長州藩のおこなった外国船砲撃の報復とし、下関に攻撃

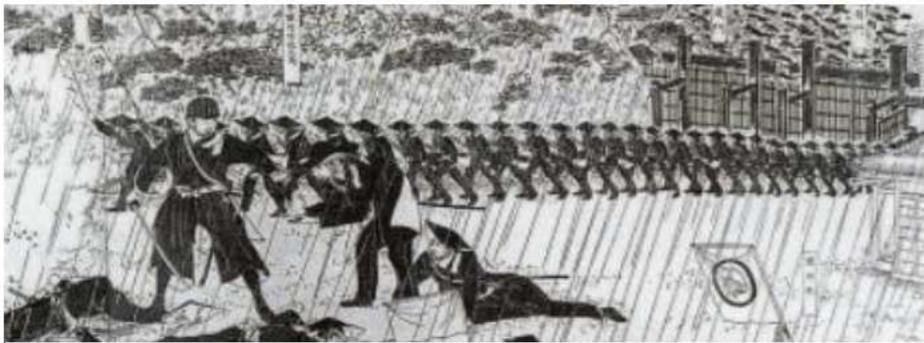
を加えました。窮地にたった長州藩は、4カ国の連合軍に和をこい、また幕府にも姜文恭順の態度を示した。

列強は日本国内の混乱に乗じて、1865に兵庫に艦隊をおくって条約の勅許をえ、翌年には幕府に改税約書を調印させ、自国に有利な税率にあらためた。このころイギリスの駐日公使パークスは、幕府の国内統治能力に疑問をいだき、対日貿易発展のために、天皇を中心とする薩摩藩などの雄藩連合政権の実現に期待をかけるようになった。

桜田門の変から2年後の1867年に、徳川慶喜は大政奉還を申し出ました。直ちに、王政復古の大号令が発せられ、京都御所内で小御所会議が開かれました。明治天皇も出席した御前会議でした。この会議に出席していなかった徳川慶喜を巡って、議論が噴出しましたが、「慶喜がこの会に列席するためには、まず慶喜自身が恭順の意を表して、全ての領地を差し出して官位を捨てるのが条件。」という結論に達しました。

慶喜はいったん大坂城に退きますが、公議政体派の山内容堂、松平春嶽、徳川慶勝らの工作によって、小御所会議の決定は骨抜きにされ、また慶喜も諸外国の公使に対して外交権の継続を宣言するなど、次第に列侯会議派の巻き返しが顕著になってきました。

大坂城内の強硬派から大政奉還に反対して、薩摩を討つべしという主戦論が沸騰し、幕府軍と薩摩藩兵と衝突して、戦闘となったのが、鳥羽・伏見の戦いです。しかし朝廷は薩摩・長州藩兵側を官軍と認定して錦旗を与え、幕府軍は



鳥羽・伏見の戦い



徳川慶喜

朝敵となってしまったため、戦局は幕府軍が劣勢に陥ります。更に、淀藩や津藩などが幕府軍から離反したので、慶喜は軍を捨てて大坂城を脱出、軍艦開陽丸で海路江戸へ逃走しました。このようにして、鳥羽・伏見の戦いは幕府の完敗で終幕しました。

新政府は直ちに、徳川慶喜追討令を発して、慶喜・松平容保・松平定敬を初め幕閣など 27 人の官職を剥奪して、京都藩邸を没収するなどの処分を行いました。諸藩に対して兵を上京させるよう命じ、諸外国の代表に対して、徳川方に武器・軍艦の供与や兵の移送、軍事顧問の派遣などの援助を行わないよう要請し

ました。

江戸城西の丸に入った慶喜は、今後の対策を練りました。新政府による徳川征伐軍の襲来が予想されるこの時点で、徳川家の取り得る方策は、徹底抗戦か、恭順かの二つの選択肢しかありませんでした。

陸軍奉行の小栗忠順や、軍艦頭の榎本武揚らは主戦論を主張しましたが、恭順の意思を固めつつあった慶喜はこれを受け入れず、江戸の諸藩主を招集して、恭順の意を伝えて協力を要請しました。

新政府側でも慶喜に対して厳しい処分を断行すべきとする強硬論と、穏当な処分で済ませようとする寛容論の両論が検討されました。薩摩藩の西郷隆盛や大久保利は慶喜の切腹を求めています。東征軍の目的は単に江戸城の奪取だけではなく、徳川家の断絶を要求していました。その一方で、長州藩の木戸孝允・広沢真臣・山内容堂・松平春嶽・伊達宗城らは徳川慶喜個人に対しては寛容論をとらえました。

新政府はすでに東海道・東山道・北陸道の三道から江戸を攻撃する体制を整えて、大総督府参謀には正親町公董・西四辻公業が、下参謀には強硬派の西郷

隆盛と林通頭が補任されました。大総督府の軍議において江戸城進撃の日付が決定されましたが、同時に、慶喜の恭順の意思が確認できれば一定の条件でこれを容れる用意があることも示されました。この頃にはすでに西郷や大久保利通らの間にも、慶喜の恭順が完全であれば厳罰には及ばないとの合意ができていたと思われま

す。幕府軍は次々と江戸から敗走しますが、下野国築田で東征軍と戦って敗れた部隊や新選組の近藤勇・土方歳三らも甲陽鎮撫隊と称して、甲州街道を進撃し、東征軍を迎撃しようと試みましたが、勝沼で東征軍に敗れて、下総流山に転戦しました。

これらの暴発は、陸軍総裁・勝海舟の暗黙の承認や支援を得て行われており、いずれも兵数・装備の質から東征軍には全く歯が立たないことを見越したうえで出撃していました。また、恭順路線に不満を抱いた主戦派を江戸から排除することを目的とする意味もあったと思われま

す。差し迫る東征軍に対し、寛永寺で謹慎中の徳川慶喜を護衛していた山岡鉄舟



勝海舟



山岡鉄舟

が、駿府まで進撃していた大総督府に赴くことになりました。勝は山岡とは初対面でしたが、意気投合して、西郷への書状をしたためました。山岡は駿府へ急行し、西郷隆盛が宿泊する旅館に乗り込んで、西郷との面談を求めました。

すでに江戸城進撃の予定は決定していましたが、西郷は勝からの使者と聞いて山岡と会談を行い、山岡の真摯な態度に感じ入り、交渉に応じました。ここで初めて東征軍から徳川家へ開戦回避に向けた条件提示がなされました。江戸城総攻撃の回避条件として西郷から山岡へ

提示されたのは以下の7箇条でした。

徳川慶喜の身柄を備前藩に預けること。

江戸城を明け渡すこと。

軍艦をすべて引き渡すこと。

武器をすべて引き渡すこと。

城内の家臣は向島に移って謹慎すること。

徳川慶喜の暴挙を補佐した人物を厳しく調査し、処罰すること。

暴発の徒が手に余る場合、官軍が鎮圧すること。

山岡は他の六箇条は受け入れるが、第1条だけは絶対に受けられないとして断固拒否しました。西郷も山岡の立場を理解して折れ、第1条は西郷が預かる形で保留となりました。

山岡はこの結果を持って江戸に帰り、勝に報告しました。西郷も山岡を追うように駿府を発って、江戸薩摩藩邸に入りました。江戸城への進撃を予定されていた日の僅か2日前の出来事でした。

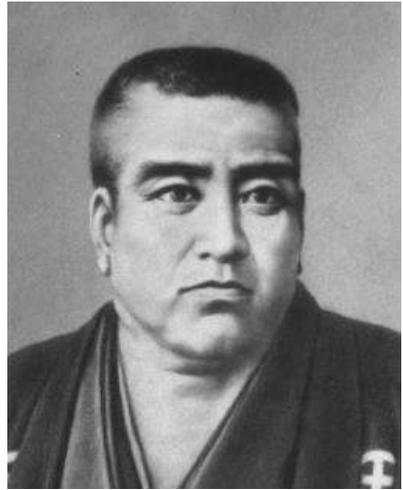
山岡の下交渉を受けて、徳川家側の最高責任者である勝海舟と、西郷隆盛との江戸開城交渉は、薩摩藩江戸藩邸において行われました。

勝と西郷は大坂で面会して以来の旧知の仲であり、西郷にとって勝は、新政権の構想を教示された恩人でもありました。この間に、板垣退助が八王子駅に到着。同じく伊地知正治と岩倉具定も板橋に入って、江戸城の包囲網は完成しつつあり、緊迫した状況下における会談となりました。

しかし西郷は血気にはやる板垣らを抑えて、勝との交渉が終了するまでは厳に攻撃開始を戒めました。

第1回交渉では静寛院宮の処遇問題と、以前山岡に提示された慶喜の降伏条件の確認がおこなわれました。

第2回交渉では、勝から先般の降伏条件に対する回答が提示されました。



西郷隆盛



五稜郭の戦い

徳川慶喜は故郷の水戸で謹慎する。

慶喜を助けた諸侯は寛典に処して、命に関わる処分者は出さない。

武器・軍艦はまとめておき、寛典の処分が下された後に差し渡す。

城内居住の者は、城外に移って謹慎する。

江戸城を明け渡しの手続きを終えた後は即刻田安家へ返却を願う。

暴発の士民鎮定の件は可能な限り努力する。

これは、以前に山岡に提示した条件に対して全くの骨抜き回答であり、事実上拒否したに等しいものでしたが、西郷は勝を信頼して、翌日の江戸城進撃を中止し、自らの責任で回答を京都へ持ち帰って検討することを約束しました。

このようにして、江戸城無血明け渡しが決定的になりました。この日、京都では天皇が五箇条の御誓文を發布して、明治国家の基本方針が示されました。

海軍副総裁の榎本武揚は徳川家に対する処置を不満とし、約束の軍艦引き渡しを断固拒否していましたが、徳川慶喜が寛永寺から水戸へ移った日、抗戦派の幕臣らとともに幕府艦隊7隻を率いて品川沖から出港し、館山沖に逃れました。勝の説得により艦隊はいったん品川に戻り、新政府軍に4隻を渡すことで妥協しました。

その後も再三にわたり勝は榎本に自重を求めましたが、徳川家に対する処分に不服の榎本はこれを聞かず、結局、軍艦8隻を率いて東征軍に抵抗する東北諸藩の支援に向かいました。後に榎本らは函館の五稜郭を占拠し、最後まで新政府軍に抵抗しました。

不満を持つ旧幕臣を中心に結成された彰義隊は、江戸の各地において、新政府軍と衝突を繰り返しました。西郷はその事態を憂慮し説得を続けましたが、

彰義隊は一向に耳を傾けようとはしませんでした。京都の朝廷から派遣されてきた長州藩士の大村益次郎が、上野に結集した彰義隊約 3000 人に対して総攻撃が開始されました。全軍の指揮を執ったのは大村で、西郷は最も激戦地となった黒門口の攻撃を薩摩兵の隊長として担当しました。新政府軍と彰義隊との戦いは、大村の作戦が功を奏し、新政府軍の完全勝利に終わりました。

当時鎖国状態を保っていた朝鮮に対して、日本との国交を促す国書を何回も送りましたが、突き返され、更に、朝鮮に滞在する日本人居留民を侮辱するような文書が流れました。板垣退助は速やかに兵を派遣する征韓論を主張しましたが、西郷は板垣の出兵策に対して、真っ向から反対の意見を述べました。

西郷は、武力で朝鮮を支配するのではなく、使節団を派遣して平和的に解決すべきであると主張し、西郷が正式に朝鮮へ派遣する全権大使に任命されることになりましたが、岩倉具視がこの文書を無視しました。

西郷は政府に辞表を提出して、鹿児島へ帰郷しました。西郷を慕う陸軍少将の桐野利秋や篠原国幹ら旧薩摩藩出身の近衛兵や士官たちは、西郷に付き従うかのように相次いで辞表を提出して、続々と鹿児島に帰郷しました。

西郷は、政治的なことには一切関わらず、温泉に湯治に出かけ、農耕に励み、魚釣りや狩猟に勤しむなど、俗事から離れた生活を始めました。

その後西郷は、鶴丸城の厩跡に私学校を設立しました。砲隊学校・銃隊学校・幼年学校からなる、私立の学校で、鹿児島に帰郷した若者たちの受け皿として教育機関を設立したのです。西郷は、ロシアや欧米列強諸国の軍事的な脅威に備えるため、軍隊の養成機関とも言える私学校を設立し、いざ日本に国難が迫った際には、そこで育てた人材や兵士を活用させることを考えていました。

政府にとって、明治維新最大の戦力となった旧薩摩藩士族の動きは最も気にかかる場所であったため、西郷が創設した私学校の動きを監視するために、密偵を送り込んで、西郷暗殺を計画しました。これを知った一部の志士が、陸軍の火薬庫を襲撃したことが発端になって、西南戦争が始まりました。

西郷は約 13000 名の旧薩摩藩士族を率いて反抗しました。熊本城を幾重にも包囲して激しい攻撃を加えましたが、天下の名城と謳われた熊本城をついに陥落させることが出来ず、田原坂や吉次峠などで激しい戦闘を繰り広げました。

しかし、圧倒的な兵力と物資を誇る政府軍に対し、薩軍の敗戦は濃厚となり、追い詰められていきました。

薩軍は和田越における決戦で大敗を喫したので、正式に軍を解散し、生き残った薩軍将兵らと共に鹿児島に向かって引き返しました。

故郷鹿児島で最後の決戦を行なおうと考えたのです。峻険な城山を占領し、土塁を積み上げ、陣地を作り上げました。政府軍もまた、兵士を増強し、城山を幾重にも包囲しました。政府軍は総攻撃を始め、城山に向けて集中砲火を浴びせかけました。

一発の銃弾が西郷の体を貫き、その場ががっくりと膝を落としました。西郷は切腹し、傍らにいた別府晋介が介錯をして、幕末最後の戦い西南の役は終わりました。

大久保利通は、京都には旧弊が多いとして大阪遷都論を政府へ提出し、木戸もこれに強く賛同していましたが、これには公家などから反対が多く、遷都論は燻り続けていました。そんな中、江戸城が無血で新政府の管轄に入ったことは、遷都先として江戸が急浮上することに繋がりました。



西南戦争 城山の戦い



年号が明治と改元され、明治天皇が東京行幸に出発して江戸城に到着されました。同時に名を東京城と改められ、東京行幸の際の皇居と定められました。この後、再度の東京行幸が行われると共に、首都機能が京都から東京へ次々と移転されて、事実上、東京が首都と見なされるようになり、東京城はやがて宮城と呼ばれるようになりました。

明治時代



明治天皇

安政五年、当時の幕府はアメリカ・イギリス・フランス・ロシア・オランダと通商条約を結んで正式な国交を持つようになりました。

開国に当たって、列強諸国が日本に押し付けた**不平等条約**は、輸出国の承認なしには関税の変更ができないこと、犯罪人に対して日本の法律が適用できない治外法権でした。

治外法権が撤廃されたのは、日清戦争後であり、不平等関税が撤廃されたのは日露戦争後のことです。

初期の日本の近代化はイギリスの影響を大きく受けましたが、明治の後半からは、憲法、哲学、経済、医学、法

律などの殆どの文化はドイツの影響を受けました。

1868年、明治天皇は公家や諸侯に対して、**5箇条の御誓文**を示して、明治新政府の方針を明文化しました。これは、近代日本の指針となった重要な声明です。

- 広く会議を興し、万機公論に決しべし
- 上下心を一にして、盛んに経論を行うべし
- 官武一途庶民に至る迄、各基志を遂げ人心をして倦まさらしめん事を要す
- 旧来ノ陋習を破り天地の公道に基くべし
- 智識を世界に求め大いに皇基を振起すべし



鹿鳴館

ヨーロッパ風の社交場として、鹿鳴館が作られたのは、日本の文化が高いことを示して、不平等条約を無くすための方策だったと言われていいます。

北方領土はその帰属を、日本とロシアで争っていましたが、1875年に交渉の結果、樺太はロシアの領土、千島列島は日本の領土になることで決着しました。

1877年には、征韓論を巡って、日本最後の内乱と言われる西南戦争が起こって、明治維新の英雄・西郷隆盛が自刃しました。

日本が欧米並みの先進国であることを示すために作られたのが、1889年に発布された明治憲法であり、その草案を作ったのは伊藤博文です。

当初参考にしなかったのは議会制民主主義が根付き、日本と同様に王室が存在するイギリスでしたが、イギリスには憲法が存在しませんでした。フランスやアメリカは共和制なので参考になりません。オーストリア、ドイツに目をつけて、最終的にはドイツが併合したプロセイン憲法を基本に、日本的な伝統を付け加えて明治憲法が作られました。

日本は東アジアで初めて近代憲法を有する立憲君主国家となりました。また同時に、皇室の家法である皇室典範も定められました。

明治憲法をより身近なものにするために作られたのが教育勅語です。その全文を暗唱し、それを実践することが当時の義務教育の役割でした。

教育勅語が説くのは日本人の伝統的価値観であり、万世一系の皇室を尊重し、国の繁栄に寄与し、親を大事にし、友人や配偶者と仲良くし、身を謹んで学業に励み、人格を修養することが述べられています。表現が伝統的であり、古風であることを除けば、現在でも通用する内容です

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ
徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克
ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セル
ハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實
ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦
相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及
ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器
ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲
ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉
シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ
ハ獨リ朕力忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ
爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫
臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬
ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ
拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

教育勅語

我が国の先祖が国を創ったのは、遙か昔のことです。爾来、徳を以て国を治め、国民は国に忠節を尽くし、孝行に励み、国民が一致協力して、世代を超えて美德を重ねてきたことは、我が国の精華であり、教育の根源でもあります。国民は、父母に孝行し、兄弟は仲良くし、夫婦は円満に、友人はお互いに信じあい、人に対して慎み深く、博愛の手を差し伸べなければなりません。学問を修め、事業に勤しむことによって、能力を開発し、人徳と才能を磨き、公共の利益や義務を果たし、常に憲法を守って法律を遵守しなければなりません。有事の事態には、正義の心を以て公のために奉仕し、国体を保持しなければなりません。これは、国に忠節を尽くす善良な国民であることだけではなく、先祖が残した美風を踏襲することでもあります。これらの遺産は、我が国の先祖が残した教訓であり、その子孫である国民が共に、守っていかねばならないことであり、時代や国の内外を問わず順守すべき真理です。私はあなた方国民と共に、この教えを心にしっかり受け留めて、その美德を守ることを、切に願っています。

田中 毅 口語訳



日清戦争

明治憲法発布と同時に、最初の選挙が行われて、議会が招集されました。投票できる人は、直接国税 15 円以上を収めた 25 才以上の男性に限られていましたので、全人口の 1%でした。日本に、民意を反映した本格的な政党内閣を作ったのは原敬ですが、反対派の刺客

によって、東京駅で刺殺されました。

文明開化を視察するために欧米諸国を訪れた、岩倉具視、木戸孝允、伊藤博文たちが最も力を入れたのが、富国強兵政策です。

日本は武士の国でありながら、軍事力が欧米諸国からかなり遅れていることが分かりました。富国強兵を実現するために生まれたスローガンが殖産興業でした。そのために最初に作られたのが、富岡製糸場であり、アメリカへの主要な輸出品である生糸が生産されました。産業を振興し軍事力を高めて、1894年に挑戦したのが、清国の朝鮮植民地化を恐れた**日清戦争**でした。

日本と結んで国内改革を進めようとする朝鮮の改革派が、クーデターを起こしましたが、清国軍の出動によって失敗しました。日本は清国と天津条約を結んで、武力衝突を避けようとしませんが、大規模な農民の反乱が起疑ったことを契機に、清国はその鎮圧を理由に出兵しました。日本は天津条約違反だという理由で、清国に宣戦を布告し、日清戦争が始まりました。

眠れる獅子と言われていた清国に対して、近代化していた日本軍は圧倒的に優位な戦いを進めました。

海軍は北洋艦隊を撃破し、陸軍は清国軍を朝鮮から一掃して、遼東半島や山東半島まで制圧しました。

下関条約によって、朝鮮の独立、台湾と澎湖諸島と遼東半島の割譲、賠償金

3 億円を得ました。この結果、日本は海外に植民地を持ち、大陸進出の足場を築くこととなりましたが、満州に深い利害関係を持つロシアは、日本の進出を警戒して、ドイツ、フランスの**三国干渉**によって、遼東半島は清国に返還することになりました。

大規模な対外戦争を初めて経験したことで、国家としての意識が高まると共に、経済が飛躍的に発展しました。また戦後、財政と公共投資が膨張することによって、積極的な国家運営に転換すると共に、懸案であった各種政策の多くが実行され、産業政策や金融制度や税制体系などの原型が作られました。

1901 年、清国から得た賠償金を使って、八幡製鉄所ができました。鉄鉱石は清国から運び、北九州には多くの炭鉱がありました。

日本の近代化に大きな役割を果たしたのは、官僚でした。当初の高級官僚は薩長両藩出身者が大きな比重を占めていましたが、官僚制の整備を進めるために、文官任用令などを定めて、試験に合格した大学卒業者を官僚として採用するようになりました。そのための大学が東京帝国大学であり、その傾向はいまだに続いています。

日露戦争

列強の支那大陸における分割植民地化が進み、特にロシアは満州の鉄道施設権を得て満州全体を支配下に置き、更に朝鮮半島へ進出する準備を整えました。

1902 年に、対ロシア政策の一環として、日本の立憲君主制と軍事力を高く評価したイギリスと、**日英同盟**が締結されました。

ロシアは朝鮮半島内に兵を進めてきたので、ロシアは満州の利権を、日本は朝鮮の利権を認めるように提案しましたが、この案は一蹴されました。

1904 年 2 月 6 日の国交断絶、日本海軍の旅順攻撃、陸軍の仁川上陸によって、日露戦争が開始されました。

ロシア国内では圧政に対する民衆の反対運動、共産主義革命が起こっていて、対日戦争に専念できる状態ではありませんでした。

日本は軍事的に優位な状態で戦争を展開しました。

陸軍は数か月に及ぶ203高地における攻防戦の結果、東洋一の難攻不落と言われた旅順を陥落し、日本海側の制海権を手中にして、奉天にまで兵を進めました。更に樺太全島を占領しました。



203高地の激戦



日本海海戦

海軍は日本海海戦において、7ヶ月かけてヨーロッパから回航してきた、世界最強と言われた、バルチック艦隊を全滅させて、戦争を優位に導きました。日本連合艦隊の損害は、水雷艇3隻のみでした。

日本も巨額の戦費を捻出するためにアメリカや同盟国イギリスから外国債を募集しており、これ以上戦争を続けると財政的に破綻する状況でした。そこで、日本海海戦で勝利を収めた直後、日本政府は正式にアメリカのセオドール・ルーズベルト大統領を通じて、和平の仲介を依頼しました。ポーツマスで開催された講和会議の結果、次のような結論が出されました。

- ① 日本の朝鮮におけるあらゆる権限を承認する。
- ② 旅順、大連の租借権
- ③ 旅順から長春までの鉄道とそれに付属するあらゆる権利の譲渡
- ④ 北緯50度以南の樺太の割譲
- ⑤ 沿海州とカムチャッカの漁業権

⑥ 満州からのロシア軍の撤退

⑦ ロシアの賠償金を免除

しかし、日本にこれ以上戦争を続ける財政的能力がないことを知らされていなかった国民の不満は大きく、「屈辱的講和反対」「戦争継続」を叫ぶ暴動が各地で発生しました。政府は戒厳令を出すと共に軍隊を出して鎮圧を図りました。

日露戦争によって、朝鮮は日本の保護国になりましたが、朝鮮はあらゆる手段を使ってそれを妨害し、初代統監に就任した伊藤博文の暗殺事件にまで発展しました。

1910年、朝鮮総督府を設置して、正式に朝鮮を日本の植民地にしました。

日本は1906年旅順に關東都督府を置くと共に、半官半民の南満州鉄道株式会社を設立して、南満州の経営を進めていきました。ドイツとの対立を強めたイギリスは、日英同盟の期間を延長すると共に、その適用範囲をインドにまで拡大し、更にイギリスは日本の朝鮮の支配権を承認しました。

アメリカが日露戦争で日本に好意的立場をとり、講和を仲介したのは、ロシアが満州を独占的に支配することを警戒したためでした。戦後、日本の南満州への進出が盛んになると、満州の鉄道に関心を持つアメリカとの対立が芽え始めました。日露講和条約締結直後の1905年、アメリカは長春・旅順間の鉄道を日米共同経営とすることを提案しましたが、日本政府はこれを拒否しました。その後も、アメリカは満州に対する門戸開放を唱えて、1909年には、満州における列国の鉄道権益を清国に返還して、共同管理することを提案しましたが、日本とロシア両国が反対したため、この提案は実現しませんでした。

日露戦争に勝利をおさめた日本が大陸へ勢力を広めたことは、アメリカから、新しい競争相手の出現として警戒され、満州の鉄道権益や日本人のアメリカ移民問題などを巡って、対立が芽え始めました。

アメリカは17世紀初頭に、迫害を逃れてイギリスから、大西洋を渡って東海岸に上陸した清教徒によって築かれた国です。アメリカの建国者たちは、北アメリカの大自然を、神が自分たちに与えたものと考えました。原住民のインデ

アンは人間ではなく、単に人の形をした動植物の一部としか考えませんでした。インディアンはできるかぎり早く、駆除すべき害虫と変わらない存在であり、清教徒が東海岸に到着した時に、北アメリカ大陸にいた300万人のインディアンは、19世紀には30万人にまで減りました。

アメリカでは入植した当初から、黒人奴隷を使役していましたが、奴隷解放宣言が発せられるまで、700万人以上の黒人奴隷がアフリカから拉致されて酷使されました。インディアンは従順でなかったため奴隷として適しませんでした。黒人は牛馬より寿命が長かったし、従順で安価に売買可能でした。1960年代の半ばまでは、奴隷は私的な所有物であり、婚姻することは許されませんでした。殺しても、強姦しても罪に問われることはありませんでした。

アメリカにおける奴隷制度が完全に終結したのは、僅か20年前の、1995年ミシシッピ州憲法によってです。

ハワイのアメリカ植民地化は、日本と大きな関りがありました。1881年、カラカウア王が来日し、明治天皇と会見しました。アメリカの政治的経済的侵略に危機感を抱いていた王は、カイウラニ王女と山階宮との結婚によってハワイ王朝と日本の皇室との間の関係強化を要請しましたが、アメリカとの関係悪化を懸念する日本政府がそれに応じませんでした。1891年にリリウオカラニ女王が即位して、アメリカとの不平等条約を撤廃する動きをみせると、アメリカ人の民兵組織はクーデターを起こして、王政を打倒して、女王をイオラニ宮殿に軟禁しました。この時、日本は国王派から依頼を受け邦人保護を理由に軍艦2隻をハワイに派遣し、ホノルル軍港に停泊させてアメリカを威嚇しました。女王を支持する先住民らは涙を流して歓喜したといわれています。もし日本が侵略国ならば、この時点でハワイを日本の領土にすることは可能でした。

アメリカでは黒人奴隷制が廃止されたため、それに代わる安価な労働力として支那人移民が歓迎されました。1860年代の大陸横断鉄道建設が始まると、多くの支那人が労働者として酷使されました。現在でも、シアトル近郊にはノー

ザンバシフィック鉄道で働いた大勢の支那人移民の子孫が生活しています。

経済不況下で、低賃金で働く支那人労働者の存在は、白人労働者の反発を招くようになり、支那人移民排斥運動に発展しました。

白人の支那人に対する人種的な差別、攻撃はたびたび暴力的になり、多くの犠牲者が出ました。労働組合も支那人労働者の排斥を強く訴え、組織的な支那人排除の動きは、しばしば残虐な殺人にも発展しました。これらの運動の結果、アメリカは、1882年に支那人労働者移民排斥法を議決しました。

これと入れ替わりに、日本人の移民が始まりました。最初の移民は、1869年カリフォルニア州に入植した旧会津藩士たちだと言われています。その後、一般の移民も始まり、鉱山・鉄道敷設・道路建設・農場などの労働者として働きました。

日本人移民は勤勉で長時間労働を厭わなかったので、白人労働者の地位を脅かし、アメリカ人社会に溶け込めず、日米摩擦の原因となりました。

カリフォルニア州の日本人移民排斥運動は、1890年代から始まりましたが、日露戦争の頃になると、アメリカ全体に広がり、1906年にはサンフランシスコで、日本人の学童が公立学校への通学を一時禁止される事件が起こり、その後、日本人の土地所有が禁止されるなど排日気運が高まって、1924年には新移民法が成立して、日本人移民のアメリカ全土への入国は禁止されました。

急激に国力と存在感を高めた黄色人種国である日本への、人種差別感情が強くなっていきました。

真珠湾が攻撃されて戦争が始まると、ルーズベルト大統領行政命令によって、12万人以上にのぼるアメリカ国籍を持つ日系アメリカ人が、敵性国人として、それまで汗水流して築いた財産をすべて没収されたうえで、身の回りの物だけ持って、全米の僻地に設けられた強制収容所に送り込まれた。

これは、典型的な人種差別であり、同じ敵国であったドイツ系、イタリア系などの白人は全く収容されることがありませんでした。White Anglo-Saxon Protestant WASP でなければ人に非ずというアメリカ人の人種差別感は今も健在です。

さて、日本国内においては、1880年代になると、政府の殖産興業政策の下で、民間にも次第に近代的な産業が起ってきました。綿糸を生産する紡績業は、1882年に財界の有力者や華族などによって大阪紡績会社が設立されたのを始め、次々に大規模な会社が作られ、蒸気力を原動力とした機械による大量生産が行われました。1891年から10年間で綿糸の生産高は約4.5倍に増え、イギリスの綿糸と競争しながら清国や朝鮮に輸出されて、1897年には、輸出高が輸入高を上まわるようになりました。日本の生糸は輸出の花形となり、アメリカ市場でもイタリアや清国の生糸との競争に勝利を収め、外貨の稼ぎ頭の商品となりました。このようにして日本では、1900年頃までに、紡績業・製糸業などの軽工業部門で産業革命が達成されました。

軽工業に比べて重工業の発展はかなり遅れており、鉄は輸入に頼っていました。そこで政府は巨費を投入して、官営の八幡製鉄所を建設して、1901年に、東洋一と言われた溶鉱炉に火が入れられ、日露戦争後には生産が軌道に乗りました。1901年から1913年の間に国内の鉄の生産高は、銑鉄が約4.5倍、鋼鉄は約10倍に急増したが、それでも激増する鉄の需要を満たすことはできませんでした。

また、三菱長崎造船所などを中心に、造船業の発展も本格的になり、10000トン級の大型鉄鋼船の建造ができるようになって、重工業の面でも急速な工業化を進めていきました。

延びる鉄道産業の発展と共に、交通も目覚ましい発達を遂げました。帝国議会の開設に間に合うように政府の手で建設が進められていた東海道線が、1889年には全通し、1891年には、上野・青森間が日本鉄道会社により開通して、1890年代には民間会社による鉄道敷設が盛んにおこなわれました。やがて政府は、鉄道経営の全国的統一と軍事利用の必要から、1906年に鉄道国有法を制定して、全国の主な鉄道を国有化しました。また、京都・名古屋・東京などの大都市で次々と市街電車が開通して、市民の足として親しまれるようになりました。このような交通機関の発達によって、人と物資を短時間に大量に輸送することができるようになったのです。

第1次世界大戦

日露戦争が勝利した結果、満洲における鉄道や鉱山開発などの権益が日本へ引き渡され、更に南樺太は日本の領土になりました。

1910年の日韓併合の結果、朝鮮半島も日本の領土になりました。

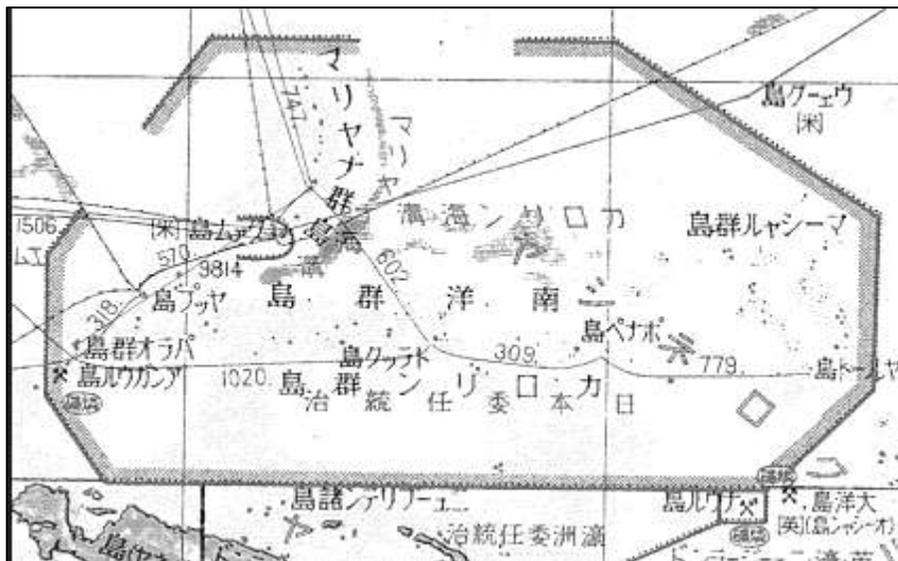
日露戦争後、東アジアの強国となった日本は、陸軍を25師団に、海軍を戦艦8隻、巡洋戦艦8隻にするという軍備拡張の計画を立てました。

ヨーロッパでは国家統一を実現したドイツ帝国が急速な発展をとげ、イギリスに対抗して中近東に進出を図り、大規模な海軍拡張計画を推し進めてイギリスを脅かしました。イギリスは日英同盟、英仏協商、英露協商を結んで、ドイツに対する包囲体制を作りました。これに対してドイツは、イタリア、オーストリア、ハンガリーと三国同盟を結んで軍事協力を深めました。

1914年、ボスニアの首都サラエボを訪問中のオーストリア皇太子が、セルビア人によって暗殺された事件は、全ヨーロッパを戦乱に巻き込みました。ドイツ・オーストリア・ブルガリア・オスマン帝国の同盟国と、イギリス・フランス・ロシア・セルビア・イタリアの連合国との間で第1次世界大戦が始まりました。日本は日英同盟に従って、連合国陣営に加わり、日本陸軍は東アジアにおけるドイツの重要な根拠地である山東省の青島を、海軍はドイツ領の南洋諸島を占領して、ドイツの勢力を東アジアや太平洋から一掃しました。また連合国の要請で、日本の艦隊が地中海に出動してドイツ海軍と交戦しました。

1917年のアメリカの連合国側への参戦によって、戦局は大きく変化し、ドイツとオーストリアの帝政は崩壊して第1次世界大戦は終結しました。

日本は戦勝国として、赤道以北の南洋諸島が委任統治領となり、山東省におけるドイツの権益を継承しました。



日本の委任統治領

第1次世界大戦によって、ヨーロッパ諸国から東アジア市場への輸出が減少し、代わって綿糸・綿織物などの日本の商品が市場を独占するようになりました。アメリカ経済の好況を反映して、アメリカ向けの生糸の輸出も増大しました。世界的に船舶需要が激増したため、それに応じて造船・海運業が飛躍的な発展を遂げました。中小海運業者の中には、このブームで巨万の利益をあげた船成金が続出しました。この結果、日本の造船量はアメリカ・イギリスに次いで世界第3位となりました。薬品・肥料などの分野では国産化が進み、化学工業も発展しました。また水力発電による電力事業が発達し、工業原動力の電化が進みました。好景気の中で工業生産額は農業生産額を上まわり、輸出は増大して、国際収支は大幅な黒字になりました。

現代

大正・昭和・平成時代

1920年頃からアメリカにおいて、日本人移民に対する市民権剥奪や WASP (White Anglo-Saxon Protestant) 以外の移民を制限するための有色人種移民法が成立しました。排日色が明白であったため、日本政府は抗議の提案書を米政府に提出し交渉を続けましたが、退けられました。

国内においても、第1次世界大戦の戦後恐慌が発生して、株式市場の暴落に端を発し、綿糸・生糸相場が半値以下に下落しました。

第1次世界大戦で大きな痛手を負った欧米諸国は、軍備拡張が各国経済を圧迫し、また戦争を誘発することから、世界的な軍縮を呼びかけました。1922年、ワシントン海軍軍縮条約によって、主力艦保有比率をアメリカ・イギリス各5、日本3に制限。主力艦建造を10年間禁止にしました。



関東大震災

1923 年に関東大震災が発生し、死者・行方不明者 10 万人以上、全壊・流失・全焼家屋 57 万戸という大災害を起こしました。火災は地震発生時の強風に煽られて起こった火災旋風を引き起こしながら広まり、旧東京市の約 43%を焼失して、40 時間以上燃え続けました。火災による被害は全犠牲者中、約 9 割に上ります。東京市内の建造物の被害としては、凌雲閣が大破し、建設中だった丸の内の内外ビルディング、大蔵省・文部省・内務省・外務省・警視庁など官公庁の建物や、帝国劇場や日本橋三越本店などの文化施設や商業施設の多くが焼失しました。

1925 年に普通選挙法が成立して、25 歳以上の男子が納税額に関わらず選挙権を持つようになりました。

1927 年ころから金融恐慌が発生し、銀行の不良経営状態が暴かれたことがきっかけで、取り付け騒ぎが起り、銀行の休業が続出しました。

1929 年、ニューヨークのウォール街で始まった株価暴落に端を発した世界大恐慌によって、日本も深刻な昭和恐慌に陥り、東北地方を中心に農家は特に厳しい状況に置かれました。同年成立した浜口内閣は、財政健全化を指向し、軍縮に前向きでした。主力艦建造禁止が 5 年延長され、日本の補助艦総トン数は、アメリカ・イギリスの 7 割に制限されました。ロンドン軍縮会議で、海軍軍令部の反対を押し切って、条約に調印したことに対して、天皇の専権事項である兵力量を、天皇直轄である軍令部の了承を得ずに勝手に決めたことは統帥権の干犯に当たり、憲法違反であるとして、野党や右翼勢力から厳しく追及されました。浜口首相は軍縮会議後、右翼青年に襲撃され、翌年命を落とします。世界的な軍縮の動きに対し、日本国内では軍部や右翼勢力を中心に、政府への不満が高まっていきました。

1931 年に、日露戦争によって日本が權益を得、更に第 1 次世界大戦によってその權益が延長されていた、南満州鉄道の柳条湖が爆破されたことを契機に満州事変が起りました。

1932 年には、満州国が建国宣言を行い、愛新覚羅溥儀が皇帝に擁立されました。



満州国建国

中国は、満州国は日本の傀儡政権だとして、独立は無効だとして国際連盟に訴えましました。国際連盟はリットン調査団による査察を行って、中国の言い分を認めたため、日本は国際連盟から脱退して、国際的に孤立しました。

満州国は満州、支那、朝鮮、蒙古、日本を表す五色の国旗に象徴されるように、列強の植民地を開放して東洋人に取り戻す目的で建国したのですが、その言い分は聞き入れられませんでした。

新しい植民地の開拓を目指して、多くの日本人が満州に渡りました。

1937年に、盧溝橋事件が起こり、それは支那事件に発展して、ずるずると拡大して行きました。日本軍は南京まで進攻しましたが、その一方で日本を取り巻く国際情勢は、ますます悪化して行きました。

当時、欧米列国は、東南アジアのほとんどの国を植民地化しており、後発国の日本が割り込む余地は、第1次世界大戦で権益を得た、支那大陸しかありませんでした。

第2次世界大戦

1939年、ヨーロッパで第2次世界大戦が始まり、1940年には、日独伊三国同盟が締結されましたが、日本は隠忍自重して、参戦しませんでした。

イギリスのチャーチル首相とアメリカのルーズベルト大統領は、オランダと支那に働きかけて、ABCD包囲陣によって日本を経済封鎖し、鉄鉱石や石油の輸入を完全に遮断しました。

政府も軍部も、アメリカと戦うことを、まったく望んでいませんでした。戦争を回避しようとして、開戦の直前まで、何回も日米首脳会談を提案しました

が、ルーズベルトはそれに応じませんでした。

ルーズベルトは、祖父が清朝末期に阿片貿易によって巨万の富を築いて、香港に豪邸を持っており、支那の高価な美術品に囲まれて育った関係から、支那に愛着を持っていました。大統領になってからも、巨大な支那市場を夢みて、支那に好意を寄せていました。彼の眼には、日本は伝統文化を守って、キリスト教文明に同化することを拒み、アメリカに媚びることがない異質な国に見えたのでしょう。

1941年1月には、すでに暗号傍受によって、日本側に真珠湾攻撃の計画があることを知って、駐日大使グルーからハル長官に報告がっていました。

ルーズベルト政権は、国際法を犯しながら、支那に対して惜しみなく、援助資金と兵器、軍需物資を注ぎ込みました。落介石総統とその宋美齡夫人がキリスト教徒だったために、キリスト教国である支那が、異教の日本によって侵略を被っているとみなしたとされています。

1941年4月に、アメリカ陸軍航空隊のクレア・シュノルトを中華民国空軍航空参に任命したルーズベルト大統領は、フライング・タイガース戦闘機部隊に自主的に志願するように命令を出し、1941年7月23日、蒋介石政権に新型のボーイング B17 大型爆撃機を供与して、支那機に偽装したうえで、アメリカ

の退役軍人や民間人のボランティアを搭乗させて支那の航空基地から発進し、日本を爆撃する「JB No.355」計画に署名しました。

1970年にABC テレビ 20/20 で公開された「JB No.355」によると、1941年10月1日に、蒋介石政権に150機のB17爆撃機と、350機の戦闘機を供与して、ビルマのラングーン飛行場まで運び、そこから、東京、横浜の産業地域と、神戸、京都、大阪に奇襲爆撃を加えることになっていました。



JB No.355

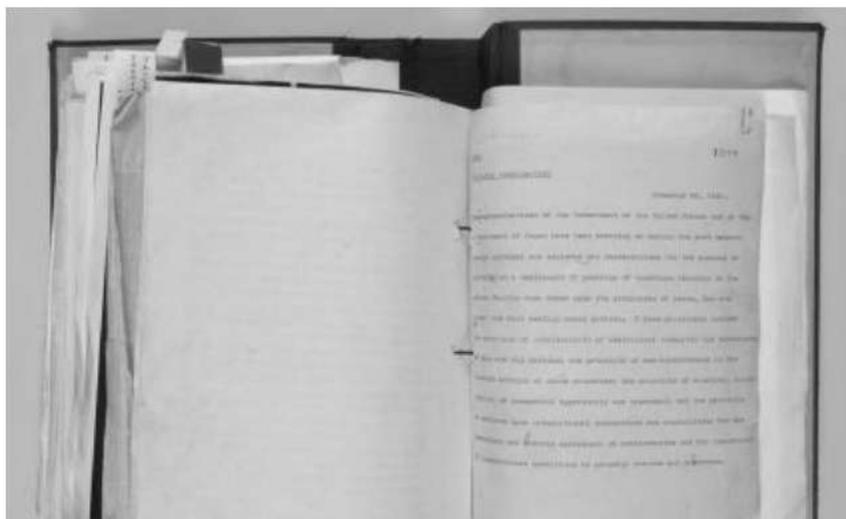
ところが、この日本本土奇襲爆撃作戦は、フランスがドイツに降伏して、イギリスが孤立したために、大型爆撃機をイギリスに急いで回さなければならなくなったために、支那での活動が不可能になって、結局実施されませんでした。



ちなみにこの部隊はカーチス P-40 とボーイング B-17 による航空隊で、現在の貨物航空機会社フェデックスの前身です。

ルーズベルト大統領は日本と戦うことを決めていたので、日米交渉が妥結することを望んでいませんでした。日本政府はアメリカも日本と同じように平和を望んでいるものと思い込んでいたのが誤算でした。

日本政府と日本大使館でやり取りされる全ての情報は、同時にアメリカ側に傍受解読されていましたから、日本から小出しに出される提案は全て拒否されました。



ハル・ノート

アメリカは11月26日に、それまで日米の交渉によって積み上げてきた、合意の一際を否定する、「ハル・ノート」を日本に突き付けました。

ハル・ノートには、支那大陸や仏印からの即時撤退、日独伊三国同盟の破棄、支那の反日蒋介石政権の承認等々、日本が受諾できない要求ばかりが書き込まれた最後通牒でした。

「合衆国政府及日本国政府の採るべき措置」

- イギリス・中国・日本・オランダ・ソ連・タイ・アメリカ間の多边的不可侵条約の提案
- 仏印（フランス領インドシナ）の領土主権尊重、仏印との貿易及び通商における平等待遇の確保
- 日本の支那（中国）及び仏印からの全面撤兵
- 日米がアメリカの支援する蒋介石政権（中国国民党重慶政府）以外のいかなる政府も認めない（日本が支援していた汪兆銘政権の否認）
- 英国または諸国の中国大陸における海外租界と関連権益を含む1901年北京議定書に関する治外法権の放棄について諸国の合意を得るための両国の努力
- 最恵国待遇を基礎とする通商条約再締結のための交渉の開始
- アメリカによる日本資産の凍結を解除、日本によるアメリカ資産の凍結を解除
- 円ドル為替レート安定に関する協定締結と通貨基金の設立
- 日米が第三国との間に締結した如何なる協定も、太平洋地域における平和維持に反するものと解釈しない（日独伊三国軍事同盟の実質廃棄）
- 本協定内容の両国による推進

大きな犠牲を払って、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦で克ち得た全ての利権を放棄して、明治維新直後の日本に戻れという、長年続いた排日運動の

総仕上げとも思われる屈辱的な内容でした。

何とかして日米交渉を円満理に進めたいと考えていた日本も、交渉継続を断念せざるを得ない最後通牒でした。

日本政府は12月1日の午前会議で、今まで和平交渉を唱えられていた昭和天皇も口を閉ざされ、連合国との開戦が決定しました。資源という生命線を絶たれた上に、大和民族としての尊厳を傷つけられた日本は、太平洋戦争に突入せざるを得ませんでした。



空母 赤城より出撃

1941年12月8日、日本の連合艦隊はアメリカ海軍の基地、ハワイの真珠湾を攻撃して、アメリカ太平洋艦隊に大打撃を与えましたが、たまたま、米空母が湾内にいなかったことが、後半戦におけるアメ

リカを優位にさせる原因になりました。

開戦の30分前に米国務省に国交断絶の通告を渡すことになっていましたが、ワシントンの日本大使館の怠慢によって、それが55分遅れてしまいました。

ルーズベルト大統領はこのミスを最大限利用して、日本は宣戦布告なしの奇襲攻撃をした卑劣で悪辣な国



真珠湾攻撃

であると国内向けにプロパガンダすることによって、排日感情を煽りました。

タイはこの戦争において日本側に付いて、米英に対して宣戦布告をしています。緒戦における日本軍の進撃は、連戦連勝と目覚ましいものでした。日本軍は開戦と共に、イギリスが「東洋の真珠」と誇った香港をたちまち攻略し、イギリスの支配下にあつたマレー半島、シンガポール、インドネシア、アメリカが統治していたフィリピン、オランダの植民地だったビルマを開放しました。



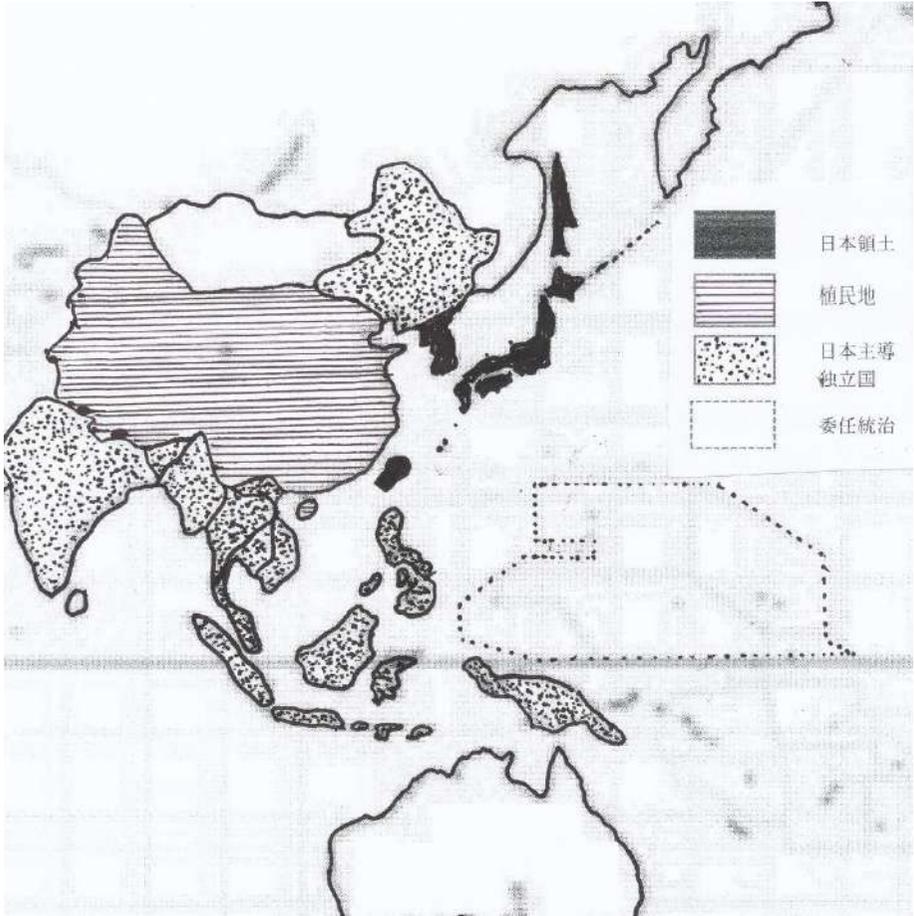
シンガポール陥落

色が違うために辱められてきた人々が、日本の働きによって、重鎖から解き放たれて、前途に眩い光を見ることができました。抑圧された有色人種が覚醒するなかで、アメリカ、イギリス、オーストラリア当局が狼狽えて、有色の活動家たちの取り締まりを強化したり、

有色の人々を懐柔するために、慌てて人種差別政策を緩和することを強いられました。日本軍の進攻によって、数世紀にわたった白人の優位が打破されたことは、まさに驚天動地の出来事でした。

日本は、アジア人を兄弟としてみなしたのです。日本の占領地域では、日本の将兵が、同じアジア人に対して思い遣りをもって、対等に接しました。支那人が打算的で、白人に媚びていたのに対して、日本が毅然として、白人と対決してきたことは、高く評価されました。

歴史には、「もしも」という仮定を持ち込むことはできません。しかし、シンガポール陥落直後に持ち込まれた、停戦案に日本が同意していたら、どうなっていたかを、想像することも自由です。



台湾と朝鮮と千島列島と南カラフトと当時日本が委任統治していた南洋諸島に加えて、アリューシャン列島とハワイは日本の領土になっていたはずですが。

さらに満州国というバッファーを置いて、支那は日本の植民地に、そしてインド、ベトナム、マレーシア、ボルネオ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、タイ、パプアニューギニアなどの東南アジアの諸国は日本の支援を受けて独立国になっていたはずですが。当時の日本の国策であった大東和共栄圏が完成して、世界最大の排他的領海を有する海洋国家になっていたのです。

1943年11月5日に、帝国議会議事堂において、日本の戦争目的を世界と後世へ向けて宣明するめに、大東亜会議が開催されました。日本の東條英機首相、中華民国国民政府行政院長の江兆銘、タイのワンワイタヤコン首相代理、満州国の張景恵國務総理、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モウ首相、自由インド仮政府のチャンドラ・ボース主席が一堂に集り、アジア諸国の独立について話し合いました。日本はこの年8月にビルマと、10月にフィリピンを独立させていました。更に、オランダ領東インド諸島として知られていたインドネシアは、日本の指導下で独立へ向けて、教育、行政制度の整備や、将来の国軍の訓練などの準備が着々と進められていました。

第二次世界大戦時の、東南アジアにおけるイギリス、アメリカ、オランダの植民地において、日本が連戦連勝したのは、日本軍がアジアを支配するために、原住民を侵略したのではなく、アジア諸民族を、欧米の帝国主義から解放して独立に導くためだったので、現地の人々の協力を得られたからです。

日本は植民地となっていた人々に教育を施し、軍事訓練を行い、独立の手助けを行いました。日本軍に支援されて、インド国民軍総司令官となったチャンドラ・ボースは、「日本はアジアの希望の星」と語り、日本に深く感謝しました。

マレーシアもシンガポールも同様でした。日本軍がマレー半島を南下して、シンガポールへ向かう途上、日本の諜報部隊が、イギリス軍のインド兵に脱走するように呼びかけたところ、インド兵が次々と投降し、日本軍に協力したいと申し出て、その数は45000人を超えました。

彼らを中心にインド国民軍が結成され、日本軍と協同して、ビルマからインド東北部のインパールを目指して進撃しました。日本が戦争に敗れると、イギリスはインパール作戦を戦ったインド国民軍反乱軍として、裁判にかけましたが、インド全土の民衆が憤って、数百万人がインドの街頭を埋め尽くしました。イギリスはスピットファイアー戦闘機を飛ばして、上空から群衆に機銃掃射を加えて、鎮圧を試みたが、混乱は収まらず、止む無くイギリスはインドの独立を認めざるを得ませんでした。インパール作戦は、日本にとって作戦上は惨憺たる失敗に終わりましたが、インドは独立するという目的を達成しました。

インドネシアは、日本が降伏した二日後に独立を宣言しました。日本が敗れると、オランダ軍がインドネシアを再び植民地にしようとして、イギリス軍の援助を受けて攻撃してきました。インドネシア独立軍は30000人にのぼるペタ出身者が中核となって応戦しました。当時インドネシアに残留していた2000人近くの日本兵が、祖国に復員せずに、インドネシア人と共に独立戦争に加わりました。

日本の敗戦後、東南アジアからインドに至るまで、大戦中に日本に協力した人々が裁判にかけられたり、処刑を受けたことは一度もありませんでした。もし日本が東南アジアの諸国を侵略するための戦争をしていたなら、このようなことはありえません。インドネシアでも、インドでも、ミャンマーでも、戦後、対日協力者は民族の功労者となりました。フィリピンでも、初代のラウレル大統領、アキノ大統領の一家も、対日協力者でした。

日本はアジアを解放することによって、アジアに恒久的な平和を確立することを願っていました。日本の多くの青年たちが、人種差別撤廃の大義を信じて、戦野に果てていきました。

日本が大きな犠牲を払うことによって、アジアだけではなく、更にアフリカの諸民族も解放されました。戦後、この高波がアフリカ大陸に押し寄せて、アフリカ諸民族が次々と、独立を獲得していきました。

昭和天皇を元首とする日本が、白人と戦った結果として、アジア・アフリカの諸民族が解放されて、数多くの独立国が誕生したことに感謝して、昭和天皇の崩御に当たっては、164ヶ国の元首や、代表が、全世界から弔間に訪れました。この数字は、如何に多くの国が、日本によって独立を勝ち得たかを示すものです。

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦で統治する権益を得た国や地域を、宗主国による一方的な搾取による植民地統治ではなく、国民を差別することなく、教育や、民生の向上に努めた統治を行いました。西太平洋のサイパン、テニアン、ペリリューなどのマリアナ諸島とマーシャル諸島とパラオ諸島の島民たちは、今日でも日本を慕って、日本語を使っています。

前近代的な水準にあった台湾と朝鮮においても、民生と、教育の向上を図り、大学、学校、病院、鉄道を普及させ、治水、灌漑を整備して、農工業を振興して、短期間のうちに近代国家に引き上げました。

アジアのほとんどの国が、日本に関して好意的なのに反して、朝鮮と中国だけが異なった反発をしています。

朝鮮は歴史の歯車の中で、常に何れかの国の植民地であったことのひがみが強いのかも知れません。

支那は世界有数の歴史の中で、長期間続いた政権がなかったため、国としての概念に乏しく、広大な国土があるのに、世界中にコロニーを作って、個人的な利益を追求する傾向が見られます。

日本の長い歴史の中で、万世一系の天皇制度を維持し、例え戦国時代であっても、戦うのは武士だけであり、奴隷制度を採ったり、市民の大虐殺をした記録はありません。

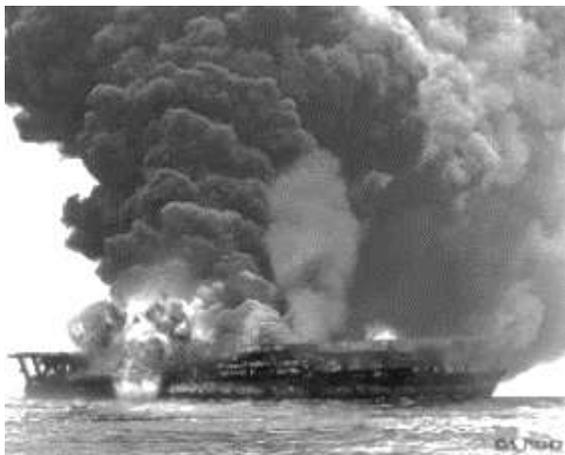
朝鮮における慰安婦の問題にしても、若い女性を強引に拉致して性奴隷にしたわけではなく、本人が自らの意思によってその職業を選んだのです。戦場に慰安婦はつきものです。

支那は南京に於いて、30万人の大虐殺があったと主張しています。しかし激戦によって双方の兵士に多数の死傷者がでたことは想像できますし、支那は正式に降伏しないまま、蔣介石は重慶に、唐生智司令官も南京陥落前夜に逃げてしまいました。支那軍は総崩れになり私服で敗走したため、これを追撃したことが民間人を虐殺したと誤解されました。当時の南京市民の数は20万人(当時の警察庁長官の公式発表)、南京陥落1ヶ月後の人口は25万人であることから、30万人殺害されという数字は、きわめて誇張されたプロガパンダに過ぎないことがよく分かります。

嘘も何回も重ねると、真実のように見えてくるものです。イエスカノーかの二者択一で迫ってくる外国人に対して、何も知らない政治家が、安易に頭を下げることが、後々、大きな禍根を残すこととなります。

終戦後も例年続けていた靖国神社の参拝を、中国の胡耀邦国家主席に懇願さ

れて取りやめた中曽根首相のせいで、歴代主首相は靖国神社の参拝という伝統的行事が不可能になってしまいました。日本が侵略戦争を戦ったと語った、極左の村山富市首相、朝日新聞の捏造記事を鵜呑みにして、無垢の娘たちを拉致して、慰安婦に仕立てたと語った河野洋平氏の責任は重大です。



ミッドウエー海戦 加賀撃沈

話を第二次世界大戦に戻しましょう。ミッドウエー海戦に敗れたことが、戦局を大きく変えました。この作戦に参加していた日本の空母は、「赤城」「加賀」「飛龍」「蒼龍」の4隻とその後方には戦艦大和も控えておりました。

しかし、この作戦の情報や日本の空母群の所在位置

はアメリカ側の暗号解読によって事前に知られており、がぜん有利な体制にあったにも関わらず、突然現れたアメリカ太平洋艦隊の空母は3隻による奇襲攻撃に対処全てのできませんでした。敵空母の接近を知って、あわてて陸上攻撃用の爆弾を空母攻撃用の魚雷に交換している最中に、高空から米軍攻撃機の急降下爆撃を受けました。艦内の格納庫にミッドウエー島を攻撃するために爆弾を積んだ大量の攻撃機を收容していたことも災いして、自爆の連鎖を起こして、全ての空母を失ってしまいました。ミッドウエー島を攻撃して弾薬と爆弾を空にして帰還したゼロ戦は、撃墜されるか、不時着水するしか方法は残されていませんでした。圧倒的に優位な戦力を持ちながら、情報収集の差によって惨敗する結果になりました。

これ以降戦局はアメリカに大きく傾き、局地的に勝つことがあっても、撤退の連続となります。なおこの海戦でアメリカの主力となった空母は、真珠湾で

みすみす取り逃がした空母でした。

もしも日本がミッドウェイ海戦で勝利を収めていれば、アメリカ陸軍はヨーロッパの兵力を、アメリカ西海岸に回して本土防衛をする必要があり、ドイツがイギリスを破ってヨーロッパの覇者になっていた可能性も否定できません。

1943年4月、連合艦隊司令長官・山本五十六がブーゲンビル島上空で、撃墜されて戦死しました。これもまた、情報が把握されていた結果でした。

世界一強いと自他ともに認めていた日本軍が、なぜ負けたのでしょうか。戦争の後半は物量の差であることは明白ですが、敗戦の引き金になったミッドウェイ海戦は、優れた電波探知機を備え、暗号探知機能と解読に優れたアメリカのIT技術に負けたのです。日本の機密情報はアメリカに筒抜けでした。情報の取り扱いに弱いという日本の情報音痴は現在も続いています。

1944年、サイパン島の日本軍が玉砕して、日本全土がB25とB29爆撃機の



神風特攻隊

行動範囲に入りました。

同年フィリピンのレイテ湾の戦闘で、初めての神風特攻隊が、沖縄線では大量の特攻隊が出撃しました。陸軍の特攻隊は隼で知覧と万世から、海軍の特攻隊は零戦で鹿屋と指宿から飛び立ちました。

飛行機が不足したので、指宿からも出撃したのは、零式水上偵察機でした。

日本が失った特攻機は2800機、アメリカ軍の損害は戦艦10隻、空母9隻、巡洋艦5隻、駆逐艦118隻、その他艦船40隻と言われています。なお、著名な野球選手、故青田昇氏の奥様の話では、同氏が知覧基地から出撃する前日に終戦になったそうです。

1945年4月、戦艦大和と連合艦隊の残存艦9隻は、航空機の援護もなく、



戦艦大和

帰りの燃料も積まずに、沖縄に向かいました。沖縄の浅瀬で座礁して、艦砲射撃をする海上基地にする予定だったと言われています。

しかし、途中、鹿児島県坊ノ岬沖で米軍機 386 機の猛攻を受けて大爆発を起こして沈没しました。

アメリカ軍は B29 を用いて、日本各地の大都市を無差別爆撃しました。軍事目標ではなく、意図的に市民を大量虐殺したのです。1945 年 3 月の東京大空襲では、10 万人の市民が殺されました。木造住宅が燃えやすいことに目をつけて、大量の焼夷弾を上空から、無差別にばらまいて、大量の非戦闘員を火あぶりにして虐殺しました。

なお、東京には 106 回、名古屋には 63 回大阪には 8 回の空襲が行われました。

日本が降伏寸前であることを知りながら、広島にはウラニウム爆弾、北九州が視界が悪かったため変更した長崎にはプルトニウム爆弾を落としました。広島では 11 万人、長崎では 7 万人以上の方が犠牲になりました。健康な男子は出征して、町に残っていたのは老人と女・子供ばかりでした。

日本が和平の意志を示していたにもかかわらず、広島と長崎に原爆投下し

たのは、日本人を有色人種として蔑視する、強い意識が働いたからです。無駄な死者を出さずに、戦争を早く終わらせるために、原爆を使ったというのは勝者の詭弁であって、原爆の威力を人体実験したいという欲望の結果であり、虐殺のための虐殺であることは間違いありません。



原爆による大殺戮

なおこの原爆投下については、まもなく参戦して

くるソ連との日本分割統治を避けるために、アメリカ主導型で早く戦争を終わらせたかった意図もあると言われています。

1944年に実施されたアメリカの世論調査では、「日本人を全員殺害すべきか」という設問に対して、「賛成」意見が13%ありました。ドイツ人に対する同様な設問は設けられていませんでした。

激戦地に於いて、投降してくる日本兵の多くは銃殺され、捕虜としての扱いを受けたのはごく僅かだと言われています。沖縄戦においては、多くの日本の女性が、米軍兵士によって凌辱されました。

本土では焼夷弾による無差別攻撃、原子爆弾によって70万人もの一般市民が焼き殺されました。どの国がフェアな戦いをしたのか、よく考える必要があります。日本人は有史以来、人種平等を旨としていましたが、戦後、人種平等の世界が到来するまでのアメリカでは、有色人種に対する身の毛がよだつような蔑視が支配していたのです。

ユダヤ人の大虐殺がヒットラーの犯罪ならば、日本における民間人の大虐殺はアメリカ人が犯した大罪なのです。極東軍事裁判で裁かれるべきことは、日



昭和天皇

本の戦争責任者と共にアメリカ軍による日本の民間人大虐殺です。

「勝った国のいうことがすべて正しい」このルールは現在も引き継がれています。

日本国に無条件降伏を強いれば、徹底抗戦となって、アメリカ側も大きな損害を被ることが予測されたので、日本陸海軍だけに無条件降伏を求めるポツダム宣言が作られました。軍部の徹底抗戦を退けた、昭和天皇の決断によって、ポツダム宣言が受諾され、第2次世界大戦は終了しました。

日本側の犠牲者数は軍人 240 万人、民間人 70 万人に上りました。

日本陸海軍が無条件降伏しましたが、日本の国は、天皇家を残すという条件の下で、ポツダム宣言を受諾したのです。憲法上、沈黙を守らざるを得なかった天皇陛下が、日本の将来と世界の平和に深い思いを馳せて、述べられたのが、終戦の詔勅です。

終戦の詔勅

朕深く世界の大勢と帝國の現状とに鑑み非常の措置を以て時局を收拾せむと欲し茲に忠良なる爾臣民に告ぐ

朕は帝國政府をして米英支蘇四國に對し其の共同宣言を受諾する旨通告せしめたり

抑々帝國臣民の康寧を圖り萬邦共榮の樂を偕にするは皇祖皇宗の遺範にして朕の拳々措かざる所

曩に米英二國に宣戦せる所以も亦實に帝國の自存と東亞の安定とを庶幾するに出て他國の主權を排し領土を侵すか如きは固より朕か志にあらず

然るに交戦已に四歳を閲し朕が陸海將兵の勇戦朕が百僚有司の勵精朕が一億衆庶の奉公各々最善を盡せるに拘らず戦局必ずしも好轉せず

世界の大勢亦我に利あらず

加之敵は新に殘虐なる爆彈を使用して頗に無辜を殺傷し慘害の及ぶ所眞に測るへからざるに至る

而も尚交戦を繼續せむか終に我が民族の滅亡を招來するのみならず延て人類の文明をも破却すへし

斯の如くむは朕何を以てか億兆の赤子を保し皇祖皇宗の神靈に謝せむや

是れ朕が帝國政府をして共同宣言に應せしむるに至れる所以なり

朕は帝國と共に終始東亞の解放に協力せる諸盟邦に對し遺憾の意を表せざるを得ず

帝國臣民にして戦陣に死し職域に殉し非命に斃れたる者及其の遺族に想を致せば五内爲に裂く

且戦傷を負ひ災禍を蒙り家業を失ひたる者の厚生に至りては朕の深く軫念する所なり

惟ふに今後帝國の受くへき苦難は固より尋常にあらず

爾臣民の衷情も朕善く之を知る然れども朕は時運の趨く所堪へ難きを堪へ忍び難きを忍び以て萬世の爲に太平を開かむと欲す

朕は茲に國體を護持し得て忠良なる爾臣民の赤誠に信倚し常に爾臣民と共に在り

若し夫れ情の激する所濫に事端を滋くし或は同胞排擠互に時局を亂り爲に大道を誤り信義を世界に失ふか如きは朕最も之を戒む

宜しく舉國一家子孫相傳へ確く神州の不滅を信じ任重くして道遠きを念ひ總力を將來の建設に傾け道義を篤くし志操を鞏くし誓て國體の精華を發揚し世界の進運に後れさらむことを期すへし

爾臣民其れ克く朕が意を體せよ

御名御璽

昭和二十年八月十四日
内閣総理大臣鈴木貫太郎

ポツダム宣言

1. 我々合衆国大統領、中華民国政府主席、及び英国総理大臣は、我々の数億の国民を代表し協議の上、日本国に対し戦争を終結する機会を与えることで一致した。
2. 3ヶ国の軍隊は増強を受け、日本に最後の打撃を加える用意を既に整えた。この軍事力は、日本国の抵抗が止まるまで、同国に対する戦争を遂行する一切の連合国の決意により支持され且つ鼓舞される。
3. 世界の自由な人民に支持されたこの軍事力行使は、ナチス・ドイツに対して適用された場合にドイツとドイツ軍に完全に破壊をもたらしたことが示すように、日本と日本軍が完全に壊滅することを意味する。
4. 日本が、無分別な打算により自国を滅亡の淵に追い詰めた軍国主義者の指導を引き続き受けるか、それとも理性の道を歩むかを選ぶべき時が到来したのだ。
5. 我々の条件は以下の条文で示すとおりであり、これについては譲歩せず、我々がここから外れることも又ない。執行の遅れは認めない。
6. 日本国民を欺いて世界征服に乗り出す過ちを犯させた勢力を永久に除去する。無責任な軍国主義が世界から駆逐されるまでは、平和と安全と正義の新秩序も現れ得ないからである。
7. 第6条の新秩序が確立され、戦争能力が失われたことが確認される時までには、我々の指示する基本的目的の達成を確保するため、日本国領域内の諸地点は占領されるべきものとする。
8. カイロ宣言の条項は履行されるべきであり、又日本国の主権は本州、北海道、九州及び四国ならびに我々の決定する諸小島に限られなければならない。

9. 日本軍は武装解除された後、各自の家庭に帰り平和・生産的に生活出来る機会を与えられる。
10. 我々の意志は日本人を民族として奴隷化した日本国民を滅亡させようとするものではないが、日本における捕虜虐待を含む一切の戦争犯罪人は処罰されるべきである。日本政府は日本国民における民主主義的傾向の復活を強化し、これを妨げるあらゆる障碍は排除するべきであり、言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。
11. 日本は経済復興し、課された賠償の義務を履行するための生産手段、戦争と再軍備に関わらないものが保有出来る。また将来的には国際貿易に復帰が許可される。
12. 日本国民が自由に表明した意志による平和的傾向の責任ある政府の樹立を求める。この項目並びにすでに記載した条件が達成された場合に占領軍は撤退するべきである。
13. 我々は日本政府が全日本軍の即時無条件降伏を宣言し、またその行動について日本政府が十分に保障することを求める。これ以外の選択肢は迅速且つ完全なる壊滅があるのみである。

13条からも分かるように、ポツダム宣言によって無条件降伏したのは日本陸海軍であり、日本国ではないにも関わらず、マッカーサー元帥はまるで日本国が無条件降伏したかのように、占領政策を行いました。日本民族から独立心を奪い、贖罪意識を植えつけることが、占領政策の最も大きな目的でした。

このマッカーサーによる、日本人総洗脳の効果は絶大で、現在もまだ続いており、日本国全体がアメリカの言うがままに統治され続けているような気がします。

占領と同時に、報道を厳しく制限するプレスコードを定めて、新聞や出版社や国民の私信に至るまで徹底的な検閲と**言論統制**を行いました。NHKや全国の新報に、アメリカに都合の良い「太平洋戦争史」を連載させて、日本民族から歴史の記憶を奪うことによって、占領後も、アメリカの属国であり続けるよ

うに情報操作をしました。これは「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。」と記載されたポツダム宣言 10 条に違反する政策でした。

天然資源のない日本が、近代戦を互角に戦えた根源は、日本精神であると考えて、日本人の心のよりどころである**国家神道**を廃止しました。これもポツダム宣言 10 条に違反する政策です。さらに国を称え国に忠義を尽くす行為を禁止し、**日の丸**と**君が代**を禁止しました。

戦争協力者を 20 万人以上**公職追放**したため、戦争中は言論を封じられていた左翼の人々が、教育界や学会やマスコミで勢力を持つようになりました。それにシベリア抑留で共産主義に洗脳された人たちが加わって、大きく左傾化しました。

財閥が解体され、農地改革によって、多数の自作農が生まれました。財閥はまもなく復活しましたが、農地改革は極めて不平等だったために、没落した旧地主層と土地成金を生みました。

戦争責任者が逮捕されて、**極東裁判**にかけられましたが、この裁判は民主的に行われたものでなく、国際法にも合致していません。

学校教育も大きく変えられました。戦後、教育勅語はアメリカの指示によって全面的に否定され、それを受けて 1948 年 6 月に「教育勅語等排除に関する決議」が衆参両院に提案されて、廃止されました。

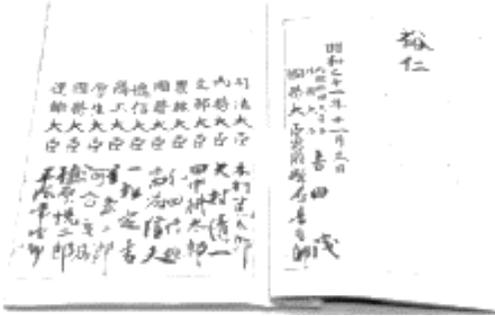
教育勅語を廃止した影響は極めて大きく、これによって日本人の教育に関する拠り所が否定されて、日本の風紀が乱れてしまったのです。速やかに復活すべきだと思います。

しかし、この作業は、天皇の勅語の改訂ですから、誰にでもできるものではありません。平成の時代が終わって、皇太子殿下が皇位継承をされる際、誰にでも理解できる口語体で原案を作成して、国会で議決して頂きたい作業です。

日本独自の年号である**皇紀**が廃止され、日本人の和の心を教える**修身**も廃止されました。御真影と教育勅語が収められていた**奉安殿**や二宮金次郎の銅像が撤去され、**学制**も教科書も一新されました。特に日本の近代史は、アメリカの

都合の良いように大幅に書き換えられました。

1945 年、選挙法が改正されて、20 歳以上の男女に選挙権が与えられるようになりました。



法的無効の日本国憲法

日本国憲法は 1946 年に公布され、1947 年 5 月に施行されました。当初は日本側に原文作成がある程度任せられていたのですが、日本側の出す案が余にも姑息的であったため、GHQ が苛立って、自らが英文で改正案を作成して政府に提示したと言われています。

当時の日本は占領下にあり、日本には主権がありませんでした。

主権のない日本に、主権の発動である憲法が存在するはずもなく、日本国憲法は進駐軍が植民地・日本の統治を都合よく行うために制定した占領政策に過ぎないのです。

現在の憲法は、占領政策としてアメリカから押し付けられたものであり、国民の総意に基づいて作られたものではありませんから無効です。従って姑息的な憲法改正ではなく、現行憲法をいったん失効して、明治憲法に戻った後に、新しい憲法を制定するのが筋です。戦後 70 年もその作業が続けられなかったことも、マッカーサーの日本人総洗脳の効果かもしれません。

第 9 条は、占領下の日本をアメリカの従わせるための条文です。典型的な資本主義国家であるアメリカが作った憲法なのに、独立国日本の中に、これを順守しようという動きが存在すること自体が問題であり、それが左派集団であることは二重の驚きです。戦後の長い平和は、憲法第 9 条があるおかげだという人がいますが、これは大きな間違いであって、日米安全保障条約があって、アメリカの庇護を受けていたからです。

戦後、アメリカの占領政策によって、日本に民主主義がもたらされたという人がいますが、それは大きな間違いで、日本は神話の時代から、八百万の神々の話し合いによって物ごとを決めてきたという歴史があります。日本の原点に、話し合いを通じて物事を決めるという民主主義があるのです。1500年前に作られた聖徳太子の17条の憲法の中には、日本型民主主義が詳細に記されています。

1950年に起こった朝鮮戦争で、アメリカは戦争に必要な品々を日本に生産させて、大量に購入したために、日本は奇跡的な復興への足がかりをつみました。その後、ソ連、中国を筆頭に、北朝鮮、モンゴルなど東アジアのほとんどの国



吉田茂

が共産主義国になってしまいました。危機感を感じたアメリカは、日本を西側陣営に加えるために、日本の占領政策の方針を180度転換して、アメリカの同盟国として、共産主義に対する防波堤として利用しようと考えました。その足掛かりとして、戦争賠償金を免除して、サンフランシスコ講和条約を締結しました。

ソ連やその影響下にあった日本共産党や社会党は反対しましたが、日本の全権代表を務めた吉田茂首相が強引に条約にサインしました。

1951年に、最初に吉田茂首相が結んだ日米安全保障条約は、「アメリカが日本に基地を置き、自由に使用することができる。従って日本の安全も保障できる。」という、言わば間接的、従属的な条約でした。

1961年に、岸信介首相が結んだ改訂安保条約は、日米が対等な立場で軍事同盟を結ぶものです。

左派学生や共産党、社会党は「60年安保闘争」として激しい抗議運動を起こして、一部の学生が国会に突入するという事件まで起こしました。

岸首相が結んだ改定安保条約の下で、その後の内閣は安心して経済政策を遂行し、それが日本の繁栄をもたらして今日に至っているのです。

岸首相の時代のソ連にかわって、現在、直接の脅威となっているのは中国です。

驚異的な経済成長をとげている中国に対して、経済優先の立場から各国は強い態度に出ることができません。中国の露骨な覇権主義にもかかわらず、アメリカは中国への配慮と、イスラム諸国のテロなどに対する自国の防衛で手一杯です。従ってそれに対処するために、日本もアメリカと核を共有する、新しい安保条約が必要な時期にきているのではないのでしょうか。これだけ核が拡散した現在では、核攻撃を受ければ、直ちに報復することができるために、現実の核戦争が起こる可能性は極めて低いと思われます。即ち核抑止力のための核武装が必要なのです。これは北朝鮮の政策とも合致します。核を持っているが故、アメリカと対等に交渉ができたのです。



岸信介

今の中国と対処するためには、日本は、アメリカの軍事力と共に、核という抑止力を持つ必要があることを認識しなければなりません。

さて話を前に戻しましょう。池田首相による所得倍増政策や田中首相による日本列島改造などによって奇跡的とも言われる回復を遂げ、国民の大半が中間階級を意識する時代が続きました。



田中角栄

田中首相を悪しざまに言う人が多いようです。確かに収賄は良い行為ではありませんが、彼の政治力によって、日本が豊かな国になったことは否定できません。別な角度から見れば、彼は、アメリカ独特の司法取引の犠牲者なのかもしれません。

朝鮮特需のおかげなどもあって、1950年代半ばには日本の経済状態はほぼ戦前の水準にまで回復しま

した。その後 20 年近くにわたって、世界で奇跡と呼ばれる急成長を遂げるようになります。中でも鉄鋼、自動車などの重化学工業は大成長を遂げます。また 1960 年には東京オリンピックが開催され、それに併せて東海道新幹線が開通し、さらに 1970 年には大阪万国博覧会が開催され、それに併せて東名高速道路が開通しました。GDP は高度経済成長期には約 5 倍に成長して、1968 年にはアメリカに次いで、資本主義国第 2 位の経済大国となりました。これを可能にしたのは、日本人の勤勉さ、手先の器用さ、技術の習得応用のうまさなどであると共に、安全保障条約によって多額の軍事費用をかける必要がなかったことも否定できません。

長く続いた日本の平和ぼけに冷や水を注いだのが 1989 年から起こったバブル崩壊です。これを契機に日本経済は低迷期に入ります。抜本的な経済政策を取ることができず、政権も目まぐるしく変わり、1994 年には、社会党の村山氏を首班とする、世にも奇妙な連立内閣が登場しました。

1995 年 1 月 17 日に、阪神淡路大震災が起きました。大都市直下型の地震であったため、神戸市、芦屋市、西宮市、伊丹市などの被害は甚大で、世界中に衝撃を与えました。狭い地域に起こったにも関わらず、死者 6435 名、負傷者 43492 名、被災家屋 646722 棟、損害総額 10 兆円を超える大災害でした。

災害発生当初、社会党政権は、自衛隊への出動命令も出せず、全く無策でした。消防・警察は、自身が被害を受けていることもあって、初期の救助は殆ど行うことができませんでした。地震当日は、自衛隊はもちろん、警察も消防もその姿はなく、被災者を救出したのは、近隣



43 号線と倒壊した高速道路

の住民とボランティア達でした。

全国の消防・警察からの応援も交通渋滞に巻き込まれて、まともに到着できる状態ではありませんでした。

私も午前中はのこぎりとバールを持って、近隣の倒壊住宅からの救出、午後は応急診療所に詰め、夜は徹夜で死亡診断書を書きました。翌日はバイクに乗って、倒壊した高速道路に沿って、芦屋市から兵庫区の家内の実家を訪ねましたが、その途中で、救助活動をしたり交通整理をする公務員の姿は、全く見られませんでした。

芦屋市の被災地区に自衛隊が入ったのは、4日後であり、生存限界と言われる72時間はとっくに過ぎていました。

世界中から寄せられた大量の義援金も、死者に僅かばかりの弔慰金がただだけで、一般の被災者にはほとんど渡らず、倒壊住宅の撤去費用も当初は自己負担でした。



小泉首相

2001年に政権を担った小泉首相は、経済政策を、アメリカで洗脳を受けた竹中平蔵氏の影響を大きく受けた新資本主義に転換し、市場万能主義による規制の自由化を推進すると共に、デフレ政策を取りました。

華々しく登場した、堀江氏や村上氏が相次いで失脚したことによって、新資本主義が日本には馴染まないことを証明しました。

小泉首相の急激な政策変更は、経済不況を強めたため、修正資本主義に慣れ親しんでいた国民の反発をかつて、民主党政権への転換に繋がりました。

新しく政権を担った民主党は、右派から極左派に至る複雑な党内事情のため、国民が期待した福祉社会への転換を図ることができず、迷走に迷走を重ねた史

上最低の政権と言われました。国の頭脳にも例えられるスーパー・コンピューターを、何故、世界第2位では駄目かと、問い詰める女閣僚すらいました。



東日本大震災

2011年3月13日に東日本に大地震と津波が襲いました。東北から関東にかけて地震と巨大な津波が襲い、沿岸部の多くの町が津波と共に消失し、福島原子力発電所のメルト・ダウンによって、広範な地域が放射能汚染を受けました。

メルト・ダウンは未然に防ぎ得た災害だとして、東京電力の責任が追及されています。東大震災の学習効果が生かされて、直ちに災害本部が設置され、大量の自衛隊員が現場に投入されました。

この地震もまたまた、民主党政権の時であり、どうやら日本における未曾有の大災害は、左派政権の時に起こる模様です。

東北から関東の沿岸部を襲ったこの地震による被害は、死者、15895名、行方不明者2535名、負傷者6156名、家屋の損害は全・半壊402699棟、被害総額は16兆9000億万円に上りました。

幕末から日本にも深く関わった、長崎のグラバー・マーチンは、東日本大震災の直後に、日本人の姿に感動して、日本から学ぶべき10項目を知人たちに発信しました。

1 おだやかさ 号泣し、泣きわめく姿をまったく見ることがなかった。個人

の悲しみを内に秘め、悲しみそのものを昇華させた。

- 2 尊厳 整然と列をつくって、水や食料が渡されるのも待った。罵詈雑言や、奪い合いは一切なかった。
- 3 能力 驚くべき建築技術。建物は揺れたものの、倒壊しなかった。
- 4 気品 人々は、必要なものだけを購入した。買い占めることなく、そのため、すべての人が必要なものを手にすることができた。
- 5 秩序 車がクラクションを鳴らしたり、道路を占拠したりすることがまったくなかった。
- 6 犠牲的行為 福島第一原発で事故が起きた時に、50名の作業員が海水を注入するために、逃げずにその場で作業を続けた。彼らの犠牲的行為はどう報いてあげられるだろうか。
- 7 優しさ 食堂は値段を下げ、ATMには警備がつくこともなく、そのまま使えるようにされた。弱者には特に助けが差しのべられた。
- 8 訓練 老若男女の別け隔てなく、すべての人々がどうすれば良いかが分かっており、その通りに行動した。
- 9 媒体 メディアは、冷静かつ穏やかに報道をした。
- 10 良心 店で買い物をしている人たちは、停電になると、手にしていた商品を棚に戻して、店を出た

なお、同じようなエピソードは、阪神淡路大震災の時にも語られており、日本人の倫理性の高さは、健在であることを示しています。

尖閣諸島における中国漁船の衝突事件は、中国の暴挙と日本政府の失態を世間にさらしました。海上保安庁は漁船の船長を公務執行妨害で逮捕しましたが、領海侵犯、漁業権過侵害という重大な罪であったにも関わらず、民主党政府はその責任を沖縄の検事局に押しつけ、船長を帰国させてしまいました。その模様を収めたビデオをすぐさま世界に公表すべきでした。そうすれば中国漁船が意図的に衝突してきたこと、船長逮捕のために海保が乗り込んだときの中国漁船乗組員たちの暴力などの一切が世界に明らかになったはずです。

民主党政府がビデオを公開しようとし、しないことを憂いた海上保安官、一色正春氏によって、その一部がインターネットに流れたにもかかわらず、民主党政府はこのビデオの全貌を依然として隠したままで押し通しました。

尖閣諸島は 1885 年以降、日本政府が十分な調査を行って、どこの国にも属していないことを確認した上で、領



尖閣諸島攻防戦



尖閣諸島

有権を宣言して実効支配してきた島々です。

かつお漁の基地ができて、かつお節工場も建設されて住民も住んでいました。

終戦後は米軍の占領下に置かれていましたが、1971年に、沖縄返還と共に沖縄県石垣市に編入されました。

これを以て、当時の連合国も

尖閣諸島が日本国の領土であると認めていたことは明らかです。

韓国に不法占拠されてしまった竹島についても同様なことが言えます。

民主党の領土に対する曖昧な態度をみて、ロシアが戦後不法占拠したままの北方領土を、メドベージェフ大統領が訪れ、実効支配の意志を示すという事態を招きました。国家は国民と領土と主権によって成り立っています。その主権と領土が侵され、日本の漁民の生命が危険にさらされているのに、日本政府は放置したままです。

日米安保条約があると言っても、それが適応されるのは、日本が戦争に巻き込まれた場合のことであって、平和な時にアメリカが助けるということはありません。

得ません。尖閣列島に少数であっても自衛隊を常駐させ、ヘリコプターを配置するなどの具体的な措置を取るべきです。

この尖閣諸島事件は、戦後安閑と暮らしてきた多くの日本人に国家意識を目覚めさせたという意味では、大きな事件でした。



安倍首相

マイナス面ばかりが目立った民主党政権が終わり、自民党の安倍政権が誕生しました。

国民の期待を一身に受けた安倍政権の経済政策によって日本経済は持ち直し、株価も市場最高値を付けています。

トランプ大統領は、共和党であるにも関わらず、ケインズの修正資本主義を支持しており、アメリカ国内の富の流失に大きく関わっている、新資本主義者による金融のグローバリズムと一線を画して、ナショナリズムを標榜しています。

従来の WASP 中心の共和党政権とは、明らかに異なった政策をとっています。ドイツ系移民

であるトランプは、従来の共和党の政策とは一線を画して、パナマ文書の情報公開などによって、利益をタックス・ヘブンの国に隠した、新資本主義者に大きなダメージを与えると共に、不法移民の禁止などによって、国家財政の健全化に取り組んでいます。

トランプ大統領のナショナリズムは、国家をコントロールする可能性のある、国家より上にある政治経済組織、即ち、国連、EU、TPP、COP（温暖化防止）などの規制を排除して、国家の利益を優先させる政策です。



トランプ大統領

安倍首相も、トランプ大統領の影響を受けて、従来の新資本主義の影響を排して、日本の国益を第一に考える政策を取ることを願うのみです。

日本の将来を考える

修正資本主義と新資本主義

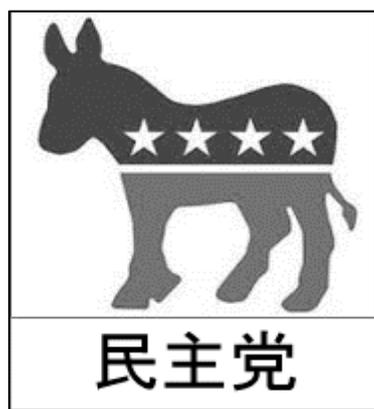
現在の資本主義は、修正資本主義(ライン型資本主義・ヨーロッパ型資本主義)と新資本主義(アングロサクソン型資本主義・新自由主義)とに大別されます。前者を採用している国にはドイツ、フランス、北欧三国などの EU 諸国、かつてドイツから近代文明を学んだ日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます



アメリカの歴代政権が、すべて新資本主義を採用していたわけではありません。かつては、この政策は WASP (White Anglo-Saxon Protestant) を主流とする共和党が採用しており、民主党は修正資本主義を採用していました。

しかし現在は、WASP 以外の国民が急増しているため、国民全体の両党の支持率は、ほ

ぼ均衡を保っています。即ち、WASP は共和党を支持し、WASP 以外の白人、黒人、ヒスパニック、東洋人の殆どは民主党を支持しています。ただし、昨今は民主党の中にもアングロサクソン型資本主義に共鳴する人が急増しているため、現在のアメリカの政治は、共和党対民主党の対立ではなく、個人の富を追求するアングロサクソン型資本主義者と、雇用を促進し国家の財政を健全化する修正資本主義者の戦いに変化しつつある感があります。



この度のアメリカ大統領選挙は、従来の共和党対民主党の戦いではなく、修

正資本主義を標榜するトランプと、アングロサクソン型資本主義に転向したクリントンとの戦いだっただけです。すなわち、ITの活用によって巨万の富を築いたアメリカのグローバル企業とその配下にいるエリート達と、今まで伝統的にアメリカの産業を支えてきたのに、政府の間違った経済政策によって職を奪われたアメリカの伝統的なブルーカラー層との戦いであったわけです。

修正資本主義・ライン型資本主義

修正資本主義はライン型資本主義とも呼ばれており、古典的資本主義の無計画性に基づくさまざまな弊害を国家が政策的に是正し、福祉国家を目指そうとする政策です。



ジョン・ケインズ

資本主義における所得分配の不平等は、労使の協調と国家の所得再分配政策によって、また失業の増大は完全雇用政策によって、恐慌の発生は経済計画によって是正し、克服することができます。

この思想は 1929 年から始まった世界大恐慌後、1933 年のアメリカ民主党のフランクリン・ルーズベルト大統領によるニューディール政策として採択された政策であり、この理論は ジョン・ケインズが提唱したも

のです。

なお、ジョン・ケインズより 30 年前に、シカゴでビジネス・スクールを開設していた、アーサー・シェルドンがこれと全く同じ経営学理念を提唱しています。

修正資本主義は、ドイツ、フランスなどのヨーロッパの先進国やかつての日本が採用している資本主義の形態で、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会

の組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。

労働の対価として賃金が支払われ、それを使うことによって経済が発展するため、株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富や働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の運命共同体であると考えます。強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。社会福祉を重視するために、政治的には大きな政府になります。

ヨーロッパでは長い間続いた宗教戦争の教訓から、宗教に関する偏見は殆どなくなりました。プロテスタント最優先のアメリカとは大きな違いです。

東西ドイツ統合に当たって、実質的には10対1の通貨を、1対1にした理由を考える必要があります。当面の損失よりも、将来の国の繁栄を考えたからに他なりません。EUに於ける通貨統合も同様です。自国のことだけではなく、ヨーロッパ全体の繁栄を目指しているのです。これが、ライン型資本主義を採用しているヨーロッパの先進国が、一様に高いGDPの伸びを記録している理由です。

しかしこれにも問題点があります。EUという国家を超えた組織によって、経済はもちろん、政治までも干渉を受けることになります。国の経済を守るためには、通貨の発行権や関税の自由裁量権が必要不可欠です。イギリスがポンドを死守し、EUを離脱した大きな理由です。

今後、アメリカやイギリスと同様に、ナショナリズムを標榜してEUを離脱する動きが高まりそうです。

新資本主義・アングロサクソン型資本主義

一方、新資本主義はアングロサクソン型資本主義・新自由主義とも呼ばれています。この思想の創始者はミルトン・フリードマンという経済学者であり、



フリードリッヒ・ハイエク

1950年代には、フランク・ナイト、ジェイコブ・バイナー、フリードリッヒ・ハイエクといった新自由主義思想を持った経済学者が続出しました。

新資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。企業は金融市場から直接資金を調達し、株主の利益の最大化を目指します。業績が悪化した場合、株主の利益を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成

果主義をとり、自己責任を重視します。

アメリカは建国の歴史からも分かるように、原住民を殺戮して積極的に前進した者のみが、自分の領有権を主張できた国です。何ごとも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセスストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクは、今も健在です。

フリードマンを元祖とする新自由主義者には、社会的秩序の維持、倫理観の尊重といった考えは全くありません。国家も制度も民族も否定して、新自由主義のメカニズムのみが、人間社会に幸福をもたらすと考えます。新自由主義の思想と論理は単に経済思想だけではなく、政治・経済・社会全般に具体化していけば、結果として、全体の富がごく僅かな富裕層に集中していくように仕組みられており、新自由主義の信奉者は、その目的のためには政治権力と結託して行動を起こし、手段を選ばず目的を貫徹しようとするのです。

自由な市場は、価格機能によって資源の最適配分ができるようになるので、富を最も効果的に分配することができ、そのためには経済活動を可能な限り自

由にすべきであると考えます。

それを実現するためには、政府の介入をできるだけ縮小して「小さい政府」にして、富裕層に減税して、社会保障制度を否定すれば、富裕層に富が集中し、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

しかし、その反面、他人の迷惑を無視して、全ての商品を投機化する結果、バブルに陥るリスクがあります。

1970-80年代、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブス（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしてきました。

イギリスのサッチャー首相、アメリカのレーガン、ブッシュ大統領の政策がこれに相当します。

アメリカ人の90%が神の存在を本気で信じており、最近の教科書からはダーウインの進化論は消えています。国民の50%がプロテスタントの信者であり、共和党政権の支持母体であるとともに、新資本主義の推進力になっています。

アメリカでは牧師に対する懺悔によってあらゆる罪が許されると信じている人が大勢います。牧師は信者の個人情報を持っていることから、教会の力が政治に及ぶほど大きいと考えられます。

利潤を追求することが目的ですから、福祉社会の構築とか従業員対策などに対する配慮は全くありません。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、レバレッジの技法を使って、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返します。

コンピューターを駆使して、100万分の1秒のタイミングで売買を繰り返します。あらゆるものを債券化して、例えば不良債券や売れ残りの家まで取引の対象にするのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

この社会は、映画「ウォール・ストリート」の一連のシリーズの中で、友人や家族や国家すら裏切りながら、個人の利益を追求する新自由主義者の姿が描かれてお



ウォール・ストリート

り、「友人も家族もいない。も

し寂しかったら犬を飼えばいい」という名せりふを生み出しました。

これらのグループはグローバリズムと称して、国家を無視したタックス・ヘーブンの場所に資金を移して、納税の義務を免れて、国家に大きな損害をもたらしました。

さらに、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。憂うべき現実です。

同様な傾向は、本来、修正資本主義を取るべき立場にある民主党にも広がってきました。アメリカ国内の富の流失に大きく関わっている、新資本主義者による金融のグローバリズムと一線を画して、ナショナリズムを標榜して大統領に就任したのがトランプです。

彼はケインズの修正資本主義を支持しています。

ドイツ系移民であるトランプは、従来の共和党の政策と一線を画して、パナマ文書の情報公開などによって、新資本主義者に大きなダメージを与えると共

に、不法移民の禁止などによって、国家財政の健全化に取り組んでいます。

トランプ大統領のナショナリズムは、国家をコントロールする可能性のある、政治経済組織、即ち、国連、EU、TPP、COP(温暖化防止)などよりも、国家の利益を優先させる政策です。政治的には共和党の小さな政府を目指し、経済的にはナショナリズムを標榜して、雇用問題や不法移民の禁止、共和党内のネオコン・グループの排除などに取り組んで、国民から大きな支持を受けています。

瑞穂の国型資本主義

過去を知らなければ、未来を語ることはできません。私が一番心配していることは、日本の若者が日本の歴史の実態をあまりにも知らないことです。日本国民の立場から見た、歴史の真実を語り継ぐことによって、はじめて未来が展望できるのです。

原爆の使用によって平和がもたらされたという、アリリカ側から見た、勝てば官軍的な発想で、近代史を信じ込む若者が多いのは残念なことです。日本人の視野から日本の歴史を見つめなおす必要があります。

日本を経済的な孤立に追い込み、日本の立ち位置を明治維新の状態に戻そうとしたことが、第2次世界大戦の誘因であることを忘れてはなりません。

日本が21世紀に向かって政治的にも経済的にも発展していくためには、現在傾きつつある新資本主義から決別して、修正資本主義に極めて近い、瑞穂の国型資本主義に転換する必要があります。ここからは、私なりに考えた天下国家論を展開してみたいと思います。

明治維新による日本の近代化の殆ど、即ち哲学、経済、医学、法律などの文化はドイツから入ってきました。私の年代が最後になりましたが医学は全てドイツ語でした。英語が外国語の代名詞になったのは終戦後のことです。この事実からも、日本の基本的な政治経済は、ドイツからもたらされたライン型資本主義(ケインズの修正資本主義)であり、新資本主義に移行しかかったのは、ごく最近のことなのです。



もし日本が、つい最近までアメリカがとっていた新資本主義経済を採用すれば、日本の将来が危うくなることが予想されます。アメリカの将来の人口増加は1億人と予測されています。その分大きな内需が喚起されます。日本には急速かつ大幅な人口減少と高齢化が起こるのです。内需が拡大する国と縮小する国の経済政策が異なるのは当然のことです。

日本が21世紀を生き抜くためには、人口が増加して、内需が拡大するアメリカの経済を真似るのではなく、むしろヨーロッパのライン型資本主義に近い、日本独自の資本主義形態に転換する必要があります。

私はそれを「瑞穂の国型資本主義」と名づけました。日本書紀では日本のことを「豊芦原瑞穂の国」と呼んでいるので、日本にふさわしいネーミングだと思います。

日本には「実るほど頭(こうべ)を垂れる稲穂かな」という諺があります。

日本が実行する国内政策、外交政策、経済政策は、3000年近い長い歳月を経て、たわわに実った稲穂のように、皆に喜びと幸せをもたらすものでなければなりません。

「瑞穂の国型資本主義」の具体的な戦略は次の通りです。

新資本主義・市場原理主義とは一線を画し、利益の再配分と福祉の充実を図る必要があります。

経済政策や貿易においては、アメリカ追従ではなく、アジアを中心にした全方位型を採用することが必要です。

円高は、日本の経済力を示すバロメーターですから、長期的に見れば喜ばしい現象です。

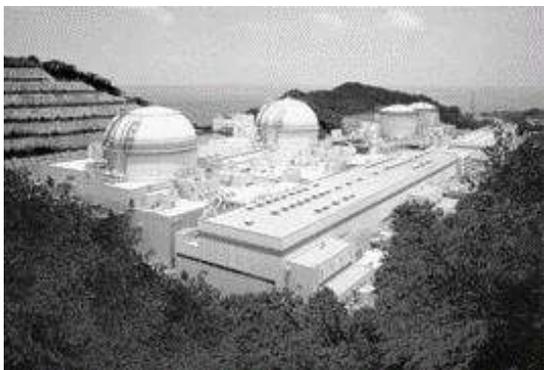
ヨーロッパでは長い間続いた宗教戦争の教訓から、宗教に関する偏見は殆どなくなりました。日本にも宗教的な偏見は殆どありません。プロテスタント最優先のアメリカとは大きな違いです。政治・経済のグローバル化を図った EU は分裂の危機にあり、ナショナリズムが復活しつつあります。大量の難民問題を抱えて、いかにして自分の国を守るのかという時代に入ったのです。しかし、ドイツ、フランス、北欧三国などの一般社会や従業員の福祉を重視した経済政

策には学ぶべき多くの政策があります。

核兵器なき世界平和を推進しつつ、原子力の平和的利用を推進する必要があります。低価格のエネルギー源として、また潜在的な核抑止力として、原発を保持して、安全性を第一に維持管理しなければなり

ません。

次世代のスーパー・コンピューターの消費電力は原発一基分と言われております。エネルギー源として十分な電力を供給するためには原発が必要不可欠であり、国土の狭い日本では、再生可能エネルギーに全てを依存することは不可能です。





防衛力を他国に依存することは、独立国として恥ずべき姿です。すみやかに現行憲法を廃止して、新憲法には自衛隊の存在を明記すると共

に、核兵器を使わないことを条件にして、核武装の是非を真剣に検討する必要があります。何故ならば核武装は抑止力として、大きな効果を持っているからです。

領土保全のための国防力を更に充実する必要があります。日本には零戦や大和を作った優れた技術があります。アメリカにすべての軍備を依存するのではなく、積極的に、国内の軍需産業を育成すべきです。

なお日本国民としての自覚と結束力を高めるための、短期間徴兵制度の導入も検討に値します。なお国土防衛のために、尖閣諸島・与那国島・壱岐・對馬に自衛隊を常駐させるべきです。

国土保全や防衛の見地からも、外国人の土地買収には、法的な制限をかける必要があります。

医療における国民皆保険制度は世界に誇る日本独特の制度です。僅かな保険料を払って、健康を維持できる国は、日本だけです。この分野にだけは外国資本やアングロサクソン型の資本主義の介入は排除すべきです。ただし、特区を設けて、新たな先進医療技術の開発や、迅速な新薬承認は積極的に進めるべきです。人口対医師数は世界で 53 位であり、高齢化を迎えた日本としては、憂うべき状態にあります。医学部の定員増などの措置が必要です。

福祉国家として発展するためには、社会的共通資本を整備、拡充して、さら



なる近代化を図らなければなりません。第2次日本列島改造計画として、リニア新幹線網、電線・光ファイバーの地下埋没、交通・物流・介護の無人化などによ

るインフラ整備を図ることによって、新しい形の内需が生まれます。

21世紀半ばから、日本の人口は急激に減少します。人口の減少は内需が縮小することを意味します。もはや、従来型の公共事業に頼って内需の拡大を図ることは不可能です。マン・パワーを代行するロボット工学、日本が得意とする先端医療、新薬開発、宇宙産業、人工知能など、産業構造を大幅に転換する必要があります。

日本は1200兆円の債務残高がありますが、その殆どは国債であり、国債の90%は日銀を始めとした日本人が持っているのです。国の債務は、言い換えれば、日本人の債権でもあり、国内の問題として解決することができます。日銀の超低金利政策が続く限り、外国は金利0円の日本の国債を買うことはありません。さらに300兆円を超す、対外純資産を持っています。

アメリカの債務残高は2000兆円であり、国債のかかなりの部分は、日本や中国などの外国が所有しているのですから、日本の現状とは対比すること自体がナンセンスです。

実質的に日本は世界一豊かな債権国だと言えます。国内で消化できる範囲の赤字国債の発行は何の心配もありません。安定的成長を持続できるような、ライン型経済政策をとり、世代に関わらず豊かな生活が送れるように、思い切って社会保障を充実することが必要です。

日本の国土面積から考えると、適正人口は 8000 万人だと言われています。移民は全く必要とせず、国内で人口減少に伴う労働力を確保することは可能なのです。そのためには、積極的な従業員対策が必要です。利益を公正に再配分して、終身雇用制や年功序列制などを復活して、従業員に配慮する、かつての日本の労使関係戻ることが必要です。

なお日本の文化は、島国として独特の進化をしてきたため、外国人が同化するのには困難なので、難民の受け入れは慎重に考える必要があります。

農地の集約化によって、食料の自給率向上を図るとともに、遺伝子工学を活用した高度な品種改良、人工栽培による農業、鮮魚の完全人口養殖技術を生かして、価格変動性が少ない、安全性の高い、さらに付加価値の高い農畜産物・鮮魚を輸出産業として育成しなければなりません。

アメリカの占領政策によって、日本人は洗脳されて、日本の文化は大きく変えられました。



日本は、エジプト、メソポタミアにも匹敵する、3000 年に近い歴史の中で、「和の心」という独自の文化を育ててきました。しかし昨今は、物が豊かになるのに伴って、心が貧しくなってきました。本来共同体であった日本の社会が急速に壊れつつあります。

人の心が貧しくなり、家族の解体が進んでいます。若者の心が疲労して、安易な癒しを求めます。

謙虚、尊敬、誠実、おもいやりなどの日本伝統の「わび・さび」「和の心」を取り戻す必要があります。修身の復活、日本国の正しい歴史（特に近代史）を徹底的に学ぶことなどの、教育の大幅な

改革が必要です。

資本主義は豊かな先進国から、資源を持っている途上国に、投資することによって成長してきました。豊かな国が、資源を持っている途上国に投資することによって、貧しい国は豊かな国になります。

この 50 年間で、世界の資源の 90%を消費したと言われています。活発な投資によって、資源の大半を消費した現在、先進国間には投資すべき資源は、ほとんど見当たりません。だから、不良債券や売れ残りの家までのサブプライムが投資の対象になるのです。

最後の投資対象として、皆が熱いまなごしを向けているのがアフリカ大陸です。最後まで残ったアフリカ大陸への投資が終わることは、地球上の資源が枯渇したことを意味します。金儲けの手段が途絶えたときに、新資本主義が終焉を迎えることは自明の理ですが、その時期まで放置しているわけにはいかないのです。

国連の統計によると、現在の世界の人口は 76 億人、2050 年には 98 億人に達すると言われています。人口爆発によって、食料を始め全ての資源が枯渇してしまえば、アフリカ大陸が豊かな国になるのではなく、地球上の全ての国が貧困国になる可能性を示唆しているのです。

地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人々は他人のことを思いやり、残り少ない資源を皆で分かち合って生きていかなければならないことに気づくでしょう。

1915 年に作られた、ロータリーの道徳律には、ドイツ系アメリカ人、ジョン・ナトソンが、「黄金律の普遍性を信じ、すべての人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。」と記載しています。

この分かち合いの精神は 2010 年にチリで起こった鉱山の落盤事故で見事に証明されました。僅か 3 日分しかない食料を強いものが独占するのではなく、皆で公平に分かち合いながら、18 日間も生き延びたのです。この偉業は特別に

訓練を受けた組織ではない、単なる鉱山労働者が達成したのです。これが人間と他の動物との大きな違いです。

フランスの経済学者ジャック・アタリは、国境なき超民主主義の世界を提唱しています。一見理想的な社会に見えますが、国家の概念を無くすことは、新資本主義を意味しますので、富の一極集中に繋がる可能性があります。グローバリズムというのは、世界の政治も経済も統一しようという考え方であって、世界国家という響きのいい理想社会を連想させますが、国家の否定に繋がる危険な考え方でもあります。超民主主義まで望まなくても、1500年前に聖徳太子が作った17条の憲法に明記されている民主主義で十分ではないでしょうか。

資本主義の最終章がどのような結末になるのかは誰にもわかりません。しかし私たちは未来に向かって歩んでいかなければならないのです。正しい歩を進めるためには、過去の歴史を反省しつつ、日本の偉大な文化である「和の心」を守っていくことが最善であるように思われるのですが・・・

参考文献

- | | |
|---------------------|------------|
| 古事記 | 倉野憲司 |
| 現代語古事記 | 竹田恒泰 |
| 日本書紀 | 坂本太郎 |
| 現代語訳日本書紀 | 宇治谷孟 |
| 歴代天皇肖像画 | 弥彦神社 宝物殿 |
| もういちど読む日本史 | 五味文彦 |
| 日本史 | 後藤武士 |
| 日本の歴史 | 渡辺昇一 |
| 日本近代史 | 坂野潤治 |
| 日本現代史 | 田原総一郎 |
| もういちど読む日本近代史 | 鳥海 靖 |
| 政治入門 | 藤井厳喜 |
| 日本史 | 渡辺昇一 |
| 読むだけですっきりわかる日本史 | 後藤武士 |
| 戦国史研究 | 戦国史研究会 |
| 源氏物語 | 谷崎潤一郎 |
| 明治維新 | 遠山茂樹 |
| 幕末史 | 半藤一利 |
| 世界経済の支配構造 | 菅沼光弘 |
| 日本人が知らないアメリカの本音 | 藤井厳喜 |
| 日本人が知っておくべき世界の裏側 | 藤井厳喜 |
| 大東亜戦争で日本はいかに世界を変えたか | 加瀬英明 |
| なぜアメリカは、対日戦争を仕掛けたのか | 加瀬英明 |
| 太平洋戦争の大嘘 | 藤井厳喜 |
| 世界に比類なき日本文化 | ヘンリー・ストークス |
| 資本主義対資本主義 | ミシェル・アルベール |

新自由主義の自滅	菊池英博
新自由主義の終焉	佐和隆光
日本型資本主義と市場主義の衝突	藤井真人訳
資本主義の終焉と歴史の危機	水野和夫
国家の逆襲	藤井巖喜
世界を操るグローバリズムの洗脳を解く	馬測睦夫
新自由主義の帰結	服部茂幸
21世紀の歴史	ジャック・アタリ 林昌宏訳
21世紀の資本	トム・ピケティ
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	笠原俊彦訳
ケインズの経済学	滝川好夫
瑞穂の国型資本主義を目指して	田中毅



TANAKA TAKESHI

発行 2018年7月

著者 田中 毅

発行者 源流の会

1996年度 2680地区パストガバナー

Mail ashicon@pop02.odn.ne.jp

URL <http://genryu.org>

主な著書

Golden Strand 翻訳、Rotary? 翻訳、The Meaning of Rotary 翻訳

Rotary Philosophy 翻訳、奉仕の原則と保全の法則 翻訳

Sheldon Course 翻訳、奉仕理念の提唱者 アーサー・シェルドン

詳説 アーサー F. シェルドン、ロータリー歴史展望、ロータリー歴史展望(日本編)、職業奉仕その原理と実践、ロータリーの奉仕理念、ロータリーの森を巡る旅、My Golden Life

シェルドンと神 修正版

2680 地区 PDG 田中 毅

私は、1970 年、芦屋ロータリークラブ入会し、1972 年度幹事に指名されました。

1971 年副幹事の時、当該年度ガバナー安福氏より、関西ロータリー研究会への参加を勧められて、入会しました。第一回のセミナーが、神戸市御影で開催され、その時の講師が **XX** 氏で、議題は、「ロータリー発生史」でした。

その後、関西ロータリー研究会が分裂して、その分派が千種会となりました。

千種会のセミナーには、初期の頃には、ほとんど毎回参加し、その後、**XX**、**XX**、**XX** 氏が入会しました。初期の 2~3 年間は、「ロータリー発生史」が小分けにして毎回語られました。誰かが、講義の内容をまとめて出版しましたが、すぐ取りやめになりました、2670 地区の会員が、録音をして配布しましたが、それも禁止になりました。その理由は後日分かりました。

1996 年、ガバナーに就任。シェルドンのことを詳しく知りたくて、RI 本部で尋ねたところ、Golden Strand の存在を教えられ、全文のコピーを入手しました。1997 年から 1 年掛かって翻訳を完了したところ、不可解なことが分かりました。Golden Strand の内容が千種会に於ける **XX** 氏の講演内容と全く同じことが判明したのです。即ち、**XX** 氏は Golden Strand を参考文献として引用したとは断らずに、そっくりそのまま何年間も、その内容を講義していたことが判明したのです。特にロータリー発生史は、一字一句、Golden Strand の記述がそのまま、語られています。従ってその出典が解ることを極めて警戒して、録音や出版を禁止したものだと思われまます。

Golden Strand を書いた Oren Arnold(1900~1980)はシェルドンより 38 歳若く、シェルドンが実質的にロータリーから離脱した 1921 年には、会員ではなかったこと、シカゴクラブの有志による Golden Strand を書くための資料収集が始まったのが 1959 年からであること、資料収集に携わった 5 名の会員の最古参の John B. Hayford 委員長がシカゴクラブに入会したのが 1922 年であることから、この執筆者の中には、直接シェルドンと接触した人は全くいないことが分かります。Golden Strand の内容は、1934 年に、シカゴ大学社会科学調査委員会が発行した「ROTARY?」の内容をそのまま借用し、それに 1959 年以降、伝聞によって集めたエピソードを加えて創作したものであることが想像されます。

Golden Strand は 1966 年に出版された、あるシカゴクラブの会員を主人公にした、小説風の文献であり、事実とは異なるフィクションが面白おかしく描かれています。そのために多くのくの間違ひがありますが、千種会の講義では、その間違ひをそのまま教えられていたわけです。一例を挙げると、フランク・コリンズが弁護士であると書かれていますが、実際は果実卸売業です。Service above self を発案したのはシェルドンと書かれていますが、これも間違ひです。

私が、それとなく、**XX** 氏にその件に触れると、非常に高圧的な態度で、「私の講義内容は、すべてシェルドンの原文を翻訳したものだ。」と言い切りましたが、それが嘘であることは、後日、私がシェルドンの文献のすべてを収集した過程で、判明しました。

1998 年 4 月に、私が Golden Strand の翻訳を出版しようとした際には、**XX**、**XX** 両氏より、強く反対されました。その理由は著作権侵害になるというものでしたが、本当のところは、**XX** 氏の講演のネタ本が解ることであることは明白でした。

間違ひだらけの二次文献である Golden Strand を語るだけで、シェルドンのすべてを研究したかのよう語り、Sheldon Society を名乗って、そのエンブレムまで作る不遜な態度に、強い憤りすら感じました。

私はそれを機会に、千種会を退会して、敢えて、Golden Strand の翻訳の出版を強行しました。

ちょうどその頃、神崎 PDG が 1921 年の年次大会でシェルドンが講演した「Rotary Philosophy」を発見して、これを XX 氏が翻訳して、それを機会に千種会の講義の内容はこの文献の内容に一変しました。これが XX 氏がシェルドンの文献に出会ってそれを翻訳した、最初で最後の機会でした。

この Rotary Philosophy は、後日ロータリーに大きな問題を提起したスピーチでした。

今までに、かなりの数のロータリアンの文献を翻訳しましたが、ほとんどの人は神について触れており、私生活を含めたあらゆる場面で神の加護を願ったり、神の意志に従ったり、神を祝福する文章が出てまいります。ポール・ハリス然り、チェス・ペリー然り、ウイル・メーニヤ Jr 然り、更に歴代のアメリカ大統領然りです。

これに比べてシェルドンのスピーチの中からは、ほとんど、神という言葉は見当たりません。1910 年、1911 年のスピーチ中からは、「神」は一切見当たりませんが、1918 のスピーチの中で「もし科学を超えたものならば、それを自然の法則と呼んでください。もし宗教ならば、神の摂理と呼んで、判りやすく述べる方が良いかもしれません。」と、用語として「神」が出てまいります。

1921 年の The Rotarian の原稿とエジンバラのスピーチでは、「世界の様々な宗教によって、ほとんど普遍的に述べられている、神である全知 Omniscience、全能 Omnipotence、普遍的存在 Omnipresence の三位一体を示すものです。」という表現と「もしもあなたが神ということばを好まないのなら、創造主・provider という言葉を使ってください。という記述で「God」という単語が出てきます。

シェルドン・スクールの膨大な教科書も、コンピューターの検索機能を使って、くまなく検索しましたが、「God」という単語は全く見つかりませんでした。シェルドンは徹底的に神を排除して、純粋な経営学上の理論でサービス理念を解いているのです。

初期のロータリーは WASP (White Anglo-Saxon Protestant を中心に作られましたから、大部分は敬虔なプロテスタント教徒で構成されていたと思われます。

更にイギリスのロータリー群は、アメリカの運動とは別に独自に作られ、独自の自治権を持ったまま、後日、RI に合流したという経緯があります。当時のイギリスでは職業は世襲が原則であり、高度の倫理性を持った天職という職業観でしたから、シェルドンの経営学に基づいた学問的な職業観とは全く相容れず、終始 He profits most who serves best の廃止を要求し続けた経緯があります。

シェルドンの思考はまさに修正資本主義を先行したものであり、シェルドンが輝いた 1913 年から 1921 年は、後日修正資本主義を採用する民主党政権 (ウッドロウ・ウイルソン大統領) でしたから、思い切り活動できる環境にあったと思われます。Sheldon も George Pigham も Jhon Knatson もドイツ系ですから。Protestant とは一線を画した数少ない民主党よりのロータリアンだったのかも知れません。

さて、1921 年政権交代で大統領が共和党のウォーレン・ハーディングに代わりました。ロータリアンの大部分は、伝統的に共和党の応援者であり、民主党的なシェルドンの経営学理念に同調するロータリアンは少数派になりました。そんな四面楚歌の中で、職業を天職だと信じ、シェルドンの経営学理念を真っ向から否定するイギリスでスピーチをすることになったのです。

シェルドンを失脚させようという、社会奉仕派の陰謀だったのかも知れませんが、シェルドンはスピーチを断るべきだったのかも知れません。

私の考えでは、シェルドンはこの際、思いのたけを語って、これを最後にロータリー運動から決別して、シェルドン・スクールの運営に全力を傾注する覚悟ではなかったのかと思います。

案の定、45 分の予定を 1 時間以上に延長して、彼の理論のすべてを語り尽くしました。場所がイギリスなので、「神」という言葉も少し入れました。

最後に、「結論」を述べて、それで終わるべきところ、さらに、「ナイアガラ」という皮肉たっぷりな

おまけをつけています。その出だしは、「人間の意識の中で、物理的な分野において最強のナイアガラより強い「光」と「力」を持った、最も優れた発電機にならなければなりません。全世界のロータリークラブに対して、法則に関するささやかな教訓と人生との関連に関する内容の、私の好きな無韻文の作品を捧げる名誉を与えてください。」という文章で始まっています。

これは、ナイアガラを当時のロータリーに例えて、その力よりも、彼が主張する経営学に基づくサービス理念の方が正しいことを示唆する文章です。

そして、この文中で、今までも、これからも使わない、「神」という単語を 12 回も乱発しているので、これだけ「神」を使ったら、「神」が大好きなイギリス人もさぞ満足したことでしょう・・・私は、シェルドンの精いっぱい皮肉だと、受け止めています。そして、シェルドンはこれを最後にロータリーとは、完全に手を切って、その後 1930 年までは、籍だけはおいていますが、ロータリーとの関りは持っていません

ウェブ上で発見した、シカゴクラブの膨大なアーカイブスをくまなく調べましたが、1921 年以降は、シェルドンの名前は一切出てきません。委員会構成表からも外されています。シカゴクラブや RI としても、シェルドンの名前抹消という、はっきりとした対抗措置を取ったものと考えられます。

日頃とは異なる God の連発のスピーチに対して、イギリスのデビッド・ニコルはその真意を悟ってか、1984 年に出版された「Golden Wheel」の中で、わざと「セールスマンの死」というタイトルをもち、シェルドンを強く非難しています。更に、「セールスマンは二度死ぬ」というサブ・タイトルをつけて、「シェルドンというセールスマンは 1935 年に死んだが、それ以前のエンジンバラの大会で既にこの世を去っている。」と書いています。なお、シェルドンのスピーチが終わった際に送られた盛大な拍手は、感銘を受けたからではなく、くだらない長い演説がやっと終わったという安どの拍手であったとも書かれています。

シェルドンはこのエンジンバラでの逆襲以外には、経営学に基づくサービス理念を説くにあたって「神」という言葉を一切使わなかったというのが、ライフワークとして、長年シェルドンを研究してきた私の分析結果です。

なお私的な著作として、1929 年に書かれた、「奉仕の原則と保全の法則」の中では「私は現生でどれくらい上手に義務を果たしてでしょうか。創造主、神、すべてをもたらす宇宙の源流、私の仲間たちへの義務です。上手にそれを果たしてでしょうか。そうだとすれば、私は地獄に落ちる心配をする必要はないと思います。私はこの世とあの世の双方における、地獄と天国を信じます。私たちは天国を作りますし、地獄も作ります。それらはすべての人間に共通な精神と心の状態に過ぎません。」と死後の世界のことを書かれて、創造主、神という言葉が並行して使われています。

善行を積めば死後は極楽へ、悪行を重ねれば地獄に堕ちるとするのは、仏教の思想です。シェルドンも自らインドのバカバンドスの影響を受けたと述べていますから、東洋的思考を強く受けていたのかも知れません。

この年に 30 歳という若さでこの世を去った息子を悼む心からか、彼自身の体調についてかなり不安があったからか、何れの理由かは分かりませんが、厭世感の漂う文章であることには間違いありません。この本を執筆した翌年、彼は正式にロータリーを去り、その 5 年後、67 歳の若さでこの世を去っています。

××氏がシェルドンの文献を翻訳したのは、Rotary Philosophy 一冊のみであり、1910 年、1911 年、1918 年のスピーチの内容も全く知らず、ましてや、シェルドン・スクールの数多くの教科書については、その存在すら知らないことが、同氏と直接議論した過程で解りました。

少しでも千種会の講演内容が正しくなるようにと思って、始めの頃は、シェルドンの新しい文献を発

見する毎に、そのコピーを送ってあげましたが、何の反応もないので、馬鹿らしくなって止めました。

ロータリーを学ぼうという機会を与えてくれたのが千種会のあることは間違いなく、非常に感謝しています。しかし、シェルドンの文献は、多くの問題をはらんだ Rotary Philosophy を一冊翻訳しただけで、後は、Golden Strand という小説がいの文献からの引用で、シェルドンを語り、Sheldon Society を名乗り、かつ、そのエンブレムまで作るという不遜な態度に反発して、フランク・デブリン会長、ドクターマン会長の後援を頂いて、シェルドンの一次文献を集めて、シェルドンを真面目に理解する組織として「源流の会」を創立したのが真相です。世界親睦委員会 RRVF に「源流の会」として、RI に正式に申請したのですが、類似組織「歴史と伝統の会」があるという理由で却下されました。

現在の図書購入は、「源流の会」が行っていますが。開設当時は、RI が書庫の重複文献を整理していることを聞き、The Rotarian 100 年分 1200 冊、国際大会年次報告書 100 年分を、更に、アメリカの古本屋のウェブサイトを通じて、シェルドン・スクールの教科書 100 冊を、全て私費で購入して、「源流の会」に寄贈したものです。

現在は 35000 件のアイテムを集め、今や日本最大のデジタル図書館にまで発展しました。

なお「源流の会」の設立に関わった初期の会員は、私と同じ思いで、千種会を退会した会員が多かったことから、千種会の名前を口にする人はおらず、シェルドンの理念は、宗教色を排した、純粋な経営学に基づいたサービス理念だというのが、「源流の会」の統一見解です。

九州・西日本豪雨災害に対するロータリーの取り組み

2680 地区 PDG 田中 毅

九州の豪雨災害が起こってから1年、西日本の災害からは1ヶ月が経ちました。

地域社会の職業人で構成されているロータリークラブとして、自らの地域で起こった災害に対して、積極的に対応する義務があることは当然です。

しかし、自らの身に降りかかった想像を超える被害に茫然として、ロータリーが実践すべき地域社会における社会奉仕活動の実践に取り組むまでには、少し時間が掛かると思います。しかし、地域社会における奉仕活動をしてこそ、ロータリーの存在価値があることを忘れてはなりません。

私は、阪神大震災の翌年に被災地のガバナーを務めて、ロータリーの災害復興事業の難しさを身をもって体験しました。10億円を超える募金が集まり、緊急を要する事業、復興を援助する事業、将来も継続する事業に分けて募金を使わせていただきました。主な事業は、被災留学生の学生寮の建設。被災孤児のケア施設の建設と維持。住宅建設に携わる職人の短期養成施設の運営など、50を超えるプロジェクトを行い、10年後に終了しました。

ロータリーの災害復興活動にはルールがあります。募金を集めて、被災地区に送り付けても、受取る側に体制ができていないと困惑することになります。また、募金を地方自治体や、日赤に送ったのでは、ロータリーの存在価値が疑われます。

被災地区が最初にすべきことは、地区に災害復興基金の銀行口座を開設することです。クラブが独自に口座を開設しても結構ですが、地区でまとめて口座を開設して、クラブの要望に従って資金を分配する方が、結果としてうまくいきます。口座を開設しないと、折角の募金が行き場を探して、宙に浮くことになります。

地区は、ガバナー会を通じて、または個別に、募金をこの口座に振り込むように依頼します。

これと並行して、被災地区のクラブは、地域社会のニーズに従った復興プロジェクトを計画して、その資金を地区に申請します。大きなプロジェクトなら地区が関与する必要もありますが、実施するのはあくまで個々のクラブです。被災地にまたがる幾つかのクラブが合同でプロジェクトを実践するのが効果な場合もあります。

東日本大震災の時に、ガバナー会が、震災復興募金を被災地の学生の奨学金にすると決定しました。私は、募金の使途はあくまで、被災地のニーズに従うべきであり、ガバナー会が口出しする権限はないとして反論しました。幸いにも、次年度のガバナー会議長がこの決定を撤回していただいたので何とか解決しました。

ロータリーが行う災害復興事業は、行政の手が届かない、更に地本のニーズに叶った事業に取り組むべきだと思います。棚田やみかん畑の復興とか、ハウスが壊れて再建が困難な人とか、その気になって探せば、数多くのプロジェクトが見つかると思います。

地域に密着した社会奉仕活動を実践する絶好の機会が与えられたと考えて、被災地区はプロジェクトの実践に、その他の地区はその原資の提供に頑張ってください。もちろん、個人やクラブの意思で、直接災害復興事業に参加することも大きな意義があります。

シェルドンと神 2

2680 地区 PDG 田中毅

7月の炉辺談話「シェルドンと神」に誤解を招きやすい表現がありましたので訂正させていただきます。
シェルドン・スクールの教科書には「God」という単語は全く見つかりませんでした。 という表現は誇張であり、シェルドン・スクールで経営学の理念を説くに際して、教科書の中で、神の加護を願ったり、神の意志に従う単語として God が使われていないと訂正させていただきます。シェルドンは宗教ではなく、敢えて純粋な経営学上の理論としてサービス理念を解いていること理解してください。普通の人なら God 使うのに provider を多用し、laws of God を laws of nature と表現しています。彼の絶筆となった私的な出版物「奉仕の原則と保全の法則」にはやたらと God が出てまいります。いかなる心境の変化か、私も疑問に思っています。

第2次世界大戦 起承転結

2680 地区 PDG 田中 毅

1939年、ヨーロッパで第2次世界大戦が始まり、1940年には、日独伊三国同盟が締結されましたが、日本は隠忍自重して、参戦しませんでした。

イギリスのチャーチル首相とアメリカのルーズベルト大統領は、オランダと支那に働きかけて、ABCD包囲陣によって日本を経済封鎖し、鉄鉱石や石油の輸入を完全に遮断しました。

政府も軍部も、アメリカと戦うことを、まったく望んでいませんでした。戦争を回避しようとして、開戦の直前まで、何回も日米首脳会談を提案しましたが、ルーズベルトはそれに応じませんでした。

ルーズベルトは、祖父が清朝末期に阿片貿易によって巨万の富を築いて、香港に豪邸を持っており、支那の高価な美術品に囲まれて育った関係から、支那に愛着を持っていました。大統領になってからも、巨大な支那市場を夢みて、支那に好意を寄せていました。彼の眼には、日本は伝統文化を守って、キリスト教文明に同化することを拒み、アメリカに媚びることがない異質な国に見えたのでしょう。

1941年1月には、すでに暗号傍受によって、日本側に真珠湾攻撃の計画があることを知って、駐日大使グルーからハル長官に報告がっていました。

ルーズベルト政権は、国際法を犯しながら、支那に対して惜しみなく、援助資金と兵器、軍需物資を注ぎ込みました。蒋介石総統とその宋美齡夫人がキリスト教徒だったために、キリスト教国である支那が、異教の日本によって侵略を被っているとみなしたとされています。

1941年4月に、アメリカ陸軍航空隊のクレア・シュノルトを
中華民国空軍航空参に任命したルーズベルト大統領は、フライング・タイガー戦闘機部隊を結成して、1941年7月23日、蒋介石政権に新型のボーイング B17 大型爆撃機を供与して、支那機に偽装したうえで、アメリカの退役軍人や民間人のボランティアを搭乗させて支那の航空基地から発進し、日本を爆撃する「JB No.355」計画に署名しました。



フライング・タイガー

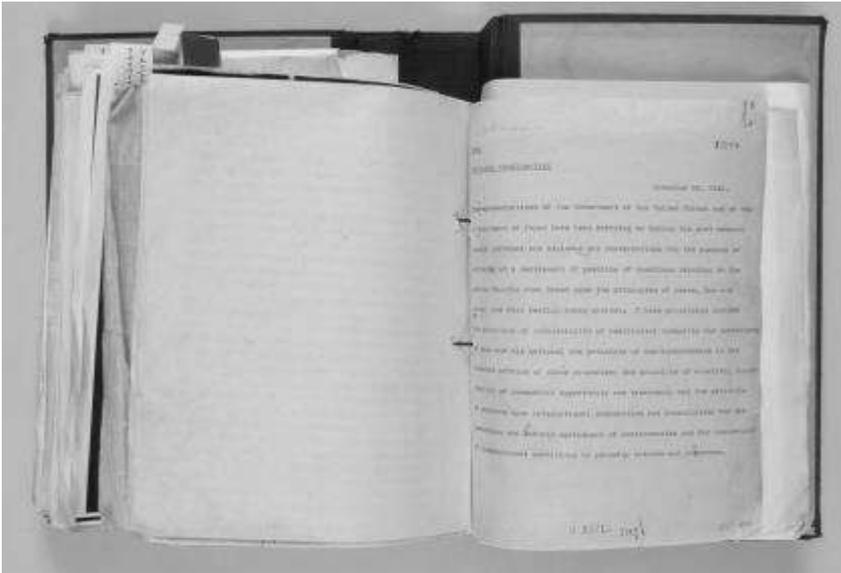
1970年にABCテレビ20/20で公開された「JB No.355」によると、1941年10月1日に、蒋介石政権に150機のB17爆撃機と、350機の戦闘機を供与して、ビルマのラングーン飛行場まで運び、そこから、東京、横浜の産業地域と、神戸、京都、大阪に奇襲爆撃を加えることになっていました。ところが、この日本本土奇襲爆撃作戦は、フランスがドイツに降伏して、イギリスが孤立したために、大型爆撃機をイギリスに急いで回さなければならなくなったために、支那での活動が不可能になって、結局実施されませんでした。

ちなみにこの部隊はカーチス P-40 とボーイング B-17 による航空隊で、現在の貨物航空会社フェデックスの前身です。

ルーズベルト大統領は日本と戦うことを決めていたので、日米交渉が妥結することを望んでいませんでした。日本政府はアメリカも日本と同じように平和を望んでいるものと思い込んでいたのが誤算でした。



JB No.355



ハル・ノート

日本政府と日本大使館でやり取りされる全ての情報は、同時にアメリカ側に傍受解読されていましたから、日本から小出しに出される提案は全て拒否されました。

アメリカは11月26日に、それまで日米の交渉によって積み上げてきた、合意の一際を否定する、「ハル・ノート」を日本に突き付けました。

ハル・ノートには、支那大陸や仏印からの即時撤退、日独伊三国同盟の破棄、支那の反日蒋介石政権

権の承認等々、日本が受諾できない要求ばかりが書き込まれた最後通牒でした。

「合衆国政府及日本国政府の採るべき措置」

- イギリス・中国・日本・オランダ・ソ連・タイ・アメリカ間の多边的不可侵条約の提案
- 仏印（フランス領インドシナ）の領土主権尊重、仏印との貿易及び通商における平等待遇の確保
- 日本の支那（中国）及び仏印からの全面撤兵
- 日米がアメリカの支援する蒋介石政権（中国国民党重慶政府）以外のいかなる政府も認めない（日本が支援していた汪兆銘政権の否認）
- 英国または諸国の中国大陸における海外租界と関連権益を含む1901年北京議定書に関する治外法権の放棄について諸国の合意を得るための両国の努力
- 最恵国待遇を基礎とする通商条約再締結のための交渉の開始
- アメリカによる日本資産の凍結を解除、日本によるアメリカ資産の凍結を解除
- 円ドル為替レート安定に関する協定締結と通貨基金の設立
- 日米が第三国との間に締結した如何なる協定も、太平洋地域における平和維持に反するものと解釈しない(日独伊三国軍事同盟の実質廃棄)
- 本協定内容の両国による推進

大きな犠牲を払って、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦で克ち得た全ての利権を放棄して、明治維新直後の日本に戻れという、長年続いた排日運動の総仕上げとも思われる屈辱的な内容でした。

何とかして日米交渉を円満理に進めたいと考えていた日本も、交渉継続を断念せざるを得ない最後通牒でした。

日本政府は12月1日の午前会議で、今まで和平交渉を唱えられていた昭和天皇も口を閉ざされ、連合国との開戦が決定しました。資源という生命線を絶たれた上に、大和民族としての尊厳を傷つけられた日本は、太平洋戦争に突入せざるを得ませんでした。

1941年12月8日、日本の連合艦隊はアメリカ海軍の基地、ハワイの真珠湾を攻撃して、アメリカ太



空母 赤城より出撃

平洋艦隊に大打撃を与えましたが、たまたま、米空母が湾内にいなかったことが、後半戦におけるアメリカを優位にさせる原因になりました。

開戦の30分前に米務省に国交断絶の通告を渡すことになっていましたが、ワシントンの日本大使館の怠慢によって、それが55分遅れてしまいました。

ルーズベルト大統領はこのミスを最大限利用して、日本は宣戦布告なしの奇襲攻撃をした卑劣で悪辣な国であると国内向けにプロパガンダす

ることによって、排日感情を煽りました。

タイはこの戦争において日本側に付いて、米英に対して宣戦布告をしています。緒戦における日本軍の進撃は、連戦連勝と目覚ましいものでした。日本軍は開戦と共に、イギリスが「東洋の真珠」と誇った香港をたちまち攻略し、イギリスの支配下にあつたマレー半島、シンガポール、インドネシア、アメリカが統治していたフィリピン、オランダの植民地だったビルマを開放しました。

色が違うために辱められてきた人々が、日本の働きによって、重鎖から解放されて、前途に眩い光を見ることができました。抑圧された有色人種が覚醒するなかで、アメリカ、イギリス、オーストラリア当局が狼狽えて、有色の活動家たちの取り締まりを強化したり、有色の



真珠湾攻撃

人々を
懐柔す

るために、慌てて人種差別政策を緩和することを強いられました。日本軍の進攻によって、数世紀にわたった白人の優位が打破されたことは、まさに驚天動地の出来事でした。

日本は、アジア人を兄弟としてみなしたので、日本の占領地域では、日本の将兵が、同じアジア人に対して思い遣りをもって、対等に接しました。支那人が打算的で、白人に媚びていたのに対して、日本が毅然として、白人と対決してきたことは、高く評価されました。

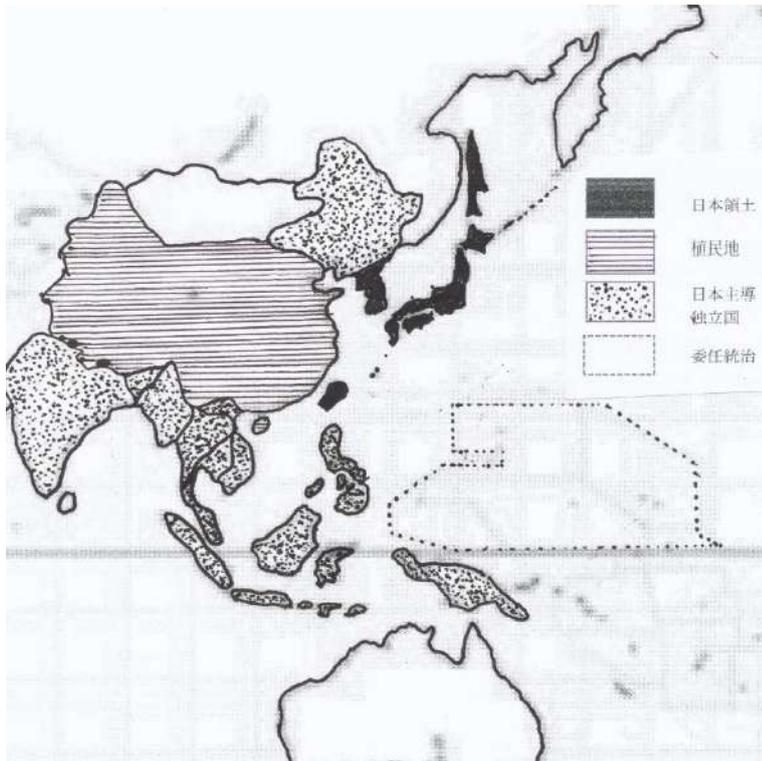


シンガポール陥落

歴史には、「もしも」という仮定を持ち込むことはできません。しかし、シンガポール陥落直後に持ち込まれた、停戦案に日本が同意していたら、どうなっていたかを、想像することも自由です。

台湾と朝鮮と千島列島と南カラフトと当時日本が委任統治していた南洋諸島に加えて、アリューシャン列島とハワイは日本の領土になっていたはずで

さらに満州国というバッファーを置いて、支那は日本の植民地に、そしてインド、ベトナム、マレー



シア、ボルネオ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、タイ、パプアニューギニアなどの東南アジアの諸国は日本の支援を受けて独立国になっていたはずですが。当時の日本の国策であった大東和共栄圏が完成して、世界最大の排他的領海を有する海洋国家になっていたのです。

1943年11月5日に、帝国議会議事堂において、日本の戦争目的を世界と後世へ向けて宣明するめに、大東亜会議が開催されました。

日本の東條英機首相、中華民国国民政府行政院長の江兆銘、タイのワンワイタヤコン首相代理、満州国の張景恵

國務総理、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モウ首相、自由インド仮政府のチャンドラ・ボース主席が一堂に集り、アジア諸国の独立について話し合いました。

日本はこの年8月にビルマと、10月にフィリピンを独立させていました。更に、オランダ領東インド諸島として知られていたインドネシアは、日本の指導下で独立へ向けて、教育、行政制度の整備や、将来の国軍の訓練などの準備が着々と進められていました。

第二次世界大戦時の、東南アジアにおけるイギリス、アメリカ、オランダの植民地において、日本が連戦連勝したのは、日本軍がアジアを支配するために、原住民を侵略したのではなく、アジア諸民族を、欧米の帝国主義から解放して独立に導くためだったので、現地の人々の協力を得られたからです。

日本は植民地となっていた人々に教育を施し、軍事訓練を行い、独立の手助けを行いました。日本軍に支援されて、インド国民軍総司令官となったチャンドラ・ボースは、「日本はアジアの希望の星」と語り、日本に深く感謝しました。

マレーシアもシンガポールも同様でした。日本軍がマレー半島を南下して、シンガポールへ向かう途上、日本の諜報部隊が、イギリス軍のインド兵に脱走するように呼びかけたところ、インド兵が次々と投降し、日本軍に協力したいと申し出て、その数は45000人を超えました。

彼らを中心にインド国民軍が結成され、日本軍と協同して、ビルマからインド東北部のインパールを目指して進撃しました。日本が戦争に敗れると、イギリスはインパール作戦を戦ったインド国民軍反乱軍として、裁判にかけましたが、インド全土の民衆が憤って、数百万人がインドの街頭を埋め尽くしました。イギリスはスピットファイア戦闘機を飛ばして、上空から群衆に機銃掃射を加えて、鎮圧を試みましたが、混乱は収まらず、止む無くイギリスはインドの独立を認めざるを得ませんでした。インパール作戦は、日本にとって作戦上は惨憺たる失敗に終わりましたが、インドは独立するという目的を達成しました。

インドネシアは、日本が降伏した二日後に独立を宣言しました。日本が敗れると、オランダ軍がインドネシアを再び植民地にしようとして、イギリス軍の援助を受けて攻撃してきました。インドネシア独立軍は30000人にのぼるペタ出身者が中核となって応戦しました。当時インドネシアに残留していた

2000人近くの日本兵が、祖国に復員せずに、インドネシア人と共に独立戦争に加わりました。

日本の敗戦後、東南アジアからインドに至るまで、大戦中に日本に協力した人々が裁判にかけられたり、処刑を受けたことは一度もありませんでした。もし日本が東南アジアの諸国を侵略するための戦争をしていたなら、このようなことはありえません。インドネシアでも、インドでも、ミャンマーでも、戦後、対日協力者は民族の功労者となりました。フィリピンでも、初代のラウレル大統領、アキノ大統領の一家も、対日協力者でした。

日本はアジアを解放することによって、アジアに恒久的な平和を確立することを願っていました。日本の多くの青年たちが、人種差別撤廃の大義を信じて、戦野に果てていきました。

日本が大きな犠牲を払うことによって、アジアだけではなく、更にアフリカの諸民族も解放されました。戦後、この高波がアフリカ大陸に押し寄せて、アフリカ諸民族が次々と、独立を獲得していきました。

昭和天皇を元首とする日本が、白人と戦った結果として、アジア・アフリカの諸民族が解放されて、数多くの独立国が誕生したことに感謝して、昭和天皇の崩御に当たっては、164ヶ国の元首や、代表が、全世界から弔問に訪れました。この数字は、如何に多くの国が、日本によって独立を勝ち得たかを示すものです。

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦で統治する権益を得た国や地域を、宗主国による一方的な搾取による植民地統治ではなく、国民を差別することなく、教育や、民生の向上に努めた統治を行いました。西太平洋のサイパン、テニアン、ペリリューなどのマリアナ諸島とマーシャル諸島とパラオ諸島の島民たちは、今日でも日本を慕って、日本語を使っています。

前近代的な水準にあった台湾と朝鮮においても、民生と、教育の向上を図り、大学、学校、病院、鉄道を普及させ、治水、灌漑を整備して、農工業を振興して、短期間のうちに近代国家に引き上げました。

アジアのほとんどの国が、日本に関して好意的なのに反して、朝鮮と中国だけが異なった反発をしています。

朝鮮は歴史の歯車の中で、常に何れかの国の植民地であったことのひがみが強いのかも知れません。

支那は世界有数の歴史の中で、長期間続いた政権がなかったため、国としての概念に乏しく、広大な国土があるのに、世界中にコロニーを作って、個人的な利益を追求する傾向が見られます。

日本の長い歴史の中で、万世一系の天皇制度を維持し、例え戦国時代であっても、戦うのは武士であり、奴隷制度を採ったり、市民の大虐殺をした記録はありません。

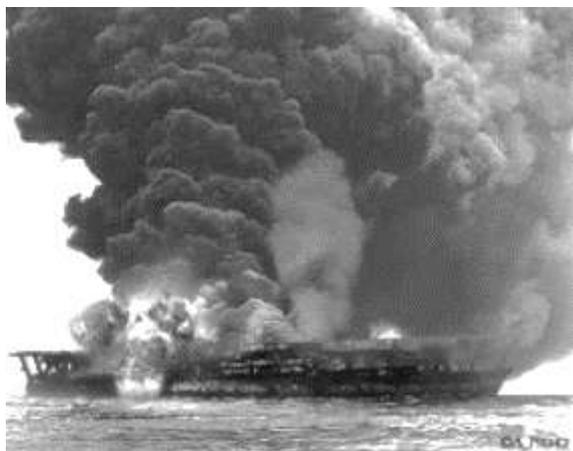
朝鮮における慰安婦の問題にしても、若い女性を強引に拉致して性奴隷にしたわけではなく、本人が自らの意思によってその職業を選んだのです。戦場に慰安婦はつきものです。

支那は南京に於いて、30万人の大虐殺があったと主張しています。しかし激戦によって双方の兵士に多数の死傷者がでたことは想像できますし、支那は正式に降伏しないまま、蔣介石は重慶に、唐生智司令官も南京陥落前夜に逃げてしまいました。支那軍は総崩れになり私服で敗走したため、これを追撃したことが民間人を虐殺したと誤解されました。当時の南京市民の数は20万人(当時の警察庁長官の公式発表)、南京陥落1ヶ月後の人口は25万人であることから、30万人殺害されという数字は、きわめて誇張されたプロガパンダに過ぎないことがよく分かります。

嘘も何回も重ねると、真実のように見えてくるものです。イエスカノーかの二者択一で迫ってくる外国人に対して、何も知らない政治家が、安易に頭を下げるのが、後々、大きな禍根を残すこととなります。

終戦後も例年続けていた靖国神社の参拝を、中国の胡耀邦国家主席に懇願されて取りやめた中曽根首

相のせいで、歴代主首相は靖国神社の参拝という伝統的行事が不可能になってしまいました。日本が侵略戦争を戦ったと語った、極左の村山富市首相、朝日新聞の捏造記事を鵜呑みにして、無垢の娘たちを拉致して、慰安婦に仕立てたと語った河野洋平氏の責任は重大です。



ミッドウエー海戦 加賀撃沈

話を第二次世界大戦に戻しましょう。ミッドウエー海戦に敗れたことが、戦局を大きく変えました。この作戦に参加していた日本の空母は、「赤城」「加賀」「飛龍」「蒼龍」の4隻とその後方には戦艦大和も控えておりました。

しかし、この作戦の情報や日本の空母群の所在位置はアメリカ側の暗号解読によって事前に知られており、がぜん有利な体制にあったにも関わらず、突然現れたアメリカ太平洋艦隊の空母は3隻による奇襲攻撃に対処全てのができませんでした。敵空母の接近を知って、あわてて陸上攻撃用の爆弾を空母攻撃用の魚雷に交換している最中に、高空から米軍攻撃機の急降下爆撃を受けました。

艦内の格納庫にミッドウエー島を攻撃するために爆弾を積んだ大量の攻撃機を収容していたことも災いして、自爆の連鎖を起こして、全ての空母を失ってしまいました。ミッドウエー島を攻撃して弾薬と爆弾を空にして帰還したゼロ戦は、撃墜されるか、不時着水するしか方法は残されていませんでした。圧倒的に優位な戦力を持ちながら、情報収集の差によって惨敗する結果になりました。

これ以降戦局はアメリカに大きく傾き、局地的に勝つことがあっても、撤退の連続となります。なおこの海戦でアメリカの主力となった空母は、真珠湾でみすみす取り逃がした空母でした。

もしも日本がミッドウエー海戦で勝利を収めていれば、アメリカ陸軍はヨーロッパの兵力を、アメリカ西海岸に回して本土防衛をする必要があり、ドイツがイギリスを破ってヨーロッパの覇者になっていた可能性も否定できません。

1943年4月、連合艦隊司令長官・山本五十六がブーゲンビル島上空で、撃墜されて戦死しました。これもまた、情報が把握されていた結果でした。

世界一強いと自他ともに認めていた日本軍が、なぜ負けたのでしょうか。戦争の後半は物量の差であることは明白ですが、敗戦の引き金になったミッドウエー海戦は、優れた電波探知機を備え、暗号探知機能と解読に優れたアメリカのIT技術に負けたのです。日本の機密情報はアメリカに筒抜けでした。情報の取り扱いに弱いという日本の情報音痴は現在も続いています。

1944年、サイパン島の日本軍が玉砕して、日本全土がB25とB29爆撃機の行動範囲に入りました。

同年フィリピンのレイテ湾の戦闘で、初めての神風特攻隊が、沖縄線では大量の特攻隊が出撃しました。陸軍の特攻隊は隼で知覧と万世から、海軍の特攻隊は零戦で鹿屋と指宿から飛び立ちまし



神風特攻隊

た。飛行機が不足したので、指宿からも出撃したのは、零式水上偵察機でした。

日本が失った特攻機は 2800 機、アメリカ軍の損害は戦艦 10 隻、空母 9 隻、巡洋艦 5 隻、駆逐艦 118



戦艦大和

隻、その他艦船 40 隻と言われています。なお、著名な野球選手、故青田昇氏の奥様の話では、同氏が知覧基地から出撃する前日に終戦になったそうです。

1945 年 4 月、戦艦大和と連合艦隊の残存艦 9 隻は、航空機の援護もなく、帰りの燃料も積まずに、沖縄に向かいました。沖縄の浅瀬で座礁して、艦砲射撃をする海上基地にする予定だった

と言われていました。

しかし、途中、鹿児島県坊ノ岬沖で米軍機 386 機の猛攻を受けて大爆発を起こして沈没しました。

アメリカ軍は B29 を用いて、日本各地の大都市を無差別爆撃しました。軍事目標ではなく、意図的に市民を大量虐殺したのです。1945 年 3 月の東京大空襲では、10 万人の市民が殺されました。木造住宅が燃えやすいことに目をつけて、大量の焼夷弾を上空から、無差別にばらまいて、大量の非戦闘員を火あぶりにして虐殺しました。

なお、東京には 106 回、名古屋には 63 回大阪には 8 回の空襲が行われました。

日本が降伏寸前であることを知りながら、広島にはウラニウム爆弾、北九州が視界が悪かったため変更した長崎にはプルトニウム爆弾を落としました。広島では 11 万人、長崎では 7 万人以上の人々が犠牲になりました。健康な男子は出征して、町に残っていたのは老人と女・子供ばかりでした。

日本が和平の意志を示していたにもかかわらず、広島と長崎に原爆投下したのは、日本人を有色人種として蔑視する、強い意識が働いたからです。無駄な死者を出さずに、戦争を早く終わらせるために、原爆を使ったというのは勝者の詭弁であって、原爆の威力を人体実験したいという欲望の結果であり、虐殺のための虐殺であることは間違いありません。

なおこの原爆投下については、まもなく参戦してくるソ連との日本分割統治を避けるために、アメリカ主導型で早く戦争を終わらせたかった意図もあると言われて

います。
1944 年に実施されたアメリカの世論調査では、「日本人を全員殺害すべきか」という設問に対して、「賛成」意見が 13% ありました。ドイツ人に対する同様な設問は設けられていませんでした。



原爆による大殺戮

激戦地に於いて、投降してくる日本兵の多くは銃殺され、捕虜としての扱いを受けたのはごく僅かだと言われています。沖縄戦においては、多くの日本の女性が、米軍兵士によって凌辱されました。

本土では焼夷弾による無差別攻撃、原子爆弾によって 70 万人もの一般市民が焼き殺されました。どの国がフェアな戦いをしたのか、よく考えてみる必要があります。日本人は有史以来、人種平等を旨としましたが、戦後、人種平等の世界が到来するまでのアメリカでは、有色人種に対する身の毛がよだつような蔑視が支配していたのです。

ユダヤ人の大虐殺がヒトラーの犯罪ならば、日本における民間人の大虐殺はアメリカ人が犯した大罪なのです。極東軍事裁判で裁かれるべきことは、日本の戦争責任者と共にアメリカ軍による日本の民間人大虐殺です。



昭和天皇

「勝った国のいうことがすべて正しい」このルールは現在も引き継がれています。

日本国に無条件降伏を強ければ、徹底抗戦となって、アメリカ側も大きな損害を被ることが予測されたので、日本陸海軍だけに無条件降伏を求めるポツダム宣言が作られました。

軍部の徹底抗戦を退けた、昭和天皇の決断によって、ポツダム宣言が受諾され、第 2 次世界大戦は終了しました。

日本側の犠牲者数は軍人 240 万人、民間人 70 万人に上りました。

日本陸海軍が無条件降伏しましたが、日本の国は、天皇家を残すという条件の下で、ポツダム宣言を受諾したのです。憲法上、沈黙を守らざるを得なかった天皇陛下が、日本の将来と世界の平和に深い思いを馳せて、述べられたのが、終戦の詔勅です。

終戦の詔勅

朕深く世界の大大勢と帝國の現状とに鑑み非常の措置を以て時局を收拾せむと欲し茲に忠良なる爾臣民に告ぐ

朕は帝國政府をして米英支蘇四國に對し其の共同宣言を受諾する旨通告せしめたり

抑々帝國臣民の康寧を圖り萬邦共榮の樂を偕にするは皇祖皇宗の遺範にして朕の拳々措かざる所曩に米英二國に宣戰せる所以も亦實に帝國の自存と東亞の安定とを庶幾するに出て他國の主權を排し領土を侵すか如きは固より朕か志にあらず

然るに交戰已に四歳を閱し朕か陸海將兵の勇戰朕か百僚有司の勵精朕か一億衆庶の奉公各々最善を盡せるに拘らず戰局必ずしも好轉せず

世界の大大勢亦我に利あらず

加之敵は新に殘虐なる爆彈を使用して頻に無辜を殺傷し慘害の及ぶ所眞に測るへからざるに至る而も尚交戰を繼續せむか終に我か民族の滅亡を招來するのみならず延て人類の文明をも破却すへし斯の如くむは朕何を以てか億兆の赤子を保し皇祖皇宗の神靈に謝せむや

是れ朕か帝國政府をして共同宣言に應せしむるに至れる所以なり

朕は帝國と共に終始東亞の解放に協力せる諸盟邦に對し遺憾の意を表せざるを得ず

帝國臣民にして戰陣に死し職域に殉し非命に斃れたる者及其の遺族に想を致せば五内爲に裂く

且戰傷を負ひ災禍を蒙り家業を失ひたる者の厚生に至りては朕の深く軫念する所なり

惟ふに今後帝國の受くへき苦難は固より尋常にあらず

爾臣民の衷情も朕善く之を知る然れども朕は時運の趨く所堪へ難きを堪へ忍ひ難きを忍ひ以て萬世の爲に太平を開かむと欲す

朕は茲に國體を護持し得て忠良なる爾臣民の赤誠に信倚し常に爾臣民と共に在り

若し夫れ情の激する所濫に事端を滋くし或は同胞排擠互に時局を亂り爲に大道を誤り信義を世界に失ふか如きは朕最も之を戒む

宜しく擧國一家子孫相傳へ確く神州の不滅を信じ任重くして道遠きを念ひ總力を將來の建設に傾け道義を篤くし志操を鞏くし誓て國體の精華を發揚し世界の進運に後れさらむことを期すへし

爾臣民其れ克く朕か意を體せよ

御名御璽

昭和二十年八月十四日

内閣総理大臣鈴木貫太郎

ポツダム宣言

1. 我々合衆国大統領、中華民国政府主席、及び英国総理大臣は、我々の数億の国民を代表し協議の上、日本国に対し戦争を終結する機会を与えることで一致した。
2. 3ヶ国の軍隊は増強を受け、日本に最後の打撃を加える用意を既に整えた。この軍事力は、日本国の抵抗が止まるまで、同国に対する戦争を遂行する一切の連合国の決意により支持され且つ鼓舞される。
3. 世界の自由な人民に支持されたこの軍事力行使は、ナチス・ドイツに対して適用された場合にドイツとドイツ軍に完全に破壊をもたらしたことが示すように、日本と日本軍が完全に壊滅することを意味する。
4. 日本が、無分別な打算により自国を滅亡の淵に追い詰めた軍国主義者の指導を引き続き受けるか、それとも理性の道を歩むかを選ぶべき時が到来したのだ。
5. 我々の条件は以下の条文で示すとおりであり、これについては譲歩せず、我々がここから外れることも又ない。執行の遅れは認めない。
6. 日本国民を欺いて世界征服に乗り出す過ちを犯させた勢力を永久に除去する。無責任な軍国主義が世界から駆逐されるまでは、平和と安全と正義の新秩序も現れ得ないからである。
7. 第6条の新秩序が確立され、戦争能力が失われたことが確認される時までは、我々の指示する基本的目的の達成を確保するため、日本国領域内の諸地点は占領されるべきものとする。
8. カイロ宣言の条項は履行されるべきであり、又日本国の主権は本州、北海道、九州及び四国ならびに我々の決定する諸小島に限られなければならない。
9. 日本軍は武装解除された後、各自の家庭に帰り平和・生産的に生活出来る機会を与えられる。
10. 我々の意志は日本人を民族として奴隷化しまた日本国民を滅亡させようとするものではないが、日本における捕虜虐待を含む一切の戦争犯罪人は処罰されるべきである。日本政府は日本国国民における民主主義的傾向の復活を強化し、これを妨げるあらゆる障碍は排除するべきであり、言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。
11. 日本は経済復興し、課された賠償の義務を履行するための生産手段、戦争と再軍備に関わらないも

のが保有出来る。また将来的には国際貿易に復帰が許可される。

12. 日本国国民が自由に表明した意志による平和的傾向の責任ある政府の樹立を求める。この項目並びにすでに記載した条件が達成された場合に占領軍は撤退するべきである。
13. 我々は日本政府が全日本軍の即時無条件降伏を宣言し、またその行動について日本政府が十分に保障することを求める。これ以外の選択肢は迅速且つ完全なる壊滅があるのみである。

13条からも分かるように、ポツダム宣言によって無条件降伏したのは日本陸海軍であり、日本国ではないにも関わらず、マッカーサー元帥はまるで日本国が無条件降伏したかのように、占領政策を行いました。日本民族から独立心を奪い、贖罪意識を植えつけることが、占領政策の最も大きな目的でした。

このマッカーサーによる、日本人総洗脳の効果は絶大で、現在もまだ続いており、日本国全体がアメリカの言うがままに統治され続けているような気がします。

占領と同時に、報道を厳しく制限するプレスコードを定めて、新聞や出版社や国民の私信に至るまで徹底的な検閲と**言論統制**を行いました。NHKや全国の新聞に、アメリカに都合の良い「太平洋戦争史」を連載させて、日本民族から歴史の記憶を奪うことによって、占領後も、アメリカの属国であり続けるように情報操作をしました。これは「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立されるべきである。」と記載されたポツダム宣言 10条に違反する政策でした。

天然資源のない日本が、近代戦を互角に戦えた根源は、日本精神であると考えて、日本人の心のよりどころである**国家神道**を廃止しました。これもポツダム宣言 10条に違反する政策です。さらに国を称え国に忠義を尽くす行為を禁止し、**日の丸**と**君が代**を禁止しました。

戦争協力者を 20 万人以上**公職追放**したため、戦争中は言論を封じられていた左翼の人々が、教育界や学会やマスコミで勢力を持つようになりました。それにシベリア抑留で共産主義に洗脳された人たちが加わって、大きく左傾化しました。

財閥が解体され、農地改革によって、多数の自作農が生まれました。財閥はまもなく復活しましたが、農地改革は極めて不平等だったために、没落した旧地主層と土地成金を生みました。

戦争責任者が逮捕されて、**極東裁判**にかけられましたが、この裁判は民主的に行われたものでなく、国際法にも合致していません。

学校教育も大きく変えられました。戦後、教育勅語はアメリカの指示によって全面的に否定され、それを受けて 1948 年 6 月に「教育勅語等排除に関する決議」が衆参両院に提案されて、廃止されました。

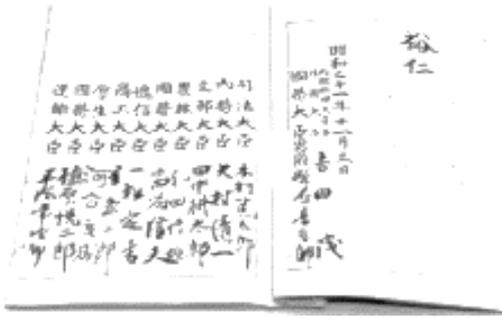
教育勅語を廃止した影響は極めて大きく、これによって日本人の教育に関する拠り所が否定されて、日本の風紀が乱れてしまったのです。速やかに復活すべきだと思います。

しかし、この作業は、天皇の勅語の改訂ですから、誰にでもできるものではありません。平成の時代が終わって、皇太子殿下が皇位継承をされる際、誰にでも理解できる口語体で原案を作成して、国会で議決して頂きたい作業です。

日本独自の年号である**皇紀**が廃止され、日本人の和の心を教える**修身**も廃止されました。御真影と教育勅語が収められていた**奉安殿**や二宮金次郎の銅像が撤去され、**学制**も教科書も一新されました。特に日本の近代史は、アメリカの都合の良いように大幅に書き換えられました。

1945 年、選挙法が改正されて、20 歳以上の男女に選挙権が与えられるようになりました。

日本国憲法は 1946 年に公布され、1947 年 5 月に施行されました。当初は日本側に原文作成がある程度任せられていたのですが、日本側の出案が余にも姑息的であったため、**GHQ** が苛立って、自らが英文で改正案を作成して政府に提示したと言われています。



法的無効の日本国憲法

当時の日本は占領下であり、日本には主権がありませんでした。

主権のない日本に、主権の発動である憲法が存在するはずもなく、日本国憲法は進駐軍が植民地・日本の統治を都合よく行うために制定した占領政策に過ぎないのです。

現在の憲法は、占領政策としてアメリカから押し付けられたものであり、国民の総意に基づいて作られたものではありませんから無効です。従って姑息的な憲法改正ではなく、現行憲法をいったん失効して、明治憲法に戻った後に、新しい憲法を制定するのが筋です。戦後 70 年もその作業が続けら

れなかったことも、マッカーサーの日本人総洗脳の効果かもしれません。

第 9 条は、占領下の日本をアメリカの従わせるための条文です。典型的な資本主義国家であるアメリカが作った憲法なのに、独立国日本の中に、これを順守しようという動きが存在すること自体が問題であり、それが左派集団であることは二重の驚きです。戦後の長い平和は、憲法第 9 条があるおかげだという人がいますが、これは大きな間違いであって、日米安全保障条約があって、アメリカの庇護を受けていたからです。

戦後、アメリカの占領政策によって、日本に民主主義がもたらされたという人がいますが、それは大きな間違いで、日本は神話の時代から、八百万の神々の話し合いによって物ごとを決めてきたという歴史があります。日本の原点に、話し合いを通じて物事を決めるという民主主義があるのです。1500 年前に作られた聖徳太子の 17 条の憲法の中には、日本型民主主義が詳細に記されています。

1950 年に起こった朝鮮戦争で、アメリカは戦争に必要な品々を日本に生産させて、大量に購入したために、日本は奇跡的な復興への足がかりをつみました。その後、ソ連、中国を筆頭に、北朝鮮、モンゴルなど東アジアのほとんどの国が共産主義国になってしまいました。危機感を感じたアメリカは、日本を西側陣営に加えるために、日本の占領政策の方針を 180 度転換して、アメリカの同盟国として、共産主義に対する防波堤として利用しようと考えました。その足掛かりとして、戦争賠償金を免除して、サンフランシスコ講和条約を締結しました。

修正資本主義への復古

2680 地区 PDG 田中 毅

アメリカ建国の歴史は、17 世紀、イギリスで起こった宗教戦争を契機として、大量の WASP (White Anglo-Saxon Puritan) が新天地を求めてアメリカ東部に入植したことから始まります。アメリカの建国者たちは、北アメリカの大自然を、神が自分たちに与えたものと考えました。原住民のインディアンは人間ではなく、単に人の形をした動植物の一部としか考えませんでした。先住民族であるアジア系モンゴロイドのアメリカ・インディアンはできるかぎり早く、駆除すべき害虫と変わらない存在であり、清教徒が東海岸に到着した時に、北アメリカ大陸にいた 300 万人のインディアンは、19 世紀には 30 万人にまで減りました。人間の形をした動物であるとして殺戮を繰り返して、西へ西へと領地を拡大していきました。

アメリカ人は砂糖、コーヒー、綿花、タバコなどの農作物を農園で作り出しましたが、労働者の不足に悩まされたので、アフリカ大陸の大西洋沿岸にも進出し、現地のアフリカ諸部族の黒人有力者から黒人を買取り、奴隷貿易によってアメリカ大陸に輸入しました。ただ初期の奴隷需要はカリブ海地域および中南米が圧倒的であり、北米への奴隷輸出は、18 世紀以降、もっぱらサウスカロライナ州を中心に、黒人奴隷の売買が盛んになりました。奴隷制度によって維持されるアメリカ南部の広大なプランテーション農業が盛んになったのは、19 世紀に入ってからです。アメリカでは入植した当初から、黒人奴隷を使役していましたが、奴隷解放宣言が発せられるまで、700 万人以上の黒人奴隷がアフリカから拉致されて酷使されました。インディアンは従順でなかったのが奴隷として適しませんでした。黒人は牛馬より寿命が長かったし、従順で安価に売買可能でした。1960 年代の半ばまでは、奴隷は私的な所有物であり、婚姻することは許されませんでした。殺しても、強姦しても罪に問われることはありませんでした。アメリカにおける奴隷制度が完全に終結したのは、僅か 20 年前の、1995 年ミシシッピ州憲法によってです。

1789 年、初代大統領ジョージ・ワシントンによって独立を果たしますが、その後米英戦争や奴隷問題を契機に国内を二分する南北戦争を経て、アメリカの政治は安定することになります。

大陸横断鉄道が開通したことによって、西部開拓が急速に進み、生活圏を脅かされたアメリカ・インディアンの一斉蜂起によって起こった、1890 年のウンデッドニへの虐殺によってインディアンの 95% が虐殺されたと言われています。

1860 年代の大陸横断鉄道建設が始まると、多くの支那人が労働者として酷使されました。現在でも、シアトル近郊にはノーザン・パシフィック鉄道で働いた、またサンフランシスコには、サザン・パシフィック鉄道やサンタ・フェ鉄道で働いた、大勢の支那人移民の子孫が生活しています。

鉄道建設が終わって、経済不況が訪れると、低賃金で働く支那人労働者の存在は、白人労働者の反発を招くようになり、支那人移民排斥運動に発展しました。

白人の支那人に対する人種的な差別、攻撃はたびたび暴力的になり、多くの犠牲者が出ました。労働組合も支那人労働者の排斥を強く訴え、組織的な支那人排除の動きは、しばしば残虐な殺人にも発展しました。これらの運動の結果、アメリカは、1882 年に支那人労働者移民排斥法を議決しました。

これと入れ替わりに、日本人の移民が始まりました。最初の移民は、1869 年カリフォルニア州に入植した旧会津藩士たちだったと言われています。その後、一般の移民も始まり、鉱山・鉄道敷設・道路建設・農場などの労働者として働きました。

日本人移民は勤勉で長時間労働を厭わなかったのが、支那人以上に白人労働者の地位を脅かした上、日本人はアメリカ人社会に溶け込めず、日米摩擦の原因となりました。

カリフォルニア州の日本人移民排斥運動は、1890 年代から始まりましたが、日露戦争の頃になると、

アメリカ全体に広がり、1906年にはサンフランシスコで、日本人の学童が公立学校への通学を一時禁止される事件が起こり、その後、日本人の土地所有が禁止されるなど排日気運が高まって、1924年には新移民法が成立して、日本人移民のアメリカ全土への入国は禁止されました。

急激に国力と存在感を高めてきた黄色人種国である日本への、人種差別感情が強くなっていきました。

初期のアメリカの政権は、民主共和党、民主党、ホイッグ党が順番に行っていましたが、1861年に共和党のアブラハム・リンカーンが政権をとってからは、共和党の政権が続きました。

当時の経済はいわゆる古典的資本主義であり、産業革命後の極端な資本主義の下で、少数の資本家が資本を独占して、労働者の対立していた時代でもありました。19世紀から20世紀初頭は、醜い資本家の欲望が労働力を搾取した時代でもありました。いかに安い賃金で労働者を雇うかが利潤を増やす鍵となり、そこが労働者の貧困、失業などの問題や、無秩序な自由競争による経済恐慌などの大きな社会矛盾を生む原因になりました。

1929年、共和党のフーバー大統領の時に世界大恐慌後が起こりました。

1933年に誕生した民主党フランクリン・ルーズベルト大統領によるニューディール政策によって、アメリカは修正資本主義を採択して、景気回復を図りました。

この理論はジョン・ケインズが提唱したもので、古典的資本主義の無計画性に基づくさまざまな弊害を国家が政策的に是正し、福祉国家を目指そうとする政策であり、資本主義における所得分配の不平等は、労使の協調と国家の所得再分配政策によって、また失業の増大は完全雇用政策によって、恐慌の発生は経済計画によって是正し、克服することができます。需要の縮小に基づく失業は、減税・公共投資などの政策によって投資を増大させることで、回復可能であることを示して、大恐慌に苦しむルーズベルト大統領によるニューディール政策の強力な後ろ盾となりました。

実はこの修正資本主義の考え方は、1902年にアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した経営学に基づくサービス理念と、全く同じ考え方なのです。

ここで当時の共和党と民主党の政策の違いを説明しておきましょう。

共和党は Conservatives 保守主義 典型的な保守主義

支持母体は福音派のキリスト教徒(WASP)、ティーパーティー・全米ライフル協会、アメリカブルーカラー層

対外政策では力によって秩序を保ちあくまで米国の国益を優先する姿勢が色濃く出ています。

自己責任主義

人工妊娠中絶禁止

不法移民の受け入れに断固反対

自分の命は自分で守る・銃規制反対

これに対して民主党は liberal 社会主義 かなり左寄りの思想

支持母体はアメリカ労働総同盟・マスコミ・芸能界・移民・有色人種

その名の通りリベラリズム色が強い政策が売りで、経済・財政政策的にも医療保険の強化や累進課税の強化を訴えたり、さらに国際協調主義を全面に打ち出しています。

工妊娠中絶の容認

不法移民の受け入れを容認

労組重視

同性愛容認

さて、1970-80年代、長く続いた民主党の修正資本主義の下で、米国の伝統的富裕層には不満が蓄積されており、福祉型の修正資本主義ではなく、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めていました。その代表格がネオ・コンサーバティブス（新保守層、ネオコン）と呼ばれるグループです。彼らは、フリードマンの新自由主義を政治経済理念にすれば資本家の利益配分を多くできると考え、福祉型資本主義から新自由主義型資本主義に転換しようとしてきました。

20世紀後半から21世紀初頭にかけて、フリードマンやハイエクが提唱した新資本主義、即ちアングロサクソン型資本主義が全世界に拡散しました。

自己責任を基本にした競争社会を推進して、福祉・公共サービスなどの縮小、公営事業の民営化などによって財政均衡を図って、グローバル化を前提として政府機能を縮小して、規制緩和による競争促進、労働者保護廃止などの経済政策の体系的転換によって、競争志向を正統化するための市場原理主義への回帰です。

企業は金融市場から直接資金を調達し、株主の利益の最大化を目指します。業績が悪化した場合、株主の利益を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。

自己責任を重視するために、賃金制度では成果主義をとります。

自由な市場は、価格機能によって資源の最適配分ができるようになるので、経済活動を可能な限り自由にすべきであるという考え方です。

それを実現するためには、政府機能を縮小して「小さい政府」にして、富裕層に減税し、社会保障制度を否定すれば、経済が成長して、結果的に国家が繁栄します。更に、財政政策は金融万能主義（マネタリズム）を採用することが基本になります。

何ごととも利益追求のチャンスとして、ゼロから無限の富を目指すサクセスストーリーで、人々の競争意識を駆り立てる魅力がありますが、全ての商品を投機化した結果、バブルに陥るリスクがあります。

この政策を積極的に進めたのが、共和党の大統領ロナルド・レーガン、ブッシュ(親子)です。イギリスではマーガレット・サッチャーがこの政策を取りました。

世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、リーマン・ブラザーズのような破綻例も起こります。

これらのグループはグローバリズムと称して、国家を無視して、英領バージンアイランドやケイマン諸島などのタックス・ヘブンの国に資金を移して、脱税という国家に対する大きな背信行為を犯しました。この詳細が記録されているのがパナマ文書です。

グローバリズムというと格好良く聞こえますが、国際的な上部組織ですから、しばしば国を管理したり、国益に制限を加える権限を持っています。

グローバリズムと言って国内産業が人件費の安い国で生産活動をし、タックス・ヘブンの国に本社を移転したらその国は大きな損害を受けるはずですが、それが今アメリカの民主党政権下で起こっていたのです。大企業からの税金は入ってこない、アメリカ中の商品は安いけど粗悪な made in China であふれています。民主党政権による貿易緩和によって、アメリカの代表的二次産業である鉄鋼関連の事業は、安い中国製品が独占して、ビッツバーグやデトロイトは死の町となってしまいました。入札で日本を抑えて大量に輸出した、太陽光パネルですが、不良品続出で稼働率は40%とのことでした。

従来、共和党が行っていたグローバリズムの政策を、本来、修正資本主義を取るべき立場にある民主党にも広がってオバマやクリントンが手を染めたことに、アメリカの国民が疑念を抱いたのが、2016年の大統領選挙です。

アメリカの製造業は軒並み倒産し、労働力の中心である高校卒のブメーカーを雇う企業は激減しました。その惨状を憂いて、アメリカ国内の富の流失に大きく関わっている、新資本主義者による金融のグローバリズムと一線を画して、ナショナリズムを標榜して、国内産業の復活を目指して、大統領に就任したのがトランプです。

彼はケインズの修正資本主義を支持していることを明言しています。2001年から2009年まで民主党に所属していた関係で、新資本主義ではなく修正資本主義を取り入れることを決意したのかもしれませんが。

シェルドンの経営学理念が100年後に復活することは、ロータリアンにとって、喜ばしい限りです。

トランプはいろいろな政党を渡り歩いた経緯から、共和党のすべてが彼を支持しているわけではありません。父親がドイツからの移民であるトランプは、従来の新資本主義に基づく、共和党の政策と一線を画して、修正資本主義に回帰して、パナマ文書の情報公開などによって、共和党、民主党双方の新資本主義者に大きなダメージを与えると共に、国内製造業の育成、特にブルーカラーの保護、不法移民の禁止などによって、国家財政の健全化に取り組んでいます。

トランプ大統領のナショナリズムは、国家をコントロールする可能性のある、国際的な政治経済組織、即ち、国連、EU、TPP、COP(温暖化防止)などに縛られずに、国家の利益を優先させる政策です。政治的には共和党の小さな政府を目指し、経済的にはパトリオティズム(愛国心)を標榜して、雇用問題や不法移民の禁止、共和党内のネオコン・グループの排除などに取り組んで、一般国民から大きな支持を受けています。

サッチャー離脱後のイギリスがEUを離脱するのも、同じ理由です。日本でも小泉首相がアメリカかぶれした竹中平蔵氏の影響を大きく受けて、新資本主義政策を進めて、市場万能主義による規制の自由化を推進すると共に、デフレ政策を取りましたが、見事に失敗しました。

安倍首相はトランプ首相と親しい間柄ですから、その政策に倣ってパトリオティズム、即ち日本の国民を大切にす政策に転換することを願うのみです

十七条の憲法

604年、聖徳太子は十七条の憲法を制定しました。

これは政府と国民の関係を規律する法律ではなく、君主に対する、家臣や役人の道徳的な規範が示されており、行政法としての性格が強く、神道と仏教の思想が融合したものです。

原文はかなり難解なので、現代風に訳した十七条の憲法をご紹介します。

一条 話し合いを大切に、いさかいを起こさないこと。人は群れを作りたがるが、立派な指導者は少ない。目上の人に従わない人もいるし、隣の人といさかいを起こす人もいる。しかし、目上の人とも下の人とも、協調と親睦の気持ちを忘れずに議論を重ねれば、自ずから理解し合い、どんなことでも解決できるのだ。

二条 仏・法理・僧侶を敬わなければならない。それは生きとし生けるものの最後のよりどころであり、すべての生き物の究極の規範になるからである。生来の悪人は数少ない。正道に従うことは、仏の教えに従うことである。どんな世の中でも、いかなる人でも、この法理を尊び、仏の教えに依拠した正道を歩まなければならない。

三条 君主の命令を受けたら、謹んでそれに従いなさい。君主は天であり、家臣は地に当たる。天が地を覆い、地は天によって守られている。このようにして四季が巡り、万物の気が通う。もしもそれが逆になれば、世の中の秩序は破壊されてしまう。君主が言うことに家臣は従い、君主が行うことに、家臣は倣わなければならない。君主の命令を受けたら、人民はそれに従う。そうしなければ、国家社会の和は自滅してゆくことだろう。

四条 家臣は礼を重んじる精神を根本に持たなければならない。人民をおさめる基本は、礼にあり、上が礼を重んじなければ、下の秩序は乱れ、下の者が礼にかなわなければ、必ず罪を犯す者が出てくる。家臣たちに礼が保たれているときは、社会の秩序も乱れず、人民たちに礼があれば、国全体は安寧を保つことができる。

五条 役人は饗応や財物への欲望を捨てて、訴訟を厳正に審査しなさい。人民の訟は一日に千件を超す。一年には莫大な件数に達する。昨今の役人は賄賂を取ることが常識となり、賄賂の額によって申し立てを聞いているように思われる。これは役人の道に背くものである。

六条 勸善懲悪は、古くからの良いしきたりである。人の善行を見たらそれを称え、悪行を見たらそれを正しなさい。人にへつらい、欺く者は、国家を覆す武器となり、人民を滅ぼす剣となる。媚びへつらう家臣や役人は、上の者には下の者の過失を告げ、下の者には上の者の過失を誹謗するものだ。このような人は君主に忠義心がなく、人民に対する徳も持たず、国家の大きな乱れの原因になる。

七条 人にはそれぞれの任務がある。任務遂行に当たって、職務内容を忠実に履行し、権限を乱用してはならない。賢明な人が任務遂行すれば称賛の声が起り、邪念を持つ人が任につけば、災いや戦乱が起こる。生まれながら、すべてを知り尽くしている人は少なく、努力を重ねて一人前になる。事柄の大小にかかわらず、最適な人が得られれば、物事は収まる。時代の動きには関係なく、賢者が出れば豊かな世の中になる。これによって国家は長く繁栄と安泰を保つ。

八条 役人は、朝早くから出勤し、夜遅くまで仕事をしなさい。公務は多岐にわたるので、終日働いても終わることは難しい。遅刻すれば緊急の用に間に合わないし、早退すれば仕事を残すことになる。

九条 真心こそが物事の本質である。真心が全てのことに勝る。物事の善悪や成否は全て真心の有無にかかっている。家臣や役人たちに真心があれば何事も達成できる。真心がなければ全て失敗に帰すであろう。

十条 心の中の憤りを抑えて、それを表情に出してはならない。他人が自分と違うことをしても怒ってはならない。人はそれぞれに考えがあるし、そのその考えに従った行動をとる。自分が良いと思っても、相手は悪いと思うこともあるし、その逆もある。自分が正しくて、相手が間違っているとは限らない。お互いに賢くもあり、愚かでもある。従って、相手が憤っているときは、自分に非があるのではないかと考えるべきだ。自己中心にならず皆の意見を聞いて行動することも大切である。

十一条 役人たちは功績と過ちをよく調べて、それにみあう賞罰を行うこと。近頃の賞罰は必ずしも適切とは言い難い。指導的な立場にあり役人は、賞罰を適正かつ明確に行うべきである。

十二条 役人は勝手に人民から税をとってはならない。国に二人の君主はなく、人民にとって二人の主人などいない。国内のすべての人民にとって、君主だけが主人である。役人は任命されて政務に当たっているのであって、みな君主の臣下であるから、人民から私的な徴税をしてはならない。

十三条 全ての役人は、前任者と同じように職掌を熟知しなければならない。病気や出張などで職務の内容を詳しく知らない場合でも、それは言い訳にはならない。引継ぎがないから知らないと言って、公務を停滞させてはならない。

十四条 役人は嫉妬の気持ちを持ってはならない。自分が相手を嫉妬すれば、相手もまた自分を嫉妬する。嫉妬の輪廻は果てしなく続く。自分より英知が優れ、才能が勝っていると思えば嫉妬する。しかし、聖人、賢者といわれる優れた人材がければ、国を治めることはできない。

十五条 私心をすてて公務に励むのは役人の責務である。私心があるとき、恨みの心が起きる。恨みがあれば、必ず不和が生じる。不和になれば私心で公務を執ることとなり、結果としては公務の妨げになる。恨みの心が起これば、制度や法律を破る人も出てくる。上の者も下の者も協調、親睦の気持ちを持って論議しなければならない。

十六条 人を使う時にはその時期をよく考えなければならない。従って暇がある冬に人を使えばよい。春から秋までは、農耕・養蚕などに力を尽くすべきときである。人が農耕をしなければ何を食べていけばよいのか。養蚕がなされなければ、何を着たらよいのかを考えなければならない。

十七条 物事は一人で判断してはいけない。必ずみんなで論議して判断しなさい。特に重大な事柄を論議するときは、判断を誤ることもあるかもしれないので、みんなで検討すれば、道理にかなう結論が得られよう。ただし、些細なことは、必ずしもみんなで論議しなくてもよい。

戦後生まれの殆どの日本人は、アメリカによって、日本に民主主義がもたらされたと思い込んでいるのではないでしょうか。

日本は世界でも稀な多神教の国であり、全てのものに神が宿っており、神話の時代から八百万の神が全ての事柄を話し合いによって決めてきたという経緯があります。一神教では自分の信じる神以外は悪であり邪であり、これを滅ぼさなければなりません。一神教の世界では古来から現在に至るまで、何れが善であり、悪であるかを巡って、絶えず宗教戦争が起こっています。

多神教ではそれぞれの神が融和を保ちながら、役割を分担しているのです。日本では神道のみならず、他の宗教に関しても寛大です、誕生に神社を参り、朝夕神棚と仏壇に手を合わせ、教会で結婚式を挙げ、クリスマスを祝い、お寺で葬式を営みます。現在の日本では宗教間や宗派間における争いは全くありません。多神教こそが日本に平和を齎した元凶とも言えます。

古事記には、伊邪那岐尊、伊邪那美尊がこれらの八百万の神を創り、この二方の直系に当たる神武天皇が君主として日本を治めたと記されています。

建国から 1264 年後に当たる 604 年に、聖徳太子が制定したのが十七条の憲法です。第一条では、いさかいを起こさないためには、話し合いによって全てを解決することの重要性を説き、第五条では、汚職や贈収賄を禁じ、第十七条では、重要な事柄は独断専行せずに、話し合いによって解決すべきであるという、日本独特の民主主義、即ち「和の心」が説かれています。

民主主義は建国 400 年の新興国アメリカから与えられたものではなく。日本には 1500 年も前から、このような素晴らしい民主主義が定着していたのです。